

日中ポライトネスの対照研究：中国人日本語学習者への指導方法開発に向けて

平, 静

<https://doi.org/10.15017/1654602>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（比較社会文化）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

日中ポライトネスの対照研究

— 中国人日本語学習者への指導方法開発に向けて —

九州大学大学院比較社会文化学府

平 静

2016年2月

要 旨

本論文は、日本人と中国人のポライトネスに関する認識およびその認識に基づく言語行動を分析することで、「日本語ポライトネス指導の実用化」を目指すものであり、中国における日本語教育および日中異文化理解教育において、異文化コミュニケーション能力の養成に資することが期待される。

本論文は全6章から構成される。

第1章序論では、本研究の目的、研究対象、研究方法、論文の構成などについて述べた。

第2章では、ポライトネスの主な先行研究を、ポライトネスの枠組みに関するもの、日本語ポライトネス研究、中国語ポライトネス研究、日中・日米対照研究に分類して概観した後、本論文の立場を明らかにした。

第3章以降が本論である。第3章では、自ら録音、文字化したインタビュー番組のデータを分析することで、日中両言語で使用される具体的なポライトネス・ストラテジーの特徴および、それぞれのストラテジーの使用率の類似点と相違点を明らかにした。その結果、日本語でも中国語でも、ポジティブ・ポライトネス（認められたいという欲求を満たすことで示されるポライトネス）でFTA（相手のフェイスを脅かす行為）を緩和し、相手との距離を縮めようとするストラテジーがよく使われていることがわかった。日中両言語のポライトネスにおける一番大きな違いは、ネガティブ・ポライトネス（自らの行為を妨げられたくないという欲求を満たすことで示されるポライトネス）に対する認識の違いであった。特にネガティブ・ポライトネスの「敬意を示せ」というストラテジーについては、日本語と中国語の言語形式及び社会慣習の相違が、両言語におけるポライトネスに対する認識および敬意を示す様式に大きな影響を与えていることが明らかになった。

第4章においては、中国で日本語を専攻とする大学生（以後学習者）と日本語母語話者（以後母語話者）を対象にポライトネス意識の類似点と相違点を調査分析した。その結果、対話者間の関係が「疎」の場合、学習者は垂直方向の人間関係である上下関係を最も重視しているのに対して、母語話者は水平方向の人間関係である内外・親疎関係をより重要だと考えていることが分かった。また、学習者は「上」である人が普通体を使うのが適切かどうかについて「上下」と「場」によって判断する一方、母語話者は「親疎」と「内外」という視点から判断した。次に、「親」の関係の場合、日本語においては基本的に「私的な場面での親子」の会話は普通体で話す、「表現意図」によって敬語を使うことが認められる。一方、学習者の多くは、家族の会話については、「上下」より「親疎」を重視しており、「表現意図」があっても丁寧体の使用は「不自然」と見なされた。また、対話者が「同且つ親」の関係を持っていても、話の内容が相手に被害を与える可能性が高い時は、半数近くの学習者は、FTAの度合いが高いと判断しネガティブ・ポライトネス・ストラテジーが使われると考えた。

第5章においては、中国人学習者が誤解しやすい日本語のポライトネスに関して、学習者と母語話者との使用実態を比較した。母語話者と学習者の被験者に、日本語の敬語を含んだメール文を示し、適切かどうか、また不適切と思う場合はその理由を書くと同時に修正するように指示した。分析の結果、上級日本語学習者は日本語ポライトネス表現の語形上の誤用は少ないが、運用上の誤用が多く、取り分け「恩恵行為に対する配慮意識」が不足していることが明らかになった。

終章たる第6章では、本研究のまとめ、日本語教育への示唆と今後の課題について述べた。

本研究では、先行研究を踏まえた上で、主として対照分析的観点から、日中ポライトネ

ス・ストラテジーの特徴の類似点と相違点を明らかにした。またその結果に基づき、対人関係の視点から日本語母語話者と中国人日本語学習者におけるポライトネス意識の相違を究明した。さらに、アンケート調査を通して、中国人日本語学習者のポライトネス表現に存在する問題点および日本語のポライトネスに関する意識を明らかにした。これらの結果を基に、具体的な例を挙げながら、学習者に対して日本語と中国語の違いを認識させるようなやり方で日本語ポライトネスを指導する方法を例示した。本研究を発展させることで、中国における日本語教育および異文化理解教育におけるポライトネス指導の実用化に資することが期待できる。

3.3.1.4	ストラテジー4	仲間ウチであることを示す標識を用いよ	47
3.3.1.5	ストラテジー5	一致を求めよ	50
3.3.1.6	ストラテジー6	不一致を避けよ	50
3.3.1.7	ストラテジー7	共通基盤を想定・喚起・主張せよ	52
3.3.1.8	ストラテジー8	冗談を言え	55
3.3.1.9	ストラテジー12	SとH両者を行為に含めよ	56
3.3.1.10	ストラテジー13	理由を述べよ(もしくは尋ねよ)	57
3.3.1.11	ストラテジー15	Hに贈り物をせよ(品物、共感、理解、協力)	58
3.3.2	ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー		59
3.3.2.1	ストラテジー2	質問せよ、ヘッジを用いよ	59
3.3.2.2	ストラテジー4	負担 Rx を最小化せよ	62
3.3.2.3	ストラテジー5	敬意を示せ	62
3.3.2.4	ストラテジー7	SとHを非人称化せよ	66
3.4	日本語におけるポライトネス・ストラテジー		67
3.4.1	ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー		68
3.4.1.1	ストラテジー1	H(の興味、欲求、ニーズ、持ち物)に気づき、注意 を向けよ	68
3.4.1.2	ストラテジー2	(Hへの興味、賛意、共感を)誇張せよ	70
3.4.1.3	ストラテジー3	Hへの関心を強調せよ	71
3.4.1.4	ストラテジー4	仲間ウチであることを示す標識を用いよ	72
3.4.1.5	ストラテジー5	一致を求めよ	73
3.4.1.6	ストラテジー6	不一致を避けよ	75
3.4.1.7	ストラテジー7	共通基盤を想定・喚起・主張せよ	75
3.4.1.8	ストラテジー8	冗談を言え	76
3.4.1.9	ストラテジー10	申し出よ、約束せよ	77
3.4.1.10	ストラテジー11	楽観的であれ	78
3.4.1.11	ストラテジー12	SとH両者を行動に含めよ	79
3.4.1.12	ストラテジー15	Hに贈り物をせよ(品物、共感、理解、協力)	80
3.4.2	ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー		81
3.4.2.1	ストラテジー1	慣習に基づき間接的であれ	81
3.4.2.2	ストラテジー2	質問せよ、ヘッジを用いよ	82
3.4.2.3	ストラテジー4	負担 Rx を最小化せよ	83
3.4.2.4	ストラテジー5	敬意を示せ	84
3.4.2.5	ストラテジー6	謝罪せよ	85
3.4.2.6	ストラテジー7	SとHを非人称化せよ	86
3.5	考察		88
3.5.1	ポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネス の分布状況と分析		89

3.5.2	対照分析	93
3.5.2.1	ポジティブ・ポライトネス	93
3.5.2.2	ネガティブ・ポライトネス	95
3.5.2.2.1	推定／想定するな (ストラテジー：2 質問せよ、ヘッジを用いよ)	96
3.5.2.2.2	Hに強制するな	97
3.6	まとめ	98
3.7	日本語教育への示唆	100
第4章 対人関係からみる日中ポライトネス意識 I		
	ーポライトネス意識に関するアンケート調査よりー	103
4.1	研究課題と研究の目的	104
4.2	研究方法	104
4.2.1	使用データ	104
4.2.2	被験者	105
4.2.3	調査内容	105
4.3	対人関係からみる日中ポライトネス意識	106
4.3.1	結果と分析	106
4.3.1.1	「上下」関係(会話1)の調査結果と分析	107
4.3.1.2	「上下」関係(会話2)の調査結果と分析	111
4.3.1.3	「上下」関係(会話3)の調査結果と分析	114
4.3.1.4	「親疎」関係(会話4)の調査結果と分析	119
4.3.1.5	「親疎」関係(会話5)の調査結果と分析	122
4.4	考察	124
4.4.1	「上下関係」に関する日中対照	124
4.4.2	「親疎関係」に関する日中対照	130
4.5	まとめ	133
4.6	日本語教育への示唆	134
第5章 対人関係からみる日中ポライトネス意識 II		
	ーCLが誤解しやすい日本語ポライトネスー	137
5.1	研究方法	137
5.1.1	使用データ	137
5.1.2	調査の対象者	138
5.1.3	調査内容	138
5.2	結果と分析	139
5.2.1	中国学生から日本の大学教授に研究生にしてくださいとの依頼を行う メール	139
5.2.2	学生から日本のホームステイ先への手紙	144
5.2.3	日本人の先輩に対するお礼の手紙の一部	149

5.2.4	日本の大学教授に博士論文提出期限についての質問のメール	152
5.3	ポライトネスに関する問題意識の日中対照	154
5.3.1	語形上の問題における日中対照	155
5.3.2	運用上の問題における日中対照	157
5.4	まとめ	159
5.5	日本語教育への示唆	161
第6章	結論	165
6.1	本研究の要約	165
6.2	本研究の意義	166
6.3	中国人日本語学習者へのポライトネス表現における主な問題点	167
6.4	今後の課題	169
	参考文献	171
	付録Ⅰ インタビュー談話資料	181
	付録Ⅱ-1 日中ポライトネスに関する意識調査Ⅰ	241
	付録Ⅱ-2 日中ポライトネスに関する意識調査Ⅱ	245
	謝辞	247

第1章 序論

1.0 はじめに

敬語は日本語の大きな特徴の一つであり、日本人の日常生活の「潤滑油」となり、円滑な人間関係を維持するためには欠かせない存在である。近年、中国と日本との経済における交流が盛んになり、日本語学習者が大幅に増加している。しかし、日本語の「敬語」は中国人日本語学習者にとって一番の難点だと言われている。その根本的な原因は日中両言語の敬語体系の違い及び「敬意」に対する理解のすれ違いであると考えられる。例えば、「いらっしゃる」や「申し上げる」という言葉が「敬語」であることを知っていても、中国語母語話者の場合、母語の干渉で、「先生、あなたは北京にいらっしゃったことがありますか」（老师，您去過北京吗？）といったような表現をしばしば耳にする。「先生もお茶をお飲みになりたいですか」などというように、「お飲みになりたい」といった「敬語」、この場合はいわゆる「尊敬語」は形式的に間違いなく使われていても、どこか違和感の残る表現である。これは、「お飲みになる」といった「敬語形式」の問題だけを扱っているのではうまく説明できないことである。また、例えば、「先生、大変恐れ入りますが、千円貸していただけませんか。」といった場合など、「敬語」自体の間違いではないので、「敬語形式」を修正することはできないが、「表現全体」としてどこかおかしい「表現」である。以上のような誤用は、「敬語形式」という観点だけでは解決できない、またうまく説明できない問題である。つまり、敬語が実際に使用される場合、静的な構造の面だけでは見えてこないさまざまな運用上の制約がかかわってくる。

中国語の敬語は、形態レベルにおいても、発話行為レベルにおいても規定することができない。中国語の敬語はことばの概念的意味を介してメタファー的に人間関係を表現するという特徴を持っている。¹中国語には、日本語敬語の文体のような言語形式が存在していないため(母 2002)、これまでの中国における日本語教育は主に文法を中心に行われてきた。日本語敬語使用の難しさは、語形そのものだけではなく、対人関係を考慮しながら場面に応じて使い分けなくてはならないところにある。そのため、多くの中国人日本語学習者は日本人との実際の会話場面で、その時の状況に応じてもっとも適切な表現を選ばなければいけないことに難しさを感じる。同じことを表現するのに、日本人母語話者とは異なった言い方を使用して、誤解されるケースも多いであろう。日本語母語話者を相手に対して違和感を与える例も少なくないだろう。

¹彭(2000)は日本語の敬語はダイクシス型の敬語に属し、英語の(politeness)は発話行為を調節するストラテジー型の敬語に属する。中国語の敬語は「メタファー型」敬語と呼んでいる。

このことは文法の問題だけではなく、自分が学習した日本語の文法体系を実際の場面でより適切に使いこなせる会話能力の問題と関わってくると言えよう。敬語を十分に使い分けることができるからといって、円滑な人間関係が成立するとは限らない。ネウストプニーは、1968年に初めて「ポライトネス」という用語を使用し、敬語、言葉の他の表現、エチケット、思いやりなどを一つのフレームワークの中に据えて、「丁寧さ」の伝達は、普遍的なものであり、言語の理解のために不可欠な道具でもあると述べている。以後、ポライトネスという概念の重要性が着目されるに至っている。1970年代後半、Brown & Levinson (以下B&L)により、広い範囲の現象が敬意行動の研究の領域に加えられている(B&L1978)。

日本語を学ぶ外国人にとって、待遇表現の習得は難しいということがよく指摘されている。上の例からわかるように、「ある場面で、『自分』が表現しようとしていることを『話し相手』に配慮して丁寧に伝えるためには、どういう『敬語』を使って、どんなふうに表示していけばよいのか」²「日中両言語のポライトネス表現はどう違うのか」ということがわからなければ、実際のコミュニケーションには役に立たない。

日本語における敬語研究は近年欧米におけるポライトネス (politeness) 研究の影響を受けて、敬語表現を人間の言語行動の中に存在する普遍的な要素と位置づけた考察が行われている。ポライトネスは連帯感、権利、利害関係などに基づいて発話行為を調節するストラテジーである。そこで、本研究は日本語の談話と中国の談話の中でより円満なコミュニケーションを行うために会話者がどのように考慮しているのかを「ポライトネス」の観点から分析する。理論と運用とを結び付けるという観点から「ポライトネス表現」を考えていくことを目標として、従来の研究成果を踏まえて活かす一方、新たな調査を通じて日本人と中国人とのポライトネス表現の運用実態、双方のポライトネス意識の異同を明らかにし、中国の日本語敬語教育に寄与したいと考え、本研究に至った。

1.1 本研究の目的

本研究の目的は、これまでの言語学、語用論、談話分析における敬語・ポライトネス研究の成果を踏まえた上で、日中ポライトネス表現の共通点と相違点、日中ポライトネス意識の異同点、日中におけるポライトネス表現の運用実態等について明らかにすることである。

ポライトネス・ストラテジーについて

宇佐美(2001b)が指摘しているように、敬語を有する言語、そうでない言語の双方におい

²蒲口宏・川口義一・坂本恵(1998: i)『敬語表現』大修館書店。

て、ポライトネスは「社会言語学的範疇や習慣に従った言語使用」と「話者個人の方略的言語使用」の相互作用も考慮したうえで、談話レベルで捉えていく必要がある。

そこで、本研究は日本のインタビュー番組と中国のインタビュー番組をそれぞれ録画し、文字化したものを分析資料として使用した。B&Lのポライトネス理論に基づき、実際の談話資料を分析し、両言語におけるさまざまなストラテジーの使用実態を考察する。また、日本人と中国人のそれぞれのポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネスの各ストラテジーの運用を観察し、より円満なコミュニケーションを行うためにB&Lが提唱した各ストラテジーが両言語にどのように使用されているか、どのような具体的な言語表現で表れているのかを分析する。また、その背景にある両国言語のポライトネス表現の共通点と相違点を明らかにすることを目的とする。

ポライトネス意識について

生田(1997)によると、「ポライトネスは大きく敬語などの表現形式の選択に現れるポライトネス・ストラテジーとインタラクションに現れるポライトネス・ストラテジーがあり、前者は人間関係によるものが多く、後者は負荷の度合いによるところがおおい」という。本研究では日中両言語における各ストラテジーの使用実態を調査し、日中の意識上の異同を分析する。ポライトネスは人間関係に基づくポライトネス、すなわち、親疎関係、上下関係、談話参加者の情報量によるポライトネスとインタラクションにおける負荷の度合いに基づくポライトネスに分けることができる。日本人に「自然」と思われるポライトネス表現を中国人日本語学習者がどう認識しているのか、日本人と中国人ではポライトネス意識に相違があるのか、本研究では、日本語学習者のポライトネス習得研究の一助とすべく、日本語母語話者と中国語人日本語学習者のポライトネス意識の同異点を究明し、そのなかに潜んだ根本的な原因を探りたいと考える。

中国人日本語学習者の日本語ポライトネス運用の実態について

2001年中国で頒布された『高等院校日语专业基础阶段教学大纲』では「要克服只重视语言形式和结构,忽视语言功能的偏向(拙訳:従来の日本語教育においては、言語形式と構造だけを重視し、言語の実用性を軽視する傾向がある。それを克服すべきだ)」(2001:7)と指摘している。これは、日本語教育において「言語形式だけが重視されている」事実への批判である。

では、今、日本語教育現場でのポライトネス使用の実態はどうなっているのか。日本語学習者のポライトネス意識が実際のコミュニケーションにどのように働いているのか。本

研究は実態検証の立場からポライトネスの運用レベルでの実態の解明に焦点を当てる。本研究の分析結果が、これからの中国における日本語教育、日中異文化間コミュニケーション能力の養成に資することを期待する。

1.2 本論文の研究対象

1.2.1 ポライトネス・ストラテジーについて

第3章ではB&Lに提唱されたポライトネス理論を基本的理論として、言語データを基に分析、考察した上で、日中両国のポライトネスの同異点を探る。主観的な論究を排除するために、台本のある談話ではなく(小説やドラマなど)、インタビュー番組を利用して、分析を行う。

社会状況や人々の生活や考え方などの変化が人々の言語使用にも大きな影響を与えることも考慮し、本研究に使われるデータは全て 2003 年以降に行われたインタビューである。内容としては、特別なテーマが強調されていないもの且つインタビューのゲストの属性等が偏っていないものに配慮した。

ここではB&Lが提唱した各主要ストラテジーを基に、日中両言語にどのストラテジーが多く使用され、その場面において、どのように使われ、司会者とゲストの関係にどのような関わりがあるのか、様々な面から分析を試みる。そして、日中両言語において、具体的な会話場面にいろんなストラテジーがそれぞれどのように現われるのか、両言語にどんな異同点があるのかを明らかにする。

1.2.2 ポライトネス意識について

第4章では中国人日本語学習者は日本人のポライトネス表現をどのように理解するか、日中両言語におけるポライトネス表現の意識上の異同を調べるために、アンケート調査を行う。

日本人に「自然」と思われる談話を中国人日本語学習者はどう考えているのか。アンケート調査を通じて人間関係や場面・状況、話題の人物や内容に対する認識などについて分析を行う。

このアンケート調査の結果を「上下」と「親疎」という観点から分析し、日中両言語の対人配慮意識の違いを明らかにする。また、ポライトネスに対する意識の差異を分析し、日本語教育における中国人日本語学習者のポライトネス表現使用向上に資するよう提言を行う。

1.2.3 中国人日本語学習者の日本語ポライトネス運用の実態について

第5章では「日中ポライトネス・ストラテジーの特徴」と「日中ポライトネス意識の調査」の結果を踏まえ、中国の大学で日本語を専攻している大学生と日本語母語話者を対象に実施した調査に基づく。調査内容としては不自然な手紙文を中国人学習者と日本語母語話者に修正してもらうというものである。日本人と中国人日本語学習者のポライトネスに関する意識及び中国人日本語学習者のポライトネス表現の使用実態に関してアンケート調査を行うことで、ポライトネス表現の実際の使用状況を把握するとともに、日中両言語におけるポライトネス意識の差異からおこる中国人日本語学習者が誤解しやすい日本語ポライトネスの使用における問題点を明らかにする。

1.3 本論文の構成

本論文は全6章から構成される。

第1章序論では、本研究の目的、研究対象、研究方法、論文の構成などについて述べる。

第2章では、ポライトネスの主な先行研究を、ポライトネスの枠組みに関するもの、日本語ポライトネス研究、中国語ポライトネス研究、日中・日米対照研究に分類して概観した後、本論文の立場を明らかにする。

第3章では、日中両国のインタビュー番組を録音し、それを文字化したデータに基づいて先行研究の観点を検証しながら、日中両言語におけるポライトネス・ストラテジーの使用実態、使用率と日中両言語の各ストラテジーの異同点を考察する。日中談話におけるポライトネスとは何かについて考察を行う。

第4章では、中国で日本語を専攻とする大学生を対象に中国人の日本語におけるポライトネス意識を調査する。アンケート調査の結果に基づいて、日中両言語のポライトネス意識の違いを究明する。

第5章では、実証研究の立場から、中国人日本語学習者は日本語のポライトネスに関してどのような意識を持っているか、ポライトネス表現習得やポライトネス使用の実態がどうなっているかを知るために、アンケート調査を実施する。また、同調査を日本人母語話者にも実施し、中国人日本語学習者と日本人母語話者のポライトネスに関する意識、使用実態を比較、検討する。調査の結果を分析し、学習者が誤解しやすい日本語のポライトネス及び使用実態を明らかにする。

最後の第6章では、本論文のまとめ、中国での日本語ポライトネス教育への提言、及び今後の課題を記述する。

第2章 先行研究概観と本研究の位置づけ

人々が会話を行う時、話し手は地位・勢力・親疎などの関係あるいは相手の反応によって、使用する言語表現を使い分けている。同じ内容であっても、この言語表現の使い分けにより、聞き手は、命令・依頼・奨励などの様々な印象を受けるであろう。そのためよい人間関係を築くためには、適切な言語表現を使用できることが求められる。日本語母語話者は、これを無意識に行うことができるが、日本語学習者にとっては、言語表現が生み出すニュアンスの違いを理解するのは難しいこともある。

異なる母語環境にある話者たちが、どのようにすれば外国語のニュアンスを正しく理解するか、どのような基準に従えば、誤解を起こさず円滑にコミュニケーションを行うことができるかは日本語教育における指導上の問題でもある。

この問題を解決するために、語用論研究において、20世紀の終わりから急速に注目を集めているのが「ポライトネス」である。

人間の言語行為の分析に、「ポライトネス」という視点が導入されたことにより、日々の言語運用が単なる必要最低限の事務的な情報交換のツールなのではなく、社会や場面、状況と密接にかかわる複雑な行為であることがより明らかになった。

「ポライトネス理論は、基本的に、相手を思いやり、配慮することによって、相手と良好な関係を築き、その関係を保つために言語行動の「普遍原理」を示そうとしたものである」と考えられる(宇佐美 2001b:23)。しかし、どうやれば相手を思いやったことになるのか、またどんな配慮をすればいいのかは、各文化によって異なる。

本章では、ポライトネス研究の主なアプローチ、ポライトネス研究における主な理論を紹介し、ポライトネスの枠組みに関する先行研究、ポライトネスに基づいて行われた対照研究の先行研究、それぞれについて概観し、本研究の位置づけを行う。

2.1 ポライトネス理論

「ポライトネス」については、様々な研究が行われている。ここでは、Lakoff、Leech、B&L等の主な先行研究を詳しく見ていく。

2.1.1 ポライトネスの定義

初期のポライトネス研究の代表的なものとしては Lakoff(1975)や Leech(1983)が挙げられる。Lakoff(1975)は女性言葉から言語使用におけるポライトネスの概念を提示し、「ポラ

イトネスは対人相互作用において摩擦を減らすために、社会によって作られている」(p. 64)と述べ、形式尊重、敬意、仲間意識という三つの規則を提唱した。

一方、Leech(1983)は「ポライトネスは私たちが自己と他者と呼ぶ二人の参与者関係に関連している」(p. 131)という点に着目し、気配りの原則、寛大性の原則、是認の原則、謙遜の原則、一致の原則、共感の原則からなるポライトネスの原理を提唱した。

また、B&L(1987)は、ポライトネスをルールや原理としてではなく、対人コミュニケーションにおける個人の社会的欲求を満たすためのストラテジーと捉えている。さらに、B&Lは、人間の行動は普遍的なルールに基づいて行われ、そのルールの1つがポライトネスであるとしている。Goffmanの「フェイス」という概念を用いて、ポライトネスとは、我々が他者とコミュニケーションを図る際に、相手に嫌悪感を抱かせないような表現、相手との望ましい人間関係を維持するのに適切な表現を、相手との関係やその場の状況に応じて使用することである。したがって、例えば、親しい相手に対して故意に丁寧でない言い方をすることも、この理論ではポライトネスとみなされることもあると指摘している。

Holtgraves(2002)は、ポライトネスの概念について「おおざっぱに言えば、ポライトネスは人の物事の成し方を指しており、そして人がどのように物事をなしているかは話し手の社会的文脈についての認知的判断の結果である」(p. 38)と指摘した。また、宇佐美(2002a:100)はポライトネスを「円滑な人間関係を確立・維持するための言語行動」と定義した。

即ち、ポライトネスは円滑なコミュニケーションのための行動であり、社会における人間のインタラクションや認知的プロセス、言語使用などの中核的な概念であると言える。

宇佐美(2001a)によれば、B&Lの理論が様々な分野の研究者の注目を浴びてきた理由として、彼らの理論が「言語的ポライトネス(linguistic politeness)」と銘うちながらも、言語形式だけにとらわれず、人間関係、社会的・心理的距離、ある行為が相手にかかる負荷度など、複雑に絡み合う社会的諸要因を考慮に入れ、それらの相互作用の効果としての言語行動における「ポライトネス」を、より包括的に取り扱っているからであるとしている。私たちは日ごろから会話相手との関係によって、また相手の反応によって話し方を変えている。そこで本研究では各先行研究を踏まえ、「ポライトネス」の定義を「円滑な人間関係を確立・維持するためのストラテジー」として研究を進めていく。

2.1.2 ポライトネス研究の主要なアプローチ

1970年代後半以降、ポライトネスに関して欧米の諸言語のみならず、日本語においても多くの研究が行われている。ポライトネスに対する捉え方の異同は多様なポライトネス研

究を生み出しており、これまでの「ポライトネス」に対するアプローチの特徴を Fraser(1990)、Thomas(1995)、宇佐美(2001)を踏まえ、語用論的に捉えると以下の四つにまとめることができる。

〈言語形式重視の捉え方〉

- (1) 言語形式よる規範的捉え方

〈語用論的捉え方〉

- (2) 会話の原則としての捉え方
- (3) フェイス保持のためのストラテジーとしての捉え方
- (4) 会話の契約としての捉え方

(1)言語形式よる基本的捉え方は主に、言語形式に重きをおいた研究で、例えば、「Would you X?(～していただける?)」「Could you?(～していただく?)」「Can you?(してもらおう?)」の丁寧度を質問紙調査で尋ね、その結果から、幾つかの言語形式の丁寧度を同定し、順序付けようとするアプローチである。荻野(1986)、井出他(1986)などのような、日本語における敬語形式と敬語表現の丁寧度に関連する研究がこれにあたる。しかし、Fraser(1990) Thomas(1995)、宇佐美(2001)はこのアプローチは基本的に社会言語学的現象であり、語用論的概念ではないという。

上の(2)は Lakoff(1973)における「語用論的能力の原則」や Leech(1983)の「丁寧さの原理」などのアプローチで、単なる言語形式の丁寧度だけでなく、その語用論的側面に焦点をあててポライトネスを捉え、それを幾つかの「会話原則」にまとめたものである。しかし、宇佐美(2001a)によると、これらの研究は語用論的捉え方という新しい観点を導入したものの、それを会話の原則のようなものにまとめようとした点で、(1)の規範的捉え方から抜けきれていないと述べた。

(3)のフェイス保持のためのストラテジーとしての捉え方は B&L (1978, 1987)のポライトネス理論である。彼らは人々の心理的欲求として二つのフェイス(ポジティブ・フェイスとネガティブ・フェイス)を規定し、フェイスへの配慮を社会的規範や個人の価値観としてではなく、人々の心理的欲求として扱い、二つのフェイスを脅かさないように配慮することがポライトネスであると捉える。つまり、相手のフェイスの侵害度を軽減するためのストラテジーというポライトネスの捉え方を導入し、ポライトネスの語用論的一面をダイナミックに捉えている。

(4) 会話の契約としての捉え方には Fraser (1990) が挙げられ、ポライトネスとは会話参加者が「権利」と「義務」のある種の契約関係を持って会話を進めることであると説明する。会話参加者は初期の無標の契約関係から会話における初期の契約関係を再交渉し、その会話の中で規範や自分たちの権利と義務の相互作用についての理解によって、会話の中で制約を受ける。Fraser (1990:233) は「ポライトであること」は、協調の原理を守っているということの証であり、「協調的であること」は、会話の契約を守ることであるとする。しかし、権利と義務の相互作用についての理解という概念は示されているが、具体的な記述がないため、実際の言語分析にどのように働いているかは判断できない。

以上、まず、言語形式に重きをおいた規範的捉え方について、次にある言語行動がポライトであるか否かの判断基準について、Lakoff や Leech における会話の原則としての捉え方、B&L のフェイス保持に関わるストラテジーとしての捉え方、Fraser の会話の契約としての捉え方について概観した。

2.1.3 主要なポライトネス理論

欧米におけるポライトネスの研究の高まりは、1970 年代に Lakoff (1973) の論文に端を発し、その後、文化人類学、社会学、語用論などの分野でも注目を集めている。この分野における三つの代表的研究である、Lakoff (1973)、B&L (1978, 1987)、Leech (1983) に共通していることは、ポライトネスを世界のどの言語においても存在する言語使用ルールの一つと考え、普遍的原理の追究を目的に理論を提唱したことと、ポライトネスを相手に対するストラテジーとして扱っている点である。

ここでは、ポライトネスに関する研究として代表的なものを概観する。まずポライトネスを言語学に最初に導入した Lakoff を挙げ、次に Grice の理論を応用した Leech、さらにはポライトネス研究の中心に位置する B&L、談話レベルでポライトネスを捉える宇佐美、日本語のポライトネスにおける「わきまえ」の重要性を再確認した松村・因 (1998)、B&L (1987) のポライトネス理論を批判した Matsumoto (1988)、井出他 (1986)、Ide (1989, 1992) を概説しながら、ポライトネスを中国と日本の様式から検討し直した Gu と荻野、そして日中の待遇表現の比較に焦点を当てた母の研究を検討し、最後に、本研究の位置づけを行う。

2.1.3.1 Lakoff のポライトネス理論

人間の言語行為の研究に「ポライトネス」の枠組みを導入した先駆者として、Lakoff は、ポライトネスのことを、「人間同士のやりとりに本質的に内在する対立の可能性を最小限化することによって、相互行為を促進するよう意図された個人間の関係のシステム」

(Lakoff 1990:34)と定義する。そして、それまで研究されてきた Grice の「協調の原理」に関し、一般的に世間に見られる言語行動を視野に入れていないとしてその理論の弱点も指摘している。Grice は、Quantity と Quality、Relation、また Manner が常に重視されていることが言語活動をする上で不可欠であり、人間は本来協力的で、コミュニケーションの際は最も効果的な情報を最大限に提供しようとするものであると述べたが、Lakoff は、この点が一般的な言語行動に準拠しておらず、むしろ通常の会話の際は、言語化したこと以上のことを話し手が意図していたり聞き手が理解したりする場合も多く、Grice の原理の一般化は難しいと主張している。

Lakoff は「語用論的能力の原則」として、二つの原則を提示する。

- ①明確に述べること：誤解が生じないように明確に伝達することが重視されている。
- ②ポライトに述べること：会話の参加者同士の人間関係に重点をおくことで、明快に述べることよりポライトに述べる。

この原則を踏まえた上で Lakoff(1973)は、三つのルールを提示した。

- ①改まり (Rule of formality): 距離を保て (Keep aloof)
 - 話し手の社会的地位が聞き手より高い場合に多い。
- ②敬意 (Rule of deference): 選択の自由を与えよ (Give options)
 - 聞き手の地位のほうが高いということを伝える機能がある。一般に言葉や行為を控えめにすることで実現される。
- ③親愛 (Rule of camaraderie): 共感を示せ (Show sympathy)
 - フレンドリーに接したい、興味を持っていることなどを相手に感じさせることが目的。

また、この三つのルールは各言語によってその比重は異なっているが、普遍的なものであると述べている。

更に、Lakoff(1973:297)は「語用論的能力の原則」の下位原則として、相互言語行為の基本的ルールを以下の3つの「ポライトネスの原則」に集約した。

- ①強要しない (Don' t impose)
 - ・避ける (例:相手に負担のかかることを言わない)
 - ・許可を求める (例:依頼する)

- ・謝る(例:詫びから始める)
- ②選択肢を与える(Give options)
 - ・自分の要求や意見を判断しない(例:ぼかし表現を使う)
 - ・相手が断れるようにする(例:否定疑問文を使う)
- ③相手の気分を良くし、親しみをもって接する(Make the hearer feel good)
 - ・親密さを表す(例:遠慮しない、直接聞く、冗談、からかいなど)

Lakoff は語用論的能力の原則の二つが衝突する場合に、「明確さ」より相手の気持ちを害さないことが会話では重要であるため、多くの場合、「ポライトネス」が優先されるといふ。つまり、Lakoff におけるポライトネスとは会話の参加者同士の気持ちを害することを避けることである。

2.1.3.2 Leech の丁寧さの原理

Grice(1975)は、会話を順調に進めていくために、会話の双方は「協調の原則」を守らなければならないとした。この理論は後に発展したポライトネス理論、関連性理論の基礎となったと考えられる。

Grice によると、会話というものは、単に言葉のやり取りだけでなく行為のやり取りも含むという。会話に参加する人それぞれが、ある特定の会話における共通の目的を理解していれば、その目的達成の方法はおのずと分かるので会話は成立する。どの会話においても、その中には特定のルールが存在し、話し手と聞き手がその行動ルールに従うとき、会話はスムーズに進められる。会話において最優先されるのは「協調の原則」であるとしている。Grice はコミュニケーションにおいてはその双方が文化的背景の如何にかかわらず、会話の中で「協調の原則」を守っていると指摘した。

「協調の原則」：会話の段階で、あなたが行っているやり取りの共通の目的・方向という点から、要請されるだけの貢献をせよ。

(Grice 1975: 45)

この「協調の原則」は具体的に「量」「質」「関係」「様態」という四つの公理で表現される。

「量の公理」は、求めに応じてできるかぎりの情報を過不足なく相手に提供するというもので、「質の公理」は間違っていること、確かでないことは言わないようにという

ものである。「関連性の公理」は、適切であれというもので、「様態の公理」は簡潔で順序よく述べるようにというものである。さらに、Grice はこれらの公理は会話だけに適用されるものではなく、すべての協調的行動にも当てはまると指摘している。

一方、Leech(1983)は Grice の会話の協調の原則とその諸原理だけでは人々は何故時折自分の考えをストレートに表現せずに間接的な話法を使用したりするのか、その動機について説明できないということを指摘した。それを補う原則として、いかに社会的均衡、他人との友好的な関係を維持するかも人間のコミュニケーションの目指す重要なゴールの一つと主張し、言語のこの対人関係的機能を「丁寧さの原理」によって記述した。

「丁寧さの原理」:

- (a) 礼儀に適うとは言えないような信念を表す表現を最小限にせよ
- (b) 礼儀に適う信念を表す表現を最大限にせよ

(リーチ 1987: 81)

そして、具体的な方策として、リーチは次のような6つの原則を設けた。

1. 気配りの原則(Tact Maxim)

- (a) 他者に対する負担を最小限にせよ
- (b) 他者に対する利益を最大限にせよ

2. 寛大性の原則(Generosity Maxim)

- (a) 自己に対する利益を最小限にせよ
- (b) 自己に対する負担を最大限にせよ

3. 是認の原則(Approbation Maxim)

- (a) 他者の非難を最小限にせよ
- (b) 他者の賞賛を最大限にせよ

4. 謙遜の原則(Modesty Maxim)

- (a) 自己の賞賛を最小限にせよ
- (b) 自己の非難を最大限にせよ

5. 合意の原則(Agreement Maxim)

- (a) 自分と他者との意見の相違を最小限にせよ
- (b) 自分と他者との合意を最大限にせよ

6. 共感の原則(Sympathy Maxim)

- (a) 自分と他者との反感を最小限にせよ

(b) 自分と他者との共感を最大限にせよ

(リーチ 1987: 190-191)

それぞれの原則に (a)、(b) という副原則がつき、(a) の副原則は積極的に丁寧さを示し、(b) の副原則は相手への無礼を避けるという消極的な丁寧さを示すものである。Leech は丁寧さの原理は各原則が語用論的尺度(負担・利益・選択性・間接性・社会的距離・力など)に参照されて決定されるという。

リーチは、このような一連の原則を設けることによって各言語社会に普遍的に存在する対人関係の修辞現象に関する一般語用論的モデルを示した。

2.1.3.3 Brown&Levinson のポライトネス理論

B&L(1987)は、ポライトネスに関する理論としては最も代表的で、現在のポライトネス研究の中で、最も影響力をもたらしている研究である³。

B&L のポライトネス理論は、Goffman(1967)の面子行為理論に基づいてまとめられたものである。Goffman は、面子は社会の中で自分が得た正の社会価値であり、個人の自己表現であると論じる。B&L は、この面子を「ポジティブ・フェイス」と「ネガティブ・フェイス」の2種類に区分する。「ポジティブ・フェイス」とは自分が大切にしている物や価値や行動などを他人によって理解されたり高く評価されたいという欲求であり、「ネガティブ・フェイス」とは自分の行動が他人によって干渉されてほしくないという欲求であるとされる。ポジティブ・フェイスに訴えかけるポライトネスを「ポジティブ・ポライトネス」、ネガティブ・フェイスを配慮するポライトネスを「ネガティブ・ポライトネス」と呼んでいる。

B&Lはこの基本的欲求としての二つのフェイスを脅かさないように配慮して、フェイスへの配慮を社会的規範や個人の価値観としてではなく、人々の心理的欲求として扱い、円滑なコミュニケーションを維持していこうとする言語行動がポライトネスであると述べる。すなわち、協調の原理の持つ最も効率的な合理的原則に従わずに、非合理的な発話表現を使う主たる一般的動機とはポライトネスであり、様々な言語で観察されるそうした言語の共通点は参加者のフェイスに対する戦略としての配慮である。つまり、B&Lは相互行為におけるフェイスへの配慮をポライトネスであると捉えるゆえに、行為者のフェイスに対する侵害行為を軽減する、すなわち補償行為⁴(redressive action)を十分に行うこと

³Fraser(1990)によれば、B&L理論に触発されて行われた研究の数は1500に上るとする。

⁴補償行為とは、相手の「フェイスを立てる」行為を意味する。つまり、話し手は相手のフェ

で相手のフェイスを脅かさないとということがポライトネスになるわけである。また、ポライトネスの言語行為の動機づけについて B&L(1987:124)は「ポライトネスとは互いのフェイスを脅かす可能性のある場合にそれを軽減するストラテジーをとるために協調の原理の合理的効率からの逸脱の主要な源泉であり、まさしくその逸脱によって正確に相手に伝えられる」としている。

さらに、「相手のフェイスを脅かす度合い」、すなわち、「フェイス侵害度」が高くなればなるほど、よりポライトなストラテジーが必要になると捉えている。人間のコミュニケーションの中には、常に相手の面子を脅かす行為 FTA (Face Threatening Act) が含まれる。ここでいうフェイス侵害度とは、ある特定文化の中で会話が成立するには少なくとも「話し手=S」と「聞き手=H」という二人の参加者が必要である。W_x(FTAの重み)は、話し手と聞き手の社会的距離 D (Social Distance) と、聞き手の話し手に対する力 P (Power) および話し手の特定の行為による R_x(聞き手が持つ負担の度合い)の3要素で表される。つまり、 $W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$ 、この和が大きいほど<図 1>の中の高い番号のストラテジーが選ばれることになる。

B&LはSとHをモデル人間(model persons)として、SがHに対してとる態度は以下の図1のようにまとめている⁵。

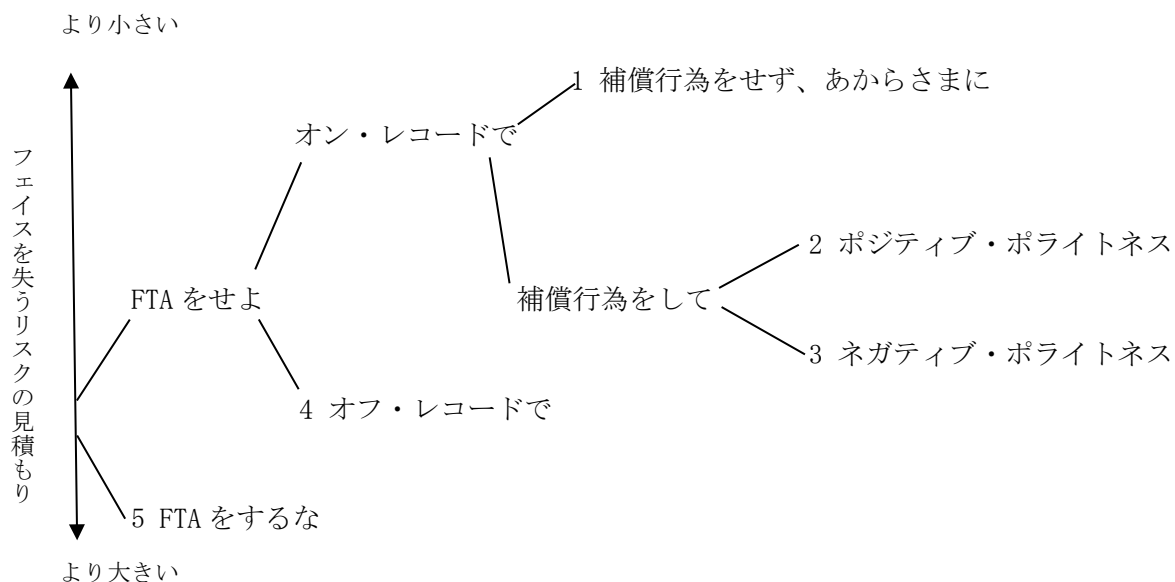


図 1 B&L(1987)における「相手のフェイスを脅かす度合い」

イスを脅かすようなことを意図したり望んだりはおらず、相手のフェイス欲求を認識し、自らもそれを達成したいと思っているということを、はっきりと示すような何らかの仕方、または補償策や付加措置を用いて、その FTA が引き起こす可能性のあるフェイス損傷を和らげようとする行為のことである(B&L1987:90)。

⁵B&L(1987:69)より引用した。日本語訳は田中(2011:79)を参照。

SがHに対するポライトネス・ストラテジーの度合いは、図1に示されているように、その度合いの低いものを1とすれば、以下のように解することができる。

(1) 補償行為をせず、あからさまに⁶

大胆に、「気配り行為」を気にかけず、「直接表現」を用い、FTAを実行する。

(2) ポジティブ・ポライトネス

親密な態度で、Hとの距離をおかないで積極的に「気配り行為」の伴った「直接表現」を用い、FTAを実行する。

(3) ネガティブ・ポライトネス

尊厳な態度で、Hとの距離において消極的に「気配り行為」の伴った「直接表現」を用い、FTAを実行する。

(4) オフ・レコードで

ほめかすとは、行為者がある特定の意図に関する態度をはっきりしないで、ほめかすにとどまる場合である。例えば、「困った、現金がない、今日銀行に行くのを忘れていた。」と言え、私はあなたに現金を貸してほしいという意図を持っているかもしれないが、はっきり現金を貸してくれるよう明確に要求しているわけではないため、その解釈は、Hにかかっている。⁷

(5) FTAをするな

FTAを実行しない。話さない。

このようなことから分かるように相手へのポライトネスを無視した表現(1)は丁寧度の低いものとなる。一方、(5)は現実の状況ではまれなケースではなく、この場合、相手の存在を無視するとされる可能性をもちかねない。通常の場合は(2)、(3)のような態度がと

⁶B&L(1987)は、これをさらに次の3つに分けている。(a)緊急性や効率のため、「フェイス」を守ろうとする欲求が保留されてしかるべきだと、話し手と聞き手の双方が暗黙に合意している場合、(b)聞き手の利益になるような、申し出、依頼、提案のように、聞き手の「フェイス」を脅かす危険性が非常に少なく、また話し手にとっても大きな負担にならない場合、(c)話し手が力において聞き手を圧倒している場合、または、話し手が聴衆の支援を得ており、自分の「フェイス」は傷つけず聞き手「フェイス」を蹂躪することができる場合。訳は田中(2011:90)を参照。

⁷話し手は「オフ・レコード」を選択すると次のような利益を得る可能性がある:転機が利くとか威圧的でないという評価を得る;自分の行動が周囲の人によって「コジック歴」に書き加えられるという危険性が減る;フェイスを傷つけるような解釈をされら場合に責任を回避できる。さらに、自分への気遣いを示す機会を相手に与えることができる。(田中2011:93より引用)

られ、ここでは様々なポライトネス・ストラテジーが採用されることになる。この五つのうち中心となるのが、ポジティブ・ポライトネス、ネガティブ・ポライトネスである。それらがそれぞれ 10～15 のストラテジーを含む。B&L(1987)では英語だけでなく、インドのタミル語、メキシコのツェルタル語の例などが豊富に提示され、「普遍性」がより高くなった理論であり、現在の様々な理論的、実証的研究に大きな影響を与えている。

B&Lは、異なる社会では表面上異なるストラテジーを採っているかに見えるが、その真相には人類に普遍的な社会行動の原則があると言われている。どうやって相手を自分が思いやったことになるのか、どんな配慮をしていいのかは、各文化によって異なる。これらを理解する上で、それらの言語行動を引き起こす要因となっているのは、「フェイス」に対する配慮という対人コミュニケーション上重要な行動である。「そのような行動を引き起こす要因は普遍的である」というのが、B&Lの基本的な主張である。

2.2 日本語におけるポライトネス理論の関連研究

私たちは日ごろから会話をする際、その相手との関係によって、また相手の反応によって話し方を変えている。ポライトネス理論は日本でも広く受け入れられており、近年、日本においても、ポライトネス理論に基づき一連の研究が行われてきた。しかし、日本では「敬語研究」も盛んなことから、「ポライトネス」の定義が「敬意」「丁寧さ」など曖昧になっているのも事実である。

「欧米の言語と文化を背景にして作られたポライトネス理論は、日本の敬語を考えるにはふさわしくない」「日本語では敬語使用の原則の制約が大きいため、ポライトネス理論の1つの鍵概念である、話者個人のストラテジーとしてポライトネスを捉えることはできない」(Ide1989, 訳は宇佐美 2001b:19 より)等の議論があるように、敬語という言語形式を持つ日本語にはポライトネス理論をそのまま当てはめることはできず、そのような観点からするとポライトネス理論の普遍性には疑問が生じるということである。また、Matsumoto(1989)は、フェイスの概念を個人主義社会には適用できるが、日本のような集団主義社会では、相手との関係で自分の存在を規定していることから、「フェイス」よりも「関係」が重要であることを指摘している。「フェイスの概念は個人主義社会のものであり、集団主義の日本のような社会では、人間は相手との関係で自分の存在を規定している。フェイスではなく関係がやりとりの鍵である」(Matsumoto1989, 訳は宇佐美 1998 より)を根拠に、B&Lのポライトネス理論の普遍性に疑問を持つものもある。

宮田(2000)は、B&Lのポライトネス理論を日本語に当てはめて研究した。敬語の使用は消極的ポライトネスであり、敬語の不使用は積極的ポライトネスであると指摘しながらも、

「今日は土曜日です」のように文末に待遇的態度を示さざるを得ない日本語の特徴を挙げ、「です」は必ずしも FTA を想定して面子を傷つけないようにするために使われるものではないと指摘している。ポライトネス理論を日本語に当てはめるには限界があると主張している。

しかし、Pizziconi(2003)や Fukuda&Asato(2004)は、日本語の敬語を考慮しても、ポライトネス理論が有効であるとし、Ide(1989b)やMatsumoto(1988)に異論を唱えている。また、宇佐美は一連の研究により一発話のレベルではなく、談話レベルでの検証を行うことにより、ポライトネス理論の定理は受けいれられると述べている。

また、日本語における広義の待遇表現の基本的概念を検討してみると、B&L のポライトネス理論と共通する概念を多く見出すことができる。杉戸(1989:1741)は、待遇表現を「話し手、書き手という言語行動の主体が、その言語行動にまつわる人物同士のいろいろな人間関係、言語行動の行われる場所柄や状況、そこで話題となる事柄の性格などを考慮して、言語形式・言語表現・言語行動の諸側面にわたる表現形式の群から、その配慮に最も適当な表現形式を選ぶ表現行為、および、それによって選ばれる表現形式」と定義づけている。つまり、言語を使用したコミュニケーションを行う上で、場面に合った適切な表現、円滑な対人関係を保つための表現を「待遇表現」と捉える。これはまさにポライトネスの考え方と一致すると言えよう。

また、B&L のポライトネス理論に疑問を投げかけている Ide(1989)だが、待遇表現を「話し手が相手(聞き手及び発話に登場する人物を指す)との間の社会的・心理的距離に応じた心理的態度を表す言語手段である」(井出 1982:111)としており、これがポライトネス理論の鍵概念となっている「フェイス」ではなく、「距離」を鍵概念としてはいるものの、FTA の公式で用いられた「距離」についてのとらえ方との共通性が見受けられる。また、社会的・心理的距離が大きい時に使われる表現を「敬遠表現」、その反対に距離が小さい時に使われる表現を「親密表現」と呼び、待遇表現の中にもポジティブ・ポライトネスのような、親密さを表現するための枠組みがあることを示唆している。

滝浦(2005)は井出の主張に対して、「ゴフマンの相互行為儀礼がそうであったように、ブラウン&レビンソンのポライトネスもまた、受動的でありかつ能動的であるような両義性を帯びている。この二面性は、ポライトネスの内実を理解するのに欠かせないばかりか、彼らのポライトネス理論の成り立ち自体にも関わり、また彼らに対する誤解に基づいた批判の原因ともなっている」(pp. 136-137)と異論を唱えている。人が常に自分の発話行為の意味を意識しているわけではなく、行為には、話者が「選び取るもの」としての能動性と「選ばされるもの」としての受動性との二つの極がある。前者はポライトネスの語用論的

な側面に、後者はポライトネスの儀礼論的ないしは社会言語学的な側面に開くと述べる。そして、「行為者は規範に従いながら行為すると同時に、自らの意図の下にふるまいを選択し、そのふるまいを選んだことによって生じる“含み”としての対人配慮を伝達することで、相手との関係作りに積極的に参与してゆくのである (p. 137)」とする。つまり、「井出の批判はポライトネスにおける位相差を見落としている (p. 138)」と指摘する。

以下、日本における B&L のポライトネス理論に関する主な研究を詳しく紹介する。

宇佐美 (2001, 2002, 2003)

宇佐美(2002)は4つの側面からB&Lのポライトネス理論を概観した。

(1) 概念：「フェイス」という概念

(2) 「フェイス侵害度(相手のフェイスを脅かす度合い)」の見積もりの公式：

$$W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$$

(W：顔を脅かす行為の深刻度 D：SとHの心理的距離 P：SとHの力関係

R：文化的な違い)

(3) 具体的ストラテジー

(4) ストラテジーの選択を決定する情況

また、宇佐美(2001, 2003)はポライトネスを「言語行動のいくつかの要素がもたらす機能のダイナミクスな総体」と捉え、諸言語における文法構造の違いや敬語を有する言語との比較において、文レベルやいくつかの発話行為レベルだけでは、ポライトネスを公平に比較・検討し、説明する事が困難であるとしている。そのためには、発話の連鎖やまとまりだけでなく、「談話」全体を対象として、その中でポライトネスを捉えるべきだとする。ある発話がポライトかどうかについて聞き手側を考慮すべきであり、相互行為におけるダイナミックな言語行動として相対的に捉えるべきとして談話レベルのポライトネス、すなわち「ディスコース・ポライトネス」を唱えている。「ディスコース・ポライトネス」を「一文レベル、一発話行為では捉えることのできない、より長い談話レベルにおける要素、及び、文レベルの要素も含めた諸要素が、語用論的ポライトネスに果たす機能のダイナミクスの総体」と定義する。「ディスコース・ポライトネス」理論では、様々のディスコース・ポライトネスには談話展開の典型という当該談話の「基本状態」があると想定し、実際の談話効果である「ポライトネス効果」は、その「基本状態」を基にして、相対的に生まれる。ゆえに「絶対的ポライトネス」と「相対的ポライトネス」の区別が必要であり、宇佐美は後者の重要性を強調する。その上で、「FTA 軽減行為」は一種の「有標行動」であり、有標行動がもたらしえる効果には、①プラス・ポライトネス効果、②ニュートラル・ポライトネス効果、③マイナス・ポライトネス効果の3つがあるとする。この三種類

のポライトネス効果は、基本的に「話し手と聞き手のフェイス侵害度の見積りの差」を数値に置き換えた形で連続線上に表すことによって体系的に捉えられるとする。

さらに、宇佐美は、ディスコース・ポライトネスを構成する要素は、スピーチレベル(常体・敬体)だけではなく、相づちの打ち方や頻度、話題導入頻度などの談話行動も含んでいるとしている。ディスコース・ポライトネスという観点から、B&Lのポライトネス理論において、ポライトネスを規定するとされている三要因(力関係、社会的距離、相手にかかる負荷度)によって、日本語の「社会人の初対面二者間会話」を分析した。常体を含む発話のみが、対話する相手との力関係(年齢、社会的地位)を顕著に反映している。つまり、話者間の「力関係」をより顕著に反映しているのは尊敬語などの使用ではなく、常体の使用の方ということである。また、女性のほうが男性より、尊敬語等を含む発話を有意に多く用いており、女性話者同士を比較すると、目下にあたる女性話者の尊敬語等の使用が最も低い、という結果を得た。

このように、宇佐美のみならず多くの研究者が会話参加者の相互行為におけるディスコースレベルとしてポライトネスを捉えるべきであるとする(メイナード 1997, 三牧 2007, 熊井 2009 など)。

松村・因(1998)

松村・因(1998)は、B&L(1987)のポライトネス理論を批判した。Matsumoto(1988, 1992)、井出他(1986)、Ide(1989, 1992)を概説しながら日本語のポライトネスにおける「わきまえ」の重要性を再確認した。松村・因は Ide(1989, 1992)が「わきまえ」は話者意図的選択ではなく、社会的習慣によって決まってくると論じたが、身内的関係ではない成人同士の会話では、文末には敬体、相手の動作には尊敬語の敬体を用い、個人的な関係のある明らかに目上の者は目下の者に対し普通語の敬体や尊敬語の普通体などを用いることを許されるというのが、社会的習慣の命ずるところであるという。

また、3タイプに分類された12種類の会話—いずれも社会的身分に注意を払う必要がある場面での会話—を詳しく分析する。実際日本語の会話におけるポライトネスを考察すると、対話者間の相対的地位や社会的状況の読み取りが如何に重要であるかが分かる。話者は先ず対話の相手に応じて自分の位置を定め、その位置を基準としてポライトネス・ストラテジーを変化させている、と述べた。分析によって、日本語においては、わきまえだけでなく、使用されるストラテジーの種類や頻度も、会話参加者の相対的地位や状況によって作用されていることも分かった。即ち、ストラテジー使用も、「わきまえ」に依存している。ストラテジーの多くはわきまえ表現からの逸脱や回避という形を取るが、それが

無礼ではなくストラテジーと解釈されるためには、適切なわきまへの表現が存在しその意識の枠の中で適切なストラテジー使用が行われていることが必要である。そのような条件がなければ、逸脱や回避は、ポライトネスの実現に役立つどころか、無礼や無神経と解釈されてしまうだろう。日本語のように、敬意の表現が社会的習慣として構造的に組み込まれている言語の場合は、わきまへのという基準がまず設定されており、その中で可能な範囲でストラテジーが実現されると言える、と述べた。

さらに、日本語においては(1):話者が自らの立場を読み取り、それをわきまえていることを示す「わきまへの」としてのポライトネス (2):(1)のポライトネスを基準としながらも談話に応じて相手に対する敬意や親しみを示すために用いられる「ストラテジー」としてのポライトネスがあることをデータ分析によって明らかにした。

それゆえ日本語の会話におけるポライトネスはわきまへのを示しつつ多様なストラテジーを使用するという、複合的な方法によって実現される。わきまへのは必ず示さなければならず、ストラテジーの使用もわきまへの表現に依存している。日本語においては、わきまへの、即ち「社会的習慣の遵守」という側面を無視してポライトネスを実現することはできないということ述べた。

因(2005)

因(2005)は、日本語では、ポライトネスが表現される機序における文法的言語装置の役割について、①日本語のポライトネス表現の特徴として、B&L(1987)のいう二つのフェイスそれぞれに対応する制度化された表現方法が存在するとみることができること、②制度的使用と語用論的使用は截断と区別されるものではなく、連続的なものと見ることができること、③言語装置が文脈において発揮する意味は固定しているのではなく、その装置の基本的意味が、文脈的要素—とりわけ、話者の意図が親和的か対立的か、話者指向的か他者指向的か—と作用した結果として産出されること、という三点を主張している。

また、日本語教育日本語は、発話者の属性や対話者間の関係性や場などによって決まるデフォルトの使用を踏襲しつつ、自由選択による使用が出現するが、それが、「失敗または無礼または無教養」などの否定的解釈を誘わずに「丁寧さのストラテジー」として有効に機能するメカニズムとは何かについて、論じている。

2.3 中国語におけるポライトネス理論の関連研究

Guの中国語の敬語の「自卑の原則」

Gu(1990)は中国のフェイス概念の観点から欧米のフェイス概念の不備を指摘した。Guは道徳に関する社会規範に焦点を当てており、Leechの理論に土台を置きながらも、それが道徳や倫理面に関する社会の特徴に触れていないことを指摘している。またB&Lのポライトネス理論に対しては、フェイスの概念は心理的な側面ではなく、社会規範の側面から捉えるべきであると指摘する。Gu(1990)は、現代中国語の敬語を考察する際、主に英語のデータによってえられたLeechの諸原則に当てはまらない敬語現象の存在を指摘した。その一つは古代中国によく使われ現代中国にもその影響を残している伝統的な敬語表現(敬辞、謙辞)である。Guはこのような中国社会の伝統的な敬語現象を説明するために、「自卑原則」を設けた。

「自卑の原則」：(a)自分をへりくだって表現せよ

(b)他者を立てて表現せよ

(Gu1990 : 246)

Gu(1990)は次の会話例を引用して「貴姓、尊姓」のような敬辞と「小弟、賤民」のような謙辞の使用は自卑の原則が適用された結果だとしている。

甲：您贵姓？[お名前はなんとおっしゃいますか<あなたの貴い名字は>]

乙：小弟姓●。[●と申します。]

您尊姓？ [お名前は。<あなたの尊ぶべき名字は。>]

甲：贱姓章。 [章と申します。<私のいやしい名字は章です。>]⁸

(Gu1990 : 246)

Guは、ここで「貴姓、尊姓」は他者を立てる表現で、「小弟、賤姓」は自らを謙る表現として扱っている。

更にこれらを踏まえ、Guは中国語における4つの原則を提示している

①Self-denigration(謙り)：話し手が自己を卑下し、相手を高める

②Address(適切な話し方)：聞き手の社会的立場を考慮し、適切な用語で話す

⁸日本語訳は彭国躍(1993:119)を参照。[]の中は意識を、<>の中は逐語訳を示す。

③Tact(察し)：聞き手の負荷を最小化し、利益を最大化する

④Generosity(寛大さ)：聞き手以外の人々の利益を最小化することを述べることによって聞き手の利益を最大化する。

尚、③と④には、会話における要求や依頼など特別な場面も想定されており、要求内容の負荷の程度によっては、会話の流れに違いが生じることも付け加えられている。

また、Mao(1994)はB&Lのフェイス理論に基づき、そのフェイスが中国語にどのように表れているのか、またフェイスと中国語の「面子」との関係を考察した。

しかし、GuとMaoの研究は中国語のポライトネスの特徴を究明したが、何れも異なるコンテキストにおけるポライトネス表現の変化を無視したという点が問題である。

曲・陳(1999a, 1999b)の一連の研究は、顧(1992)の「礼」に基づいた丁寧さの定義を批判し、「礼貌」はコミュニケーションをする時の戦略であると主張している。さらに、Goffman(1967)の面子理論とポライトネス理論に基づいた「中国伝統礼貌原則」を提唱している。即ち、「親近の原則(親近感を示すほど丁寧になる)」と「社会関係原則(相手を高めるほど丁寧になる)」である。

B&Lのポライトネス理論を中国語に当てはめる実証研究には、Kaidi Zhan(1992)が挙げられる。Kaidi Zhanは、ポライトネス理論には普遍性があり、文化と言語によって、それぞれのポライトネス・戦略は異なると述べている。中国語のポライトネスは中国語の文法や韻律論などに基づいた中国文化と中国人の心理的な特徴を受けたものだと指摘している。また、中国語のポライトネス・戦略と中国語の文法の関係については、1) 聞き手の関心を引き起こす 2) (物・共感・理解・協力を)相手に贈与する 3) 口調を和らげる 4) 間接慣用手法の四つの戦略から説明した。しかし、話者と聞き手との関係によって、ポライトネス・戦略の選択はどう異なるのか、どんな言語表現を選ぶのかは明らかにしていない。

2.4 対照研究

従来、ポライトネス理論については、欧米の研究、特にLeech(1983)やB&L(1987)のポライトネス理論が注目されている。しかし、近年、日本語や中国語の日常会話を中心とするポライトネスに関する研究も数多く行われてきている。

2.4.1 日本における対照研究

井出他(1986)

井出他の研究は異なる日米の言語・社会における敬語行動の比較研究の報告である。まず、丁寧さに関する言葉の使い方、つまり敬語行動を問題とする。「わきまえ方式」の敬語行動をコントロールする要因として、相手の人物カテゴリー及び場面を問題とした。また、(1)言語表現の丁寧さのルール (2)行動の丁寧さのルール (3)誰に対してどの表現を使うのか、についての3段階の調査方法をとった。調査を適切なものとするために以下の三つの条件を設定した。

- (1) 演繹的考察により敬語行動に関する日米共通の枠組みを設定する。この理論の枠組みの上で調査すべき問題を限定した。
- (2) 日米で比較可能なデータを得るために、両者とも大学生を選んで、アンケート調査を行った。
- (3) 作業仮説を立て、敬語行動を三段階に分けて調査することにより多角的な角度から敬語行動の解明を試みた。

このような条件のもと、三段階の調査方法を用いて、日米両国の大学生それぞれ500人にアンケート調査を実施し、表現の丁寧度から見た話し手の人物カテゴリーの位置づけを試みている。調査の結果から、「敬語行動」は社会慣習に受動的に従うことで敬意を示す<わきまえ方式>と、話し手が相手に能動的に選択して敬意を示す<働きかけ方式>とがあるということが分かった。この二つの方法のうちで日本語は<わきまえ方式>の方が優勢であるとされている。井出はB&Lのポライトネス理論は、「働きかけ方式」を中心にした概念であるとし、理論をより普遍的にするためには、日本語のような敬語体系を有する言語の特徴である「わきまえ方式」の概念を加える必要があると指摘している⁹。「わきまえ方式」による敬語行動は、社会・文化の習慣・規範に従う受動的な行動であり、地位、力関係、年齢差、親疎関係などに基づく社会的・心理的距離、話題、場面の改まりなどによって規定されている。アメリカ英語では、話し手が積極的に相手に敬意を示したり、距離を調節したりする「働きかけ方式」による敬語行動が優勢であるとされている。

また、言語行動に最も大きな影響を及ぼす社会変数として、①自分と相手との社会的な距離(地位、力関係、年齢)②自分と相手との心理的な距離(親疎、好き嫌い)③場面や話題の改まりの度合い④相手への負担度などがあげられている。これらの変数は、それぞれが

⁹井出(1990)によると、「わきまえ方式」は、話し手は自分と場面を社会の規範に照らして適切にわきまえることであるとし、これに対して「働きかけ方式」は、話し手が発話効果を考えて相手に働きかけることであると説明している。

独立しており、変数値の総和が大きいほど、相手のフェイスを脅かす度合いも高くなると言える。

さらに、言語体系は異なるものの、日米には以下の4つが共通することを示した。

- (1) 表現の丁寧度は多くの言語要素の丁寧度が複合してできあがる複雑なものである。
- (2) 表現の丁寧度には、要求緩和部分も重要な関わりがある。
- (3) 丁寧な表現ほど長い傾向がある。
- (4) 丁寧な表現にはバラエティがたくさんある。

ただし、井出の研究はそれぞれの人物の敬語行動が現れる場面や状況に対して十分に考慮していない点に限界があると考えられる。

龍城(1989, 1990)

龍城は日英の比較という観点から、B&Lの「politeness」を「待遇」と解することによって、話し手が聞き手に対して用いるさまざまな待遇方策のうちB&Lが紹介した例文との類似表現を日本語から抽出した。主に、B&Lが挙げたいろんなポライトネス・ストラテジーの中ではポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネスが普通の状況で一番よく使われているとし、ポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネスについて、B&Lが挙げた英語の例文に対する日本語相当例を挙げ、日本語において待遇表現がどのように現われるかを観察した。さらに、B&Lが挙げたポジティブ・ポライトネスの15種類のストラテジーとネガティブ・ポライトネスの10種類のストラテジーについて、日本語の例を挙げ、日本語における各ストラテジーの表現と特徴を詳しく分析した。しかし、例文はすべて作者の作例であるため、B&Lのポライトネス理論において、ポライトネスを規定するとされている三要因(力関係、社会的距離、相手にかかる負荷度)に関しては一切言及されていない。さらに、実際の会話の中での各ストラテジーの使用頻度はどうなっているのか、B&Lの理論は日本語同士の会話の中にどう表れるのかについては説明されていない。

2.4.2 日中対照研究

日本語の敬語と中国語の敬語は、形式上の違いもあって、両言語を一つの枠組みの中で考察するのは容易ではない。そのため、敬語に関する日本語と中国語との対照研究は大きな進展を遂げていないようである。このような中であって、着目すべき研究として、荻野(1986)の「日本人と中国人の敬語行動の対照言語学的研究」が挙げられる。

荻野は詳細な計画と綿密な準備に基づいて質問紙調査を実施し、対照言語学の視点から待遇行動における日本人と中国人の違いを挙げている。荻野は、「場面による敬語の使い分

け、「他人との付き合い」、「敬語意識・敬語に対する考え方」などの面から日本人と中国人を比較している。荻野(1986)は、日中両言語での形式の違いに拘らずに、両言語の機能に着目して、「日本語には敬語があり、中国語にはあまりないと言うが、それは敬語行動の場合、日本では相手・場合により言葉の使い分けの慣習が比較的是っきりしているの、それが目につきやすいのに対し、中国語ではわかりにくく、慣習がはっきりしないだけで、使い分けていないのではない」(p. 24) とポライトネスでの両言語の共通性を主張している。また、「話し相手に応じて敬語を使い分けるか」という質問に対して、日本人は「意識して使い分けている」という回答が多かったのに対して、中国人は「意識しないが使い分けていると思う」の回答が多かった。中国語は日本語のような発達した敬語体系は持っていないように見られるが、相手によって敬語を使い分ける敬語行動については、意識はしないものの、行動自体は行われていると言える。これは日中両言語の待遇表現の対照研究において画期的なものと言えよう。しかし、この研究には不十分な点も存在している。荻野が質問紙調査を行った 1986 年以來、すでに 30 年近く経過し、とりわけ中国ではこの 30 年、社会状況や人々の生活や考え方などが著しく変化してきた。その変化は人々の言語使用にも大きな影響を与えた。例えば、80 年代ごろであれば、道を尋ねる場合には、相手の性別を男女問わず、皆「同志，请问…」(同志：もとは共産党同士の呼称だったが、建国後、一般に使われるようになった)、「同志」という言葉を使っていたが、90 年代に入って、男女、年齢別に様々な呼称が使われるようになってきた。例えば、「先生」「女士」「大妈」などがある。したがって、荻野(1986)以降の多くの日中待遇表現における対照研究では、相手と用件に用いる丁寧度を予め分類し、それを加算して、丁寧度を算出する「相手レベル+用件レベル=コード値」(張 1993)、「丁寧度審査員」を設け、丁寧度を判定する(梁 1999)などの方法が提案されている。しかし、いずれも恣意的な研究であり、応用することは難しいと言わざるを得ない。

母(2001)

母(2001)は荻野調査の項目に修正を加えて、新たに「待遇行動についてのアンケート調査」という質問紙調査を実施した。母(2001)は B&L のポライトネス理論を人間の待遇行動にある普遍的なものと考え、アンケート調査を通して、荻野調査の結果を検証すると同時に、(1)待遇表現はどのように使い分けられるか (2)待遇表現を使用する意識がどのように表れるか (3)日本人と中国人の非言語行動の違いなどを明らかにすることを目的とした。

具体的に、a) 公的場面、b) 反論の場面、c) 苦情を言う場面、d) 断る場面、e) お金を借りる場面など 5 つの場面を設定し、場面ごとに日本語母語話者と中国語母語話者の待遇行動をアンケート調査し、各会話場面に用いられるポライトネス・ストラテジーを比較した。

調査は 5 つの項目から構成されている。

- (1) A : フェースシート
- (2) B : 場面による待遇行動の使い分け
- (3) C : 待遇行動に対する返答
- (4) D : 非言語行動の使用
- (5) E : 待遇行動に対する考え方

しかし、各被調査者のそれぞれの回答の理由については、分析の対象外とした。また、お金を借りるという恩恵関係の場面、中国人の目上意識、待遇表現の使用に左右する要素及び待遇表現の習得についての四つの項目を加えた。さらに、荻野調査の選択肢を日中両言語のネイティブ・スピーカーそれぞれ 3 人に依頼して検討し、実生活での言葉遣いの多様性を反映できるように一部の項目の選択肢を増やした。

まず、中国語母語話者は、話をする際、親しくない相手に対しても、相手との親密さを強調するストラテジーつまり、ポジティブ・ポライトネスを使用する傾向が日本人より強いということを述べた。また、日本人は意識的に待遇表現を使い分けることが多いが、中国人は無意識的に使い分けることが多いという結果を得た。さらに、調査から得たデータを解析した結果、複数の場面において荻野調査との差が表れた。これは 1986 年から 2001 年までの 15 年間の間、中国社会に大きな変化が起こったことも一つの要因ではないかと思われる。

しかし、この研究では使われる場面や状況にはより現実に近い話し手－聞き手の社会的・心理的な距離などの考慮がなく、単純な場面設定に限られているという問題点もある。また、被調査者の年齢分布については日中両方とも 20 代前半が半分以上を占めており、これは調査の結果に影響を与えるのではないかと思われる。

また、母は B&L のポライトネス理論を枠組みとして、日本語と中国語のポライトネスを詳しく分析したが、中国の言語習慣と独特な文化に関してはあまり考慮されていない。「上下関係」「親疎関係」に対する敏感度が異なる日中言語の間で、様々な場面でポライトネス

を表す意識についてどのような違いが見られるのかということに関する分析はまだ行われていない。

2.5 談話分析の必要性

近年来、談話を単位として言語現象を考察する研究姿勢が顕著となってきた。

泉子・K・メイナード(1997:12-13)は談話を「実際に使われる言語現象で、原則としてその単位を問わない。単語一語でも談話といえるが実際には複数の文からなっていることが多く、何らかのまとまりのある意味を伝える言語行動の断片」と定義した。

メイナード(1993)は、日本語会話の相づちの多さ、終助詞など聞き手目当ての表現の多さなどを例として、日本語の会話は「自己コンテキスト化」しやすいという特徴があると述べている。メイナードによって「自己コンテキスト化」と名づけられた、話す時に周囲の状況に注意して自分だけを強く押し出すことを避ける戦略は、Hinds(1983)では日本語談話の衝突を避けようとする傾向として分析されている。ザトラウスキー(1993)は、日本語の電話談話の分析を通じて、話し相手の反応を予測して対応する「気配り発話」の存在を特定している。

ザトラウスキー(1986)は実際の談話を収集・分析する必要性を説き、「談話型」に基づいた教授法を提案し、談話展開の分析から、日本語の勧誘の談話型は、相手に負担をかけず、気分を損なわないような丁寧さを表す機能を有し、相手への配慮を軸に展開することを示した。

村上(1993)は話を進める前提になる気持ちの流れ(心的態度)に着目して、心的態度をフローチャート化することで談話の構造を分析している。発話者が状況や相手をどのように捉え、自分を相手にどのように認知させたいのか、そのためにどんな戦略を選択すればよいのかなど、心的態度が話の流れを支える鍵概念だと考えている。

Hinds(1983)は一連の論文を通して日本語、中国語、タイ語、韓国語の談話構造を比較対照する。特に日本語では朝日新聞の「天声人語」をデータに、そのレトリック構成法を伝統的な起承転結で説明する。日本語のレトリックは英語のレトリックと異なり、起承転結的な書き方が正しいとみなされていることを指摘する。

水谷(1979)は日本語の会話の特徴を「相手と自分が一緒に会話そのものを作っている」と述べ、バレーボールのプレーに例え、このボールを「どのように対処するかという判断は仲間全体を通して共有のものでなければならない」と指摘した。また、ディスコースを構成する最小のまとまりを「ディスコース・ユニット」と名づけてその構造を分析する試

論を提示し、その基本形として、話の場作りの要素、話題づくりの要素、内容という三つの構成要素を考えている。

また、Levinson(1983)によれば談話は言語使用の原型であるという。談話には一定の枠組みがあって、多くの言語行為は談話の枠組みが存在するという仮定の下に成立している。例えば、「約束」という言語行為が成立するには、相手の了解が必要であるが、「明日の六時ですね」、という発話は、相手側の「そうですよ」という追認なしには成り立たない。さらに、宇佐美(1997, 1998)が述べるように、日本語のように敬語を有する言語においても、文レベルの言語形式の丁寧度のみではなく、談話レベルの語用論的観点からポライトネスを考察していく必要があるのも確かである。

例えば傘を貸す場面における「私はあなたに傘を一本貸して差し上げます」のような発話は、確かに敬語は使っているものの、自然な発話とはいえないだろう。また、一人の学生が原稿のチェックをある教師に依頼する時、次のような会話があった。¹⁰

学生：〇〇に提出する原稿を書いてきたんですけど、コメントを頂けないでしょうか。

先生：いいですよ。それでいつが締め切りですか。

学生：明日です。

学生の発話は言葉遣いとしては問題ないが、ディスコース・ポライトネスの観点からは問題である。これについては、急な依頼をするという行為自体が問題で、言葉遣いの問題ではないと考える人がいるかもしれない。しかし、どうしても急な依頼をする必要がある場合は、談話レベルでの述べ方の順番を変えることによって、当該の行為を和らげるような言葉遣いを行うことが可能である。つまり、例えば「急なお願いで大変恐縮なのですが」のような前置きをつけて切り出すなどの方法を使って、より円滑なコミュニケーションを目指すこともできるのであると加藤(2002)は述べている。

以上のように、円滑なコミュニケーションのためには、言語形式の正確さだけでなく、談話レベルにおける言語行動の操作なども必要になる。円滑かつ自然なコミュニケーションが言語教育で求められているが、談話分析・談話研究は、上述の例も含めた様々な問題について気付かせてくれるよいきっかけになるものであろう。

このように、言語行為は談話のやりとりと密接に結びついているため、談話分析は言語行為を理解・分析する上で欠くべからざる手段だと言えるであろう。

¹⁰加藤(2002)「宇佐美まゆみ先生「談話分析と日本語教育」(日本語 OPI 研究会第 1 回会話教育のための講演会・報告 2)。

さらに、文化による言語の相違点が出るのは、認知的なカテゴリーより、むしろ人間関係が重要な要素となる言語のパフォーマンスにおいてある。この意味で、談話分析の枠組みによる対照分析の意味は大きい。

2.6 本研究の位置づけ

以上、ポライトネスに関わる重要な理論の概要と、その理論を用いて分析を行っている先行研究について概観した。どれも言語使用の分析に有効な概念であり、援用している研究も多い。しかし、これらの研究を俯瞰してみるに、いくつかの問題点が浮かび上がる。

第1に、多くの研究において「ポライトネス」の定義が一定していない点である。本研究では「ポライトネス」の定義を「円滑な人間関係を確立・維持するためのストラテジー」とする。

定義と関連して、異文化の人とコミュニケーションをする際、どのストラテジーを選び、どのように「円滑な人間関係」を築くかについての問題がある。松村・因に指摘されるように、実際日本語の会話におけるポライトネスを考察すると、身内的関係ではない成人同士の会話では、特に注意すべきことは、対話者間の相対的地位や社会的状況の読み取りであろう。例えば、学生が先生に「先生、今日の授業、なかなかよかったです」ということができないのは、相手が目上である点が一番大きな要因であろう。但し、「相手の物事がよい、相手に好ましいという気持ちを伝えるために働きかけたい」という意図は相手との上下関係に関わらず持ちうるはずであり、実際、例えば学生が先生に「先生、今日はお元気そうですね」と言う場面は、日本語においては想像しうるものである。しかし、話の内容が肯定的で好意的であっても、先の先生に対する「相手に評価を下す」というような誤りを犯さないためには、母語の干渉を避け、相手との社会的地位や親疎関係を十分考慮する必要がある。相手と円満なコミュニケーションをすることを意図する場合に、日中両言語において、それぞれどのような方法やストラテジーをとるのかといった本研究の観点は、先行研究にはあまり見られないものであり、日本語教育の観点からも意義のあるものだと考えられる。これについては第3章で詳しく分析していきたい。

第2に、「ポライトネス表現」の諸条件との関連についての問題がある。先行研究の中には、人間関係や対象などの条件(社会的変数)を全く考慮に入れていないものもある。生田(1997)によると、「ポライトネスは大きく敬語などの表現形式の選択に現れるポライトネス・ストラテジーとインタラクションに現れるポライトネス・ストラテジーがあり、前者は人間関係によるものが多く、後者は負荷の度合いによるところがおおい」という。ポライトネスは人間関係に基づくポライトネス、すなわち、親疎関係、上下関係、談話参加者の情

報量によるポライトネスとインタラクションにおける負荷の度合いに基づくポライトネスに分けることができる。それぞれの人間関係に対して、ポライトネスの表現形式も異なる。

「ポライトネス表現」を考える際に、特に人間関係が重要であることから、この視点は無視できない。そこで、本稿では、実際の会話を「相手」、「場」、「内容」、「表現方法」、「表現意図」の五種の観点から分析し、「相手」（人間関係）に応じた会話の「内容」（対象）、ポライトネス意識の「表現方法」、「表現意図」を中心に考察することにする。本研究では、日本語学習者のポライトネス習得研究の一環として、従来の敬語表現や待遇表現における言語形式ないし言語運用の研究とは異なり、学習者のポライトネス意識を把握し、諸条件を複合して多角的に分析することによって、難しいとされる日中両国のポライトネス意識の異同点の実態に迫ることができると考える。

第3に、日本語教育現場における指導の問題がある。

2001年中国で頒布された『高等院校日语专业基础阶段教学大纲』が「要克服只重视语言形式和结构, 忽视语言功能的偏向(今まで日本語教育における言語形式と構造だけを重視し、言語の実用性を軽視する現象を克服すべきだ)」(2001:7)と指摘した。これは事実上、日本語教育における「言語形式と構造だけを重視している」事実への批判である。先行研究では、ポライトネスに関して、ほぼ言語表現にとどまっており、意識上の問題には言及されていなかった。しかし、学習者の「ポライトネス」という一つの言語行動の実現を考えていく際、日中両言語のポライトネス表現の異同点を分析するだけでなく、日本語教育現場でのポライトネス使用で状況は実際どうなっているのか、日本語学習者のポライトネス意識がどこまで働いているのかを分析する必要がある。

本研究は実証検証の立場から中国人の誤解しやすいポライトネス表現が運用レベルでの実態の解明に焦点を当て、日中両言語のポライトネスの異同点を談話レベルで究明したい。さらに、分析結果から、中国人日本語学習者の日本語のポライトネス表現使用におけるポライトネス意識についての誤解が明らかになれば、これからの中国における日本語教育、日中異文化間コミュニケーション能力の養成に資することが期待される。

第3章 インタビュー番組の談話分析に基づく日中ポライトネスの対照研究

日本語の「狭義敬語」¹¹と中国語の「敬謙語」¹²は日中両言語における働きは同じであるが、表現形式には大きな違いがある。日本語の「狭義敬語」が固定的な形式によって規定されているのに対して、中国語の「敬謙語」は形態上の制約がほとんどないとされている。そのため、敬語体系を有する日本語とそうでない中国語とは、一般的に言語の構造の違いが大きく影響する文レベルにおける敬語の比較は不適切だと考えられている。

「中国語の敬語表現は、文字通りの概念的な意味をそのまま持っているので、対人関係の待遇的な意味効果は、文字通りの意味を介して二次的に含意されたものになる」。例えば、相手の名字を「貴姓」と言う場合、相手を貴いものとして評価するという一次的、字義の意味から、相手に対して丁寧に礼儀正しく振る舞うという二次的、待遇的含意が生まれるのである。したがって、「中国語の敬語は含意伝達の媒体となる一次的な意味を抜きにしてその待遇機能を語ることはできない」。このような敬語現象は、従来の文法論的、形態論的、または真理値意味論的なアプローチだけでは扱いきれないものである。¹³

中国語において、「社会言語学的範囲や習慣に則った言語使用」は敬語使用の原則による語用論的制約に相当する。¹⁴というわけで、日中両言語においては、人々が人間関係や丁寧度に応じてどんなルールに沿って、言葉をどのように使い分けているのかを考えなければならぬ。日本人と中国人のポライトネス言語行動を観察し、それぞれに特徴的なものを抽出し、その相違点と共通点を分析し、比較する方法が考えられる。

B&L(1987)は「人間が集団で生活する際、攻撃が潜在的に起こりえる二者間で、争いを回避し、コミュニケーションを成立させるためにポライトネスという意図が必要とされるのではないかという着想から出発している。ポライトネス理論はフェイス、つまり、個々人の自己尊重から導き出される。これが集団の違いを超えて存在するという仮定から、多数の言語体の言い回しには対応物があるだろうという推定がなされる」(p. 2)と述べている。この点から見ると、B&Lのポライトネス理論は確かに民族や言葉の違いを超えた普遍性を探求している研究であると言える。

¹¹日本語の敬語の体系に関しては、尊敬語・謙譲語・丁寧語という伝統的な3分類がある。本研究ではこの3分類法は「狭義敬語」と定義される。

¹²刘宏丽(2001)『现代汉语敬谦辞』北京语言文化大学出版社, pp. 2-9。

¹³中国語の含意の性質について、彭国曜(1993:119-122)を参照。

¹⁴宇佐美(2001)は敬語を有さない言語においては、敬語使用の原則による語用論的制約に相当するような「社会言語学的範囲や習慣に則った言語使用」にも、もっと注目する必要があると述べている。

したがって、概念においても言語形式においても、対人関係の配慮を広くとらえている B&L のポライトネス理論は敬語体系の異なる日中両言語のポライトネスの対照を行うことに有効な概念と考えられる。

本章ではそれを基本的な理論として利用し、B&Lが提示したポライトネス・ストラテジーに基づき、日中両言語のポライトネスの同異点を究明する。

3.1 研究範囲

本章では、日中両言語におけるポライトネス表現の同異点を「社会言語学的範囲や習慣に則った言語使用」と「話し手個人の方略的な言語使用」より、「談話レベル」で考察していく。

ここでは、主観的な論究を排除するために、台本のある談話ではなく(小説やドラマなど)、自然な談話に近いインタビュー番組を利用して、分析を行う。

インタビューでは、ゲストは司会者にとって、目上であったり目下であったり、力関係や性別なども異なるため、両者の関係、という点で捉えるなら、さまざまな要素の組み合わせがありうる多様な関係を表すとみなすこともできる。このことによって、より包括的な言語表現を観察することができると言えるであろう。

本章はB&Lが提唱したポライトネス理論を基本的理論として、言語データを基に分析し検討した上で、日中両国のポライトネスの同異点を探る。B&Lのポライトネス理論では、「フェイス」という概念を中心的な概念としている。すなわち、人間には基本的欲求として、「ポジティブ・フェイス」と「ネガティブ・フェイス」という二種類のフェイスがあるとしている。「ポジティブ・フェイス」は相手によく思われたい、親しいものとして扱われたいという欲求もある。「ネガティブ・フェイス」は自分の領域に他人にむやみに踏み込まれたくない、でしゃばられたくないという欲求、自分のことは他人に邪魔されたくないという欲求である。B&Lはこの基本的欲求としての二つのフェイスを脅かさないように配慮することがポライトネスであると捉える。そのうち、ポジティブ・フェイスに訴えかけるストラテジーを「ポジティブ・ポライトネス」、ネガティブ・フェイスを配慮するストラテジーを「ネガティブ・ポライトネス」と呼んでいる。

3.1.1 ポジティブ・ポライトネス

ポジティブ・ポライトネスは聞き手に対し「人に認められたい、仲間とみなされたい」というポジティブ・フェイスを満足させるもので、話し手が聞き手に親密行動を取ることによって、いい気持ちにさせることである。相手の他者から認められたいというポジティ

ブ・フェイスを満たしてあげるように、相手の何かを褒めたり、共通の興味を強調したり、相手を楽しくさせるような言語方略をとったりする。話し手と聞き手の関係が「親密」であるため、何か物を頼む場合も、低いレベルのポライトネス・ストラテジーで十分目的を達成することが出来る。ポジティブ・ポライトネスは私たちが通常丁寧であると思っていることとは異なるが、間接的に聞き手の負担を軽減し、人間関係を損なわずにコミュニケーションの目的を達成する重要な手段である。

B&Lはポジティブ・ポライトネスとして15種類のストラテジーをあげている。(B&L 1987: 101-129、訳は田中 2011:134-178 を参照)

ストラテジー1. H (の興味、欲求、ニーズ、持ち物) に気づき、注意を向けよ

相手の状況に注目し、言及することを指す。例えば、髪を切ったことを指摘したり、相手の物を褒めたりすることに関わる。

ストラテジー2. (Hへの興味、賛意、共感を) 誇張せよ

大げさな声の調子や、誇張を表す表現を用いる。“What a fantastic garden you have!”のような表現やアクセントがあげられる。

ストラテジー3. Hへの関心を強調せよ

話を面白おかしく語るなどして、聞き手とその内容を共有できるようにし、話し手と聞き手が同じ立場であることを表す。

ストラテジー4. 仲間うちであることを示す標識を用いよ

仲間内だけで通じる呼び名や方言、スラング、短縮語などを用いて、仲間であることを強調する。

ストラテジー5. 一致を求めよ

無難な話題を取り上げることで意見の一致を求め、対立を避ける。また、会話のやり取りの中で、相手の発話で用いられた言葉を繰り返したり、相づちを打ったりするなどして、同調する。

ストラテジー6. 不一致を避けよ

同意していることを表す発話を行う。これは、真に同意していない場合でもそのような発言をすることも含んでいる。

ストラテジー7. 共通基盤を想定・喚起・主張せよ

FTAを行う前に世間話をする、相手の視点から話をするなど、話し手と聞き手が共通の立場にあることを前提にしている態度を表す。例えば、転んで怪我をした子供に「あー、痛かったね」と述べることもこれに含まれる。

ストラテジー8. 冗談を言え

ジョークを言うことによって、話し手と聞き手が共通の話題や価値観を持っていることを示す。

ストラテジー9. S は H の欲求を承知し気づかっていると主張せよ、もしくは、それを前提とせよ

相手の望みは自分の望みであり、自分の望みは相手の望みであると言う。相手をよく知っていることを前提とした発言をする。

ストラテジー10. 申し出よ、約束せよ

相手への協力を申し出たり、約束したりする。

ストラテジー11. 楽観的であれ

話しての欲求が相手の欲求であるかのように発言する。これはお互い共通の立場にあることを前提として述べられるものである。

ストラテジー12. S と H 両者を行動に含めよ

発話において、お互いが含まれる表現を用いる。We や Let' s の使用があげられる。

ストラテジー13. 理由を述べよ(もしくは尋ねよ)

話し手が行うとする FTA の理由を示す。

ストラテジー14. 相互性を想定せよ、もしくは主張せよ

お互いに協力することを前提に FTA を行う

ストラテジー15. H に贈り物をせよ (品物、共感、理解、協力)

相手の希望をかなえる。贈り物は物質的なものだけでなく、相手のポジティブ・フェイスを満たすものも含む。

上記のストラテジーは大きく以下の三つのカテゴリーに分けられる。

- A. 共通基盤を主張せよ (ストラテジー : 1-8)
- B. S と H は協力者であることを伝えよ (ストラテジー : 9-14)
- C. H の何らかの X に対する欲求を満たせ (ストラテジー : 15)

3.1.2 ネガティブ・ポライトネス

人に何か物を頼む時、話し手が聞き手の自由を一方的に自分の都合で侵害し奪う行為、つまり FTA をおこす行為なので、それを中和しようとして、まず始めに「お忙しいところ誠に申し訳ございませんが」とか「あの、ちょっとよろしいですか」などと言って切り出

すストラテジーをネガティブ・ポライトネスと呼ぶ。聞き手が話者により「負担をかけられた」と感じるのを減らすコミュニケーション・ストラテジーで、聞き手の気持ちを和らげるために、話者は適切なストラテジーを選択しなくてはならない。その例としては「間接的表現をとる」、つまり文形式では疑問文や平叙文の文意であるが、その機能としては依頼を表わすようなもの、直接的依頼文「ペン貸して」の代わりに「ペンある？」という文がそれに当たる。さらに悲観的・否定的言い方をする。つまり「ペン貸してください」より「貸してくれませんか」と否定形を使った方がよりポライトだというのである。

B&L はネガティブ・ポライトネスを示す 10 種類のストラテジーをあげている。(B&L 1987: 129-211、訳は田中 2011:179-298 を参照)

ストラテジー1. 慣習に基づき間接的であれ

相手に直接働きかけたい、しかし、強制したくないという、相反する気持ちによって、字義通りの意味ではない間接的な表現を用いることを指している。

ストラテジー2. 質問せよ、ヘッジを用いよ

話し手側の勝手な判断を避けているという配慮を示すもので、例えば、「ちょっと聞きたいですが」の発話における「ちょっと」といった hedge 表現の使用があげられる。

ストラテジー3. 悲観的であれ

悲観的な予測を述べることによって、相手が拒否しやすいように配慮する。

ストラテジー4. 負担 Rx を最小化せよ

聞き手のフェイスに最小限に関わるできるだけ相手に負担を感じさせないような表現を用いる。

ストラテジー5. 敬意を示せ

相手を高い位置に置く、あるいは話し手自身を低い位置に置くことによって、相手に敬意を払うものである。

ストラテジー6. 謝罪せよ

侵害という事態から自分と相手を分離させる。相手のフェイスを侵害することに対して謝罪する。侵害している事実を認める発言や FTA を行うことに対するためらいの表現を用いることなどもあげられる。

ストラテジー7. S と H を非人称化せよ

相手のフェイスを侵害することを話し手は望んではいないことを表すために、話し手を明示しない表現を用いる。例えば、“I regret that…”のように話し手を明示するのではなく、“It is regretted that…”のような受動態を用いて非人称化し、話し手

自身の行為はなかったかのように表現する。

ストラテジー8. FTA を一般的規則として述べよ

自分はフェイスの侵害を望まないが、一般的な状況からやむを得ず行為を起こすと言う。例えば、相手に向かって話していても、「指定券をお持ちでないお客様はお座りになれません」と述べる場合があげられる。

ストラテジー9. 名詞化せよ

動詞を名詞化することにより、改まった文体にする。例えば、“I am pleased to be able to inform you…”の代わりに、“It is my pleasure to be able to inform you…”と表現することを示す。

ストラテジー10. 自分が借りを負うこと、相手に借りを負わせないことを、オン・レコードで示せ

話し手が聞き手に〈依頼〉をする時には話し手が借りを負うことを、〈申し出〉をする時には、相手に借りを負わせないことを明示する。例えば、〈申し出〉の場合、“I could easily do it for you.”のように述べる。

上記のストラテジーは大きく以下の五つのカテゴリーに分けられている。

- a : 直接的であれ (ストラテジー : 1)
- b : 推定/想定するな (ストラテジー : 2)
- c : Hに強制するな (ストラテジー : 3-5)
- d : Hを侵害したくないというSの欲求を伝えよ (ストラテジー : 6-9)
- e : Hのほかの欲求を補償せよ (ストラテジー : 10)

B&Lのポライトネス理論は、敬語体系¹⁵の違う日本語と中国語の比較に新しい枠組みを提供している。彼らのポライトネス理論は待遇行動における日中の対照研究に一つの新しい道を開いたともいえるだろう。

本章ではB&Lが提唱した各主要ストラテジーを基に、日中両言語にポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネスの各ストラテジーのうちどのストラテジーが多く使用され、またどういった場面に使われているか、司会者とゲストの会話の中でどのように使用されているのか、各々の面から分析を試みる。そして、日中両言語の具体的な会話場面においてどのようなストラテジーが現われるのか、また、両言語にどんな異同点があるのか

¹⁵南(1987)は、敬語を日本語型敬語と非日本語型敬語と区別し中国語は非日本語型敬語としている。

を明らかにしたい。

3.2 研究方法

本章で用いるデータは、様々の関係の話者間の会話が比較的自由にとれ、しかも実際の談話に近いインタビュー番組の会話である。司会者とゲストの会話を録音し、それを文字化したデータを分析資料とした。

社会状況及び人々の生活や考え方などの変化が人々の言語使用にも大きな影響を与えると考え、本研究に使われるデータは全て2003年以降に行われたインタビューである。内容としては、特別なテーマが強調されているものではない。しかし、データを採集する時にインタビューに出ているゲストの性別、年齢、社会的地位、司会者との親疎関係が様々であるように気を配った。

本研究で採用されたデータは日本側がテレビのインタビュー番組『徹子の部屋』である。中国語のデータは朱軍が司会者とする『芸術人生』と楊瀾が司会者とする『楊瀾訪談』である。

この三つの番組を選んだ理由：

- ①黒柳徹子と朱軍、楊瀾が三人とも様々の相手と会話を続けてきた十分に経験を積んだインタビューアーであり、対話者や会話の状況に応じて適切にポライトネス・ストラテジーを使い分けていると判断した。
- ②この三つの番組は登場するゲストの年齢、性別、社会的地位が様々であるため、司会者とゲストとの位置関係も様々である。

このようなインタビューを分析資料として利用すれば、話し手と聞き手が社会的身分や親疎を前もって認識して、様々なポライトネス・ストラテジーを利用して、会話を成功させようとしている様子を分析することができると考えられる。

各インタビューを録音・文字化し、日本人21人、中国人20人の計41人の会話文字化資料を得た。インタビュー番組の始めの部分と終わりの部分を取り除き、その中からコマーシャルなどで断続されることがなかった連続した5分間ほどの内容を取り出し、本章の分析資料として使用した。始めと終わりの部分を取り除いた理由は、これらの部分で司会者は、視聴者向けに、「有難うございます」「よくいらっしゃいました」「～さんでございます」などの決まった形式の挨拶をしたりして、通常の聞き手に対する会話と異なるストラテジーが使われているためである。

本研究のデータ資料の文字化に関しては、ザトラウスキー(1993)、松村・因(1998)を参

考にして、以下のように文字化規則を定めた。

文字化規則：

- ①漢字と仮名交じりで記述する。ただし、読み方が複数と考えられるものやどの漢字を使っているのかを特に判断しにくいものについて、平仮名で表記する。
- ②笑い、身振りなどの非言語的行動は{笑い}のように{}の中に入れて表記する。
- ③テレビのインタビュー番組なので、テレビに出ている写真について説明する部分の前には〔写真〕のように [] の中に入れて表記する。
- ④聞き取れない部分は(?)で示す。
- ⑤?疑問表現の上昇イントネーションが認められる所。
- ⑥。文末のイントネーションが認められ、文法的に文と認められる発話が終わる所。
- ⑦、文が続く可能性がある所。

松村・因(1998)によると、実際日本語の会話におけるポライトネスを考察する際は、対話者間の相対的地位や社会的状況の読み取りが重要である。話者は先ず対話の相手に応じて自分の位置を定め、その位置を基準としてポライトネス・ストラテジーを変化させているということが分かった。そのため、本章の分析では、実際に収集されたデータの中で、特に日本語の場合は、ポライトネス・ストラテジーはポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネスと一緒に複合形で現われると推定し、ポジティブ・ポライトネスを「下線」、ネガティブ・ポライトネスを「網かけ」というように表記する。

⑧人名を表記する方法：

日本語のほうは人名のローマ字表記の始めの一文字のアルファベットを使用して、表記する。中国人の名字は通常一文字であるから、中国語のほうは直接漢字を使って、名字で表記する。

⑨うなずき、笑いなどのような非言語表現は本研究の研究対象としない。

本章に使用される会話の対話者の社会的地位（推定上の上下関係）、年齢、性別、親しさの度合いは表 3-1、表 3-2 の通りである。

表 3-1 中国人調査対象者リスト

朱 (41 歳) 楊 (38 歳)	対話者	ゲスト の年齢	ゲスト の性別	社会的地位	親疎関係
会話 1	朱⇔常香玉	81	女	下→上	疎
会話 2	朱⇔秦怡	80	女	下→上	疎
会話 3	朱⇔王晓棠	70 代	女	下→上	少し親
会話 4	朱⇔丁建华 乔榛	60 代	女 男	下→上	少し親
会話 5	朱⇔翟俊杰	60 代	男	下→上	疎
会話 6	朱⇔余秋雨	59	男	下→上	疎
会話 7	朱⇔张瑜 郭凯敏	50 代	男 女	下→上	疎
会話 8	朱⇔赵雅芝	49	女	同等	疎
会話 9	朱⇔田震	40 代	女	同等	疎
会話 10	朱⇔崔永元	42	男	同等	かなり親
会話 11	朱⇔楊澜 白岩松	37 37	女 男	同等	かなり親
会話 12	朱⇔李亚鹏	34	男	上→下	疎
会話 13	朱⇔徐静蕾	31	女	上→下	疎
会話 14	楊⇔田壮壮	53	男	同等	疎
会話 15	楊⇔何冀平	52	女	同等	疎
会話 16	楊⇔趙宝刚	50	男	同等	疎
会話 17	楊⇔何平	48	男	同等	疎
会話 18	楊⇔刘欢	40	男	同等	疎
会話 19	楊⇔趙薇	30	女	上→下	疎
会話 20	楊⇔章子怡	26	女	上→下	疎

表 3-2 日本人調査対象者リスト

黒柳徹子 (72 歳)	対話者	ゲスト の年齢	ゲスト の性別	社会的地位	親疎 関係
会話 A	K⇔S(塩沢とき)	80	女	下→上	親
会話 B	K⇔E と N(江原真二郎 と中原ひとみ)	69 70	男 女	同等	親
会話 C	K⇔T(徳光和夫)	64	男	不明	疎
会話 D	K⇔A(綾小路きみまろ)	54	男	不明	疎
会話 E	K⇔T(天満敦子)	50 代	女	上→下	少し親
会話 F	K⇔L(島田歌穂)	42	女	上→下	少し親
会話 G	K⇔I(石丸謙二郎)	41	男	上→下	かなり親
会話 H	K⇔T(鶴見辰吾)	40	男	上→下	疎
会話 I	K⇔I(いとうまい子)	40	女	上→下	少し親
会話 J	K⇔M(前田知洋)	40	男	上→下	疎
会話 K	K⇔M(松本伊代)	40	女	上→下	疎
会話 L	K⇔H(早見優)	39	女	上→下	親
会話 M	K⇔H(橋本志穂)	38	女	上→下	疎
会話 N	K⇔R(梨花)	32	女	上→下	疎
会話 O	K⇔W(河口恭吾)	31	男	上→下	疎
会話 P	K⇔W(河我相聞)	30	男	上→下	疎
会話 Q	K⇔L(君島十和子)	30 代	女	上→下	疎
会話 R	K⇔Y(YOU)	30 代	女	上→下	少し親
会話 S	K⇔T(武田美保)	29	女	上→下	疎
会話 T	K⇔H(ホリ)	28	男	上→下	疎
会話 U	K⇔G(劇団ひとり)	28	男	上→下	疎

上下関係：本論でいう上下関係とは、年齢及び社会的身分の上下を指す。社会的身分の上下関係には、家族内で尊属とされる者が上という先天的属性と、一般社会で決定する後天的資格とがある。後者で上とされる者には、階級が高い者、年齢が上である者、何らかの権限を持っている者、所属グループで影響力を持つ者などが考えられる。

親疎関係：日常生活の中で要求する際、聞き手が顔見知りか初対面かによって使い分けを行う。特に初対面の相手に対しては、使い分けの意識も高まると考えられる。そこで本研究では、初対面の場合を「疎遠」な関係とし、その他は「親しい」関係と見なす。

3.3 中国語におけるポライトネス・ストラテジー

言語は人間のコミュニケーションにおいて、人間関係を調節する機能を持っている。この機能は「ポライトネス」機能と呼ばれる。

ポライトネスは人と人との心理的距離を調節する手段である。中国人のポライトネスに対する理解は人間関係を表す言葉遣いが与える価値判断によって決まる。いわゆる価値判断とは、日常の交際活動において、言葉遣いによって表すにはどんな距離感がふさわしいものであるか、またはふさわしくないものであるか、と考えてその表現を取捨選択するという判断である。

中国語には、日本語のような敬語形式は存在していない。そのため、丁寧さの表し方は、「言語形式で直接伝えられるのではなく、概念的な意味を介して二次的に伝えられるものである」（彭 2000:25）。つまり、中国語の敬語的表現は形態論的な手段によるのではなく、単語の組み合わせを通して、内在的な意味から敬意を聞き手に伝えようとするものである。

本節では中国語のデータに基づいて先行研究の観点を検証しながら、研究対象の会話文に現れたポライトネス表現を調べ、中国語におけるポライトネス・ストラテジーの特徴を分析していく。

3.3.1 ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー

中国語のポジティブ・ポライトネスが特徴的であるのは、中国語での強い親族基盤と言う文化の影響もあるからである。中国語には人を評価する表現が多くあり、多くのケースにおいて、楽天的態度で聞き手に接し、協力関係を前提としている。まるで親族のように聞き手へ接近を試みるのが中国語のポジティブ・ポライトネスの基礎となっている。

3.3.1.1 ストラテジー1 Hの(興味、欲求、ニーズ、持ち物)に気づき、注意を向けよ

相手を心地良くさせ、やる気を起こさせたり人間関係を円滑にする「ほめ」は、現代人にとって、特に重要なコミュニケーションの方法であると言えよう。「相手の持っている物がとても良く、好きであるという気持ちを伝えるために働きかけたい」という表現意図は相手が目上であろうと目下であろうと人間関係に拘わらず持ちうるはずである。しかし、

ほめはその内容がたとえ肯定的で好意的ではあっても、「相手に評価を下す」という性質から、相手との上下関係や親疎の程度を十分考慮する必要がある。それでは、中国語において相手をほめようとする場合、どのような方法で相手を心地よくさせるかを観察してみよう。

中国人はコミュニケーションをする際、聞き手との親密さを強調するために聞き手の私的領域に踏み込む発話が多い(母 2005)。データからわかるように、中国語では人を褒める時には、相手に負担(恥ずかしい)を感じさせないと同時に、相手へ興味があることを強調するための「褒め+質問」というような形がよく使われている。

(1) 朱: 我觉得您这个头发特别有特色, 是染的吗?

(あなたの髪の色は本当にきれいだと思います。染めましたか。) (会話 3)

(2) 朱: 我觉得您是一个非常幸福的女人。因为您在事业上有那么好一个伴侣, 在生活上也会有一个非常好的伴侣。问题是在家里你是他的领导, 是吗?

(あなたは本当に幸せな女の人だと思います。…お家であなたは彼をリードしているでしょう?) (会話 4)

(3) 楊: 我觉得这一年你的演技提高得蛮大的。你现在再去演一部电影…会不会觉得自己的把握度比过去大多了?

(この一年、あなたの演技はずいぶんうまくなってきました。…もっと自信が持てるようになってきたのですか。) (会話 20)

中国語においては、例(1)~(3)のように話し手が相手を賞賛した後、相手の「褒められた」ことに対する反応を期待せず、その直後に「質問を出す」という形がよく現れている。これは、「ほめ」は発話の最終目的ではなく、「ほめ」という戦略を利用して、聞き手を気持ちよくさせることができるということを前提として、「ほめ」を他の言語行動を果たすための一種の前置手段として使用しているのである。

3.3.1.2 ストラテジー2 (Hへの興味、賛意、共感を) 誇張せよ

これは語調、強勢などの音韻的様相を伴う誇張や過大表現を用い、相手の興味を引くストラテジーである。

誇張する言葉を使用せよ

(4) 楊: 你说一个导演, 因为 20 年前的一个梦想就把这么多人都忽悠来忽悠去, 跟你吃这么多的苦。这也是很大的一种奢侈。

(監督として、自分の 20 年前の夢を実現するために、こんなに多くの人たちが自分の言う通りに動いてくれて、あなたと一緒に苦労するのは、本当に恵まれていますよね。) (会話 17)

ここでは、話し手が「忽悠来忽悠去(行かせたり来させたり)」つまり、聞き手の権利の大きさを誇張する言葉の使用、「奢侈(贅沢)」つまり相手の状態を賞賛するのに誇張表現が用いられている。

(5) 王: 那个时候麻雀是四害, 我们都要上房子上面轰麻雀, 我就站在上面练, 差点摔下来, 就为练伦巴。

(あの当時スズメが害鳥と見なされており、私たちはスズメを追出すために屋根の上に行かなければいけなかったのです。私は屋根の上に立って、ルンバを練習しました。危なかったです。)

朱: 站房顶上练伦巴! 这个挺绝的。

(屋根の上でルンバを練習する! それはちょっと、想像も出来ないです。)

(会話 3)

聞き手が力を尽くして、一生懸命仕事をすることは話し手が「絶(限界までやった)」と言う言葉の使用によって、「普通の人なら、絶対できない、私もそんなアイデアは想像できない」という驚きを誇張することで、相手の仕事への情熱と勇気に敬意を表している。

ジョークを共用せよ

中国語では、話し手と聞き手が年齢、地位がほぼ同じである場合は、相手を褒めたり、聞き手への共感を表すときは聞き手との親近感を示したりするために、ジョークと大げさな表現を組み合わせ、使用することがよく見られる。

(6) 徐: 昨天我们吃关机饭。

(昨日、撮影が撮影終了の打ち上げで皆でご飯を食べに行きました。)

朱: 吃到今天早晨 5 点?

(今日午前5時まで食べましたか?)

徐: 差不多, 4点半。

(そうですね、4時半まで。)

朱: 你真认真, 对工作。虽然是关机饭, 都那么认真吃。

(あなたは本当にまじめですね、仕事に対して。ただの祝うためのご飯なのに、
そんなにまじめに食べるなんて。)

徐: 善始善终。

(私はいつも仕事の始めから終わりまできちんとしていますよ。) (会話 13)

まず、聞き手の仕事に対する態度について話し手は「认真(まじめ)」という語彙を使って賞賛の意を表明するが、「ご飯を食べるのにいっぱい時間をかけた」ということにもジョークで「认真(まじめ)」を使って、相手との距離を縮めていく努力をしている。

(7) 楊: 我和岩松是同一年级的, 他还比我早一年毕业。

(私は岩松さんと同じ年なのよ。彼は私より一年早く卒業しました。)

白: 但是从做主持人的这个角度来说, 她(杨)是前辈, 我是看她的节目长大的。

(でも司会者になるのはやはり彼女の方がはやいです、わたしの先輩です。私
は彼女の番組を見ながら、成長して来ました。) (会話 11)

「前辈(先輩)」という言葉によって、話し手は自分より相手のほうがこの業界に入ったのが早いということを示している。さらに、二人は同じ年なのに、「彼女の番組を見ながら、成長して来ました」という冗談を言うことによって、相手が司会者としての経験が深いということを示した。これらの表現が聞き手を心地よくさせることができるということを確認しながら、このような大げさな表現を使うことによって、肯定的な評価を与えている。

3.3.1.3 ストラテジー3 Hへの関心を強調せよ

このストラテジーは話し手が持っている興味の対象を強調するような表現を用いて聞き手に接することをいう。これにより聞き手を自分のほうへ引き込み、会話がスムーズに進むことを試みる。相手にこれから自分の話すことに大いに興味を持たせ、自分が相手に近づくことにより、より一層相手を自分のもとにひきよせるということである。中国語の動詞はテンスを表わす機能が弱いため、中国語では相手への興味を強調するときは英語のように所謂歴史的現在を用いる (one uses the vivid present to tell a story that happened

in the past) (B&L1987:106-107)のではなく、しばしば逆接表現を使ったり、相手の注意を喚起する言葉を使うことにより相手をひきよせることができる。例を見てみよう。

(8) 楊: 在影视圈, 红男绿女, 绯闻很多, 但是大家对你和丁芯的婚姻生活一直都非常赞赏。

(芸能界の男女関係は非常に複雑です。しかし、あなたと丁芯さんとの家庭がみんなに口々に賞賛されています。)

(会話 16)

話し手は逆説助詞「但是(しかし)」を使うことによって、普通の現象に対して、聞き手の状況が「予想外である」、「普通の状況と違う」という自分の考えを言明することにより、聞き手のことを褒めながら、相手を自分のほうにひきよせ、さらに後に出したい質問をいい雰囲気を作って行おうとしている。

(9) 章: 我总觉得我是一个意外。

(いつも自分の成功を意外に思っています。)

楊: 怎么个意外呢?

(何故意外ですか。)

章: 你看我这个过程, 去舞蹈学校读书也不是我要去的。

((あなたは)私の成長過程を見るだけでわかりますよ。ダンス学校に習いに行っただことは自分で決めたことじゃなかったし。)

(会話 20)

章の最初の発話「いつも自分の成功を意外に思っています」という言葉に対して、楊は「それ(章が意外に思っていること)こそ意外である」ということを「何故意外ですか?」と尋ねることで明らかにし、章に対する興味を強調していると言える。

3.3.1.4 ストラテジー4 仲間うちであることを示す標識を用いよ

中国では、親族関係が重視されており、「親族のように聞き手への接近を試みる」のは、親族以外の人との親密関係を強調するポジティブ・ポライトネスの一つの特徴である。その方法は仲間だけで通じる呼び名や方言、スラングなどを用い、仲間であることを強調することである。これによって、相手との心理的な距離を縮め、相手と近い関係を持ちたい気持ちを表す。

親族呼称：

呼称は、同じグループであることを示すアイデンティティ・マーカーの一つであると考えられる。呼称の使用は具体的な交際場面・交際対象及び交際目的に密接な関係があるだけでなく、その民族の文化や社会構造及び集団意識にも強く影響される。中国では、人物に対する呼称がコミュニケーションにおいては非常に重要な要素である。李経偉(1999)は中国語の呼称用語は、ポライトネスとして聞き手との距離を縮めたり、遠ざけたりすることができる、またポジティブ・ポライトネスとして、聞き手と平等或いは親しい関係を作る際用いられると指摘している。現代中国語には日本語のような発達した敬語体系はないが、特に厳密な親族呼称の体系がある。この呼称体系は人々の社会的属性や地位・価値観、またコミュニケーションにおける心的態度などを強く表している。中国人はこの親族呼称を会話の中で使用することで、発話の効果を高めようとしたり、時には自分と相手の関係を人為的に変えることで、相手に強い印象を与えようとしたりする。

特に聞き手との親密関係を強調するために、親族呼称が使われることが多いが、この呼称の用法は話し手と聞き手との年齢、社会的地位、親疎によって、詳しく使い分けられている。

自分より年齢や地位が上の人に対して、本当の親族と区別するために、よく「名字+呼称」という形が使われている。相手に対して上位の親族呼称を使うことで相手を見上げることになり、相手を丁寧に扱っているという心理的な合図となる。以下、例示する。

(話し手)下→(聞き手)上：

(10) 朱：我们让这位小朋友给常奶奶朗诵一下这篇课文好不好。

(この子には常おばあさんのためにこの文章を読んでもらいましょう。)(会話1)

(11) 朱：我觉得从年龄来讲的话，我叫您王阿姨好像更亲切一些，您同意吗？

(年齢から言うと、「王おばさん」と呼んだほうが親近感を感じられますが、よろしいですか。)(会話3)

(12) 朱：我见到你们两个人的时候，好像除了乔大哥是平常一直都比较内敛，丁大姐基本上就没有停过，一直说话。

(あなた方二人と会うたびに、乔お兄さんはいつもあんまり話さないけれども、丁お姉さんは逆に止まることなく、ずっと喋っていますね。)(会話4)

(10) から (12) では「常奶奶」「王阿姨」「乔大哥」「丁大姐」と「名字+呼称」を用いることで相手を親族のように表わすと同時に敬意を示している。

通常は以下の例にあるように、自分と同年代の人或いは自分より下の人に対しては、敬称や親族呼称をつけずに名前を呼ぶ傾向がある。そうすることで親しさを表現している。

(13) 朱：所以我想在这个时候，我更愿意用雅芝这样一个称呼，你觉得可以吗？
(この場合は、(あなたのこと)を「雅芝」と呼びたいのですが、よろしいですか。) (会話 8)

(14) 楊：我和(白)岩松是同一年级的、…
(私は岩松と同じ年なんです、…) (会話 11)

(15) 白：朱，我不知道杨澜是否也有这样的感觉，…
(朱、楊瀾も同じように感じているかどうか分かりませんが、) (会話 11)

方言の使用：

よく知られるように、中国は地理的に広範で、多様な方言が使われている。中国人は「故郷」という意識をととても重視しているため、昔から、中国人なら誰でも「老乡见老乡，两眼泪汪汪(同じ故郷である人とあえば、涙が出るほど嬉しい)」という諺を知っている。特定の方言を使うことによって話者同士が、同じ出身地であることを示し、或いは同じ出身地ではないが、同じ出身地である人とみなされ、お互いに親近感を感じながら、話をもつとスムーズに進める効果があると言える。

(16) 楊：那时候你觉得谁最牛？ <北京方言>
(その時、一番凄いと思ったのは誰ですか。) (会話 16)

ここでは話し手と聞き手は、二人とも北京出身で、「牛」という北京方言を使うことによって、お互いに親近感を感じられる。

(17) 朱：…你具体猜一下，觉得老娘给你多少压岁钱。… <河南省方言>
(当ててみてください、お母さんからお年玉がいくらもらえるとと思いますか。)
翟：…我觉得是老娘的一片心，对儿女的一片心，…
(お母さんの気持ちだと思います、子供への気持ちです。) (会話 5)

朱は河南省出身ではないが、翟の出身地の方言「老娘」を使うことによって、相手へ親近感を持たせ、心理的に近づこうという気持ちを表現する効果があると考えられる。

3.3.1.5 ストラテジー5 一致を求めよ

聞き手との同じグループに所属していることを示す方法の一つに、聞き手と同意できる点を見出すことがある。次の例を見てみよう。

(18) 田：他生下来 45 天的时候我回家，第一眼见他，我觉得怎么这么寒碜一个孩子呀。
(彼が生まれて、45 日目の時、私が彼を初めて見た時は、本当に醜いと思いました。)

楊：刚生出来的孩子跟小老鼠似的。

(生まれたばかりの子供の見た目は鼠みたいですね。) (会話 14)

話し手は相手と「同じ経験を持っている」ことを示すことによって、相手の意見に賛成の意を表している。

また、例(19)のように、聞き手との一致を求める以外に、話し手は先行する発話の焦点となっている要素を復唱することにより、聞き手に対して同意していることを強調することもある。ただの「復唱」に留まることなく、相手の話への理解、共感を示す。さらに質問や自分の意見を言って、相手からの情報提供を求める。つまり、相手の話に興味を持っているという信号を出すことによって、話が進むように努力している。

(19) 章：…但是他没有这个义务，任何一个人都没有。

(しかし彼はこの義務を負う必要がない、誰もこんな義務を負う必要がない。)

楊：没有这个义务。你是什么时候认识到这一点的。

(義務を負う必要がない。いつからこういうことをお分かりになりましたか。)

(会話 20)

3.3.1.6 ストラテジー6 不一致を避けよ

B&L(1987)は、このストラテジーについて、「話し手は聞き手の意見や話に賛成しなくても、相手のフェイスを潰さないために、できるだけ反対する表現を避ける」と述べている。(pp. 113-117)

中国語において、このストラテジーは対話双方の関係が親しくない場合に、しばしば観

察された。

(20) 楊: 你曾经说过希望自己在 30 岁的时候能够结婚, 现在还这么想吗?

(30 歳の時結婚したいって言っていましたが、今もそう思っていますか。)

趙: 我还曾经说过 25 岁就结婚。

(私は 25 の時結婚するって言った事もありますけど。) (会話 19)

(20) では、聞き手である趙さんは昔、30 歳の時結婚したいと言ったが、今はそう思っていない。しかし、司会者の「现在还这么想吗? (今もそう思っていますか。)」という質問に対しては、FTA を起こさないように、「25 の時結婚するって言った事もあります」のような直接否定を回避した表現を用いた。

(21) 趙: 我父母在 20 世纪 30 年代的上海生活过, 他们那些老照片记录下了当时的情景, …

(両親は 20 世紀 30 年代の上海で暮らしたことがあります。当時の風景は全部写真で記録されています。)

楊: 那时候家里还敢保留 20 世纪 30 年代的照片吗?

(そんな時代 (文化革命)、まだ 20 世紀 30 年代の写真を手元に残しておられますか。) (会話 16)

「文化大革命」のような特殊な時代、中華民国時代の本や写真などはすべて強制的に処分

されたので、楊さんは趙さんのご両親がまだ手元に写真を持っているということに疑問を持っている。そのため、「まだ～手元に残しておられますか。」のような婉曲な否定表現を用いた。

以上の例に示したように、中国語においては、話し相手と親しくない場合は、相手との意見がたとえ異なっているとしても、婉曲な表現を用いて直接に否定することを避け、相手のフェイスを傷つけないような表現を多用している。

しかし、相手と親しい場合、直接に反対を表す表現が多く使われている。例を見てみよう。

(22) 朱: 是不是因为他你才这么说?

(あなたがこう言った理由は彼のためでしょう。)

崔: 不是, 这个你可以去请教专业的医生, …

(いいえ。このことは専門医に教えてもらったらどう。) (会話 10)

(23) 白：你能说那是一个好节目吗？

(それはいい番組とはいえないでしょう。)

楊：当然是个好节目了。

(それは当然いい番組ですよ。)

白：0比4输得很惨，如果要是进一个球呢，节目还不错。

(0対4、惨敗ですよ。もしゴールしていたらまだいいですけど。)(会話 11)

話し手は自分と相手とが親しい関係を持っているため、いくら率直に発言しても、二人の関係や、相手のフェイスを損なわない自信を持っている。そういう理由で(22)、(23)のように、話し相手の意見に賛成できない場合、婉曲的な否定ではなく、直接的に自分の意見を述べたり、「いいえ」のように直接に反対を表したりする。このような直接的な否定表現は相手のFTAの軽減行為を行わず、B&Lが提唱したポジティブ・ポライトネス・ストラテジーではなく、「補償行為を伴わない、あからさまに」というストラテジーに当てはまると考えられる。

3.3.1.7 ストラテジー7 共通基盤を想定・喚起・主張せよ

このストラテジーでは、話し手がまるで聞き手の代弁者のように発言する。すなわち、聞き手の知識は話し手の知識でもあるかのように振る舞い、相手の気持ちになって発話するということになる。例を見てみよう。

(24) 白：…12点的时候跟我的一些朋友去喝酒，为什么呢，喝完酒才会睡一会觉。

(深夜12時ごろ友達とよくお酒を飲みに行きました。どうしてかという、お酒を飲んだ後、ちょっとだけ眠れるからです。)

楊：是为了麻醉自己吧。

(自分を麻痺させるためでしょう。)

白：对，那段日子我永远忘不了。

(そうです。あのころの日々は一生忘れられません。)(会話 11)

(25) 楊：在这个时候开音乐会对你有什么意义？40岁了，好像有一种里程碑的感觉。

(今音楽会を開くのはあなたにとって、どんな意味がありますか。40歳になって、里程標って感じがしますね。)(会話 18)

例(24)、(25)では話し手が聞き手の代弁者として発言している。つまり、聞き手の体験は話し手の体験でもあるかのように振る舞い、相手の気持ちをよく理解して相手の立場に立っているような発話をしている。

(26) 何：比如说我跟过一个厨师，一个炒菜的厨师。我跟他七天，差不多一个星期，他只告诉了我一句话，就是说“你要熬白菜的时候，白菜不要用刀切。”

(私があるシェフを観察するために一緒に七日間働いていたのですが、一つだけ教えてくれました。それは「白菜を調理するとき、包丁で切らないで」です。)

楊：天哪！这个我也知道。

(え！これは私でも知っていますよ。)

何：他就告诉我这一句话，我跟他七天。你知道。

(一緒に七日間働いていたのに、ただその一言だけしか話してくれなかったのですね。)

楊：你觉得特别不值，是吧？

(その七日間の時間をもったいないと思っているでしょう。) (会話 15)

(27) 楊：那个时候特别希望有人能够宠着自己，是吧？

(子供の頃は、自分のことを可愛がってくれる人がほしいのでしょう。)

(会話 20)

これら例は、話し手が「聞き手の要望、期待している内容を推測している発話」であることが分かる。通常は、(26)、(27)のように、相手の意思を推測し、話し手がすでに聞き手の要望、趣味を知っていて、聞き手の心情にできるだけ近づき、親しさを表わそうという意図が含まれる。

また、中国語には、このような相手の立場を取ることにより、personal-center switch という状況をおこす会話もよく見られる。

第二人称代名詞「你」の非規範的用法はこの「personal-center switch」の一種である。「你(あなた)」という第2人称代名詞がよく「我(私)」の代わりに使われる。これは中国語独特のポジティブ・ポライトネス表現であろう。

(28) 李：我现在有很多想做的事，我不敢称之为理想。我觉得像小时候称之为理想，因为你可以不计较一切的得失做事情，那才可以称之为理想。 (会話 12)

(今やりたりことがたくさんあります。理想とは言えないです。というのは、幼かったころ、理想といえるのは、あなたが思い切って、損益を考えず、やりたいことをやっていくことだったと思えるからです。)

(29) 田：因为我父亲这个人没有话。你就感觉到他那眼睛在一点一点地给你讲好多事情。
(父は無口な人です。(あなたは)彼の目がたくさんのかを(あなたに)教えてくれると感じます。) (会話 14)

(30) 楊：作为一个导演，因为 20 年前的一个梦想，就把这么多人都忽悠来忽悠去，跟你吃这么多的苦。这也是一种很大的奢侈。
(監督として、自分の 20 年前の夢を実現するために、こんなに多くの人たちを呼んできて、あなたと一緒に苦勞させるのは、本当に贅沢ですよね。)

何：…、所以我觉得你没有理由拍不好。
(だからあなたはいい映画を撮らないわけがないでしょう。) (会話 17)

(31) 刘：我开始有点顾忌呀，就是有了孩子以后。你就真的连开车速度都慢了。…就是说有点责任感了。
(子供を産んでから本当に考えることが多くなり、本当に、あなたが車を運転する時でさえスピードが遅くなりました。やっぱり責任感があるからです。) (会話 18)

以上の例においては、「你(あなた)」＝話し手である。つまり、話し手は「你(あなた)」という第二人称代名詞の使用によって、聞き手自身(話し手)の立場に立つ。これは聞き手に「自分」のこととして理解してほしい、という協力関係づくりと言える。

張(1996)が指摘したように、話し手は話者自身の考えや感情を描写するとき、「你」を使用することによって、聞き手を話し手の立場に立たせながら、臨場感を与える。あるいは、自分と関係が「疎」である聞き手との心理的距離を縮めようとする。

また、Kaidi Zhan(1992:32)は「話し手が聞き手に近づこうとする時、“你说”を使うことによって、話の中心が話し手のみであったのが、話し手と聞き手を共に話の中心に転換することができる。この“你说”の用法は英語の you know とよく似ている。」¹⁶と指摘した。

¹⁶原文は英語である。

例：咱们长年年亏损，你说，我怎么能不着急？ (Kaidi Zhan(1992:32))

(私たちのこの工場は毎年赤字なので、考えてみてよ、焦らないわけないでしょう)

話の中心を移動したり、相手の同情や賛成を求めたり、聞き手の興味を引き出したりする例は中国語の普通の会話の中によく現われるが、今回集めたデータには見出す事ができなかった。今後は留意しながらこのような用法を収集し、研究していきたい。

3.3.1.8 ストラテジー8 冗談を言え

冗談が通じる相手というのは共有の知識があることを前提にしている場合が多く、ジョークはこの意味では聞き手との共有価値を強調するには効果があるといえるであろう。

データからも分かるように、中国語の場合は友達同士や親しい関係をもつ人の間でよくジョークが用いられる。

(32) 崔：我要是回去，就没人看《艺术人生》了。

(私が戻ったら、(あなたが司会している) この「芸術人生」をみる人がいなくなりますよ。) (会話 10)

(33) 楊：但是人不是说吗，一看白岩松事情就大了，…。

(白岩松さんをテレビで見たときには絶対何か大事件が起こったって皆言ったんじゃない。) (会話 11)

時には、親しい人や、自分より下の人に対して、からかうような口調でわざわざ尊敬語を使ってジョークを言う場合もある。

(34) 朱：您放心，我争取啊，这辈子不跟你站在一块。

(あなた様安心してください。あなたと同じ病気にかからないようにします。)

楊：您太客气了。

(あなた様気を遣いすぎですよ。) (会話 11)

ここでは聞き手と年齢、地位は殆ど同じであるが、「你」の尊敬形「您」を使用した。話し手は聞き手との関係が親しいであることを認識したうえで、ちょっと皮肉な意味を込めて、相手の意見に反対する。そうすることで、現場にユーモアに満ちた雰囲気を作り出す効果もある。

皮肉は発話の意味論的内容と話しての真意が異なることが聞き手に伝わらなくてはならない。岡本(2000)は皮肉について、「話し手が本心ではネガティブに感じるのに、発話上ポジティブさを装い、しかもその食い違いをあからさまに伝える、すなわちあからさまにずれを伝えるのが皮肉である。」と述べている(p. 29-30)

このように、敬語に限らず言語形式や言語行動自体はネガティブ・ポライトネスであっても、それが使われる方法によってはポジティブ・ポライトネスの手段となることもあるし、その逆もありうる。この点からも、言語形式自体がどちらのポライトネスを表すかだけでなく、それがどのような意図で選択され、どのような発話効果を持つのかを区別して考える必要があることは明らかであろう。

下の例からも分かるように、親しくない関係の人の間でもジョークは使われているが、相手に誤解されないように、話し手はかなり気を遣っている。ここでは「ジョーク+確認質問」という形式がよく使われる。

(35) 田：你还挺记仇的，是吧？

(あなたは本当に根に持つ人間ですね、そうでしょう。) (会話 14)

(36) 楊：比如你在食堂打饭的时候多给你一勺肉什么的，会吗？

(例えば、食堂で働いている人があなたにお肉とかちょっと多めにあげることなど、あったでしょう?) (会話 16)

3.3.1.9 ストラテジー12 SとH両者を行為に含めよ

中国語では話し手が聞き手との間に協力体制を期待する時に「咱们(我々)」がよく使われる。日本語の場合、主語は省略されることが多いので、通常の表現でも「私」や「あなた」などの個人的な関係を表わす主語が現われることは少ない。これに対して、中国語では「咱们(我々)」という人称代名詞は英語の「we」と同じように、話し手と聞き手とを「包括した代名詞」として用いられることが多い。

『現代汉语八百词』¹⁷において、「咱们」は次のように説明されている。

- ① 話し手あるいは対話している双方のことを指す。話し言葉。
- ② 「你」あるいは「你们」のことを指す。

¹⁷ 吕叔湘(编)(1999)《现代汉语八百词(增订本)》商务印书馆, p. 648.

つまり、「咱们」という言葉は話し手が聞き手の領域に入ったり、自分の領域に相手を入らせたりする機能を含んでいる。

(37) 田：对咱们唱歌的人来说，…

(我々歌手にとっては、…)

(会話 9)

話し手は聞き手(朱さん)が歌手でないことを知っていながら、「咱们」という言葉を使うことによって、相手を自分の領域に入らせ、仲間とみなし、親近感を持たせ、友好的雰囲気作りに努める。

(38) 朱：咱们把这个拿下去，先搁在这儿。

(これを下げましょう。とりあえず、ここに置きましょう。)

(会話 13)

「咱们」の使用によって、話し手はその動作をしないが、聞き手(動作主)の協力者と見られ、話し手のアドバイスを和らげることができる。

3.3.1.10 ストラテジー13 理由を述べよ(もしくは尋ねよ)

これはある理由付けを想定させることにより、聞き手に対し、話し手の主張を受け入れるよう求めるストラテジーである。

(39) 朱：自己有些内疚？

(ちょっと気がとがめるでしょう。)

徐：对。…

(そうです。)

(会話 13)

(40) 田：我坐那儿抽了一个半小时的烟才起来。不知道为什么。

(本当にわからなかった、どうして自分がずっとあそこに一時間半タバコを吸いながら座り込んだの。)

楊：想什么？也不知道想什么？

(何を考えていましたか。自分もわからなかったですか。)

田：也不知道想什么。…

(やっぱり何も考えてなかったです)

(会話 14)

中国語の場合は、(39)(40)のように、よく「反語」が使われる。「反語」の使用により、間接表現を用いた質問となるが、これを聞き手が受け入れれば、話し手にとっては直接表現の断定になる。つまり、「反語表現」を使うことにより、聞き手の肯定的な返事を期待しながら、聞き手に返答をする機会を与えることになり、話し手と聞き手との協力体制を確立することもできる。

しかし、自分より上の人に対しては、直接「反語」を使うことは失礼になる可能性があるため、収集されたデータからも分かるように、自分より年上の人に対しては、質問も、よく「对吗(そうですか?)」「是不是(そうではないでしょうか?)」などの語調を和らげる言葉を使用するのが一般的である。

3.3.1.11 ストラテジー15 Hに贈り物をせよ (品物、共感、協力)

[相手に同情を与える]

(41) 楊: 其实我们这个社会现实中根本就不允许这样的人活下去, …

(実際にこの社会でそんな人は生きられないです。)

趙: 对对对。

(そうそうそう。)

楊: 这其实是很可怜的。

(本当にかわいそうですね。)

(会話 19)

(42) 楊: 每天天不亮就的起来压腿, 这对孩子来说也是一件挺不容易的事。

(子供にとって毎朝夜明け前に起きてダンスを練習するのは確かに大変ですね。)

(会話 20)

[相手を励ます]

(43) 楊: 不要太没志气。没完成, 再熬十年。

(完璧にできなくても大丈夫ですよ。続けて頑張れば、絶対できます。)

(会話 11)

中国語の会話には、親族呼称を使う、あえて相手と同じ方言を使う、相手の私的領域に踏み込むなど、親密さを強調して、話し手が聞き手との距離をできるだけ近づけようとするポジティブ・ポライトネスが多用されている。

以上の観察から分かるように、中国語では「話し手が聞き手との距離をできるだけ近づ

け、自分を相手と「共通の立場」におく」というストラテジーがかなり多く使われ、相対的に「話し手と聞き手がよき協力者である」というストラテジーの使用率は低い。中にはまったく見当たらないストラテジーもある。例えば、(互恵性に言及する)、(聞き手の欲求を理解し、関心を持っていることを示す)、(申し出や約束をする)、(楽観を示す)などのストラテジーは殆ど見られなかった。これはデータの範囲がインタビューという形式に限られていることに関係があるとも思われるが、ある程度は中国人のポジティブ・ポライトネスの使用傾向の特徴を示していると言えるであろう。

3.3.2 ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー

ネガティブ・ポライトネスは消極的なフェイスへの配慮を表現する：相手の精神的・物理的領域に侵入しないことを伝える (B&L1987:129)。人が他人に要求やアドバイス、命令を出すということは、他人の領域に踏み込むことを意味する。こういうとき他人を脅かす感じを与えないように配慮すべきだと考えられる。ここでは B&L のポライトネス理論を使って、中国語のネガティブ・ポライトネス・ストラテジーの表現形式と特徴を分析する。

3.3.2.1 ストラテジー2 質問せよ、ヘッジを用いよ

Hedge (垣根) はある発話の力を減少させるための「緩和する装置 (mitigating device)」の一つとして存在している (B&L1987 など)。一般的に断言や直接的な表現を和らげる表現として知られている。

中国人は相手のフェイスを脅かすことを避けるために、語調を和らげることに気を配る。また、話し手側の勝手な判断を避けようと常に配慮している。

語気助詞の使用

“啊”：語調を和らげるために、頻繁に用いられる。そのほか、“呢”“呗”“呀”などの語気助詞も語調を和らげる効果があるため、よく使われる。

(44) 朱：您那时候就叫一见钟情啊。

(あれは一目惚れだよ。)

(会話 1)

(45) 朱：你当时喊的时候，你是怎么喊得呀？

(当時どうやって叫んだのですか。)

(会話 4)

(46) 朱：为什么呢？
(どうしてですか。) (会話 6)

(47) 朱：我争取啊，这辈子不跟你站在一块。
(あなたと同じ病気にならないように気をつけます。) (会話 10)

(48) 楊：你觉得你这股劲是从哪儿来的呢？
(こんな意気込みがどこから来たと思いますか。) (会話 20)

(49) 楊：但是你怎么保护自己呢？
(どうやって自分を守ったの？)
章：那就少说呗。
(やっぱりあんまりしゃべらなかつたことですね。) (会話 20)

“吧”：質問文の後ろに使うことにより、語調を和らげる一方、自分の推測を示している。

(50) 朱：等您有点名的时候，他就不再打您了吧？
(有名人になったあと、もうお父さんに殴られたことないでしょう。) (会話 1)

(51) 楊：你大概吃了不少吧？
(あなたいっぱい食べたでしょう。) (会話 17)

上記の例から分かるように、対話双方の親疎、上下などの関係を問わず、語気助詞は垣根表現の一種として、広範囲に使われている。

A+不+A：内容を曖昧にする形式

A+不+A

中国語の多くの単音節詞は重複形で使うことが可能である。中国語の単音節詞の重複には不確定の意味が含まれる (Chao1968)。

(52) 朱：突然比别人强了一大块的时候，我估计周围会带来一些压力的，是不是会有那么一段？

(急に周りの人より立派になったとき、やっぱり周りから圧力がかけられると思いますが、そういう時期はありましたか？) (会話 3)

(53) 朱：乔大哥先歇会儿，我跟丁大姐先聊会，好不好？

(乔お兄さん、ちょっと休んで、私がちょっと丁お姉さんと話してよろしいですか。) (会話 4)

(54) 楊：那当时在北京也是很好的一个学校，而且很多国家领导人的子女也在那个学校读书，会不会给你带来一种压力？

(当時あそこも北京のいい学校だし、多くの国のリーダーの子供たちもその学校で勉強していたので、圧力を感じたことはありませんか。) (会話 15)

話し手が聞き手に質問したり依頼したりする時、自分の意見を相手に強制的に押し付けていることを感じさせないように、「A+不+A」の形を用いることによって、相手の意見を重視している、あるいは相手を尊敬している気持ちを示す。さらに相手の状態を勝手に憶測したり、勝手に決めてかかっているというような態度をできるだけ避けようと試みているのである。

自分の意見を曖昧にする言葉

(55) 朱：你当时演出的机会似乎不是很多，所以就干了一段时间的杂工的事。

(当時舞台に立つチャンスが少なかったらしいから、雑用をしていたことがありますね。) (会話 3)

(56) 朱：您说你非常开心？

(その時はとても嬉しかったっておっしゃいました？)

余：非常开心。

(とても嬉しかったです。)

朱：这个我好像不能理解，您怎么能开心呢？

(これがちょっと理解できないですね、嬉しいわけじゃないでしょう。)

(会話 6)

「似乎」や「好像」という表現が内容を曖昧にすることにより、聞き手との常識的な距離を保つことが可能となる。「私が言ったのは事実だけど、あなたに確認してもらいたい」という同意を促す含意がある。

3.3.2.2 ストラテジー4 負担 Rx を最小化せよ

相手に要求したり、命令したり、アドバイスをしたりする場合、相手の負担が最小限であることを示す表現の使用によって、相手へ敬意を払うことができる (B&L1987:176)。中国語でよく使われるのは、「動詞+一下(少し)」という形で、すぐ終る動作、つまり、それほど負担をかけることではないという意味がある。程度副詞「只是(ただ)」「只不过(ただしかし)」「稍微(ちょっと)」や数量助詞「一点(すこし)」なども使われ、相手への配慮を示している。

(57) 朱：你不忌讳咱们就这个话题再谈**一点**吧？

(よかったら、このことについてもう**ちょっと**話してもらえないでしょうか。)

(会話 10)

(58) 朱：这好像又在批评我，我刚主持完 2005 年的春节联欢晚会。

(また私を批判しているみたいですよ。私は 2005 年の春節の交歓会を司会したばかりです)

楊：那基本是同类节目。你要是那天去主持《东方之子》了，我**可能怀疑一下**。

(あれは(今まで司会した番組と)同じもので、もしあなたが急に《东方之子》を司会するなら、**ちょっと**あなたの能力を**疑う**かもしれません。)

(会話 11)

(57)のような表現は、聞き手の病気についてもっと詳しいことを知りたいが、相手のプライベートに関わる事柄のため、「ほんのわずかでも教えていただければ十分ですから」という意味を含んでいる。これは日常会話でもよく用いられる表現である。(58)は「動詞+一下」(疑う+ちょっと)により、話し手が聞き手に対する疑いを最小限に食い止めるのに効果のある表現となっている。

3.3.2.3 ストラテジー5 敬意を示せ

聞き手はこのストラテジーを利用して、聞き手との距離を縮めたり、或いは維持するこ

とによって、相手に不快感を与えるのを避けることができる。

文法形式に乏しい中国語敬語の体系性に関して太田(1972)は、中国語の敬語は六種類に分れると指摘した¹⁸。王(1989:27, 44)はこの説を継承し、中国語の敬語表現を人称的、選語的、接辞的、構文的敬語表現という分け方で分析した。「中国語にはその言語の構造によって、体系的敬語表現が少ないように見えるが、実は社会、文化、特にその中の人間関係の有りに応じた様々な敬語要素は違った構造に組織されているかもしれない」という。

つまり、表現形式による敬語体系が日本語のように複雑ではない中国語では、相手への敬意や配慮を表明するために、どの語を選択するかというよりも、どのような方法で表現するかといった「運用レベル」や「言語行動レベル」がより重要なのである。

日本語のように相手との差を言語レベルにより表現するのは異なり、中国語では相手との差は、主に相手に対する呼称や語彙的意味を加味した表現によって表される。

中国語の辞書には「敬語」という言葉はないが、「敬語」の代わりに「敬辞」という言い方がある。『辞海』¹⁹によると、「敬辞也叫敬语，与谦辞相对。表示尊敬和礼貌的用语。如贵方，阁下等（「敬辞」は敬語とも言う。謙辞と対をなしている。尊敬と礼儀を表す言葉である。例えば、貴方、閣下などがある。）」という記述がある。この説明を見ると、中国語の敬語は語彙的な表現が多く、相手に敬意を表す単語だといえるだろう。特に対人呼称即ち敬意を示す相手あるいは相手の所有物、所属について、話題にするときに、主に主語を変化させることによって、即ち人称代名詞を使い分けて、敬意を表す傾向がある。

例えば、

○疲れたでしょう。 →你累了吧。(同等或いは下の人に)

○お疲れになったでしょう。 →您累了吧。(上の人に)

そこで、ここでは、会話例によく観察される敬語「您」と「老」について検討してみよう。

「您」:

現代中国語の第二人称代名詞には「您」という敬語がある。中国語では第二人称代名詞「你(あなた)」と「您(あなた様)」が相手を呼ぶ時に一番多く使われる。現代中国語の人称代名詞のうち敬意を表すのは「您」だけである。

自分より下の人(地位や年齢)に対しては、「你(あなた)」が使われ、上の人に対して、「您(あなた様)」を使うことによって敬意を表わしたり、自分との差を示したりする効果があ

¹⁸太田によれば中国語の敬語は①皇室とくに皇帝に関する語、②人称代名詞、③人称に関係ある名詞、④官職身分、⑤動詞・挨拶語、⑥表記法との六種類に分かれる。

¹⁹辞海編輯委員会(1999)『辞海』上海辞書出版社, p. 1782

る。

(59) 朱：您在电影界应该说是非常有名的导演。

(あなた様は映画界でとても有名な監督と言えるでしょう。) (会話2)

(60) 朱：您家里当时多少人？

(当時お家には何人いらっしゃいましたか。) (会話7)

「您」は複数形から宋元以後に単数の尊称に転じたといわれる。「您们」という複数形はときに書き言葉として使用されるが、話し言葉では「您二位」「您三位」「您幾位」などのように言われる。その使用範囲を日本語の第二人称代名詞と比較して、彭(2000:193)は次のように説明した。「日本語の人称代名詞には「あなた、きみ、おまえ、きさま」、「わたくし、わたし、ぼく、おれ」など様々な待遇レベルの表現が使われている。それに比べて、近代中国語の人称代名詞の待遇的な使い分けは、二人称の「你」「您」にとどまり、極めて未発達といえる。」という。ところが、王(1989:44)がすでに指摘したように、「日本語より少ないようである。敬語専門のものは「您」だけである。しかし、この「您」の活躍ぶりが目立ち、敬語表現の機能が高いと思われる(p. 44)」という。

日本語の第二人称代名詞の使用上の制限について、金田一(1988:166-167)は次のように指摘した。

「注意すべきは、第二人称代名詞を絶対に使わない間柄というものがあることである。親・兄・姉・おじ・おばに対してはそうで、この場合、「お父さん」とか「お兄さん」とか一般の名詞を使う(略)ところで、現代ではそういう関係以外でも第二人称名詞が使えなくて不便をしている場合がある。目上の人に対する適当なものがないせいだ(略)第二人称代名詞が使いにくいのは、日本語の場合、第一に相手を指す代名詞がどんどん格が下がってくることによるが、それ以外に、日本人の頭の中には、西欧人と違い、代名詞という単語で相手をさすのは失礼に当たるという考えがあるようだ、中国人にもこれと同じような考えがあり、昔から、大夫・公子・陛下・足下のような身分や場所を示す語で相手と呼ぶことが盛んだった(pp. 166-167)」という。

ところが、現代中国語の第二人称代名詞「您」の場合は、その制限がないようである。

(61) 朱：见到您呢，我一直在想称呼您什么，叫王老师显得有点远，叫王女士显得不够尊敬，后来我想了半天，我觉得从年龄来讲的话，我叫您王阿姨好像更亲切一

些，您同意吗？

(あなたと会うと、何と呼んだらいいのかをずっと考えています。王先生ってちょっと親しくないし、王さんってちょっと失礼だし、やっぱり年齢から見ると、王おばさんと呼んだほうが一番いいと思います。よろしいでしょうか。)

(会話 3)

例(61)から、中国語においては、日本語の第二人称代名詞の用法とは違って、相手との関係が「内・外」にかかわらず、第二人称代名詞の「您」を使うことが可能であることが分かる。

また、相手との親疎関係にかかわらず、「您」が使われると、他の語及び文の表現も自と敬意を示す表現になる。「您同意吗？」など、「您」だけとりかえれば、動詞はそのままでも文全体が敬語表現となり、「好像」「請～」などの婉曲な表現もよく「您」に連動して用いられる。現代中国語において相手に敬意を払うとき、二人称代名詞の「您」は頻繁に使用され、その頻度が目立っている。

「老」:

「老」という漢字は、中国語の中で一つの称賛表現として存在している。『漢語大詞典』(1998)は「老」という漢字について、次のように解釈している:「敬詞。年を表せない」。現代中国語において、接尾辞に用いる「老」は、日常コミュニケーションの中で使用頻度が高く、敬意のこもった表現である。また、中国語では、相手と自分が地位的にそんなに差はないが年齢的に相手が上の場合、「老」+相手の名字という接頭辞のついた呼び方がよく職場で使われる。或いは相手がある領域ですぐれた貢献がある人、トップに立つ人である場合、相手の名字+「老」が使われる。中国語の「老」はもちろん「年を取る」の意味であるが、「経験が多く、実績がある」という意味もある。「您+老」、「名字+老」、「老師」(先生)や「老前輩」(先輩)などの「老」は、知識が多い、経験が豊富であるという意味である。「中国は「老者」を尊敬している社会で、「老」は高い地位の象徴として存在している」(鄭 1993:61)。人を「老」をつけて、呼ぶとき、年齢に関係なく、尊敬の意を表している。中国語においては、この敬詞の使用率が非常に高い。

(62) 朱: 常老師一生当中带给我们观众的，无论是戏台上的唱腔，做派，还是一生的为人，都是那样美好。

(常先生は舞台に立った時だけではなく、人柄もすばらしく、いつも私たちの心の中に美しい記憶ばかり残されました。)

(会話 1)

(63) 朱：陈宪章老先生也的确信守了自己的诺言，遵守了和常老师的约法三章。

(陈宪章さまは本当に常先生との約束を忠実に守りました。) (会話 1)

3.3.2.4 ストラテジー7 SとHを非人称化せよ

日本語では一般に主語の省略は普通であり、敢えて主語を省くこと、或いは非人称主語を用いることの効果は、あまり議論の対象とならなかったようである。しかし、中国語のように、主語が明示される言語では、主語を変えることによって、相手との距離を正しく認識していることを示すのに大きな効果がある。

「他(彼)」を使用する例。

(64) 崔：…、因为他跟正常人的想法是不一样的，他觉得走了可能就解脱了，就会觉得特别轻松，是这样。这是两年前的事情了。这两年我一直在积极配合医生的治疗，…我觉得见好，正在恢复。

(自分の考え方は普通の人と違って、死んだら、解脱できて、とても楽になれると思っているのです。しかしこれはもう二年前の事だったのです。この2年間、ずっと治療を受け、…だんだんよくなってるのが自分で感じられます。)

(会話 10)

ここの「他(彼)」は話者自分のことを指している。しかし、自分の観点を聞き手に客観的に受け入れてもらうために、第三人称代名詞「他(彼)」を用い、あるグループ(うつ病患者)全体の状況を代弁しているように紹介する。

(65) 楊：你曾经两次报考音乐学院，还报考了北京 20 多个音乐团体，都没有被录取。

我想对于一个年轻人来说，这些打击足以让他产生自我怀疑吧。

(あなたは二回音楽学院の入試を受けまして、さらに北京で20回あまりの文芸団体の受験をしましたが、皆だめだったそうですね。若い人にとっては、これらほど失敗が重なると自分の能力を疑うようになるでしょうね。)

趙：何止怀疑。我当时苦闷得到天安门广场去坐着。

(疑うどころか。(本当です)。辛かったときは、よく天安門広場に行って、そこに座り込んだものです。)

(会話 16)

ここでは、相手の感想を聞こうとするとき、「(你)あなた」の代わりに、「他(彼)」を使用している。特定の個人的なイメージを避けることの表われといえよう。

田窪(1989)が示したように、三人称代名詞は、談話の構造、特に、対話における知識の想定の問題を考える場合に非常に重要な役割を果たす。中国語では以上の例のように、一・二人称代名詞「我(私)／你(あなた)」を三人称代名詞「他(彼)」に入れ替えることによって、話し手は対話の場から独立した空間を設定し、相手の知識の程度を考慮して、できる限り客観的に一般的状況を紹介しようと努めている。

B&L はネガティブ・ポライトネスを示す 10 種類のストラテジーをあげている。今回収集されたデータの分析から分かるように中国語におけるネガティブ・ポライトネはポジティブ・ポライトネスよりも使用数が少ない。さらに、ネガティブ・ポライトネスは文ではなく、単語ごとの変化で表わされていることが明らかになった。特に人称の変化が中国語のネガティブ・ポライトネスに大きな役割を果たしていると言えるであろう。ポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネスの各ストラテジーは中国語にどのような比率で現われるのか、対話する相手によってどのように変化しているのかを考察の部分で詳しく見ることにする。

3.4 日本語におけるポライトネス・ストラテジー

日本語では待遇表現の研究は従来の尊敬表現と謙遜表現とに分類できるものであるが、ここでは、尊敬、謙遜という概念とは別に、B&L の理論の枠組みに従い、話し手の聞き手に対する待遇における「距離の度合い」という概念を通して、話し手の聞き手に対する表現がどのように変化するかを見ていくことにする。「相手との距離の度合い」という観点からみれば、ポライトネスの問題は決して語彙レベルに限った問題ではないと考えられる。日本語においては、対話の相手との社会的地位や親疎関係ということを常に計算しながら、ポライトネスのレベルを選択し、そのレベル内で様々なストラテジーを用いながらコミュニケーションを成功させようと試みる。

B&L は、日本語はどちらかというとネガティブ・ポライトネスの文化に入るとしているようだが、これに対して異論をとなえる研究者も多くいる。Matsumoto(1988)は待遇表現などの検証を通して、常に他者との関係において自分をとらえようとする日本語の世界では、むしろ肯定的フェイスの方が大切になると主張している。

しかし、対話者間の上下関係や場面、親疎などの差を言語レベルにより、複合的に表現する日本語のポライトネスは、中国語のようにはっきりポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネスに分けられて、説明できるわけではない。それ故、B&L のポライトネ

ス理論に沿って、一人の話者が異なる対話の相手に応じてポライトネスのレベルを決定し、そのレベル内で各ストラテジーを使い分けている様子を、データを分析しながら示していく。

本研究に使用される会話の対話者の社会的地位（推定上の上下関係）、年齢、性別、親しさの度合いは表 3-2 に示した通りである。

3.4.1 ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー

ポジティブ・ポライトネスは聞き手の「人に認められたい、仲間とみなされたい」というポジティブ・フェイスを満足させるもので、話し手が聞き手に親密行動を取ることによって、良い気持ちにさせることである。ポジティブ・ポライトネスは私たちが通常丁寧であると思っていることとは異なるが、間接的に聞き手の負担を軽減し、人間関係を損なわずにコミュニケーションの目的を達成する重要な手段である。

以下では B&L が挙げているストラテジーに沿って、日本語ではどのようなストラテジーが用いられるかを見ていくことにする。

3.4.1.1 ストラテジー 1 H(の興味、欲求、ニーズ、持ち物)に気づき、注意を向けよ

このストラテジーは、話し手が聞き手の状態に気を配り、聞き手が話し手に気づいてほしいと思うことを的確に見極める、あるいは、話し手が相手の状況に注目し、言及するものである。

(66) K: それなら大丈夫ね、でもお宅は本当楽しそうな家族ね、想像できる。それで、ひろみさんがお父さんで、子供たちが、自転車に乗ってどっかに行ったの？
(会話 K)

話し手と聞き手が聞き手の家庭のことについていろいろ話したが、聞き手が自分の子供のことを一番大事にしていることに話し手が気づき、その話題についてもっと詳しく知りたい、興味があるという姿勢を相手に示している。

(67) K: お客様にお茶を出そうと思っております。あの、ここはですね、お台所もあつてお見せしたいんですけど。徳光さんは日本のお茶がお好きだとお聞きしております、ちょっといただきましょうか。

T: 有難うございます。(会話 C)

日本語では、(66)では聞き手が話し手より年齢や地位もかなり下の人物なので、話し手がその差を知りながら、くだけた表現である「どっかに行ったの？」を使用した。例(67)の「徳光さんは日本のお茶がお好きだとお聞きしております」は話し手が相手の関心事や興味などに気を配って、「ちょっといただきましょうか」と、「あなたのためにわざわざ準備しましたよ」という好意を示そうとする。話し手は聞き手の状態に気を配り、聞き手と親しくない関係を認識しながら、相手に近づこうと努める姿勢を示している。また、聞き手がマスコミの業界で高い地位を持つ事実を認識して、聞き手に失礼にならないように、ネガティブ・ポライトネスの「Give deference (謙遜表現によって敬意を払う)」も使い、「ポジティブ・ポライトネス+ネガティブ・ポライトネス」という複合的形になっている。

また、互いの関係をよりよくし、より親密な関係にするための有効な言語行動として、「相手をほめる」ということは、典型的なポジティブ・ポライトネスの一つの戦略である。会話例を見てみよう。

<話し手が自分より下の人に対する会話>

(68) K: [写真] かわいい。これ長女?

H: これは長女です。

K: かわいい、お人形さんみたい。 (会話L)

(69) K: あなた本当に美人ね、きれいな顔。 (会話N)

(70) K: はじめにやりたいことは今出来てます?

W: できてると思います。

K: ただあなたは大橋巨泉さんじゃないけど、(?) みたいにしたいと思ってるの?

W: そうなんです。はい。

K: えー? 今から考えてるの? すごいな。 (会話O)

<話し手が自分より上の人に対する会話>

(71) K: (髪型) 本当に素敵、本当に個性的ですもんね。

S: カーブね、このカーブが難しいのよね。

K: そうですね。片側じゃなくて、両側ですからね。同状になっていて すごいですね。 (会話A)

(72) M: で、さきほど、黒柳さんマジック面白いとおっしゃっていただいたんですけど、文化人の方とかインテリジェンスある方ほどマジック喜んでくださるんですよ。

K: そうでしょうかね。 (会話 J)

上記の会話例から、話し手は自分より下の人に対してはよく普通体を使って、相手の興味を引いたり、褒めたりしている一方で、自分より上の人に対する対話の中では、よく敬語を使うことが観察できる。会話(71)では、話者 K と S は親しい関係である事が予想されるが、S が K より年上のため、相手に失礼を感じさせないように、K は丁寧体を使っている。

また、日本語では、褒めを行う際、その発話がほめであることをはっきり示す肯定的評価語を用いる傾向が強い。褒めをうまく使うことは大切であるが、それによって相手のフェイスを脅かすようなことは避けたいという相手のフェイスを守ろうとする褒め手の意図を表している。

さらに、中国語には「褒め+相手のプライバシーに関する質問」という形の対話がよく観察される。中国人はコミュニケーションをする際、聞き手との親密さを強調するために聞き手の私的領域に踏み込む発話が多いのに対して日本語の場合はそのような対話形は殆ど見当たらない。これは中国人は話し相手とお互いの私生活の情報を共有することによって親しさを示すことを重視し、一方、日本人は自分の私的領域を守ることを重視していることの表れだと言えるだろう。

3.4.1.2 ストラテジー2 (H への興味、賛意、共感を) 誇張せよ

このストラテジーは音調、強勢などの音韻的素性を伴う誇張や過大表現を用い、相手の興味を引いたりする。

<話し手が自分より下の人に対しての会話>

(73) T: もう今でもう万は超えたと思います、ひいた回数は。

K: そんな! (会話 E)

(74) K: 42 歳でできちゃった結婚するって言われてるんですって。

T: そうなんですよ。しかも 3 人の占いさんから、

K: えっ! 3 人からも!

T: はい。

K: すごくありません!

(会話 I)

<話し手が自分より上の人に対する会話>

(75) S: 30 で舌癌、57 で乳癌、77 で乳癌です。

K: 77 で! あらら!

(会話 A)

(73) (74)のように、年下の人や地位が自分より下の人に対して、「そんな!」「え!」など音調、強勢などの音韻的素性を使い、誇張を表わす表現がよく見られるが、年齢や地位がかなり高い人に対しては見られなかった。(75)では、とても親しい関係を持つ人(S)に S の病気に驚く気持ちを表現するために、「あらら」を使用している。

3.4.1.3 ストラテジー3 Hへの関心を強調せよ

話し手が持っている興味の対象を強調するような表現を用いて聞き手に接することである。これにより聞き手を自分のほうへ引き込み、会話がスムーズに行くことを試みる。相手にこれから自分の話すことに大いに興味を持たせるため、自分が相手に近づくことにより、より一層相手を自分のもとに引き寄せるということである。

(76) K: お元気とは思っていましたがけれども、あの、本当に充実していらっしゃいますね、精神が。

S: 精神は充実していますかもしれませんが。ただ、黒柳さん、私癌になりましたの。

(会話 A)

(77) K: あ、そうなの。でも子供たちも慣れてて、

H: 実家、でも、原因がはっきりしたんですよ。黒柳さん、(父は)来る度に内緒に飴をあげてたの。だから来ると「じじ、じじ」とかって娘たち喜ぶですけど、でもみてる特別遊んでるわけでもないし、…飴だったんですよ。(会話 L)

日本語では直接対面して、話している時には、通常相手の名前を呼ばないが、ここでは、相手の興味を引き、自分が次から言う言葉に興味を持たせたいために、「黒柳さん」というように、相手の名前をわざわざ呼ぶことによって、自分の発話を強調したり、相手の注意

を喚起する効果があると思われる。

(76) (77)において、相手の名前を呼ぶことより、「聞き手を自分のほうへ引き込み、会話がスムーズに行く」「相手にこれから自分の話すことに大いに興味を持たせる」という効果が期待される。しかし、司会者である K は自分より下の人には常体を使うが、上の人には失礼にならないように丁寧体、尊敬語を使っていることには注意しなければならない。

3.4.1.4 ストラテジー4 仲間ウチであることを示す標識を用いよ

これは親愛の念をこめた呼称、例えば「My son」「お前」などを用いることにより、「(in-group)同じグループ」のメンバーであることを強調し、暗に話し手である自分を聞き手である相手との同じ集団におくストラテジーである。日本語では夫婦間における「お前、あなた」或いは、友達間におけるニックネーム「～ちゃん」などがこれにあたると思われる。例えば以下の例を見てみたい。

(78) T: …、その点、かおるちゃんはどっちかという、ちょっとなんか、腹がすわってるところなんで、なんか私たち大変なところになるらしいわよ、みたいなこと言ってたんです、当初から。

K: まあ、そんなことみたいな、

T: えー、

K: ですからあなたのご結婚が決まって、去年の 10 月なされた時に杉田かおるさんはまだなんで、ちょっとかわいそうというか、気の毒というか、

T: …ただ何しろ、その「金八先生」の時から、まあ、いろいろ、ほかの作品でも夫婦役とか、

K: 多かったですよ、杉田さんと。 (会話K)

(78)のように、「杉田かおる」という人物に対して、T と K がそれぞれ「かおるちゃん」と「杉田さん」と呼ぶことになった。この呼称から、T と K と「杉田かおる」という人物のそれぞれの「距離(親しさ)」がはっきり示されている。

同様に、下記の会話(79) (80)では、話し手が自分よりかなり年下の話し相手との親しさを示し、相手のことを可愛がっている気持ちを表わすために、相手の名字「三井」「河我」ではなく、名前「ゆっちゃん」「我聞」と呼んでいる。

(79) K: でも、あれなんですよ。あなたが、野口五郎さんと三井ゆりさんのご結婚、あ

あなたがなんか、

H: キューピットでなんかいただいでるんですけど、実はゆっちゃんととても仲がよかったんですね。 (会話 M)

(80) K: 我聞さんは食事とか、なんかするのがやっぱり、あの上手というか、手早いとか、中学校の時からもう一人暮らしをしてたとおっしゃいましたつけ。

(会話 P)

さらに、下の例²⁰を見てみよう。

(81) 福岡さん、来週までにレポートを提出してください。

(82) 花子さん、来週までにレポートをよろしく頼むよ。

(83) 花子ちゃん、来週までにレポートをよろしくね。

(81)はごく普通の表現であるが、(82)のように「花子さん」という名前が用いられれば、(81)の「提出してください」が「よろしく頼むよ」とかわり、さらにこれが(83)のように、「花子ちゃん」と変化すると、あとの表現はさらにくだけたものになる。このように日本語ではアイデンティティ・マーカ―はポライトネスに重要な役割を果たすものである。

3.4.1.5 ストラテジー5 一致を求めよ

聞き手との「common ground(同じグループ)」であることを示すには、聞き手に同意できる可能な点を見いだすことにある。例えば、天候、時勢の話題などは聞き手との共通の話題となりやすく、このような話題は「safe topic(安全トピック)」(B&L1987:112)と呼ばれる。B&L が述べたように、このような安全トピックを捜し、聞き手との「common ground」を示す以外に、話し手は先行する発話の焦点となっている要素を復唱する事により、聞き手に対して同意を強調することもできる。例えば、

(84) K: 江原さんはこんなにしっかりしてた方とは思ってらっしゃいました？

E: いや、最初から思っていましたよ、これは。

K: やっぱり分かりました。 (会話 B)

(85) H: そうですね。だからその時はそういうものまねできたでしょうけど、今全然、

²⁰(81)(82)(83)は筆者の作例である。

K: やってないみたいです。

H: やってないみたいですね。

(会話 T)

このように、「先行する発話の焦点となっている要素を復唱する」ことは、日本語では年下に対しても、上の人に対してもよく見られる。

中国語のデータから分かるように、中国語話者はお互いのもっている知識、話題を復唱することで、共有するように努める同時に、ただの「復唱」に留まることなく、さらに相手の話への理解、共感を示す。(19)のように、多くの場合は質問をしたり自分の意見を言うことで、相手へ情報要求をする。これと違って、日本語ではよく相手の意見に賛成したり、復唱したりすることが見られるが、そうする前によく「そうですね」「そうですよ」「本当よね」などのようなあいづちが使われている。

(86) S: あら、本当だ、24年前に、

K: そうですよ。まあバラエティに出てらっしゃらなくて、…

S: [写真] これ2度目です

K: そうそう。これ2度目です。

(会話 A)

(87) K: …、これびっくりしましたね。

T: 私もちょっと嬉しかったです、なんか。

(会話 S)

(88) T: だからその時はそういう物まねできたんでしょうけど、今は全然、

K: やってないみたいです。

H: やってないみたいですね。

K: でも中学校の上がるとその子もういなくなったんで、中学校、高校からまた、あの、あなた一番上手でまたみんなのものまねとか、

H: そうですね。やっぱり学校だと、先生の真似とかはやっぱりやりましたね。

(会話 T)

中国人はコミュニケーションをする際、聞き手との親密さを強調するために聞き手の私的領域に踏み込む発話が多い(母 2005)。これに対して、これらの例から分かるように日本人は相手の意見に賛成の意を表したり、「も」をつかって、同調を求めたりする表現にとどまることが多いと言えるであろう。

3.4.1.6 ストラテジー6 不一致を避けよ

これは相手に同調することで相手との意見の相違を避けるストラテジーである。

(89) K: あとどのぐらい、何年あるの？

Y: いえいえ、もう、ね、私、今年の8月で41なんですよ。

K: あ、そうですか。

(会話I)

(90) T: でも、もう招きいただけないなと思って、アツユキもクミちゃんもでているなと、そんなこと思いながらよだれをたらしました。

K: いえいえ。アツユキさんもフジテレビのアナウンサーの時から出ていたんですよ。…だから、あなたも出られるんですかね？テレビ局とか。 (会話C)

(91) J: えー、もう富士山ですね、自分の応接間から窓に全部富士山が入るように、
…

K: でもよくこの間に大きい家は建ちませんでした？お宅の外。

J: そうですね。ちょっとこっちが高い崖になってますので、高くなってますので、

K: でも高くなって建てるのはわりと大きいものが建っちゃえば、もうちょっと建つちやとば、みえないでしょうよね、これが。

J: そうですね。だから結構こういうところ探したんですね。まあ、縁があって、
(会話D)

日本語では、その内容や考え方がたとえ間違っただけのものであっても、できるだけ婉曲な表現を用い、唐突に否定する事を避けるというストラテジーが使われていることが分かる。

3.4.1.7 ストラテジー7 共通基盤を想定・喚起・主張せよ

このストラテジーでは、話し手があたかも聞き手の代弁者のように発言する。すなわち聞き手の知識は話し手の知識でもあるかのように振る舞い、相手の立場に立って発話することになる。これは相手の立場を取ることにより、personal-center-switch という状況をおこすストラテジーである。

(92) K: 久しぶりの塩沢さんですから、この頭を見ましたら、これは上手な方がやってらっしゃるんでしょうね。ご自分の毛なんでしょう、本物の髪。

S: もちろん、黒柳さんと一緒に、すべての本物の髪ですよ。

(会話A)

(93) K : それ 100 本をやるとすごい時間になるですけど。一回 5 本ぐらいコピーはできるけど、一日 100 本で奥様大変だったでしょう、これ。

J : もう寝ないでやりましたね。あの、夜中もやったと思います。 (会話 D)

(94) M : …、で、入れたまま火をつけたから、火がまわっちゃって、パツとなって、

K : びっくりしたでしょう。

M : びっくりしました。 (会話 K)

日本語では、中国語の“你说”、英語のような“you know”などの表現を伴うことは少ないが、(92)(93)(94)のような場合は、「でしょう」という表現に「そういうことは、私にはよく分かります」という意味が含まれていることになる。さらに、(95)(96)の「～じゃないですか」は、話し手が聞き手の期待している内容を推測しての発話であると考えられる。通常、否定疑問を用いた表現は、話し手がすでに聞き手の状況、要望、知識、趣味などを知っていて、聞き手の心情にできるだけ近づこうという意図を表わすのに効果があると言える。

(95) T : 徹子の部屋っていうのは別格じゃないですか。 (会話 C)

(96) H : …、あと僕でも大学生の時に六本木センターで、あの、(?)というところがあるんじゃないですか。

K : ええ。

H : 六本木センターでバイトしたんです、僕。 (会話 T)

3.4.1.8 ストラテジー8 冗談を言え

ジョークが通じる相手というのはお互いに共有の知識があることを前提にしている場合が多く、ジョークを言うことは話し手が聞き手との共有知識を強調するのに効果を持つ。

(97) K : そもそも皆様がこんなところに住みたいなという感じがどうかと思ひまして、皆で相談して、こういうふうになりました。

T : 結構派手な格好ですみません。

K : {笑}

T : ハンバーガーショップのベテラン店員みたいですけど。

K: 私はですね、徳光さんがとても面白いことをおっしゃっているけど。

T: いいえ、そんなこと、

K: そういうデザインがお好きなんですか。 (会話 C)

(98) K: でもその間にも大学をお出になっただけじゃないですか。

J: そうなんです。

K: あのバイトしながら、…びっくりしました。拓殖大学の貿易学科、

J: ええ。そうですね。あの、学歴詐称じゃございません。あの、きちんと卒業書をもらってるから。

K: でもすごいですね、貿易学科。やっぱりそういうところなんか、 (会話 D)

(99) K: カミラさんも来るかもしれない。

M: {笑} じゃ、婚約指輪を消さないといけませんですね。

K: それは面白いですね。婚約指輪をおもらいになりますかって言って、それ消すなんかいいじゃないですかね。そしたら消しちゃったらあなたもうだめ、{笑} そんなこといったら大変な事、

T: いいえ、いいえ、ちょっとマジックですから、出しますので、消した後、多分国内から出れないと思いますね。 (会話 J)

以上の例から分かるように、(97)～(99)はすべて親しくない話者間で行なった会話であるが、ジョークは二人の共有知識を利用して、空気を和らげる効果があると言えるだろう。(98)と同じ用法は中国語にもよく観察される(3.3を参照)。相手にわざわざ尊敬語を使用することによって、多少皮肉な意味を含めながらも、現場にユーモラスな雰囲気を作り出すための用法である。

3.4.1.9 ストラテジー10 申し出よ、約束せよ

話し手が聞き手に申し出や約束をする場合、相手のフェイスを脅かす可能性を低くして、自分の要求が実現できるように、聞き手が協力してくれるような表現を用いるのがこのストラテジーである。日本語でははっきりした内容、期日を表明せず、「そのうち、近々、今度」などという曖昧な表現を用いる事が多い。これによって、聞き手に切迫感を与えないという目的は達せられる。この曖昧な表現は「相手の協力」を求めるのに効果があるのである。以下の例でも「いらしてね」「今度持ってきます」のように曖昧に申

し出や約束をしていることが分かる。

(100) K : (あなた)42歳でできちゃった結婚するって言われてるんですって。

Y : そうなんですよ。しかも3人の占いさんから、

...

K : でも、まあ、その2年の間にもし本当にできちゃった結婚だったら、いらしてね、こちらに。

Y : そうですよ、その際には。 (会話 I)

(101) G : 最近はなんか家で観葉植物とか盆栽とかはじめて、あと料理始めたりとか、
な

んか一人で楽しむ時間が増えましたね。

K : アイボンもその一つですか。

...

G : 今日黒柳さん「持ってきてくれ」って言ったらよかったぞ、...

...

K : でもあの盆栽のほうは、

G : あ、今度盆栽持ってきます。 (会話 U)

3.4.1.10 ストラテジー11 楽観的であれ

楽天的であるということは、話し手にとって話し手が望んでいることを聞き手も同様に望んでいるであろうと想定した表現を用いる事である(B&L 1987:126)。話し手の欲求が相手の欲求であるかのように発言する。

(102) You' ll lend me your lawnmower for the weekend, won' t you.

(B&L1987:126)

(102)は聞き手もそうすることに当然同意してくれるであろうと前提しており、聞き手の心情を話し手本位に楽観的に捉えた表現である。日本語に訳すと、

(102')今週の週末、(あなた)はもちろん芝刈り機を貸してくれるでしょうね。

この場合、話し手の表現は、日本語で「当然～でもいいでしょうね」「もちろん～してくれるでしょうね」などの表現に当てはまると思われるが、今回収集したデータの中

では、このような例は非常に少なかった。

(103) K: で、これからいよいよ(マジックを)見せていただくわけですね。 (会話 J)

これは話し手が自分の要求に対して、聞き手が必ず応えてしてくれると予測している表現である。

しかし、ここでは、Kが年下の相手に対しても、頼む時やはり敬語を使用し、さらに語調を和らげるために「ね」を使った。

日本人が人に頼む時や恩恵を受ける時、地位に関係なく、できるだけ相手に押し付けるような表現を避け、「～よろしいですか」「～いただけますか」などの婉曲な質問形式が多く用いられると言えるだろう。

3.4.1.11 ストラテジー12 SとH両者を行動に含めよ

中国語では「我(私)」「你(あなた)」などの主語を省略する事が少ない。また、相手との協力関係を築くために「咱们(私たち)」という人称代名詞が英語の「we」と同じように、話し手と聞き手とを「包括した代名詞」として用いられることも多い。これに対して、日本語の場合は、主語は省略されることが多いので、通常表現でも「私」や「あなた」などの個人的な関係を表わす主語が現われることは少ない。日本語においては、殆ど動詞の変化によって、相手との協力関係を示す。例えば、

(104) ちょっと見てみましょうか。((咱们(我々))一起来看看吧) (会話 M)

(105) ご飯食べに行こう。((咱们)去吃饭吧)

(106) 一緒にご飯食べに行きませんか。((你(あなた))不一起去吃饭吗?)

こういう場合は中国語と日本語にはかなりの違いが見られる。中国語では主に主語の変化によって、相手との関係を区別するのに対して、日本語では動詞の変化によって、いろいろ感情を表わしたり、相手との上下、親疎関係を示したりしている。「～しよう」などの表現によって、SとHとの協力化が得られると期待している。次の例を考えてみよう。

(107) K: …、当時のVTRをみんなで見てください。 (会話 R)

ここに見られるように「みんな」という語彙を主語として用いることが、より話し手と聞き手(観客)との一体化を創り出す。この場合、英語や中国語などでは「we」、「咱们」という人称代名詞が話し手と聞き手を「包括した代名詞」として用いられることが多いのに対し、日本語では「我々」という人称代名詞を英語や中国語と同じ意味で用いることは少ないといえる。

(108) 我々で見てください。

(107)(108)は共に「～ましょう」という表現が、自分と相手を含めて、一体化を形成するのは同じである。しかし、人称の問題になると、(108)では「我々」があるために、返って、他のグループとの分離を意識した表現となっている。「みんな」と「我々」という語彙を用いた以下の例を比較してみよう。

(109) 我々だけで見てください。

(110) *みんなだけで見てください。

(109)は可能な表現であるが、それに対して、(110)は不適格な表現である。日本語の場合、話し手と聞き手(複数を含む)を一体化させ、協力体制を望む場合は、「みんな」よりは、「我々」という語彙を用いた表現のほうが効果が上がると言えるだろう。

3.4.1.12 ストラテジー15 Hに贈り物をせよ(品物、共感、理解、協力)

これは話し手が聞き手のポジティブ・フェイスを満足させるために、相手にももの、同情、理解、協力などを与える方策である。

相手に同情を与える：

(111) K：もう本当に泣きたかったですよね。もうそのときの母、親の気持ちというのはどういふのか思い出しても涙出ちゃうから、本当に辛かったろうと思いますよね。何歳だったでしたっけ、息子さん。

N：26歳だったです。

(会話B)

(112) L：今日のこのコンサートを終えたら、明日東京に帰るって言うその朝に(母が)

なくなってしまうって、

…

K: つらいですね。

(会話 F)

以上、日本語におけるポジティブ・ポライトネスの各ストラテジーの分析から分かるように、「日本語のスタイルは、身分差や場面という初期条件によって固定化させるものではなく、話者同士が共同で会話を成功させ、より親密な関係を目指してダイナミックに交代している」、さらに「この交代は無制限に起こるわけではなく、話者同士が互いの上下関係を意識した上で、相手のことを考慮しながら起こっている」(松村・因 2001:13)。特にポジティブ・ポライトネスの各ストラテジーでは、よく「ポジティブ・ポライトネス+ネガティブ・ポライトネス(敬意を払う)」という複合形式が観察される。

3.4.2 ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー

これはネガティブ・フェイスに働きかける言い方をする方法である。対話相手が持つ「他者から邪魔されたくない」というネガティブ・フェイスを最大限尊重するようにし、相手に負担を感じさせないような間接的な表現を用いるストラテジーである。

3.4.2.1 ストラテジー1 慣習に基づき間接的であれ

コミュニケーションにおいて、人間関係の調和を保ち、相手との衝突を緩和するために、ストレートな陳述を避けて、婉曲な言い方をとる方法である。質問、反語、省略などの表現形式は間接発話行為において、よく使われる表現形式である。Thomas (1995)は間接的な言い回しの適切さは「支配力」「社会的距離」「相手にかかる負担の大きさ」「権利と義務」の四つの関連要素と関わりがあると述べている。相手の自分に対する支配力が大きければ大きいほど、相手との社会的距離が遠ければ遠いほど、話題の負担度が大きければ大きいほど発話の間接性が高くなる。その三要素の中で、間接性の度合いに大きく影響しているのは「話題の負担度」である。間接性の度合いは上の三つの要素のほかに、事件の性質、権利と義務などの要素と繋がっている。

(113) K: あなたは木村拓哉さんお上手なんですけど。

H: えー。

K: もうわりとすぐできるんですか。

H: [動作をしながら] これはね、あの、かつらをですね、こう被りまして…

(会話 T)

これは「物まねをしてもらいたい」という気持ちを間接的な表現を用いて表わしたものである。話し手は直接的に依頼するのではなく、「すぐできるか」という能力を尋ねることで間接的に「物まねをしてください」という依頼を行っている。そうすることで、聞き手の体面が損なわれるのを最小限にとどめながら自分の要求を出しているのである。

3.4.2.2 ストラテジー2 質問せよ、ヘッジを用いよ

ヘッジとは、不変化詞、語、句などによる迂言的な表現である。相手に頼みごとをするときなどにぶしつけな直接的な言い方にならないようにするため、表現を和らげるような言葉をつけたりする。例えば、英語では、sort of、kind of、possibly、中国語では「也许」などがよく使われる言葉である。日本語でもこの類の言葉が効果的に使われる場合がよくある。

このように表現のある要素が、その内容を曖昧にする事により、聞き手との常識的な距離を保つことが可能となる。

(114) N：私が積極的だから難しかったです。

K：そうですね。でもうまく行って、それがいわゆる二人の結びつきの、…

(会話 B)

(115) H：安産だったので、私は一泊して、一日で出て来ちゃったんですよ。

K：それはすごいですね。

H：でも、あの、多いみたいですが、アメリカでは。

(会話 L)

(116) K：これはやっぱり特技だと思いますよ。モデルの方お喋りにならない方多いですからね。多分ね。

R：そうですね。

(会話 N)

日本語では、語彙として、(114)(115)(116)に見られる「多分」や「いわゆる」「～みたい」「～らしい」などがある。これによって相手の状態を勝手に憶測したり、勝手に決めてかかるというような態度をできるだけ避けようというのである。

また、断定的な表現を避けるという目的で、英語では guess、think などの主観的意思を表す動詞が用いられるのに対して、日本語では、「～(だ)と思います」が用いられる。

(117) K: あなたはもういい人というのがどういう、

W: なんですかね。どういうのがいい人なんだろうな。でも、適当に厳しい人いいじゃないかと思えますね。 (会話0)

「思う」のこのような用法について、森山(1992)は、「個人的な意見であることを示すものになっている」と説明している(p. 113)。実際に、「思う」のこのような「主観明示用法」は、話者の主観的な意見にすぎないことを示すことによって、話者の限られた確信を伝えている。よって、話者の主張という発話内の力が弱められる。

また、メイナードは、1992年国会での佐川急便スキャンダルに関し、証人として立った首相の答弁を分析し、「と思う」という表現が頻繁に使われていることを報告している。証人喚問での竹下首相の実際の発言をみてみよう。

正真正銘、私とその具体的なことを問いただす環境にはなかったというふうに御理解いただきたいと思います。 (メイナード 1994:82)

もし、上の発言の最後に「と思えます」がなかったなら、聞き手には話し手(竹下首相)があまりにも直接的、あるいは横柄・傲慢であるといったふうに映ったかもしれない。この意味で、「と思えます」は「ヘッジ表現」として雰囲気のを和らげるために効果的に使われていると言えよう。

3.4.2.3 ストラテジー4 負担 Rx を最小化せよ

これは聞き手に不当な要求や、異常な負担をかけないように配慮する方策である。

(118) K: ちょっともう一回(写真)を見せていただけます? (会話D)

(119) K: …、ちょっと紅白にお歌になった「さくら」をちょっとここで披露いただいてよろしいかしら、ちょっとだけね。 (会話0)

(118)(119)のような表現は、聞き手へ要求する時、相手への負担を減少させるために、よく用いる表現である。「ちょっと…」や「…だけ」などは、英語の「just」、中国語の「一点、一下(少し、わずか)」という表現に当たり、これにより、話し手の聞き手に対する要求の負担を最小限に食い止めるのに効果のある表現となっている。

3.4.2.4 ストラテジー5 敬意を示せ

B&L は「相手との社会的地位の差を、言語レベルにより表現している」と指摘している。この点については、中国語の分析を通して検証された。敬意を表す表現は殆どの言語に存在しているが、中でも特に日本語は敬語が非常に高度に発達した言語の一つである。日本の社会構造は主としてタテ型だと言われている(中根 1967)。さらに「内・外」という要因も複雑に関与してくるので(Lebra1976)、日本語は文脈依存性の極めて高い言語だともされている。日本語の敬語はとても複雑であるが、大きく分けて、話題の人物に対する敬意を表す素材敬語、聞き手に対する敬意を表す対者敬語がある。現在は、尊敬語、謙譲語、丁寧語の三つに分けるのが一般的である(辻村 1989)。

基本的には、敬語が使われる場合は次のようにまとめられる。

- ①目上の人と話す時
- ②知らない人や親しくない人と話す時
- ③改まった場面で話す時

こんなに敬語を使う情況がとても複雑な日本語において、B&L に挙げられた「Give deference(敬意を払う)」ストラテジーを応用できるかどうかは不明である。

<自分より上の人に対する発話>

(120) K: 塩沢さんとは、お会いしたいと思っていました。ご病気をしってらっしゃるなんて知らなかったんです。(会話A)

<自分より下の人に対する発話>

(121) K: あなた、大学にお入りになって、… (会話T)

(122) K: 全然今のあなたと違う感じで司会してらっしゃいますよね。(会話U)

<自分と親しくない人に対する(自分よりかなり年下)発話>

(123) L: もう本当に女優さんの仕事はもう結婚と同時に、
K: お辞めになってらっしゃった。(会話Q)

以上のわずか数例からも分かるように、敬語体系が非常に高度に発達した日本語では敬意の表現が社会習慣として構造的に組み込まれ、敬語が広範囲にわたって繰り返し用いられている。

現代の敬語において、話題主に対する敬語の多くは通常丁寧語を伴って用いられ、丁寧語を用いる必要のない聞き手には用いられない場合が多いという傾向があるが、その一方で、(123)のように、普通体の会話でありながら、聞き手に対して尊敬語が用いられる場合

がある。滝浦(2008)はこのような尊敬語がある種の親しさのニュアンスを感じさせるのは、尊敬語そのものが親しさを表すことができるからではなく、丁寧語が用いられた場合に比べ相対的に話し手と聞き手の距離が小さくなることから生ずる含みであると述べた。そして、親しさを敬語に内在する機能と見るのは、丁寧語の不使用の効果を尊敬語使用の効果と取り違えた錯覚であり、敬語はあくまでも距離の表現であるとする。滝浦によれば、これは比較的年配の話し手が同輩や年下の相手に用いるケースが多い表現だということである。これは筆者の観察と一致している。

日本語の敬語はその使用頻度においても使用方法においても B&L が挙げる「敬意を払う」というストラテジーに当てはめることはできず、単なるストラテジーとしての取り扱いはしにくいと考えられる。

3.4.2.5 ストラテジー6 謝罪せよ

謝る(謝罪)というのはまず自分に非を認めることであろう。これにより、相手に無理強いしない感を与えるのである。つまり、話し手が謝罪を伴う発話をするにより、話し手の聞き手に対する要求を最小限に抑えることを意味する。聞き手を侵害しないことを前提にして、このような方法によって相手への FTA を最小限に抑えることが可能になるのである。

(124) K: ね、それ、あなたずいぶん声大きい方ですね。普段大きい声出してるのかな。

G: え? それ注意ですか。

K: いえいえ、全然。

G: すみません。 (会話 U)

(124)では、自分の誤りを認め、聞き手に謝罪言葉を発するにより、聞き手への侵害を最小限にすることになる。

(125) K: どっちが、すまないことを伺いますけど、どっちが結婚しようっていうふうに、 (会話 B)

(126) K: 私のほう聞いて頂いて本当に悪いんですけど、これトークの番組って分かってるんですけど、やっぱり見せていただきたい、前田さんのどんなものがすごい

のかを見せていただきたい、よろしいですか。

M: わかりました。

(会話 J)

(125) (126)において相手のプライバシーを聞く事は、ある意味で相手の私的領域に踏み込む行為であるので、謝罪表現の使用によって、相手の侵害を最小限に止める効果があるといえるだろう。

(127) K: そこではじめてのお客様という事で、

T: 結構はでな格好で、すみません。

K: {笑}

T: ハンバーガーショップのベテラン店員みたいですけども。

(会話 C)

ここでは、話し相手との関係は親しくないため、「ジョーク+謝る」というような発言で場の雰囲気や和らげる効果があるといえるだろう。

こういう意味でここでは「謝罪表現」という形で表されるが、実際、こういう場合は「謝る」という本来の意味より、「相手に声をかける」や「話をさらに順調に進める」などの意味合いが強いといえるであろう。

3.4.2.6 ストラテジー7 SとHを非人称化せよ

一般に日本語では主語の省略が普通である。敢えて主語を省くこと、或いは非人称主語を用いることの効果は、中国語のようにはっきり現われていないので、あまり議論の対象にならないとよく言われる。例えば、

(128) K: ねー、あれからご結婚なされて10年ですってね。

(会話 Q)

(129) K: ご本名は? 川島さん?

G: 川島省吾です。

(会話 U)

例から分かるように、日本語では動詞や接頭辞などの使用によって、「自分と他人」の関係をはっきり表せるため、主語を省略するのが一般的である。

しかし、本研究で用いられたインタビューデータを分析すると日本語ではほかの要素を変えることにより、中国語や英語において人称を変えることで期待されるのと同様の効果を果たすことができる事が分かった。例えば、

[不定人称を用いる]

日本語では相手と対面して会話する時に主語の省略が普通であるが、しかし、相手のことを特定していない最も一般的な状況をさす時、「不定人称」が用いられる。日本語の場合、不定人称としては、「皆」「人」などが一般に用いられる。

(130) Y: …。連絡先もちろん、電話番号もメールアドレスも教えるけれども、絶対に連絡はないんですよ。

K: どういうんでしょう。あなたみたい可愛い人あってね。

Y: やっぱりこの年でひくんでしょうね。皆さんね。 (会話 I)

(131) R: そこはやっぱり暖かく応援してくれるんですよね。

K: だから、本当は素敵なのよって、あの、皆ね。

R: 男性の目線がちょっと冷たいですけど。 (会話 N)

「皆さん」のほうが、あるグループ全体を表わすのに適しており、話し手の言葉の説得力を増す効果があると言えるだろう。

[非人称化する]

「って」は五つの用法があるが²¹、ここであげたいのは、〈伝聞〉という用法である。これは「人から聞いて得た情報であること(伝聞)」を表す。つまり、聞いたことを持ち出し、聞き手に確認の問いかけをする表現である。

一般に日本語では主語の省略が普通である。あえて主語を省き、語尾に「って」という形を用いることによって、「今言っている情報はほかの人から聞いたもの」「皆そう思っている」というような意味を表し、話し手である「私」の存在を曖昧なものにし、話し手の主観的意志ではないということを強調する効果があると言えるであろう。

(132) K: なんか最近長嶋さんお会いになったって。

T: そうなんですよ。偶然だったんですけど、… (会話 C)

(133) K: 指きれいにして、爪先はきれいにしてらっしゃるんですって。

M: あ、えーと、これですね。最近、あの、皆様ご家庭で大画面テレビをご覧にな

²¹ 『日本語文型辞典』1998 くろしお出版。

ってますでしょう。…ですから、こう、ささくれとかあるとね、すごくよく分かるもんですから、(会話 J)

(133)の「んですって」は主に女性が使うが、丁寧体「です」が入っていても目上に対しては使えず、目上には「爪先はきれいにしてらっしゃるんだそうです」のように言う。

以上、日本語においてストラテジーとしてのポライトネスが、どんな言語形式の中に実現されているかを考察し、ポライトネスの各ストラテジーを詳しく分析した。分析によって分かるように、日本語におけるポライトネスの使用はとても複雑である。日本語は、文脈依存性の極めて高い言語だともされている。その枠組み内で、いわゆる消極的丁寧さと捉えられる「敬語」という使用領域を、相手に敬意を表現する手段として利用する傾向が強いと指摘されてきたが、実際の分析を通して、日本語の中の「敬語」の使用は単なる「敬意を表す」時に使うだけでなく、相手との関係や話題によって変わっていくことが明らかになった。さらに、日本語の敬語は広範囲にわたって繰り返し用いられている。日本語では B&L が挙げる「敬意を払う」というストラテジーに当てはめることはできず、単なるストラテジーではないことが分かった。

日本語は一般的にネガティブ・ポライトネス(消極的丁寧)型の言語だと言われているが(B&L1987)、今回の分析から分かるように、日本語ではネガティブ・ポライトネスがよく使われるだけでなく、ポジティブ・ポライトネスの各ストラテジーもコミュニケーションする際によく使われ、人と人との関係作りや話しを順調に進めるために大きな役割を果たしている。次は、ポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネスの各ストラテジーが日本語にどのような比率で現われるか、対話する相手によってどのように変化しているのかを観察する。さらに、それに基づき、日中両言語のポライトネスにおける異同点を考察することにする。

3.5 考察

以上、文レベルの言語形式の丁寧度の選択に語用論的制約がある敬語を有する日本語と「社会言語学的規範、慣習に則った言語使用」が言語形式に表れ難く、話者の自発的ストラテジーが目立つ、敬語を有さない中国語における言語使用の「実質的ポライトネス」を、B&L が挙げた各ストラテジーが日本語と中国語で、どのように現われるかを、例を挙げながら詳しく比較・分析してきた。母(2001)は中国人が日本人よりポジティブ・ポライトネスを使用する傾向があると指摘しているが、母(2001)の研究では被調査者の年齢分布は日中

両方とも 20 代前半が半分以上を占めているため、これは調査の結果に影響を与えるのではないかと考え、今回は日中計 41 人の(各年齢層の人を含む)データを使用することにした。

B&L は話し手と聞き手との関係からポジティブ・ポライトネスの 15 個のストラテジーを 3 つのカテゴリー、そして、ネガティブ・ポライトネスの 10 個のストラテジーを 5 つのカテゴリーに分類している。本節では、ポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネスの各カテゴリーについて日本語と中国語の分布状況を調べ、それを表にまとめ、分析していくことにする。さらに、談話の中の各々のストラテジーの使用実態を分析することで、両国言語におけるポライトネス・ストラテジーおよびポライトネスに対する認識の相違を明らかにしたい。

3.5.1 ポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネスの分布状況と分析

ここでは、日本語と中国語における各ストラテジーの分布状況を調べ、日本人と中国人の各ポライトネス・ストラテジーの使用傾向と特徴を分析する。

表 3-3 と表 3-4 は日中両言語の会話資料に現れた各カテゴリーの数を示したものである。

表 3-3 中国語のデータにおける各カテゴリーの数

	ポジティブ・ポライトネス			ネガティブ・ポライトネス				
	A	B	C	a	b	c	d	e
会話 1	7	1			5	11		
会話 2	9				8	18		
会話 3	8				9	18		
会話 4	8	2			8	11		
会話 5	4				2	14		
会話 6	3	1	1		6	3		
会話 7	5				6			
会話 8	9				3			
会話 9	4			1	3			
会話 10	4	4	1		1	1		
会話 11	6	3			1	2		
会話 12	2	3			1			
会話 13	10	2			1			
会話 14	6	2	2		1			
会話 15	11				5			
会話 16	5				4		1	
会話 17	11	3			2			
会話 18	8	1		1	4			
会話 19	3	1	1		3			
会話 20	4	1	3		2	1	1	
合計	127	24	8	2	75	79	2	0

表 3-4 日本語のデータにおける各カテゴリーの数

	ポジティブ・ポライトネス			ネガティブ・ポライトネス				
	A	B	C	a	b	c	d	e
会話 A	12				2	53	1	
会話 B	8		1		1	36		
会話 C	8				1	33	2	
会話 D	12		2			28	1	
会話 E	9	3				23		
会話 F	4		2			19	3	
会話 G	4					18		
会話 H	2		1			10	5	
会話 I	7	2			2	14	2	
会話 J	6	2				21	3	
会話 K	5					23		
会話 L	7		1			32		
会話 M	5					20	5	
会話 N	6	2	2			18	1	
会話 O	2		3			20	1	
会話 P	10					9		
会話 Q	2					24	1	
会話 R	7				1	20	2	
会話 S	5		2		2	21		
会話 T	4			3		14	2	
会話 U	8					28		
合計	133	9	14	3	9	484	29	0

まず、日中のカテゴリーの分布状況に基づき、日本語と中国語のポライトネスの使用傾向について分析していく。B&L(1987)は、日本社会はネガティブ・ポライトネス文化社会であると述べ、社会的距離に配慮するようなネガティブ・ポライトネスが好んで使用されると指摘している。しかし、表 3-3 と表 3-4 の数字から、日本語の場合、中国語と同じように、話し手が相手との関係(親疎や上下など)に関わらず、談話を順調に進めるために、ポ

ジティブ・ポライトネスの各ストラテジー、特に「共通基盤を主張せよ」というカテゴリーに含まれているストラテジーもよく用いられることが分かった。

また、中国語はポジティブ・ポライトネス型言語(母 2001)であると言われている。しかし、中国語のポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとネガティブ・ポライトネス・ストラテジーの数を調べると、その数は殆ど同じである。中国語では、より円満なコミュニケーションを行うためには、ネガティブ・ポライトネス・ストラテジーがポジティブ・ポライトネス・ストラテジーと同様に重要な役割を果たしていると言えるだろう。中国人は相手との会話を順調に進めるためには、話し手と聞き手との親密さを重視すると同時に、相手との社会的距離にも十分配慮していると言える。

さらに、ネガティブ・ポライトネスのb「推定/想定するな」(中国語 47.5%:日本語 1.7%)とc「Hに強制するな」(中国語 50%:日本語 92.2%)という二つのカテゴリーの数の差から、日中両言語のネガティブ・ストラテジーの使用傾向には大きな違いがあることが分かった。

表 3-5 中国語のデータにおける各カテゴリーの割合

ポジティブ・ポライトネス (159)		ネガティブ・ポライトネス (158)	
A	127 (79.9%)	a	2 (1.27%)
B	24 (15.1%)	b	75 (47.5%)
C	8 (5.0%)	c	79 (50.0%)
		d	2 (1.27%)
		e	0 (0.0%)

表 3-6 日本語のデータにおける各カテゴリーの割合

ポジティブ・ポライトネス (156)		ネガティブ・ポライトネス (525)	
A	133 (85.3%)	a	3 (0.6%)
B	9 (5.8%)	b	9 (1.7%)
C	14 (8.9%)	c	484 (92.2%)
		d	29 (5.5%)
		e	0 (0.0%)

表 3-5 と表 3-6 から分かるのは、日中両言語において、ポジティブ・ポライトネスの三つのカテゴリーの中で、A「共通基盤を主張せよ」というカテゴリーの中の各ストラテジー

が、対話する相手の年齢や親疎などに関係なく最も頻繁にあらわれていることである。つまり、相手によく思われたい、親しいものとして扱われたいという「ポジティブ・フェイス」を実現するために、日中両言語で最も重視されているのは、「相手と同じ枠組みにいる」ことを示すストラテジーであると言えるだろう。

また、中国人はB「SとHは協力者であることを伝えよ」というストラテジーを重視しているのに対して(24回[15.1%])、日本人は自分の「ポジティブ・フェイス」を実現するために、「Hの何らかのXに対する欲求を満たせ」というストラテジーに力を注いでいる(14回[8.9%])ことが分かった。

ネガティブ・ポライトネスのc「Hに強要するな」というカテゴリーの中の「Give deference(敬意を示せ)」というストラテジーの数については、日中両言語の間に大きな差が見られ、日本語の方はその数が非常に多い。このことは、日本社会はネガティブ・ポライトネス文化社会であるというB&L(1987)の仮説を支持しているとも言えるが、表3-4から分かるのは、「敬意を示せ」というストラテジーは話し手と聞き手の親疎、上下に関係なく、普遍的に使われていることであり、B&Lの理論で日本語のネガティブ・ポライトネス、特に敬語は十分には説明できないと言えるだろう。

3.5.2 対照分析

この節では、日中両言語においてポライトネス・ストラテジーが現れる頻度に差が生じる要因について、B&Lのポライトネス理論に基づき、実際の会話例を出しながら分析していく。

3.5.2.1 ポジティブ・ポライトネス

「Claim common ground 共通基盤を主張せよ」というカテゴリーの中の「共通基盤を想定・喚起・主張せよ」というストラテジーは、日本語においても中国語においても、ポライトネス・ポライトネスの各ストラテジーの中で一番多く使われていることが明らかになった。このストラテジーでは、話し手はまるで聞き手の代弁者のように発言している。すなわち、聞き手の知識は話し手の知識でもあるかのように振る舞い、相手の気持ちになって発話するのである。話し手が聞き手の心情にできるだけ近づき、親しさを表わすという意図が含まれる。このストラテジーについては、形式的にも日中両言語はほぼ同一であるため、ここではこれ以上比較対照しないことにする。

同じカテゴリーに分類された「H(の興味、欲求、ニーズ、持ち物)に気づき、注意を向けよ」というストラテジーについて、日中両言語の「ほめ」に関する表現形式に大きな違

いが観察されたため、ここで比較分析を行う。

(1) 朱：我觉得您这个头发特别有特色，是染的吗？

(あなたの髪の色は本当にきれいと思います。染めましたか。) (会話 3)

(2) 朱：我觉得您是一个非常幸福的女人。因为您在事业上有那么好一个伴侣，在生活上也有一个非常好的伴侣。问题是在家里你是他的领导，是吗？

(あなたは本当に幸せな女の人だと思います。…お家であなたは彼をリードしているでしょう?) (会話 4)

以上の例から、中国語では、「褒め+質問」という形がよく使われていることが分かった。例(1)(2)のように中国人はコミュニケーションをする際、聞き手との親密さを強調するために「聞き手の私的領域」²²に踏み込む発話が多い(母 2005)。中国人は相手との上下や親疎の差に関係なく、話し相手とお互いの私生活の情報を分かち合うことによって、二人の関係をより親密にしようとしながらさらに話を進めていこうとする傾向がある。一方、質問形式を用いるのは、褒められた相手に負担(恥ずかしさ)を感じさせないために、質問によって相手の視点をそらす効果がある。

これに対して、日本人の場合は、相手を賞賛する際、殆ど例(69)(71)のような「褒め」に留まり、相手の「私的領域」に踏み込む発話は観察されなかった。

(69) K：あなた本当に美人ね、きれいな顔。 (会話 N)

(71) K：(髪型)本当に素敵、本当に個性的ですもんね。

S：カーブね、このカーブが難しいのよね。

K：そうですね。片側じゃなくて、両側ですからね。同状になっていてすごいですね。 (会話 A)

滝浦(2008:111)は「ほめは一般に、ほめられた人のポジティブ・フェイスが満たされるポジティブ・ポライトネスの行為である;ほめるということは、ほめの対象となった事柄についてほめる人の水準や価値観とほめられた人の水準や価値観が釣り合う(対等である)こ

²² 「聞き手の私的領域」には、聞き手の行動・聞き手に属する物や聞き手と近い関係にある人、情報など、聞き手に関わる全ての事柄が含まれる。(鈴木 1997:58)

とを認めることである。」と定義している。

井上(2013:124)は「日本人も中国人も、相手のことを考え、「相手が受けやすいように」と行動する。しかし、その表し方が異なる。それは、相手との「距離感覚」が異なるためである」と述べている。以下の図を見てみよう。(井上(2013:125))



つまり、中国人は積極的に相手に近づこうという傾向を基本とするのに対して、日本人は「自分と相手は領域を接している」という感覚を基本として、常に相手との距離を認識しながら行動を行う。

しかし、中国人日本語学習者に日本人のこの「距離感」が分かってもらえなければ、日本人母語話者とコミュニケーションする際、例(1)(2)のような「褒め+質問」という形を使うと、マイナスに評価されてしまう可能性が高いと言えよう。

このストラテジーにみられる日中両言語の文化の差異は、中国人日本語学習者にとって、中国人日本語学習者のコミュニケーションの問題につながっていく可能性があり、学習の際に注意すべき重要な点と考えられる。「ほめ」が日中両言語においてどのように扱われているのか、それぞれの特徴を比較し、相違点を明らかにすること、さらに、学習者に「日本人の発話意図」を理解させることは日本語教育の観点からも意義があるものと考えられる。

3.5.2.2 ネガティブ・ポライトネス

母(2001)は日本語では相手のネガティブ・フェイスを満足させるネガティブ・ポライトネスが多用されるが、中国語では相手のポジティブ・フェイスを満足させるポジティブ・ポライトネスが多用され、日本はネガティブ・ポライトネス社会で、中国はポジティブ・ポライトネス社会であると述べている。表 3-3 と表 3-4 から日中両言語のポライトネスにおける一番大きな違いは、ネガティブ・ポライトネスにあることが分かった。実際に今回収集したデータの分析によれば、中国人もよく相手に配慮を示すネガティブ・ポライトネスでFTAを解消し、距離をおくような言葉遣いを使用することが明らかになった。さらに、日本語の中に「敬意を示せ」表現が他のストラテジーと一緒に使われることがしばしば観察され、広範囲にわたって繰り返し用いられている。そのため、「敬意を示せ」表現は、日

本語では B&L が挙げる「敬意を示せ」というストラテジーに当てはめることはできず、単なるストラテジーとして取り扱うことは難しいと考えられる。ここでは、日中両言語に表現形式に大きな違いが観察されたストラテジーについて、比較分析を行う。

3.5.2.2.1 推定/想定するな(ストラテジー2 質問せよ、ヘッジを用いよ)

このカテゴリーにおいては、日中両言語において大きな違いが見られた。中国語のデータからこのカテゴリーのストラテジーがすべての会話に観察された。使用数については、自分より年齢や地位が上の人に対して話す時は多くなり、逆に下の人に対しては少なくなるという結果が見られた。

[ヘッジ表現]

(114) H: 安産だったので、私は一泊して、一日でできちゃったんですよ。

K: それはすごいですね。

H: でも、あの、多いみたいです、アメリカでは。 (会話 L)

(115) K: これはやっぱり特技だと思いますよ。モデルの方お喋りにならない方多いですからね。多分ね。

R: そうですね。 (会話 N)

日本語では、例(114)(115)にみられる「多分」や「～みたい」「～らしい」など内容を曖昧にする言葉が多く使われている。これにより相手の状態を勝手に憶測したり、勝手に決めてかかるというような態度をできるだけ避けようとするのである。

これに対して、中国語の会話の中では「是不是(そうであるかどうか)」「能不能(できるかどうか)」のような選択疑問文がよく使われている。

[質問]

(6) 朱: 在那时候大家门派观念那么强大时候, 常老师的父亲应该说是还是一个改革派, 博采众家之长, 加上他女儿自己的特点, 终于形成了常派唱腔, 现在是不是可以这样说?

(昔皆の派系の意識が強かったです。常先生のお父さんは改革派と言えますね。皆の長所を吸収して、自分の娘の特徴と融合して、「常派」を作り出しました。今。こう言えますか? <…言えるかどうか>)

常: 可以。……

(はい、確かにそうだと思います。) (会話 1)

例(6)では、話し手がもうすでに周知されたことを視聴者に紹介している。それにもかかわらず、そのあとで、「是不是(そうであるかどうか)」というような選択肢を自分より年齢も地位も「上」の相手に与えている。話し手は自分の言い方が正しいかどうかという判断をする権利を聞き手に譲ることによって、相手の意見を尊敬しているという態度を表明している。ある意味では、敬語の少ない中国語ではこのような「質問する表現」を通して、相手との距離を認識しながら、相手を尊重している意を表す効果があると言えるだろう。

日本語ではこのカテゴリーのストラテジーの表現形式は中国語とは異なり、また数も少ない。このストラテジーは話し相手と親しくない或いは相手が自分より地位や年齢が上である場合に使われるということが観察された。これは日本人が親しくない相手に対して話し手との常識的な距離を保つことをいつも心掛けていることの表れだろう。

3.5.2.2.2 Hに強要するな

ここでは、上記のカテゴリーの中に含まれている「敬意を示せ」というストラテジーを中心に比較を行う。敬意を上手に使いこなすためには、人と人との関係、立場、役割をよく認識しておく必要がある。表 3-3 に示すように、中国人は自分より上の人に敬意を払うため、敬意を表す表現を使用する一方で、年下の人に対しては親疎に関係なく、殆ど敬意を表す表現を使わない。中国語には日本語のような系統的な敬語形式が存在していないため、中国語のポライトネスの表し方は、「中国語の敬語の待遇的な意味効力はその表現の文字通りの意味内容を介して伝えられた会話の含意に属する意味内容である」(彭 1993:123)と言える。

(9) 朱: 您家里当时多少人?

(当時お家には何人いらっしゃいましたか。)

(会話 7)

日本語においては、「お家・お宅」のような敬語は話し手が相手の年齢と関係なく、ごく自然に使われる言葉である。しかし、中国語では、自分より下の人に対して第二人称代名詞“你”の尊敬形“您”を使用すると、ちょっと皮肉な意味になってしまい、誤解される可能性がある。日本語と違い、中国語においては、自分より下の人に敬意を表したり、距離を保ちたいとき、「Question, hedge」というストラテジーの使用が一番効果的だと考えられる。

表 3-4 と表 3-6 から分かるように、日本語の場合、もちろん自分より下や親しい人より地位が上の人や親しくない人に対して敬語がより多く使われている。それにもかかわらず、

中国語のように目上の人に敬意を表すだけでなく、知らない人や親しくない人と話す時や、改まった場面で話す時などにも敬語が使われ、敬語の使用が社会習慣、社会的ルールとして構造的に組み込まれ、広範囲にわたって使われていることが明らかになった。この結果から、日本語における敬語の使用は、B&Lが挙げる「敬意を示せ」という戦略に当てはめることはできず、単なる戦略として取り扱うことは難しいと考えられる。これは、日本語の敬語がもともと品位や嗜みを表わすと言われていたことに通じるものであるが、B&Lの枠組みのような普遍的ポライトネス理論では触れられていない言語使用の側面である。敬語が重要な役割を担っている日本語のコミュニケーションにおいても、狭義の敬語以外の言語行動もまた、社会的関係や相手への負荷度などによって社会的規範と戦略として選択される部分とがあり、対人行動の中で大きな役割を果たしている。この点については、中国人日本語学習者も日本語を学ぶときに、注意を払うべきである。

3.6 まとめ

本章では、B&Lのポライトネス理論に基づいて、実際の談話資料を用い、より円満なコミュニケーションを行うために様々なポライトネス・戦略が異なる言語体系や文化を背景とする日中両言語においてどのように使用されているのかを分析してきた。また、ポライトネスの「フェイス」という概念を適用して、各戦略において、話し手と聞き手がお互いの相手に対して言語的、心理的にどのような配慮をしているかを考察した。各戦略に対応する両言語の表現形式を分析することによって、日中両言語のポライトネス表現の異同点を明らかにした。

分析から、日本語でも中国語でも、相手に親しさを示すポジティブ・ポライトネスでFTA(相手のフェイスを脅かす行為)を解消し、距離を縮めるような言葉遣いがよく使われていることが明らかになった。宇佐美(2001)の「日本語のポライトネスは積極的丁寧さに移行しつつある」という報告を確認することができた。

また、日本語の中に「敬意を示せ」表現がほかの戦略と一緒に使われることがよく観察され、広範囲にわたって繰り返し用いられていた。中国人学習者にとって、日本語の難しさは、語形そのものではなく、対人関係や社会的ルールを考慮しながら、社会的慣習に従って、場面に応じて適切な表現を使い分けなければならないところである。このような使い分けを教授するためには、ここで行ったような談話分析に基づいた使い分けの指導が不可欠になってくるであろう。

次に、中国人はコミュニケーションをする際、聞き手との親密さを強調するために聞き手の私的領域に踏み込む発話が多いと母(2005)が主張したが、実際の会話から分かるように話

し手と聞き手との領域が疎であり、且つくだけた話題に言及する際、B&L が提唱した相手との親密さを強調するポジティブ・ポライトネス・ストラテジーと、話し相手の持つ「他者から邪魔されたくない」というネガティブ・フェイスを最大限尊重するネガティブ・ポライトネス・ストラテジーが共存している。この中国人のポライトネスの特徴も、今後より詳しく分析していく必要があるであろう。

最後に、本章での観察と分析から、日中両言語のポライトネスにおける一番大きな違いは、ネガティブ・ポライトネスに対する使用上の認識の違いであることが分かった。特にネガティブ・ポライトネスの「敬意を示せ」というストラテジーについては、日本と中国の社会文化的相違が、両言語におけるポライトネスに対する認識および敬意を示す様式に大きな影響を与えていることが分かった。

B&L(1987)のポライトネス理論は聞き手のフェイス欲求を満たすために話し手が選択するストラテジーに関する理論である。しかし、この理論が成り立つ重要な条件として話し手と聞き手が同じ文化背景にすることを前提にしている。例えば、話し手と聞き手が共に日本語母語話者である場合、話し手は聞き手が自然に自分の意図を理解することが出来ると想定している。そのため、B&L(1987)のポライトネス理論においては、あるストラテジーが実際の相互行為においてどのように機能しているのか、つまり聞き手にどのように評価され、相互行為を通じた人間関係の構築において聞き手から見るとどのような働きをするのかを説明しない。このような話し手の視点からの分析方法は、異文化コミュニケーションにおいて、聞き手が話し手の発話意図を理解するには不十分と考える。

ここでは、日中両言語に表現形式に大きな違いが観察された「ほめ」を例に、分析する。ほめは相手と親密になりたいという欲求を満たすポジティブ・ポライトネス・ストラテジーに分類される。

次の中国語の「ほめ」の会話例を受け手の視点から見てみよう。

○我觉得您这个头发特别有特色…… 是染的吗?
 (あなたの髪の色は本当にきれいと思います、染めたんですか。) (会話 4)

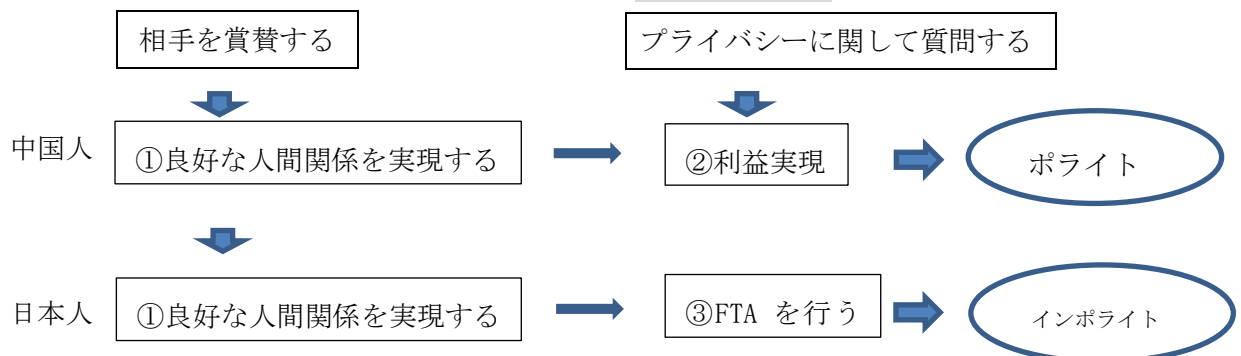


図2 中日におけるほめの受け手が話し手の「ほめ意図」の推定²³

相手を賞賛するという意図に基づいた「ほめ」によって、聞き手が肯定的にほめを受け取り、ポライトと評価することができる。ほめ手が聞き手との円滑な人間関係を望んでいることが推論される。

このような「相手を賞賛すること」によって、相手をよい気分させ、日中両言語においても「良好な人間関係」を築くことが出来ると推測できる。

そして、「良好な人間関係を実現した」ことに基づいて、中国人母語話者は「新たな情報請求」行為を行い、自分の「②利益実現」のための行動をとった。これは同じ中国人母語話者である聞き手から見ると、ポライトな行為と見なされる。

しかし、中国人母語話者のこの「ほめ」の意図²⁴が文化の違いによって、日本人に理解できなかつたり、マイナス評価されたりしてしまうことがある。この「プライバシーに関する質問」は「自分の領域に侵入する」行為であると考えられ、自分のフェイスが侵害されるとみなされ、「インポライト」と判断される可能性が高い。

以上の分析から分かるように、話し手が自分の意図を実現するためにそれぞれ異なった戦略を選択するという意味から見ると、B&Lのポライトネス理論は不十分であると考えられる。

次の4章と5章では意識調査を通して、日中ポライトネスの相違を話し手と聞き手との双方の立場からさらに究明していく。

3.7 日本語教育への示唆

ここで、本章の結果・考察に基づき、日本語教育に対する示唆を述べる。中国の初級学習者には日本語のポライトネス・戦略の特徴を基礎知識として提示すると共に、どのような戦略が具体的にどの文脈で使えるのかを示した上で、それらの戦略を使用するための言語運用能力を育成することが必要であると考えられる。また、中上級の学習者に対話する双方の上下・親疎関係を考慮させた上で、会話の文脈に応じて、学習過程で個々に習得してきた文法と戦略を有効に統合し、正しく使用することが、

²³このポライト/インポライトを「会話を通して構築された、聞き手が話し手の発話行為に対する評価であり、快/不快という感情に関わるフェイスに関するもの」と考える。

²⁴川口他(1996)は何の表現意図を持てほめる行為を行うかという視点で、「ほめ」を「実質ほめ」と「形式ほめ」に分類している。「実質ほめ」とは相手自身、相手に関する物事などについて心から高く評価を表現したいときのものである。「形式ほめ」とはほめること自体に表現の意図はなく、別の表現意図のために行う「ほめ」のことである。

今後のコミュニケーション教育において重要であると考える。

本章では、B&L のポライトネス理論に基づき、インタビュー番組を分析資料として、日中両言語における各ポライトネス・ストラテジーの特徴や主な表現形式を明らかにした。しかし、データの量や質(「インタビュー」という会話の本質上陳述・質問という発話行為が多く、依頼・断り等の他の発話行為は殆どなかった)が限定されていたため、今回観察できなかったストラテジーもあった。より多様なデータを収集して、ストラテジーを観察していくことが今後の課題である。

文化による言語の相違点が出るのは、文法的なカテゴリーよりむしろ、人間関係が重要な要素となる言語のパフォーマンスにおいてではないだろうか。この意味で実際の言語使用を前提としている談話分析の枠組みで試みる対照分析の意義は大きい。今後、談話資料を一層充実させ、談話分析の観点による日中両言語のポライトネスの特徴を究明していきたいと思う。

次章では、アンケート調査を行い、対人関係における日中ポライトネスの意識上の差異について考察していく。

第4章 対人関係からみる日中ポライトネス意識 I

ーポライトネス意識に関するアンケート調査よりー

中国人日本語学習者が日本語母語話者と日本語でコミュニケーションをする際、流暢であるにもかかわらず、不適切、不快と感じさせる表現をよく耳にする。伝達内容そのものは大切であるが、それを相手にどのような言語表現で伝えるかということも重要である。これに大きく関わってくる原因の一つに「ポライトネス」という人間関係を円滑にするための言語ストラテジーがある。特に、日本語学習者の語彙能力や文法能力が高くなればなるほど、コミュニケーション能力の中でポライトネスに関する語用論的な知識²⁵が必要となってくる。

生田(1997)は、コミュニケーションの当事者は人間関係の維持を望む時、ポライトネスの観点からFTAを避けるよう行動するが、何がFTAとなるかは言語、文化などによって異なるため、言語使用において「ポライトネスは相対的である」(p.68)と述べている。山岡他(2010)はポライトネス理論を理論的基盤とした上で、コミュニケーションにおいて対人関係を良好に保つことに配慮して用いられる言語表現を研究することの重要性を強調している。

対人関係への配慮はどの言語においてもなされている。しかし、言語によって何に重点を置くかが異なり、それ故に相互のコミュニケーションに齟齬が生じる場合がある。

蒲谷(2003)は「言語とはコミュニケーション行為である」と規定し、ある意図を持った「コミュニケーション主体」が、ある「場面」において行う「表現」「理解」の行為を「待遇コミュニケーション」と呼んでいる。このような捉え方に示されるように、コミュニケーションはそれが行われる「場面」抜きには考えられない。「場面」の中には、上下関係や親疎関係、役割といった人間関係も当然のことながら含まれる。井出(2006)によれば、敬語は「上下、親疎関係を区別し、場所の改まりを示すもの」であり、「上下関係とは、年齢、地位などのことであり、親疎関係とは知り合ってから時間の長さ、親しさなどを指し示す(p.134)」。または「内・外」の関係は「「です・ます」という丁寧語を使用するか否かの区別で、人間関係がソトという心的距離が大きいことを示すものとウチという心的距離がことを示すものとに二分される(p.50)」と説明され、言い換えれば、「「です・ます」が使われているか否かで、人間関係がソトの人かウチの人の区別が指標される(p.50)」と

²⁵語用論的知識という用語はBachman&Palmer(1996)が提唱したものである。Bachman&Palmer(1996)によると、語用論的知識には、機能や目的を達成するための機能的知識と状況に応じた言語使用のための社会言語学的知識の二つの領域がある。

判断される。本章では、井出(2006)の「上下関係」と「親疎関係」の定義、また、「内・外
の関係」の判断基準を応用する。

日本人母語話者の会話において、誰に対して、どの程度のポライトネス表現が適切であるかを、聞き手である中国人の側から捉え、中国人はそれをどう感じるのかということについて詳細に調査した研究は少ない。

そこで、本章では、対人関係の要因としての相手との上下・親疎関係に焦点を当て、アンケート調査を行い、日本語と中国語における言語行動においてどのようなストラテジーが使用されているのかを調査する。また、そのストラテジー使用の背後にどのようなポライトネス意識が働いているのか、という日本語母語話者（以下 JN）と中国人日本語学習者（以下 CL）のポライトネス意識の相違を対人関係の視点から考察する。

4.1 研究課題と研究の目的

本章では、B&L (1987) のポライトネス理論に基づき、前章で明らかになった日中両言語の各ポライトネス・ストラテジーの特徴を参考にしながら、JN と CL のポライトネス意識の相違を、対人関係に対する認識を中心に比較・調査する。これまでの対人関係と言語使用との関係については、目上に対する丁寧さだけが考察されることが多かったが、ここでは、目下や同等、親疎関係にも注目して、分析を試みる。

こうした事例を基に分析を行う上で、日中両国母語話者がどのように対人関係を把握しているのか、また、どのような社会的ルールと言語規則に則って発話し、どのような表現を用いるのかについて、アンケートを通して調査する。さらに、JN と CL の会話文における発話者の「意図²⁶」へのそれぞれの理解を加えながら、日中ポライトネス意識の相違を分析したい。このように、対人関係から日中ポライトネス意識の異同点を明らかにすることを目的として研究を行うことで、両文化の行動様式や価値観の相違が鮮明に見えてくるのではないかと考える。

4.2 研究方法

4.2.1 使用データ

本章で使用する会話データは、平成 20 年度～平成 22 年度科学研究費補助金「談話分析に基づく日本語ポライトネス指導教材開発」基盤研究(C) (課題番号 20520471 : 研究代表者 : 松村瑞子 研究分担者 : 因京子) pp. 72-143 から、研究代表者の許可を得て、引用したもの

²⁶ 「意図」とは、「主体」がその何らかの行為によって何かを実現しようとする自覚的意識のことである(蒲谷他 2006:10)。

である。そのうち、会話 1 は李奈絹氏、会話 2 は徐燕氏、会話 4 は李大年氏、会話 5 は李曦曦²⁷氏、会話 3 は因京子氏が収集した例である。

4.2.2 被験者

本調査は 2010 年 9 月から 2010 年 11 月までと、2013 年 9 月から 2013 年 12 月までの二回に渡って実施した。中国語側については、日本語学習歴を二年間と三年間の持つ日本語を専攻とする中上級の学習者を対象とした²⁸。なお、全員が日本での留学経験を持っていない。日本側の被験者は日本語母語話者である。日本人の日常生活でよくある会話例 5 例を基にアンケート調査を行った。その結果、中国側 139 部と日本側 20 部の有効データを得た。調査対象者は以下の表 4-1 の通りである。

表 4-1 調査対象者

被験者	人数	年齢
中国	139 名	20 代前半
日本	20 名	20 代～40 代

4.2.3 調査内容

本調査「日中ポライトネスに関する意識調査 I」（付録 II-1 参照）は、日本人母語話者と中上級中国人日本語学習者を対象に、日本人の生活でよく見られる会話場面における会話文のポライトネス表現について適切か否かを判断してもらった上で、その判断理由を書い
てもらった。また、適切ではないと判断した場合は、適切と思う表現を記載してもらった。

質問紙調査法を用いて、表 4-2 に示す、「上下」と「親疎」がはっきりと区別されている日本語の 5 つの会話を被験者に提示した。

5 つの場面を「上下」と「親疎」、「年齢」という対人関係距離によって分類した。表 4-2 は使用した会話例の詳細である。

²⁷データを収集した当時、4 人は全て九州大学大学院生であった。

²⁸中国側は南京工業大学、南京師範大学、南京大学の日本語科三・四年生を対象者とした。中上級の学生がさまざまな場面の会話を聞いたり、日本語母語話者とコミュニケーションをしたりする際、話の流れや意味を比較的容易に理解することができると推測する。

表 4-2 会話例の内訳

会話	場面	上下関係	親疎関係
1	「教師(20代)の母親(50代)が生徒の母親(30代)に対して行った挨拶」	上→下	疎
2	病院長(50代)が医師(30代)に手術失敗の原因解明の依頼をする会話	上→下	疎
3	留学生(20代)と事務の人(40代)の会話	上⇄下	親・疎
4	結婚式の前日、娘が父親に今まで育ててくれたことを感謝する場面	上→下	親
5	A(20代)とB(20代)は親友で、Bはお金がなく、一緒に暮らしている家を出ることにしたが、AがBを止める場面	同	親

4.3 対人関係からみる日中ポライトネス意識

本節では、相手との上下・親疎関係に注目し、「相手」、「場」、「内容」、「表現方法」、「表現意図」を考慮しながら、会話文に現れたポライトネス表現を分析する。

4.3.1 結果と分析

ここではアンケート調査の結果から、まず上下関係に関して、上位者が下位者に対して用いた丁寧表現についての日中の意識の差異を見ていく。次に、親疎関係に関して、日中の差異について分析する。これらの意識の差異により、日本語母語話者と中国人学習者の間で生じるポライトネス意識のギャップについて考察する。

4.3.1.1 「上下」関係（会話1）の調査結果と分析

会話例（1）

休みの日に公園で会った小学校の教師（B, 20代）、教師の母親（C, 50代）、生徒の母親（A, 30代）の会話

A1 生徒の母親： あら、先生！

B2 教師： あ！

C3 教師の母親： （生徒の母親を見て）あの…

B4 教師： あ、あのうちの母です。

A5 生徒の母親： （お辞儀をしながら）あ、はじめまして。

B6 教師： （教師の母親に対して）あのね、うちの生徒のお母さん。

C7 教師の母親： （お辞儀をしながら）あ、はじめまして。あの、[教師の名]の母でございます。娘がいつもお世話になっております。

A8 生徒の母親： あ、いえ…こちらこそ、いつもお世話になってます。

C9 教師の母親： （丁寧にお辞儀をしながら）あの、どうぞこれからも宜しくお願いします。

A10 生徒の母親： あーは、はい。

質問1. 下線部の母親の言葉遣いは自然ですか不自然ですか。

質問2. 質問1の選択理由を書いてください。

この会話例において、年齢からしても、教師の母親であるという立場からしても、この三人の中でCの地位が一番上であると考えられる。

初対面の二人についてはどんな身分を持っている人でも、丁寧な言葉で話すのが普通である。特に、日本のような敬語が発達している国では、初対面同士の挨拶も格式化されている。しかし、近年来、日本語の敬語の用法も多様化している。それは単に固定的な社会的上下関係や年齢差によって決定されるのではなく、インターアクションの参加者間の関係についてその場その場で見積もられた距離が敬語使用を決定する重要な要因となっている。この会話において、Cは、20代の経験の浅い新米教師である自分の娘が、教師の仕事をきちんと進められているか、また、生徒の母親が自分の娘の仕事に不満があるのではないかということを心配しながら、少し謙りすぎると感じられる表現を用い、相手に自分の娘と好意を持って付き合い、協力してもらいたいという「発話意図目的」を実現するため

に、この言語行動表現を選択したのであろう。つまり、この場合、地位が上である教師の母親は自分の「発話意図目的」を実現するために、地位が「下」である相手に対して敬語を使うことにより、自分の気持ちを間接的に表し、相手に伝えたのである。また井出(2006)が指摘するように、敬語はこのような上下関係、親疎関係、場のあらたまりだけではなく、話し手自身についての情報として品位を表すとされる。聞き手が目下の間人である場合でも敬語を使うことがあるが、そのような敬語は話し手に品性や嗜みが備わっていることを表す。

教師の母親の言葉遣いが自然か否かについての調査結果は、表 4-1.1 に示す通りである。

表 4-1.1 中国人日本語学習者の選択率

被験者数	「自然」を選んだ人数 (%)	「不自然」を選んだ人数 (%)
139 人	41 (29.5%)	98 (70.5%)

表 4-1.1 からわかるように、地位が「上」である人が「下」の人に対して、丁寧な言葉遣いや敬語を使うことに多数の学習者 (70.5%) が「不自然」であると感じている。

表 4-1.2 日本人母語話者の選択率

被験者数	「自然」を選んだ人数 (%)	「不自然」を選んだ人数 (%)
20 人	18 (90%)	2 (10%)

表 4-1.2 に示すように、JN は、話し手の地位が上であっても、相手との関係が「初対面」である場面においては、敬語の使用に関して、90%の被験者が「自然」を選んだ。

以上の日中選択率の違いから分かるように、地位が上である人が親しくない関係の人に対して用いる具体的な表現形式について、日中間で大きな違いが見られた。JN はより丁寧な言葉遣いを使用することを自然と認める傾向があるが、多数の CL は不自然と判断している。この日中間の相違の背後にどのようなポライトネス意識が働いているのであろうか。以下、意識の面からこれらの結果を考察し、分析を進める。

表 4-1. 1. 1 中国人日本語学習者の理由

「自然」を選んだ主な理由	「不自然」を選んだ主な理由
<p>A. 自分の娘が新人なので、娘のために、礼儀正しく相手と接する必要がある。</p> <p>B. 学生がいるからこそ教師として存在する価値がある。そのため、教師の母親が生徒のお母さんに感謝の意を表す。</p> <p>C. 自分の娘は教師として学生の両親の支持が必要なので、敬語を使った。</p> <p>D. 教師の母親が 50 代の女性なので、言葉遣いや礼儀などは若者より丁寧だと思う。</p> <p>E. 初対面の人だから、このような丁寧な挨拶語が適当だと思う</p> <p>F. 教師の母親は改まった言葉づかいを使って、相手を尊敬するだけでなく、自分の品位を表す。(特に年取った女性)</p>	<p>a. 敬語を使うことによって、距離感が感じられる。砕けた言葉遣いをしたら、親近感をもたらす。</p> <p>b. 教師の母は生徒の母より年上なので、生徒の母が敬語を使うべきである。</p> <p>c. 先生の母親は学生のお母さんより地位が上であるから、そんなに謙遜しなくてもいいと思います。</p> <p>d. 教師の母親は学生の母親より上であるから、学生の母親に尊敬語を使うと、学生の母親がどのように応対してよいか分からなくなる可能性がある。</p> <p>e. 教師の母親が学生の母親に「宜しく」と言うのは不適當である。</p>

139 人の CL のうち 41 人 (29.5%) が「自然」を選んだ。また、98 人 (70.5%) が「不自然」と感じている。表 4-1. 1. 1 からわかるように、CL が「自然」を選んだ理由は主に二種類に分けられる。①表現意図 (A~C) : 社会的距離自体はある程度固定的なものであっても、相手との心理的な距離は、話題やインターアクション中のできごとなどのために、刻一刻と変化している。また、「敬語表現」においては、「表現主体」は、「人間関係」や「場」の認識によって、本来見えない「意図」をさらに間接的に表すことが多くなる。そのため、CL は発話者が丁寧体・敬語を使う原因を意図や心理の面から推測し、理由づけを行った。②社会的規範 (D~F) : 日本語の敬語の働きをよく理解し、対人関係や社会的ルールを考慮しながら、社会的慣習に基づいて、「自然」という判断を下した。

CL が「不自然」を選んだ理由も主に二種類に分類できる。①年齢や地位を重視すること (B~D)。CL は年齢や地位を重視するため、明らかに年齢が上である教師の母親の話し方に違和感を感じた。②相手に積極的に接近することを重視すること (a) : 第 3 章の中国語のポライトネス・ストラテジーの特徴の分析からわかるように、まるで親族のように聞き手

へ接近を試みるのが中国語のポジティブ・ポライトネスの基礎となっている。CL が書いた理由から、中国人は、母語が干渉して、いつも相手に積極的に接近することがポライトネスと認識していることが分かった。

表 4-1.2.1 日本語母語話者の理由

「自然」を選んだ主な理由	「不自然」を選んだ主な理由
<p>A. 上下に関係なく、初対面同士であるため適切な言葉遣いと思われる。</p> <p>B. 教師の母親より、生徒の母親がこのような挨拶をした方が礼儀だと思うが、礼儀を重んずる日本では、とりわけ年上の方のほうがこの挨拶をきっちりとするため、こういう場面が見られることもあるだろう。</p> <p>C. 丁寧なあいさつだと思う。</p>	<p>a. 「あ」とか「あの」とか使わないから。</p> <p>b. 「一般的に、教師が生徒を世話するのであって、生徒の母親が教師を世話するという感覚は薄いです。しかし、<u>こういう場合はありうると思います。</u>」</p>

日本人被験者 20 人のうち、18 人が「自然」と判断した。また、「不自然」を選んだのは 2 人しかいなかった。理由 a：話し手の敬語使用に関係なく、「接続詞」や「感動詞」の使用に疑問を持つ。理由 b：教師の母親の「表現意図」には疑問を持つが、社会的ルールという面からは、この発話は「ありうる」と認めた。

この結果から、日本語の場合、目上の人に敬意を表すだけでなく、知らない人や親しくない人と話す時や、改まった場面で話す時などにも丁寧体や敬語が使われ、それらの使用が社会習慣、社会的ルールとして構造的に組み込まれ、使われていることが分かった。

以上の調査結果から分かるように、初対面且つ「上→下」である会話場面において日本人は上下関係よりも、親疎関係によって言語形式を決定する傾向が見られた。被験者のうち、90%の日本語母語話者は発話者の「発話する意図目的」を考慮しなかった。それに対して、CL は、親疎距離でなく上下関係の面から、「教師の母親」という「上」の人がどのような形を用いるべきかを判断した。これらの認識の相違から、日中間で「表現意図」への理解に相違が生じることが分かった。また、CL の多数が「不自然」と判断した理由も、「上下関係(地位)」からの考慮である。中国語の場合、「上」の人が「下」の人にあえて敬語を使うことに、容認度が低いということが分かった。

4.3.1.2 「上下」関係（会話2）の調査結果と分析

会話例（2）

病院長が田口医師に手術失敗の原因解明の依頼をする会話

院長：バチスタ手術についてご存知ですか。

田口：名前ぐらいは…。

院長：一般的な成功率は約60%、ところが、桐生先生がこの病院に着任してから一年、その難しい手術をことごとく成功させてきました。実に26連勝。彼の名前を知って全国から患者さんが集まってきます。

桐生：ですが、このバチスタ手術が最近3連敗。続けて失敗しています。

院長：その原因を鶴働教授に…あ、いや、あなたに解明していただきたい。

田口：無理です。

院長：近々訳ありの手術がありましてね、ぜひともお引き受けしていただきたい。

田口：こういう事は確かに、リスクマネジメント委員会の仕事だと思いますが、

院長：大げさなことにしたくないんですよ。

質問1. 下線部の院長の言葉遣いは自然ですか不自然ですか。

質問2. 質問1の選択理由を書いてください。

この会話例においては、三人の登場人物の中で地位からみて、病院の中では院長が一番上位にあると考えられる。

日本語においては、発話者は上位者であっても、公的な場面において基本的には丁寧体を使う。故に、院長は田口医師に、それまで成功し続けていた手術が最近三連敗している理由を解明するよう丁寧体で依頼している。さらに、このような調査は田口医師が述べているように、通常は「リスクマネジメント委員会」が行うことであり、院長であっても通常は依頼することはできない。通常はしてはいけない依頼を内緒で行うために、院長はストラテジーとして通常より丁寧な言い方をしていると言える。

このことから、日本語では敬語を用いる際の判断基準は上下関係であるとしてもそれは身分という絶対的なものではなく、その状況での立場や役割の相違という相対的なものへと変化したと考えられる。

院長の言葉遣いが自然か否かについての調査結果は以下の通りである。

表 4-2.1 中国人日本語学習者の選択率

総人数	「自然」を選んだ人数 (%)	「不自然」を選んだ人数 (%)
139	38 (27.3%)	101 (72.7%)

表 4-2.1 から分かるように、地位が「上」である人が「下」の人に対して、丁寧な言葉遣いや敬語を使うことに多数の学習者（139 人の中 101 (72.7%)）が「不自然」と感じた。

表 4-2.2 日本人母語話者の選択率

総人数	「自然」を選んだ人数 (%)	「不自然」を選んだ人数 (%)
20	20 (100%)	0 (0%)

表 4-2.2 に示した通り、日本語母語話者は、話し手の地位が上であっても、相手との関係が疎且つ公的である場面においては、敬語の使用に関して、被験者全員が「自然」を選んだ。

院長の「依頼行為」は相手を動かして本来は許されない行動をさせる行為であるため、何らかの方法で積極的に配慮する姿勢を示す必要がある。この会話において、院長はストラテジーとして、通常より丁寧な言い方を用いていると言える。

表 4-2.1.1 中国人日本語学習者の理由

「自然」を選んだ主な理由	「不自然」を選んだ主な理由
<p>A. 院長は田口医師から内緒らしいことを知ってもらいたいからである。</p> <p>B. 院長は医師に和らいだ雰囲気を与えてはじめて間違いの所在を探し出すことができる。</p> <p>C. 院長は上位者だが、医者に頼むことがあるから尊敬語を使っている。手術失敗の原因解明の依頼だから、その尊敬語はかえって人に圧迫感を与える。</p> <p>D. 院長は上司として、一定の責任を持って、手術の成功率を保つために、そう言</p>	<p>a. 院長は田口さんの上司なので、部下に敬語を使う必要がないと思う。</p>

<p>うのは無難です。また、院長は象徴的な存在です。病院の面目を守るために、そうしなければなりません。</p> <p>E. 院長と医者はみんな尊敬されている方ですし、病院では、仕事について手術のような話をして、厳かで真剣にいったほうがいいと思われます。</p>	
--	--

表 4-2.1.1 に示したように、139 人のうち 101 人(72.7%)は地位が上である院長の丁寧な言葉遣いを「不自然」と感じた。理由もほぼ統一されている。CL は「上下関係」に敏感であり、話題や話の具体的な内容に関わらず、下且つ疎である相手に対しては、相手への配慮を敬語ではなく、婉曲的な表現で表す傾向がある。それによって相手の意見を重視している気持ちや相手を尊敬している気持ちを示す。

また、38 人 (27.3%) が、院長の「意図」を推測し、敬語を使う理由を分析して、「自然」と判断した。つまり、話し手である院長が目的を遂行するために、意図に基づいて効果的な表現形式を選んだのだと考えた。

表 4-2.2.1 日本語母語話者の理由

「自然」を選んだ主な理由	「不自然」を選んだ主な理由
<p>A. 田口医師が病院長の管轄下外であるならば自然だと思われる</p> <p>B. 日本では、工作中に上司が部下に対して敬語を使うのも自然なことである。 「私も教師ですが、工作中は学生に対して敬語を使います。」</p> <p>C. 院長が「ーしていただきたい」と部下に対して言っているが、謙虚な人は部下に対してもこのような表現を使う。</p>	<p>なし</p>

日本人被験者 20 人全員は「院長」の言葉遣いが「自然」と判断した。この場面で使われている敬語は、相手に敬意を表すためだけでなく、場面に応じて対人関係を調整

する機能として働いている。日本語の敬語は参加者の関係によってコード化され、ある状況では必ずある特定の形式が要求される。それが FTA であるか否かにかかわらず、場面や対話者の関係に応じて義務的に選択されるものである。院長が丁寧体を使っているのはそのためである。さらに、この場面ではしてはいけないことを依頼しているため更に丁寧な形式がストラテジーとして使われている。

中国語の場合、「上」の人が「下」の人にあえて敬語表現を使うと、皮肉な意味になってしまう可能性が高い。そのため、CL は、日本社会の中では上の人が下の人に対して丁寧表現や敬語を使うことがあることをうまく理解できない可能性が高いと考えられる。

4.3.1.3 「上下」関係（会話3）の調査結果と分析

会話(3)

留学生の李さん（20代女性）と学校の事務の人（40代女性）の会話

A1 李 : すいません、中山財団奨学金に応募したいんですけど…

B2 事務室の人 : あ、あれね。もう締切が過ぎたんですよ。同じような別の奨学金があるけど、それじゃいけない？

A3 李 : あ、そうですか…それでもいいね。

A の「応募したいんです」や「そうですか」、また、B2 の「過ぎたんですよ」に見られるように、この会話は基調として丁寧体を使っている。しかし、B2 の「それじゃいけない」の影響で、A3 は下の人であるにもかかわらず、「それでもいいね」を使ってしまったのだと考えられる。

質問1. 一重下線部の事務室の人の言葉遣いについてどのように感じますか。

- ① ごく普通で特別な感じは何もない。
- ② ぞんざいで少し失礼な感じがする。
- ③ 親しさを示そうとしている感じがする。
- ④ その他 _____

表 4-3. 1. 1 中国人学習者の選択率

質問 1	①	②	③	④
139 人	38 (27. 3%)	49 (35. 3%)	47 (33. 8%)	5 (3. 6%)

B2 の話の印象については CL の意見は分かれている。「普通」、「失礼」、「親しい」の三種類の意見はほぼ同じ割合である。

表 4-3. 1. 2 日本人母語話者の選択率

質問 1	①	②	③	④
20 人	0 (0%)	8 (40%)	12 (60%)	0 (0%)

この会話例について、日本人でもかなり意見が分かれていることが分かった。20 人の JN に対してアンケート調査を行った結果、「少し失礼」で丁寧体を使うべきであると答えた日本人の割合は 40%であった。一方、事務の人が「親しみを示そうとしている」と感じた日本人の割合は 60%であった。

以上の日中選択率の違いから分かるように、地位が上である人が「疎」である関係の人に使う普通体に関して、日中間で大きな違いが見られた。JN は視点の違いによって正反対の答えを出したのに対して、CL の判断には忝意性があると考えられる。日中間のこの相違の背後にどのようなポライトネス意識が働いているのであろうか。以下、それぞれの判断を下した理由を見ていきたい。

表 4-3. 1. 3 中国人の理由

①を選んだ主な理由	②を選んだ主な理由	③を選んだ主な理由	④を選んだ主な理由
<ul style="list-style-type: none"> • 普通の言葉遣いである。先生は学生に対する普通の態度だと思う。 • 事務室の人は年上だから、敬語を使わなくてもいい。 	<ul style="list-style-type: none"> • こういう場合は必ず丁寧体を使うべきである。 • 事務の人として、言葉遣いに要注意で、そういう言い方は礼儀正しくない。 • 日本人は外の人に 	<ul style="list-style-type: none"> • 学校の事務の人は李さんの目上なので、普通体で十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 公的な場合、全て丁寧体を使った方がいい。

	対していつも丁寧な言い方を使う。		
--	------------------	--	--

CLは事務の人の話には38人(27.3%)が①を選んだ。その理由としては、相手は「上」の人なので、相手への言語上の容認度が高く、普通体を使うか丁寧体を使うかを自由に決めることができるというものが多かった。

また、49人(35.3%)が公的な場面で丁寧体を使うべきだという理由から②を選択した。5人(3.6%)も同じ理由で④を選んだ。つまり、CLの3.6%は、事務の人の話に失礼とはいえないが、丁寧体が最も相応しいと述べた。

③を選んだ47人(33.8%)は「上下」という観点から、事務の人が親しさを示そうとするために、普通体を使ったと判断した。

この会話について、中国人は「上」である人が普通体を使うのが適切であるか否かを「上下」と「場」によって判断している。「上下」の観点から、計61.1%のCLが①と③を選んだのに対して、38.9%のCLは「場」を重視して②と④を選んだ。

表 4-3.1.4 日本人の理由

②を選んだ主な理由	③を選んだ主な理由
・お互い親密感はない関係だから、なれなれすぎるから。	同じ学校内の人で、かつ年上の人だと年下に対して少しくだけた話し方をする。丁寧かと言われればそうではないが、学校内の人を身内の人と考えれば気さくな話し方で違和感を感じない。

日本人は、対話双方の関係を異なった基準によって判断したため、正反対の答えを出したのだと考えられる。「場」という観点から、「上」である人の発話(B2)は公的な場面の発話としては「失礼」と感じられる。しかし、「内・外」という観点からは、身内の人に対して、くだけた話し方をする事で親近感を示そうとしたと判断された。

<p>質問2. 二重下線部の李さんの言葉遣いについてどのように感じますか。</p> <p>① ごく普通で特別な感じは何もない。</p> <p>② ぞんざいで少し失礼な感じがする。</p> <p>③ 親しさを示そうとしている感じがする。</p>

④ その他 _____

表 4-3. 2. 1 中国人学習者の選択率

質問 2	①	②	③	④
139 人	28 (20.1%)	80 (57.6%)	24 (17.3%)	7 (5%)

女性事務員の「それじゃいけない」に影響された李さんの言葉遣いに 20.1%の CL が①を選び、また 17.3%の CL が③を選んだが、139 人のうち 80 人 (57.6%) が②を選んだ。

表 4-3. 2. 2 中国人の理由

①を選んだ主な理由	②を選んだ主な理由	③を選んだ主な理由	④を選んだ主な理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ 普通の使い方。下の人が上の人に対してそんな言い方はちょっと失礼であるが、同じ学校の人だから、やはりありえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>先生</u>に対して尊敬語を使わなくても、丁寧体は絶対に必要だと思う。 ・ 学生の李さんは事務室の人に頼むこともあるし、かつて、李さんは年下の人で、敬語や丁寧体を使わなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ね」の使用によって、自分の意見を和らげる効果がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原因がわからないが、読むと、不自然に感じる。

中国人は年齢を重視するため、明らかに年齢が下である李さんの話し方に多くの CL は違和感を感じている。しかし、20.1%の CL が、李さんは事務の人と「同じグループ」に属していることから、この場面での李さんのような言い方について、「ありうる」という意見を持っており、日本人から誤解を受ける可能性がある。

表 4-3. 2. 3 日本人の選択率

質問 2	①	②	③	④
20 人	0 (0%)	18 (90%)	0 (%)	2 (10%)

表 4-3. 2.3 から 90%の日本人にとってこの発話は②「ぞんざいで少し失礼な感じがある」ものであり、①「ごく普通」を選択した人は0%だったことが分かる。日本人母語話者にとって「疎」である関係において、下位者が普通体を使うと無礼に感じられることが分かった。

表 4-3. 2.4 日本人の理由

②を選んだ主な理由	④を選んだ主な理由
<ul style="list-style-type: none"> ・家族や友達でない年上の人に対してはやはり敬語を使うべきである。 ・お互い親密感はない関係だから、なれなれすぎるから。 	<p>日本人同士なら、年上にたいしてこの言葉使いはすこし失礼な感じだが、外国人はそういう間違いはよく起こるし、それで問題ないと思っている日本人は少ないと思う。</p>

アンケートから、学生の李さんは事務の人の言葉遣いに影響されて「それでもいいね」とくだけた形を使ってしまったのだと考えられるが、下の立場にある学生として普通体を使うことは日本人にとっては認められないことが分かった。20人のうち18人がここでは疎且つ上の人に対して、丁寧体や敬語を使うべきであると述べた。一方、残りの2人は、④「その他」を選択し、「学生である李さん」が外国人だから、失礼な表現を用いても、母語話者の日本人として理解できると回答した。即ち、日本語を学習中の外国人だから許されるが、社会に入った後は日本人と同様に②「ぞんざいで失礼」との評価が与えられることになるため、下位者の普通体使用が限定されているということについては十二分に教授する必要があろう。

日中両言語とも、上の人が普通体を使うか丁寧体を使うかを定めることができる。日中両言語は「上」である人の発話の丁寧度に容認度が高い。しかし、下位者が上位者に対して普通体を使うことが失礼であると感じる被験者は多い。

4.3.1.4 「親疎」関係（会話4）の調査結果と分析

会話例（4）

結婚式の前日娘が父親に今まで育ててくれたことを感謝する場面

A1 娘： お父さん、花嫁みたいなこと言っていていい？

B2 父： やめてくれ。

A3 娘： 今まで本当に有難うございました。

B4 父： こちらこそ、有難うございました。

『犬と私の10の約束』

質問1. 下線部の父親の発話は自然ですか不自然ですか。

質問2. 質問1の選択理由を書いてください。

この場面は結婚するために家を出る娘が、長年育ててもらった父親に感謝する場面である。A1とB2が示したように親子関係である対話者は通常普通体で話す。しかし、結婚する前の娘が、親に対して感謝してもしきれないぐらいの恩義を表すために正座で丁寧にお辞儀をしながら、感謝する。父親は威儀を正すために敢えて丁寧体を使っている。このようなシーンは日本のドラマや映画でよく観察される場面である。日本語では、丁寧体か普通体かは上下・親疎関係で固定されているのではなく、何らかの意図を持って交替することがよくある。

表4-4.1 中国人日本語学習者の選択率

総人数	「自然」を選ぶ 人数 (%)	「不自然」を選ぶ 人数 (%)
139	33 (23.7 %)	106 (76.3%)

表4-4.1からわかるように、多数のCL (76.3%)にとって日本人の親子間で用いられる改まった表現が理解しにくい。

表4-4.2 日本人母語話者の選択率

総人数	「自然」を選ぶ 人数 (%)	「不自然」を選ぶ 人数 (%)
20	18 (90%)	2 (10%)

表 4-4.2 に示すように、被験者である日本語母語話者の 90%が、親しい間柄における、改まった話題に言及する際の丁寧な言葉遣いの使用に関して、「自然」を選んだ。

以上の日中選択率の違いから分かるように、JN は、地位が上である人が身内に対して、表現意図により改まった言葉遣いを使用することが自然であると認める傾向がある一方、多数の中国人日本語学習者は不自然と判断している。具体的な表現形式の面においては、日中間で大きな異なりが見られた。日中間のこの相違の背後にどのようなポライトネス意識が働いているのであろうか。以下、被験者が書いた理由をもとに意識の面から考察する。

表 4-4.1.1 中国人日本語学習者の理由

「自然」を選んだ主な理由	「不自然」を選んだ主な理由
<p>A. この特殊な時、この挨拶は礼儀正しいと思われ、必要である。</p> <p>B. 親子であるが、今回は改まった会話だから、そういうのも普通だと思う。</p> <p>C. 普通の場合、父は娘に敬語を使う必要はない。しかし、結婚式の前日、娘は父親に感謝の言葉を言って、父親も感動して、長い間娘と一緒に暮らすことを有難く思っていて、敬語を使ったのだと思う。</p> <p>D. 今まで娘の存在は父にとって、ありがたいことで、育ててあげたが、娘にはたくさんのおいしい思い出を作ってもらった。だから、父も感謝の気持ちを持っている。</p> <p>E. 娘は花嫁になってから、他人の家の一員になるので、こんな挨拶は必要で、自然だと思う。</p>	<p>a. 関係が親である親子の間で、父は改まった口調で「こちらこそ、有難うございました」を言うのが理解できない。</p> <p>b. 家族として、父親は娘に「ありがとう」を言わなくてもいい。</p> <p>c. 娘と父が親しい家族なので、敬語を使うのは不自然である。敬語を使えば、関係がちょっと疎遠になる気がする。外の人と話しているように聞こえる。</p> <p>d. 原因は分からないが、読むと、不自然に感じる。</p>

表 4-4.1.1 から分かるように、CL が「自然」を選んだ理由は以下のように二種類に分けられる。①「場」に関する認識 (A~D) : 「場」の重要性に関する認識は言語表現に影響を

与える。会話例(4)のように、親子は普段A1とB2のようなくだけた口調で話すのに対して、「話題」の「改まり度」によって、A3とB4のような「丁寧語」を使用することになった。②「内・外」の関係によって言葉の使い分けをする(E)。

CLが「不自然」を選んだ理由も主に二種類に分類できる。①「内・外」によって言葉の使い分けをする(a~c)：家族であるからこそ、くだけた口調で話す必要があると述べている。②母語の干渉である(d)。

「不自然」を選んだ106人のうち、「上下」の影響には一人も言及しなかった。これは母語の干渉で、中国の伝統文化では、二人の関係が親であれば、敬語の使用、特に上の人から下の人に対して、敬語を使う必要はないという習慣があるからである。反って敬語を使ってしまうと、二人の関係が疎遠になってしまう。また、何らかの特殊な意図が潜んでいるのではないかと思われる可能性が高いと考えられる。

表 4-4. 2. 1 日本語母語話者の理由

「自然」を選んだ主な理由	「不自然」を選んだ主な理由
A. あらたまった場面なのでよいと思う。 B. 父親の一種の、娘に対する礼儀を表したものだと思う。この場合は特に結婚という特別な行事なので、父親もなにか普段とは違う感情がこみあがっていたのだと思う。	a. 父親と娘であるために対等である必要はない b. こういわない。「幸せになるんだぞ。」ぐらいで、感謝の意は示さない。

「自然」を選んだ理由から分かるように、日本では「親しき仲にも礼儀あり」という言葉があるように、JNは内の関係や非常に親しい間柄であっても、場の改まりを示すために丁寧体・敬語を用いることがある。例えば、親子であっても、正式な場面や話題に言及する際、改まった話し方に変わることは自然であるとJNは考える。20人中、2人しかこの親子の会話を「不自然」と判断しなかった。

調査の結果から、JNにとって「場」に関する認識が「人間関係」の認識以上に言語表現に影響を与えている一方、中国語における言葉遣いに関しては、「親疎」が大きな言語形式の調整機能の役目を果たしていることが分かった。

4.3.1.5 「親疎」関係（会話5）の調査結果と分析

会話例（5）

高校時代からの親友二人（男性）の会話：現在二人は同居しているが、Aは家を出ようとしている。Bはもう少し一緒に東京に止まって頑張って貰いたいとAを止める。

A1: なあ、金無いよなあ？交通費なんだけど…。

B2: …

A3: …

B4: なあ、行くなよ

A5: こんな時に悪いけど、でも本当に僕だめなんよ

B6: 家賃二人分払っていくの無理やもんな。一緒にさあ、もうちょっと頑張ろうや

A7: 今はくさっとるけどね、あんたは才能あるから、頑張り。僕はもう頑張りきれん

『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』

この会話では、親友であるAとBは二人とも普通体で話している。Aは、発話A5、A7から推測されるように、これ以上東京での生活を続けることはできないと考え、故郷に帰ろうとしている。しかし、A5とB6が示すように、Aは自分が同居している家を出ることがBを困難に陥らせることが分かりながらも、自分の実際の状況から故郷に帰る旅費を貸してもらうようにBに頼んでいる。Aとしては、なかなか言いづらいので、このような表現になってしまったのだろう。

質問1. お金を貸して貰おうとして言ったA1の下線部の表現は適切だと思いますか。

①適切 ②不適切

表4-5.1 日中の選択率

総人数	① 適切	② 不適切
中国人 139	81 (58.3%)	58 (41.7%)
日本人 20	20 (100%)	0

下線部のA1の発話の印象については、日本人全員が「適切」と答えた。これに対して、

CL139 人にアンケートをとった結果、「適切」と答えた CL が 58.3%いた一方、このような依頼場面では A1 の表現が「不適切」と答えた CL も 41.7%いた。

質問 2. もし、あなたならどのような表現を用いますか。

表 4-5.2 日本人母語話者の答え

日本人の答え
<ul style="list-style-type: none"> ・お願い (して?)、交通費代 ・悪いけど、少しお金貸してもらえない。 ・少し交通費貸してもらえない。すぐ返すから。 ・交通費が足りないんだけど、貸してもらえない? (女性) ・可能であるならお金を貸していただきたい。★

日本人被験者全員が、A1 は「自然」な発話であると認め、母語話者として出してもらった言い方も原文と殆ど変らない。橋元 (1992) は、依頼場面での戦略一選択において、JN は「上下関係」に敏感に反応すると述べている。本稿の調査結果は、それを裏付けるものとなった。会話 5 における A と B の関係は「親且つ同等」であるため、普通体で依頼事を直接言うのが適切だと考えられている。特に、この場面では、親友に対して自分の気持ちを誠実に伝えることが求められており、誠実さを示すためにも、親友に対する飾らぬ表現である普通体が適切であると考えられている。

表 4-5.3 中国人日本語学習者の答え

中国人日本語学習者の答え	
「適切」と答えた人の答え	「不適切」と答えた人の答え
<ul style="list-style-type: none"> ・今、交通費ぐらいもないんだね ・お金はないですけど、交通費はちょっと ・ちょっとお金貸してくれない? 交通費だけなんだ ・お金を少し貸してくれないかな、すぐ返すから。 ・あのう、お金を貸してくれない? 	<ul style="list-style-type: none"> ・悪いけど、お金がないですから、ちょっと貸していただけますか ・最近、お金がないのですが、どうか、貸してくれてもいいですか。 ・おかねをかしてくれませんか ・ね、B、私は交通費がないのですが、お金を借りてもいいですか。

<ul style="list-style-type: none"> ・最近、財布がちよっとね。 ・お金貸してくれ！ ・交通費がちよっと、お金を貸してもらえませんか。 <p>理由：親しい間柄だから、適切だと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ちよっとお金を貸していただけませんか。 <p>理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どれほど親友でも、金を貸してもらいたいときは、普通体で言い出したのは失礼だ。 ・もっと正直に自分の気持ちと理由を言って、依頼した方がいい。
--	--

58.3%のCLはAとBの関係が「親しい」ため、A1の発話がありうると答えた。書いてもらった言い方も原文と殆ど変わらない。一方、CLの41.7%は自分の依頼行為が相手の利益に損害をもたらす場合、例えば、会話例(5)のように、「お金を借りる」場面では、「普通体で言い出したのは失礼だ」と感じることから、丁寧体や敬語を使った。つまり、中国人は相手への負荷の度合いのみにより言語表現を選択していることが分かる。

4.4 考察

前節では、「上下」「親疎」という対人関係の視点から、日中ポライトネスの意識調査の結果をまとめ、「相手」、「場」、「内容」、「表現方法」、「表現意図」の五つの面から会話の分析を行ってきた。以上の分析より、ポライトネス表現に影響を与える要素に対する認識の違いから、日本語と中国語では、「上下関係」「親疎関係」に対する敏感さが異なることが分かった。

以下において、それぞれの分析結果に基づいて、「相手」(人間関係)に応じた会話の「内容」、ポライトネス意識の「表現方法」、「表現意図」を中心に考察を行い、「日中ポライトネス意識について、どのような共通点や相違点があるのか」を究明したい。

4.4.1 「上下関係」に関する日中対照

ここでは、日本語と中国語におけるポライトネス意識に対する認識の違いを分析する。図2と図3は、会話例(1)(2)における、上の人を下の人に丁寧体や敬語を使うことに対して、「自然」と感じるか「不自然」と感じるか、という質問に対する答えの日中対照図である。

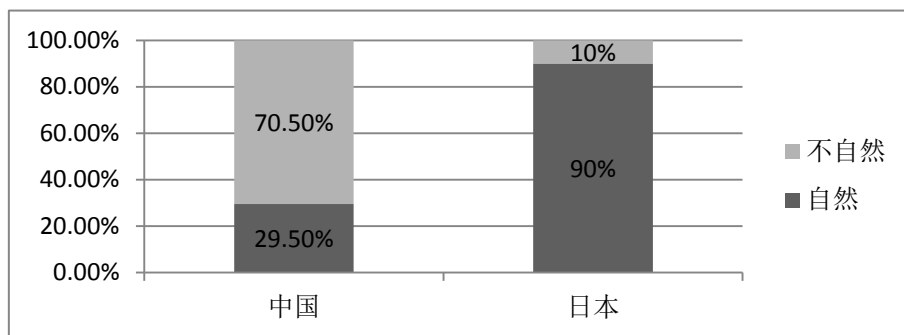


図 2

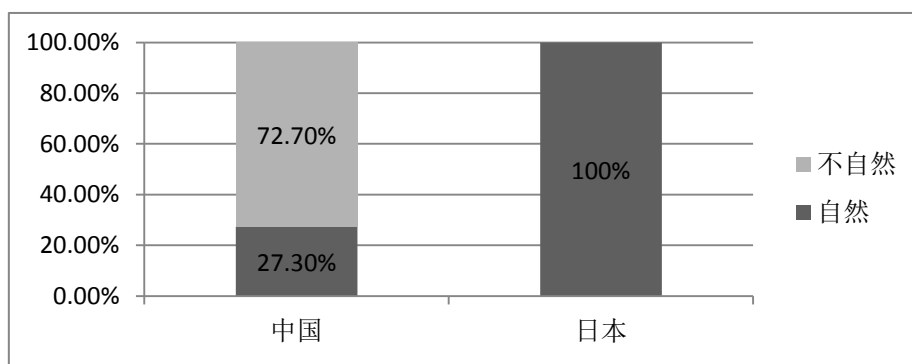


図 3

図 2 と図 3 から、上位者が下位者に対して丁寧表現また敬語を用いることに関して、日本語と中国語では大きな差があることが分かった。

表 4-1. 1. 1 と表 4-2. 1. 1 の中国の被験者が書いた理由²⁹からわかるように、CLにとって、話題や場面を問わず、年齢や地位が上の人が下の人に対して、敬語を使うことを不自然と感じていた。

第 3 章の分析結果からわかるように、日本語のように相手との年齢或いは地位の差を言語レベルによって表現するのは異なり、中国語では上の人と話す場合、相手との差は、主に相手に対する呼称や語彙的意味を加味した表現によって表される。例えば、「您(あなた様)」「老」などの敬辞が広く使われている³⁰。つまり、中国語の敬語表現は形態論的な手段をとるのではなく、単語をある特別な組み合わせの中におくことを通して、敬意を聞き手に伝えようとするものである。

しかし、中国語は、下の人に対する、表現形式による敬語体系が日本語のように複雑で

²⁹表 4-1. 1. 1(p. 110)と表 4-2. 1. 1(p. 114)参照

³⁰第 3 章 p. 68 を参照。

はない。中国語では、下の人（相手）へ敬意や配慮を表明する場合、話者が発話する際にどの語を選択するかということよりも、どのような方法で表現するかといった「運用レベル」や「言語行動レベル」がより重要になると考えられる。このような場合、中国語では、相手への配慮を敬語ではなく、婉曲的な表現で表す傾向がある。この場合、能願動詞³¹を用いた文型が多用される。中国語では、能願動詞が動作主の意志を捨象することができるため、“能不能～(できるかできないか)”などの構文は、聴者がその行為を実現することが可能かどうかを聞いている。「ある動作・状態の実現の可能性が能力ととりまく条件との相互作用のうえになりたつ」（奥田 1986:190）ため、このような構文は、相手に、改善行為を実行する主体的な条件（意志と能力）が揃っているかどうかを尋ねると同時に、意志と関わらない客観的な条件により、自分の願いを実現することが可能かどうかという意味も含んでいる。この「客観的な条件により可能かどうか」という含意から、話し手は聞き手に理由説明や弁解する余地を与え、相手の積極的フェイスへの侵害（快諾することへの心理的負担）を弱めることができる。

例えば、

(1) 小李，能不能给我帮个忙啊？

（李さん、ちょっと手伝っていただけますか。）

まず、「李」という名字の前に「小」という言葉をつけることによって、相手が自分より「下」であることを明示している。また、「能不能（できるかできないか）」のような、選択する権利を相手に与える言葉の使用によって、自分の意見を相手に強制的に押し付けていることを感じさせないように、相手の意見を重視している気持ちや相手を尊敬している気持ちを表す。

対人関係においては、年齢と地位を重視する中国人にとって、このような場合に、「上」の人が「下」の人に敢えて敬語を使うと、皮肉な意味になってしまう可能性が高い、あるいは、何か特別な意図が含まれているのではないかと考えられる。

そのため、多くのCLは会話（1）と会話（2）が「不自然」と判断した。

このように、中国人母語話者は、日本社会の中では文脈における詳細は「表現意図」や相手との「人間関係」によって丁寧体や敬語が使用されることをうまく理解できない可能性が高く、このことが日中両言語のポライトネス表現に影響を与えたのだと考えられよう。

中国人母語話者と反対に、殆どの日本人被験者は年齢や地位が上の人が下の人に対して、

³¹「能願動詞」は「認定助動詞」とも言う。「主に動詞の前に立って、願望、意欲、当為、許可、可能性など 認定を表すことばをさします」（藤堂・相原 1985:119）。

敬語を使うことを「適当な言葉遣い」と認めている³²。日本語の場合、もちろん自分より下や親しい人より地位が上の人や親しくない人に対して敬語がより多く使われている。それにもかかわらず、中国語とは違って日本語の敬語は、目上の人に敬意を表すだけでなく、知らない人や親しくない人と話す時や、改まった場面で話す時などにも使われ、敬語の使用が社会的習慣、社会的ルールとして構造的に組み込まれ、広範囲にわたって使用されている。日本語の敬語の用法は多様化している。それは単に固定的な社会的上下関係や年齢差によって決定されるのではなく、インターアクションの参加者間の関係について、その場その場で見積もられた距離が敬語使用を決定する重要な要因となっている。それ故、社会的に下位、あるいは年齢が下の者だけが敬語を使うのではなく、両者が相互に敬語を使い合うことが普通である。敬語が重要な役割を担っている日本語のコミュニケーションにおいても、狭義の敬語以外の言語行動もまた、場面に応じた対人関係調整の機能を果たす。また、そのような言語行動には、社会的関係や負荷度などによる社会的規範、またはストラテジーとして選択される部分があり、敬語の使用が対人行動の中で大きな役割を果たしている。

以上のことから、JNにとって、丁寧語や敬語の使用は社会的慣習、社会的ルールとして、広く認められているので、それを学習することが重要だと言えるだろう。

また、「敬語が社会的慣習、社会的ルールとして上下を問わず広く使われていることが自然である」という日本人母語話者の考えと違い、一部のCLは会話(1)と会話(2)の「場」、「人間関係」、「発話内容」などを考慮して、聞き手は何か特別な意図を含ませているのではないかなど、話し手の意図を探りつつ、総合的に評価し、本来見えない「発話意図」を推測し、話し手の各ポライトネス表現の使用について理由づけを行っている。一部の中国人日本語学習者が日本人母語話者と同じ判断を下した理由は、そのように説明できよう。

以上、上位者の下位者に対する敬語使用についての日中ポライトネス意識の違いを見てきた。次に、普通体を使う会話例を見てみることにする。

図4は、会話例(3)における、「疎」である関係の上の人が下の人に普通体を使うことに対して、「どのように感じるか」という質問に対する答えの日中対照図である。

³²表 4-1. 2. 1(p. 112)と表 4-2. 2. 1(p. 115)を参照

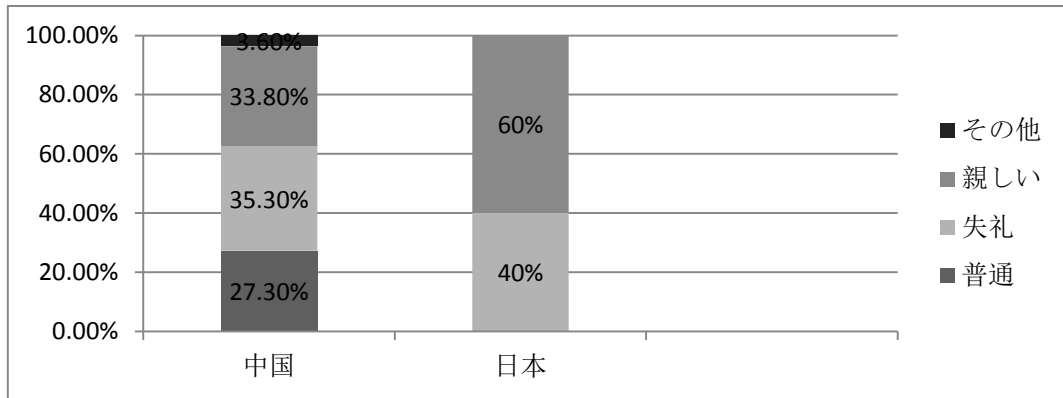


図 4

図 4 に示すように、JN の意見は二種類に分かれているのに対して、CL の意見は四種類に分かれている。中国語母語話者にとって、日本人のポライトネスの中で、上位者の用いる丁寧表現と同様に理解されにくいのが、上位者が相手を気遣って用いる砕けた表現である。中国人被験者が書いた理由³³からわかるように、CL の 38 人 (27.3%) が① (普通) を選んだ。その理由として、③ (親しさを示す) を選んだ 47 人 (33.8%) と同じく、「上下」という観点から、被験者は事務の人が「上」であるため、普通体で十分であると判断した。

また、49 人 (35.3%) が、公的な場面で丁寧体を使うべきだという理由から② (失礼) を選択した。CL のうち、3.6% の人は、事務の人の話し方に、失礼とはいえないが、丁寧体が最も相応しいという理由で④ (その他) を選んだ。

以上のことから、この会話において、「上下」という視点から、計 61.1% (①+③) の CL は「上」である人が普通体を使うのが適切であると判断したのに対して、38.9% (②+④) の CL が「場」を重視して「不適切」を選んだ。

以上の分析から、図 4 は以下の図 4' のようにまとめることができるだろう。

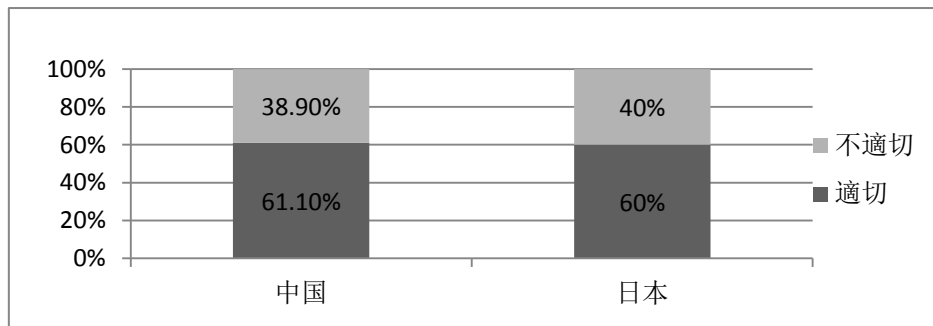


図 4'

³³表 4-3. 1. 3(p. 117)を参照。

図4'を見ると、日中両言語では同じように、上位者が下位者に対して、普通体を使うことに容認度が高いことが分かった。しかし、日中両国の被験者が書いた理由³⁴から分かるように、両言語の判断基準は異なっている。CLは、「上」である人が普通体を使うのが適切かどうかは「上下」と「場」によって判断する。「内・外」という要因を殆ど考慮しない。一方、JNの意見は「親疎」と「内・外」という視点により分けられる。対話者が疎の関係であるから、40%の日本人被験者は「不適切」と判断した。それに対して、60%の被験者は「内・外」という基準から、会話者の関係が疎でありながらも、普通体が用いられることに違和感がないと述べた。

このように、日本語では同じグループ内に属するか否かを表す「内・外」が、発話スタイルを決定する上で重要な判断基準となる。この「内・外」は発話スタイルを決定する重要な要因である。特に疎遠な相手に対して、相手を「内」のメンバーとして心的距離を縮めるために、発話スタイルを、親しい人と話すときのように「普通体」にすることで、相手との均衡を取り戻そうとする。つまり、疎遠な相手を同じクラスや学校といった同じ集団に所属する「内」のメンバーと考えることができるかどうかが発話スタイルを決定する重要な要因になるものと考えられる。

以上の分析から、中国人母語話者は垂直方向の人間関係を表す上下関係を重視しているのに対して、JNは水平方向の人間関係を表す内外・親疎関係をより重要と考えていることが分かった。

図5は、会話例(3)における、下の人が上の人に普通体を使うことに対して、「どのように感じるか」という質問に対する答えの日中対照図である。

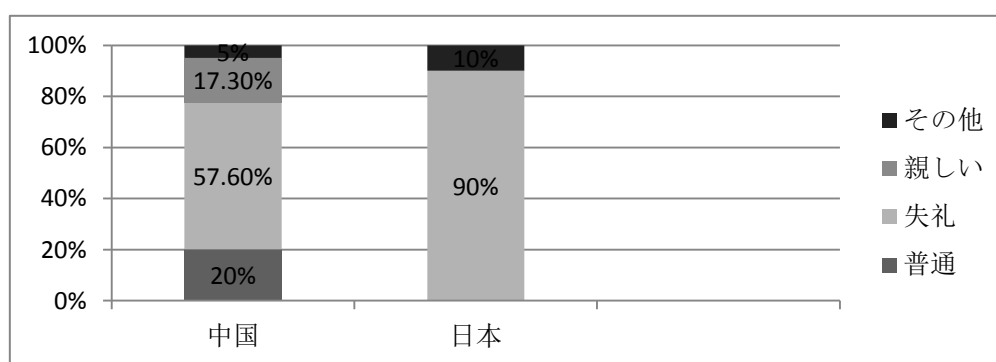


図5

³⁴表4-3.1.3(p.117)と表4-3.1.4(p.118)を参照

数字からみると、日中両言語共に、下の立場の人が疎且つ上の人に対して普通体を使うということは容認されにくい。アンケートに答えた日本人の中には、このような場合、「下」である人が「疎」である年上の人に対して敬語を使うべきであるという理由から、「失礼」であると回答した人が多数いた。また、人間関係に言及のない答え³⁵を排除して、半数以上のCLは「年下の人なので、敬語を使わなくても、丁寧体は絶対必要」という理由から、学生の言葉遣いが「失礼」であると答えた。

以上の分析からわかるように、CLは、「疎」である人間関係においては「上下」を問わないが、言語表現に影響を与えるポライトネス意識に関しては、垂直方向の人間関係を表す上下関係をより重視する。それに対して、JNは水平方向の内外・親疎関係をより重要だと認めていることが分かった。このようなポライトネス意識の違いが日本人と中国人のコミュニケーションにおいて、誤解を引き起こす要因になりうる。

4.4.2 「親疎関係」に関する日中対照

日本では、「親しき仲にも礼儀あり」という言葉があるように、内の関係や非常に親しい間柄であっても、場の改まりを示すために丁寧体・敬語が用いられることがある。

しかし、CLにとって、日本人のポライトネス表現の中で、上位者の用いる丁寧な表現と同様に、理解されにくいのは、「私的な場」で親しい関係に用いられる丁寧な表現、及び相手を和ませるために気遣って用いた砕けた表現である。

図6は、父が娘に対して丁寧表現や敬語を用いることに対する日中両言語における認識の日中対照図である。

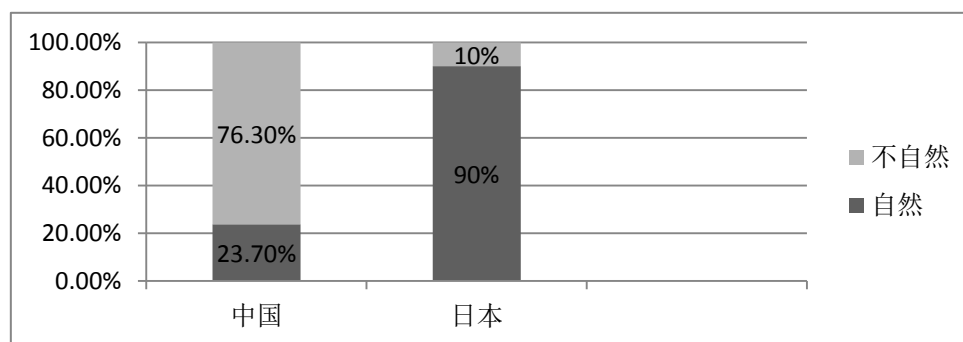


図6

³⁵ 表4-3.2.2(p.119)を参照

図 6 に示すように、中国語母語話者にとって、両者の関係が親である場合、上位者が下位者に対して丁寧表現や敬語を用いることは、JN よりかなり容認度が低い。

日本語において、基本的に「私的な場面での親子」の会話では普通体が用いられると認められている。会話例 (4) でも対話者は、始終話題が一貫して、普通体を基調として話していた。しかし、話者の「表現意図」により、話の途中で丁寧体を使うようになった。井出 (1992) でも論じられているように、「です・ます」のような丁寧体は、場のあらたまりの度合や話し手と聞き手の関係など、コンテキストに対する話し手の認識を表していると考えられる。23.7%の CL は会話 (4) の対話する双方の意図を理解し、JN と同じように、会話 4 が「自然」であると判断した。一方、多数の CL は、対話者が「家族である」場合、母語の干渉により、「上下」より「親疎」を重視して、丁寧体の使用は「不自然」であると見なした。

図 7 は、親友に「借金依頼」をする時、普通体を用いることに対する日中両言語における認識の日中対照図である。

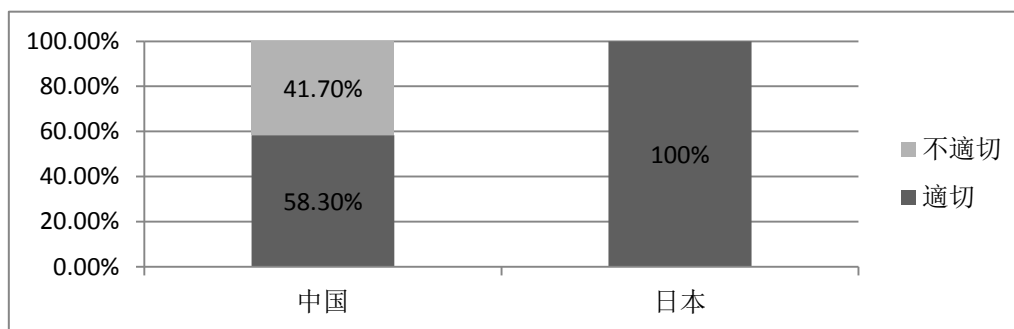


図 7

図 7 が示したように、JN の全員が「借金依頼」のような心的抵抗感が高い場面でも「同且つ親」の人に対しては「普通体」の使用が「適切」であると考えている。会話例 (5) の「お金を借りて、同居している家を出よう」という場面での相手にお金を貸してもらおうという内容は、相手に被害を与える可能性が高い発話行為である。このように相手との人間関係の均衡を崩しかねない場面でも「同且つ親」である人に対して、「普通体」が使用されるのは、日本語における「普通体」の使用が相手との心的距離を縮めるという機能を持っているからであり、「普通体」の使用が必ずしも相手への配慮にかけた粗野な表現となるわけではないということがわかる。したがって、日本語では私的な場合で「同且つ親」に対しては、「普通体」が原則的に使用される。

生田 (1997) によると、「ポライトネスは大きく敬語などの表現形式の選択に現れるポラ

イトネス・ストラテジーとインタラクションに現れるポライトネス・ストラテジーがあり、前者は人間関係によるものが多く、後者は負荷の度合いによるところが多い」という。

特にこの場面では、前者の人間関係による普通体の使用であると言える。普通体を使うことで親友であることを示しているからこそ人間関係が壊れないで済んでいるのである。もしここで丁寧体を使えば、非常に無礼な冷たい表現となり、二人の関係は壊れてしまうとも考えられる。このように、対話者の関係が「同且つ親」の私的な場合は、発話内容を問わず、まず、言語形式は普通体が選択されることが分かった。

他方、「不適切」と答えた CL に自分が書いた日本語を中国語に訳させると、以下のよう
に、能願動詞を用いた文型を多用することが分かった。

①悪いけど、お金がないですから、ちょっと貸していただけますか

→不好意思，我没钱了，能不能借我点钱？

②ちょっとお金を貸していただけませんか

→能不能借我点钱？／可不可以借我点钱？

③お金を貸してくれませんか。

→能不能借我点钱？／可不可以借我点钱？

④ね、B、私は交通費がないですが、お金を借りてもいいですか。

→哎，B，我没有交通费了，借我点钱可以吗？／可以借我点钱吗？

既述のように、中国語においては、対話者の地位が「同等」である場合、相手への配慮を敬語ではなく、婉曲的な表現で表す傾向がある。「お金を借りる」場合の会話は、相手との関係が親であっても、明らかに相手に被害を与える可能性が高い発話行為である。そのため、能願動詞の使用によって、聞き手に理由を説明する余地や弁解する余地を与え、相手の拒否行為への心理的負担を弱めることができる。中国語の能願動詞は日本語の丁寧体と同じような働きをしていると言えるだろう。このような母語の干渉があるため、半数近くの CL が「どれほど親友でも、お金を貸してもらいたいとき、普通体で言い出したのは失礼だ」と書いたのである。

会話例 (5) のように親友にお金を貸してもらおうように頼むという場面においては、略全員の日本語母語話者が、「少し交通費貸してもらえない」のような相手のポジティブ・フェイスに配慮したポジティブ・ポライトネス・ストラテジーを選んだ。

日本人と中国人も、親の関係の場合普通体が基本であることは同じである。しかし、日本人が場面を重視して、普通体／丁寧体を選んでいるのに対して、中国人は負担の度合い

を重視して選択しているという相違があった。

4.5 まとめ

本研究では、ポライトネス表現を中心に日中ポライトネス意識の異同点について「上下」「親疎」という人間関係に応じた会話の「内容」(対象)、ポライトネス意識の「表現方法」、「表現意図」を中心に分析した。その上で、日中ポライトネス・ストラテジーの異同点に焦点を当てながら考察を加え、以下のような結果を得た。

①「疎」である関係の場合

上の人が下の人に対して敬語を使うことは、中国人母語話者にとって不自然と感じられるのが普通である。つまり同じ場面において、上下と親疎とを比べると、中国人母語話者は聞き手の話し手に対する上下関係を最も重視している。そのため、敬語の使用に関して、中国人母語話者は「親疎」よりも「上下」により敏感だと言えるだろう。中国語では、下の人に対する敬意や配慮を、敬語ではなく、婉曲的な表現で表す傾向がある。日本語の場合、自分より下の人や親しい人に対してよりも地位が上の人や親しくない人に対して敬語がより多く使われている。敬語の使用が社会的習慣、社会的ルールとして構造的に組み込まれ、敬語が広範囲にわたって使われている。JNは、丁寧語や敬語の使用を社会的慣習、社会的ルールとして認識しているため、即ち上下の認識は前提となっているので、親疎の判断が目立って解釈されると言えよう。

上の人が下の人に対して普通体を使うことは、日中両言語共に、容認度が高いことが分かった。しかし、両言語の判断基準は異なっている。CLは、「上」である人が普通体を使うのが適切かどうかを「上下」と「場」によって判断するが、一方で、JNは、「場」と「内・外」によって判断する。会話例(3)の調査結果で示したように、公的場面であるため、40%の日本人被験者は普通体の使用が「不適切」と判断した。それに対して、60%の被験者は「内・外」という基準から、公的場面であるが、普通体を使うことに違和感を感じないと述べた。

下の人が上の人に対して普通体を使うことは日中両言語において容認されにくい。

以上の分析からわかるように、公的な場面においては、言語表現に影響を与えるポライトネス意識に関しては、CLが垂直方向の人間関係を表す上下関係をより重視している。これに対して、JNは上下の認識を前提として、水平方向のその上で、内外により言語表現を判断していることが分かった。

②「親」である関係の場合

上の人が下の人に対して敬語を使うことは、CLにとって、上位者の用いる丁寧な表現と同様に理解しにくい。

日本語において、基本的に「私的な場面での親子」の会話では普通体が用いられるが、本研究を通して、「表現意図」によって敬語が用いられることが認められた。一方、多数のCLは対話双方が「家族である」場合、母語の干渉で、「上下」より「親疎」を重視して、丁寧体の使用は「不自然」と見なしている。

また、日本語では私的な場面での友人同士の会話では、「同且つ親」に対しては、「普通体」が普通使用されている。これは、話し相手との関係が「親」とであると認めれば、話題に関わらず、会話に「普通体」が使用されても十分にポライトネスに配慮した発話になると言えよう。さらに、相手に対する誠実な気持ちを示すことが求められる場合、相手への負担の度合は度外視して、「普通体」を用いた方がよいことも分かった。

しかし、中国語においては、対話者が「同且つ親」の関係であっても、聞き手が持つ負担の度合いにより、適切なポライトネス・ストラテジーが選択される。話の内容が、相手に被害を与える可能性が高い時、半数近くのCLは母語の干渉で、「FTAの度合い」を見積もる三要素の合計が大きくなるので、大きな番号のストラテジー、つまり、ネガティブ・ポライトネス・ストラテジーが使われることになった。

4.6 日本語教育への示唆

以上分析してきたように、CLが日本人とコミュニケーションする際、母語の干渉により、相手に違和感のある言語行動を行う可能性がある。例えば、会話例(3)で見たように、中国人学生が同じ学校の疎且つ上の事務の人と話すとき、親しさを示そうとして普通体を使用したことが、失礼であると捉えられてしまうことも稀ではない。

本章で明らかになった日中ポライトネス意識の差異は、「上下」「親疎」という対人関係の視点から、「相手」、「場」、「内容」、「表現方法」、「表現意図」を考慮の上、会話を分析して得られたものであり、語用論的知識としても重要であるといえるだろう。そこで、日本語教育において、中国人日本語学習者にポライトネス・ストラテジーの選択やポライトネス意識の同異点を指導する際、言語形式の説明や羅列に止まらず、「上下関係」と「親疎関係」がポライトネス表現にどのように影響を与えるかを認識させることが必要である。その際、様々な場面における、相手との関係によるポライトネス・ストラテジーの選択についての日中の違いを具体的に提示しながら説明したほうが効果的であると考えられる。日本語教育の観点から、以下のようなポライトネス意識を指導する上での注意点を提示した

い。

(1)日本人のポライトネスの中では、上位者が比較的自由に言語形式の丁寧度を選択することができ、(上位者の普通体の使用に対する)社会の容認度が高いが、下位者が普通体を使い始めると無礼に感じられることが多い。この点については、指導していく必要がある。

(2)日本語のポライトネスの中で、地位が上の人であっても、地位が下である人物に対して、公的な場面においてまたは疎である関係を持つ場合、自分と相手との社会的距離と、聞き手の話し手に対する力および話し手の特定の行為によって聞き手が持つ負担の度合い、という要素を考慮して、基本的に丁寧体や敬語を使う。一方、私的な場面においては、上位者は必ずしも下位者に対して普通体を使うわけではない。したがって、様々な場面を学習者に提示し、それぞれの場面で、何故丁寧体又は普通体を使っているか、尊敬語・謙讓語を使っているかについて、文脈に沿って指導していくことが効果的だと考える。

(3)「場」の認識については、個人差が大きく、また個別の状況によっても異なるが、<改まり一くだけ>という点での類型化をすることで、「場」の位置づけを分かりやすくさせておく必要があるだろう。

(4)日本語を教える時、日本人が「自然」と思う会話を大量に用意して学習者に示し、学習者が、相手が社会的ルールに違反していると感じたとしても、すぐさまそれだけでマイナスの評価が下されるわけではないことを理解させる必要がある。また、聞き手は、発話に何か特別な意図が含まれているのかなど、話し手の意図を探りつつ、総合的に対話を評価すべきであると学習者に提示する必要がある。「意図」は重要なものであるが、客観的には発話者以外には見えないものである。そのため、学習者にポライトネスの視点から様々な会話の分析を行わせるといった方法を授業に導入することが重要である。その際、「場」と「相手(人間関係)」に応じた会話の「内容」、ポライトネス意識の「表現方法」「表現意図」に焦点を当てた教師による分析を学習者に提示することが重要である。このように、母語との対照を通して、日中ポライトネス意識の違いや、学習者自身の発話を日本人がどのように受け止めるのか、を学習者は認識することができる。このような授業は、学習者に自己の日本語使用について内省させる効果もあり、コミュニケーション教育に有効であると考えられる。

第5章 対人関係からみる日中ポライトネス意識Ⅱ —CLが誤解しやすい日本語ポライトネス—

近年の中国の日本語教育現場においては、情報伝達のための言語コミュニケーションの教育のみを目的とした指導だけではなく、円滑なコミュニケーションを遂行するための指導もしていくべきだという意見がある。中国人日本語学習者（以下 CL）が日本語でのコミュニケーションを通して人間関係を構築していくには、相手や話題の人物に対する認識を示すポライトネス表現が、非常に重要なものとなってくる。そのため、誰に、どんな時に、どのような形式を使うかを判断する能力を身につけることが日本語学習において必須の項目である。

遠山（2005）は、学習者が学習言語で問題なくコミュニケーションをするためには、語彙や文法など言語そのものを学習すると同時に、語用論的能力を発達させなければならないとし、語用論的能力は語用論的知識と密接に関係していると述べている。したがって、学習者が日本語母語話者（以下 JN）と同じように言語行動を行えるようになるためには、語彙や文法の知識のみならず、語用論的知識の習得も必要であると言えよう。

例えば、「先生、コーヒーをお飲みになりたいですか」という例は CL がよく使ってしまいう典型的な誤用例である。この例では、「先生」という人物に規範的な尊敬語を使ったにもかかわらず、相手を不快にさせる。これは学生が相手の私的領域を侵害し、先生が持っているネガティブフェイスを脅かしたためである。そういった場合、「たい」を用いた表現ではなく、「先生、コーヒーになさいますか。」のような表現の方がネガティブ・ポライトネス・ストラテジーの一種として適切だと考えられる。そういう意味で、規範的な日本語の言語形式を正しく使えることだけが円滑なコミュニケーションに結びつくわけではないという点にも注意しなければならない。

そこで、本章は、CLのJNに違和感を感じさせる誤用文、またCLが誤解しやすいJNのポライトネス表現を抽出し、日中ポライトネスに関する意識調査を行い、CLとJNのポライトネス意識の相違を把握するとともに、日中両言語におけるポライトネス意識の差異から、CLの日本語使用に存在するポライトネス意識の問題点を明らかにすることで、今後の中国における日本語教育、またCLの日本語習得に役立てることを目指す。

5.1 研究方法

5.1.1 使用データ

本章で使用するメール文は、平成20年度～平成22年度科学研究費補助金「談話分析に

基づく日本語ポライトネス指導教材開発」基盤研究(C) (課題番号 20520471 : 研究代表者 : 松村瑞子 研究分担者 : 因京子)pp. 72-143 から、研究代表者の許可を得て、引用したものである。

そのうち、メール 1、2、4 は松村瑞子氏、メール 3 は因京子氏が収集した例である。

5.1.2 調査の対象者

本調査は 2010 年 9 月から 12 月と 2013 年 9 月から 12 月の二回にわたって実施した。中国語側は日本語学習歴を三年間持つ日本語を専攻とする上級の学習者を対象とした³⁶。また、いずれも日本国際交流基金及び日本国際教育交流協会が主催する日本語能力試験の N1 に合格した学生である³⁷。なお、全員が日本での留学経験を持っていない。日本側の被験者は全て中国語の学習歴のない日本語母語話者³⁸である。調査対象者を以下の表 5-1 に示す。

表 5-1 調査対象者

被験者	人数	年齢
中国	50 名	20 代前半
日本	20 名	20 代~40 代

5.1.3 調査内容

本調査「日中ポライトネスに関する意識調査Ⅱ」(別添資料参照)では、JN と CL を対象に、敬語を含んだ日本語のメール文を被験者に示し、例文の表現について適切か否かを判断してもらった。適切でないと思う場合は、適切だと思う表現、及び不適切と思う理由を書いてもらった。

提示したメール文の内容は全て、日本語学習者にとって普段よく出会う、また、使用する可能性が高く、実用性がある場面の内容である。表 5-2 は使用したメール文の詳細である。

³⁶中国側は南京工業大学、南京師範大学、南京大学の日本語科四年生を対象者とした。

³⁷三年間の日本語学習歴を持ち、且つ N1 を取得した学生は、様々な話題の内容に深みのある読み物を読んだり、日本語母語話者とコミュニケーションをしたりする際、話の流れや詳細な表現意図を理解することができると推測される。

³⁸中国語からの影響をできるだけ避けようとした。

表 5-2 調査内容の内訳

メール①	日本の大学教授に研究生にしてくださいと依頼を行うメール
メール②	学生から日本のホームステイ先への手紙
メール③	日本人の先輩から論文のコピーを送って貰ったことに対するお礼のメール
メール④	日本の大学教授への博士論文提出期限についての質問のメール

5.2 結果と分析

ここでは、語形と運用³⁹の二つの面を中心に JN と CL の訂正文を分析する。その訂正した文から、日中両言語のポライトネス・ストラテジーの特徴を抽出する。さらに、日本人と中国人の訂正文を対照することで、中国人が誤りやすい日本語ポライトネスを特定する。また、CL のポライトネス意識を明らかにする。

5.2.1 中国人学生から日本の大学教授に研究生にしてくださいとの依頼を行うメール

(アンダーラインは被験者が訂正したところである)

<p>**先生</p> <p>① <u>こんにちは。</u></p> <p>②突然メールでお邪魔しまして (⑥本当に) 申し訳ございません。③はじめまして、中国の**と申します。④お忙しいところご迷惑おかけしてしまいました。じつは、この度、⑤先生の研究生になりたいので、⑦ (⑥お手紙) を⑦差し上げます。(⑥それでは)、(⑥まずは) 自己紹介させていただきます。…</p>

表 5-1 主な問題点

①「こんにちは」	②「お邪魔しまして」	⑤「先生の研究生になりたいので」	⑦「お手紙を差し上げます」	④「ご迷惑おかけしてしまいました」
話し言葉	話し言葉	自分の意志・希望を強く主張しているように感じられる	A. 「差し上げる」を使うと相手に対してよいものを与えるという含みがある	テンス

³⁹運用上の誤用：語形は正しいが、発話に関わる人物間の社会的関係と整合しない表現のことである。

語形上の誤用：その語形が文法上規範的ではない表現、また、テンスの間違った使用のことである。

			る（恩恵関係）	
			B. テンス	

このメールに敬語形式の誤りはないが、観察された殆どの問題は運用上の問題（①②⑤と⑦A）に集中している。

まず、JNの訂正結果を見てみたい。

表 5-1.1 日本人のアンケート調査

番号	不適切と思われる部分	理由	訂正人数
①	こんにちは —削除	メールにはこのよ うな日常挨拶用語 はいらない	14
②	突然メールでお邪魔しまして本当に申し訳ござ いませぬ —突然メールをお送りしたことをお許しくださ い。 —突然メールで申し訳ございませぬ —突然メールを送らせていただき申し訳ござい ませぬ		13
④	ご迷惑おかけしてしまいました —ご迷惑おかけします —ご迷惑をかけてしまい申し訳ありません		14
⑤ ⑦	先生の研究生になりたいので、お手紙を 差し上げます。 —先生の研究生にさせていただきたく思い、お手 紙を送らせていただきました —先生の研究生になりたいと思い、メールを送 らせて頂きました —先生の研究生になりたいと考え、メールさせ	・目上の人に「差 し上げる」をい わない ・勝手に送ったの だから、「させて 頂いた」の方が 適切	20

	て頂きました —先生の研究生にならせていただきたいので、 メールさせて頂きました	・先生に対してフ ランクすぎるた め	
⑥	それでは —削除 —お忙しいと思いますが	唐突	12

運用上の誤用の訂正：

①②は話し言葉なので、メールに相応しくないと判断され、70%近くの被験者がそれらを削除した。

⑤⑦目上の人に対して、「先生の研究生になりたいので」は失礼である。その理由は、自分の意志・希望を理由としてメールを送りつけるという相手の領域に侵入する行為（即ちネガティブ・フェイスを脅かす行為）を行っているためである。また、「メールを差し上げる」という表現は、「自分が勝手に送ったメールが「相手に謹んで献上したよい物」である」というような含みを出すため失礼である。母語話者の訂正案では、「させて頂いたく」という恩恵表現が用いられていた。

⑥「それでは」はメール文において、「唐突」感があるので、12人（60%）がそれを削除した。また、「実は」について、「突然のメールで『実は』は変」だという理由から、「削除した方がいい」という意見も出た。しかし、一人しかいないので、個人差があると考え、ここでは分析の対象としない。

語形上の誤用の訂正：

⑦：単純なテンスの間違いなので、全ての被験者は「ます」を「ました」に訂正した。

④：日本人の訂正した文を見ると、日本人は要求を出す（依頼する）前に、これから自分の勝手な行動や要求によって相手のフェイスを脅かす可能性が高く、相手を持っているネガティブ・フェイス、すなわち「自分の領域を侵害されたくない」という意識に違反したということを経験した上で、謝罪を伴う発話をよくする。謝る（謝罪）というのはまず自分に非があることを認めることであろう。つまり、まず謝罪することによって、自分が正しくないということを経験する。これにより、相手に無理強いしない（させない）感を与える。日本人はこれから自分の行動や要求が FTA である可能性が高いため、話し手が発話をする前に謝罪することにより、聞き手を侵害するつもりがないことを最初に言明することで、相手への FTA を最小限に抑えようとしている。これからの頼みごとに

対する謝罪行為に、「ます」形が使われることに「70%」の日本人被験者はふさわしいと考えている。

次に、CLの訂正結果を見てみたい。

表 5-1.2 中国人のアンケート調査

番号	不適切と思われる文	理由	回答人数
①② ③④	こんにちは、…中国の**と申します。 —はじめまして、中国の**と申します。突然、～。(14) —突然、～ 申し上げます／でございます。	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙では「こんにちは」という言葉は不自然だと思う ・自己紹介を先にしたほうがいい ・先生へのメールなので、もっと丁寧な言葉を使うべき 	17
④	お忙しいところご迷惑おかけしてしまいました —～誠に恐れ入りますが —～(消す) —～ご迷惑様ですが ×—～ご迷惑をおかけして申し訳ございません ×—～ご迷惑おかけしまして本当に申し訳ございません。 ×—～ご迷惑をおかけしておりました(2) ×—～ご迷惑してしまいました(1) ×—～ご迷惑をおかけしました(1)		24
⑤⑦	先生の研究生になりたいので、お手紙を差し上げます ×—先生にお手紙を差し上げるのは、先生の研究生になりたいのです		10

	×～になりたい（ですが／から）、お手紙を差し上げる（こと）になりました（6） ×…、差していただきます（1） …、お送りいたします（1）		
⑥	お手紙—メール それでは —ところで —消す 本当に—誠に まずは—（消す）		9
	適切と思う		7

運用上の誤用の訂正：

- ①②：中国人日本語学習者が訂正した文からわかるように、話し言葉と書き言葉の違いに関する知識を多くの学習者が身につけていない。
- ⑤⑦：中国人日本語学習者が訂正した文から分かるように、中国人日本語学習者は日本語において相手の恩恵を示す表現が重要であることが認識していないため正しく使えないのと考えられる。

中国人も相手と自分との地位上の差を認識しながら、行動している。「申します→申し上げる／でござる」などのことばの使用によって、できるだけ丁寧な言葉遣いをするように努めている。しかし、殆どの学習者は「差し上げる」と「させて頂く」の含みの違いを十分に理解していないため、十分な修正はできなかった。

語形上の誤用の訂正：

日本人は要求を出す（依頼する）前に、まず謝罪という行動をとる傾向がある。頼み事をする前に、まず謝るという意識から、④が「ます」を使用することが正しいと考えられる。このことから、④「ご迷惑おかけしてしまいました」の「ました」はテンスの間違いで、「ます」に書き直すべきである。中国人が④の誤用を訂正した文全体を見ると、14人（28%）が「はじめまして、**と申します。突然メールして／お忙しいところご迷惑をおかけしました／おかけして申し訳ございません」というように書き直した。つまり、中国人日本

語学習者は、メールにおけるテンスの誤りを訂正することができなかったのではなく、語順からみると、④の謝罪はこれからの行動に対する謝罪表現ではなく、自分が勝手に相手にメールを出したことについて謝っている行為と考えているようである。そのため、過去形「ました」は正しいと考えているのである。

④の訂正文に「ご迷惑してしまいました」のような謙譲語の形式上の誤用や二重敬語があるが、いずれも一人か二人しかいないので、ここでは検討の対象としない。

本調査からわかるように、先生へのメールを訂正するとき、中国人日本語学習者は表現の丁寧度を上げるために言葉を書き換えることに力を尽くしている。

3章でも論じたように、日本語のように相手との社会的或いは地位の差を言語レベルによって表現する言語とは異なり、中国語では相手との差は、主に相手に対する呼称や語彙の意味を加味した表現によって表される。また、中国語の敬意表現は主に主語や語彙の変化によって表現されるため、日本語のように動詞の変形によって敬意を表す手段に乏しい。そのため、CLは母語の干渉で、相手のネガティブ・フェイスを配慮するために、「お手紙」を「メール」に、また、「たいので」を「ですか／が」に、さらに、相手への敬意を示そうとして、「本当に」を「誠に」に訂正した。これらの事例に鑑みると、日本語と中国語の根本的な相違を示して日本語ポライトネスを教授することが求められていると言えるであろう。

5.2.2 学生から日本のホームステイ先への手紙

＊＊様

はじめまして。＊＊の国際交流課を通してホームステイを申し込んでいた①＊＊です。

(③今回)の私のホームステイの件では、心より②感謝差し上げます…

私は8月から夏休み(③なので)、8月の10日から17日まで④お世話になりたいと(③思
います)。その他の日は、アルバイトやクラブ活動がありまして⑤無理です。…

⑥お返事をお待ちしております。7月21日から8月5日までは調査旅行を計画しております(③ので)、7月20日までに⑦届くようにお願いいたします。…

このメールの内容は、相手の都合よりも自分の都合を優先して書かれており、相手への配慮が感じられない。このため、不適切であると認められる。そのような表現を「8月の10日から17日までのご予定はいかがですか。」「アルバイトやクラブ活動がありまして、都合が悪く滞在できそうにありません」「7月20日までにお返事頂けると幸いです」のように、相手の都合を優先した表現や相手に配慮した表現に変えることによって、礼儀正しい表現

になると考えられる。また、⑤「無理」は失礼な言い方なので、削除するか、あるいは保留する場合、詫びを添えて、事情を詳しく説明したほうが礼儀正しいと考えられる。

表 5-2.1 日本人のアンケート調査

番号	不適切な部分	理由	回答人数
①	**です —と申します		2
②	感謝申し上げます —感謝申し上げます		17
③	思います —思っています。		2
⑤	アルバイトやクラブ活動がありまして無理です —都合が悪く滞在出来そうにありません —勝手に言って申し訳ないですが、アルバイトやクラブ活動がありまして無理です —アルバイトやクラブ活動があるので参加できません	・滞在先と同じ目線であるため ・自分のできない都合の前にわびる ・『無理』は失礼な言い方、削除	17
⑦	7月20日までに届くようお願いいたします —7月20日までに届くようにしていただけたら幸いです —恐れ入りますが、7月20日までに届くようお願いいたします (2) —7月20日までにお返事頂けると幸いです	・お世話になる相手に対してはなるべく腰を低くして接したほうがよい。 ・『届くように…』は失礼	16

運用上の誤用：

- ⑤：17人（85％）の母語話者は、「無理」という言葉への抵抗感から、失礼だと感じている。
⑦のような表現は、自己優先的で、相手への配慮が全く感じられない。熊田(2001)は、一般的に、高い配慮意識が要求される場合、「てもらう」系の使用率が高いと指摘している。

また、依頼行為の負担度が大きい場合も「てもらう」系の使用率が高いという。メール
 (2) のようにお世話になる疎である関係の人に、日本語母語話者は「てもらう」の謙讓語「て頂く」を使うことによって、自分の相手からの恩恵行為に対する配慮意識を示すことができると言えるだろう。

語形上の誤用：

「申し上げる」は「言う」の謙讓語で、「感謝申し上げます」や「御礼申し上げます」は定型文であり、書面に出すことで十分感謝の気持ちを表す挨拶となる。②「感謝差し上げます」は明らかに誤用である。

表 5-2.2 中国人のアンケート調査

番号	不適切と思われる部分	理由	回答人数
①	**です ーと申します ーでございます	敬語を使うべき	7
②	感謝差し上げます ー心より感謝いたします ー感謝申し上げます ー感謝の意を申し上げます	「差し上げる」が間違った	8
③	今回ーこのたび なので、ので ーですから ーため ×ーまで 思いますー存じます	敬語を使うべき	3
④	お世話になりたいと思います ーお宅にお泊まりしたいと思います ーお世話になりたいと存じます ーお世話になりたいと思っております ーお世話になってよろしいでしょうか ×ーお世話になるたいと思います	相手の自分の感謝を示す時、「ありがとうございます」という言葉を使ったほうが良い	12

	×—お世話になってとてもありがとうございます		
⑤	無理です —申し訳ございません (2) —外で泊まります (1) ×—お宅へ帰って住むのは無理です ×—無理となります ×—都合がちょっと ×—失礼いたします ×—都合が悪いですが ×—無理でございます —消す	「無理」と言うと、失礼に感じられる	19
⑥	お返事をお待ちしております —ご返事をお待ちしております —返信くださいますようお願いいたします	文末に置いたほうがいい	7
⑦	届くようお願いいたします —お返事をお願いします (3) —届いたら楽しいです (1) ×—お届けなるようお願いいたします (1) ×—届いてくださるようお願いいたします (1)	「届く」を使うのは強引に要求する感じがする	6
	相手を頼む場合にもっと敬意を払ったほうがいい		11
	全文が適切と思う		5

メール (2) を出す対象は疎且つお世話になる人なので、「もっと敬意を払ったほうがいい」という学習者の答えからわかるように、学習者は、この文では「敬語を使うべきである」と認めている。CL の答えを見ると、多様な意見があることが分かるが、注目する点として、学習者の訂正は単語の丁寧度に集中していることが分かった。

運用上の誤用：

- ①：原文は間違っていないが、「敬語を使うべき」という理由で、7名のCLは「です」を「申す」と「でございます」に直した。
- ②も同じように「思います」を「存じます」、「今回」を「このたび」へともっと丁寧な形に修正した。
- ⑤：19名の学習者が、「無理です」という言い方は「失礼」と判断した。この人数は中国人被験者の38%しか占めていない。「都合がちょっと」のような話し言葉を使ったり、「失礼いたします」のような誤り表現を使ったりしている。相手へのFTAを侵害しないようにするためには、どのような表現が適切なのか、まだ把握していないようである。
- ⑥：7人は「お返事」を「ご返事」に直した。
この7人の学習者は「返事」に「お・ご」の両方を付けることができるということが分かっていないようである。
- ⑦：50人中、母語話者のように「ていただく」を使用して、自分が相手からの恩恵行為に対する配慮意識を示そうとする人は一人もいなかった。

語形上の誤用：

- ②：CLはこの場合、謙譲語を使うべきことに気付いたが、「感謝申し上げます」という定型的な言い方をマスターできず、50人中、42人がこの誤りを認識することができなかった。
- ⑦：「お届けなるように」「届いてくださるように」のような単純に語形が敬語として規範的ではない表現が見られたが、人数が非常に少ないため、ここでは、検討の対象としない。

以上の分析から分かるように、メール文に現れた表現の多くが、書き手自身の都合を優先したものであることに日本人被験者は気づき、それらを修正した。しかし、CLは日本人の「相手の都合を優先する」というポライトネス意識を理解できず、母語の干渉により、一生懸命に単語の丁寧度を上げることを通して相手への尊敬の気持ちを示そうとしている。このような理由から、日本人母語話者に違和感のある表現になってしまったのだと考えられよう。

5.2.3 日本人の先輩に対するお礼の手紙の一部

**様、
 時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。
 先日は(①お書きになった)(②論文)を(③送ってくださり)④ありがとうございます
 います。(⑤送った)論文は全部⑥お読みいたしました。⑦私の論文のテーマにぴ
 ったりで役に立ちました。…

表 5-3 主な問題点

⑥	謙譲語の誤用
⑦	自分の都合を優先しており相手への配慮が感じられないため失礼に感じられる

表 5-3.1 日本人のアンケート調査

番号	不適切な部分	理由	回答人数
④	ありがとうございます —ありがとうございました		8
⑤⑥	送った論文は全部お読みいたしました —送って頂いた論文は読ませていただきました —送った論文は全て拝読いたしました —送って頂いた論文は拝読しました —送って頂いた論文は全て拝読致しました。 —その論文はよませていただきました。	謙譲語がおかしい	17
⑦	私の論文のテーマにぴったりで役に立ちました —私の論文のテーマに沿っており大変役に立ちました —大変参考になりました	「役に立ちました」は失礼であるため	15

運用上の誤用：

⑦：「自己利益」のみに言及した発言であり、相手からの恩恵を全く考慮していない。75%の母語話者が「失礼」であると感じている。

語形上の誤用：

- ④：「ます形」（60％）を使うか「過去形」（40％）を使うかについて、母語話者の意見がかなり分かれている。
- ⑤：「送った」を「送っていただいた」に直して、自分の相手からの恩恵行為に対する配慮意識を示している。
- ⑥：20人中16人は謙譲語の形が間違っていることに気づき、「拝読」や使役形「読ませていただく」に書き直した。

表 5-3.2 中国人のアンケート調査

番号	不適切な部分	理由	回答人数
①	お書きになった —書かれた（2人） ×—お書きした（1人）		3
②	論文 —ご論文（1人） ×—お論文（1人）		2
③	送ってくださり —送ってもらって —送っていただいて ×—送ってくださった（1人）		7
⑤	送った —送られた —お送りの —お送りになった	ここは尊敬語を使ったほうがいいと思う	20
⑥	お読みいたしました —拝見いたしました —拝読しました	謙譲語が違った	15
⑦	私の論文のテーマにぴったりで役に立ちました ×—私の論文のテーマと同じで本当に助けりました（2） ×—私の論文のテーマにぴったりする部分もあります	失礼	10

	<p>ので、本当にお役に立ちました (1)</p> <p>×いろいろと教えて本当にありがとうございます (1)</p> <p>—私の論文のテーマにぴったりで、参考になりました</p> <p>—私の論文のテーマに大幅に役に立ちました.</p> <p>—私の論文のテーマに適切で役に立ちました</p> <p>—私の論文のテーマにうまく合いますので、大変参考になりました</p>		
	<p>言い方が失礼で、先輩への手紙なので敬語を使ったほうがいい</p>		5
	<p>先輩への手紙なので、尊敬する必要はない</p>		5
	<p>全文が適切と思う</p>		13

運用上の誤用：

- ①：訂正された文は敬語として間違いがないが、日本人の答えと正反対で、この問題については考察で詳しく分析したいと思う。
- ⑥：訂正された文は正確であるが、この問題を認識した学習者は15人（30%）しかいない。
- ⑦：原文に違和感を感じ、訂正した人はわずか10人（20%）である。しかし、訂正された文の多くは、「自分の都合を優先して相手への配慮が感じられない」ため、原文と同様に、失礼に感じられる。

語形上の誤用：

①②③の訂正された文に明らかな語形上の誤用がある。しかし、人数が一人、二人しかいないので、ここでは議論の対象としない。

このメールには、敬語形式の誤り（⑥）と運用上の問題（⑦）が一か所ずつある。いずれも、中国人日本語学習者が犯しやすい問題である。

⑥の「お読みいたしました」は「読む」の謙譲語として使われ、自分の動作を低くする表現である。この時は自分の「読む」という動作は相手に関与しない。しかし、このメール文は「相手から論文をもらったから、読むことができる」という状況について、感謝しているものである。相手から恩恵をもらうことによって、自分の動作が可能になる。この

場合、「拝読する」「読ませていただく」が相手に間接的に感謝を表す表現としてふさわしい。しかし、多くの学習者（70%）はこの問題を認識していない。

また、⑦は一見文法上間違いがなく、単語の誤用もないが、「自己利益」のみに言及しており、相手からの恩恵を全く考慮していない。学習者のこのような表現は日本語母語話者に「失礼だ」と思われる。

5.2.4 日本の大学教授に博士論文提出期限についての質問のメール

**先生、

①ご無沙汰してしまい申し訳ございません。②**です。

さて③早速ですが、博士論文提出の日程に関して④ご相談したく、⑤メール致しました。

⑥本来ならば、お部屋に伺ってご相談すべきところを、このような形で申し訳ございません。

⑦博士論文に関しては、果たして書けるのかどうかという問題もありますが、兎にも角にも頑張ろうと思っております。

そこで⑧お尋ねしたいのが、遅くともいつまでに⑨原稿を出したらいいかということです。

このような質問をすること自体、学生として⑩言語道断ではありますが、ご指示いただければ⑪幸いに存じます。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

これは日本人母語話者が書いたメール文である。このメールには文法や語彙の誤りがなく、また、「ご無沙汰してしまい申し訳ございません」「ご相談したくメールいたしました」「ご指示いただければ幸いに存じます。」のような敬語の使い方も間違っていない。さらに、「本来ならば、お部屋に伺ってご相談すべきところ」のような相手の都合を優先する表現や「お忙しいところ誠に恐れ入りますが」のような謝罪行動といった、相手に配慮した表現も用いられており、問題点は見当たらない。

表 5-4.1 日本人のアンケート調査

番号	不適切な部分	理由	回答人数
②	**です. —所属の**です		1
⑨	言語道断 —恥ずかしい限りですが	口調が強すぎる	1
⑩	幸いに存じます. →幸いです.		1
	適切と思う		17

日本人母語話者のアンケート調査の結果からも分かるように、言葉遣いに個人差はあるが、ほぼ全員（17人／20人）がメール（2）には敬語に関する誤りはない、適切な文だと判断した。

表 5-4.2 中国人のアンケート調査

番号	不適切と思われる文	理由	回答人数
①	ご無沙汰してしまい申し訳ございません —お久しぶりです —ご無沙汰しております —ご無沙汰いたしまして申し訳ございません ×—ご無沙汰してしまいます		9
②	**です —と申します		6
③	早速ですが —（消す）		4
④	相談したく —したいので		2
⑤	本来ならば、お部屋に伺ってご相談すべきところ を、このような形で申し訳ございません。 —消す	書く必要がない	5

⑥	博士論文に関しては、果たして書けるのかどうかという問題もありますが —消す	自信がないように感じられる	5
⑦	お尋ねしたい —伺わせていただきたい ×—お伺いたい	「尋ね」は敬意を表せない。	3
⑧	原稿を出したらいいかということです。 —原稿を出したらよろしいでしょうか		4
⑨	言語道断ではありますが —言語道断ですが		3
	全文が適切と思う		13

中国人学習者が書いた理由から分かるように、ほぼ全員がこのメールの内容については問題がないと認めている。しかし、学習者はより丁寧な言葉を使うことによって、大学教授という相手に敬意を払おうと努めていることが分かった。

語形上の誤用：

①⑦：敬語の語形が正しくないという意見がある。

「ご無沙汰してしまいます」「お伺いたい」（各1名である。）

日本側と比較すると、メール（1）と同じように、中国人日本語学習者は、語彙を入れ替えることによって、丁寧度を上げようと努めていることが分かった。

例えば、①「ご無沙汰して」→「お久しぶりです」

②「です」→「と申します」

⑧「いい」→「よろしい」

以上の分析から、多くの上級日本語学習者は敬語の形式的な表現（文法）は身につけているものの、敬語意識、特に恩恵行為に対する配慮意識に関して、混乱していると言えるだろう。

5.3 ポライトネスに関する問題意識の日中対照

前節では、JNとCLのポライトネス意識に関するアンケート調査結果を踏まえ、ポライトネス表現の実例を語形と運用の二つの面から分析した。

以下では、母語話者と学習者の訂正した文を対照して、CL のポライトネス意識に関する問題点をまとめ、日中両言語におけるポライトネス意識の差異を究明する。

5.3.1 語形上の問題における日中対照

ここでは、日本人母語話者と中国人日本語学習者の敬語を訂正した文について、語形上の問題の分布状況を調べ、日本人と中国人日本語学習者の敬語形式上の差異を比較する。

メール (1) (2) (3) における語形上の誤りを訂正した文の日中の対照図は以下の図 8、9、10 のようである。

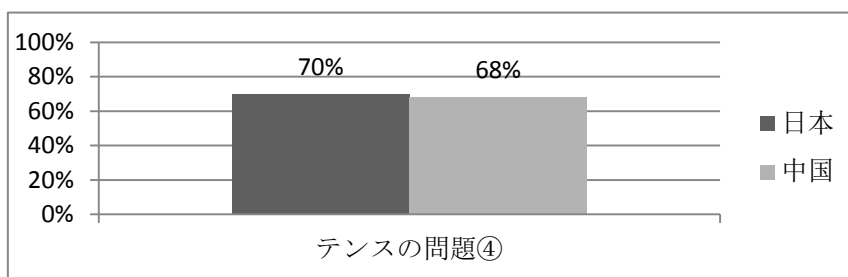


図 8 メール (1) における日中の訂正の正確率の対照

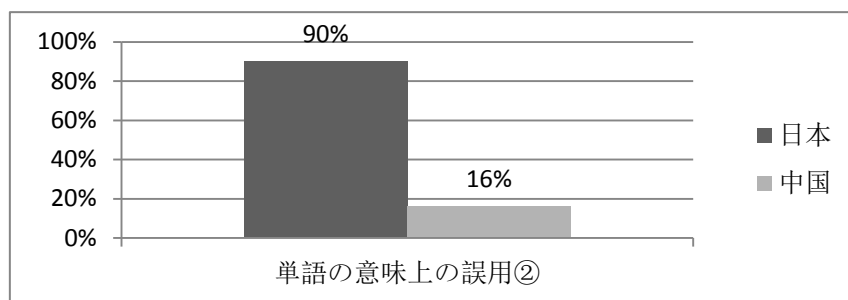


図 9 メール (2) における日中の訂正の正確率の対照

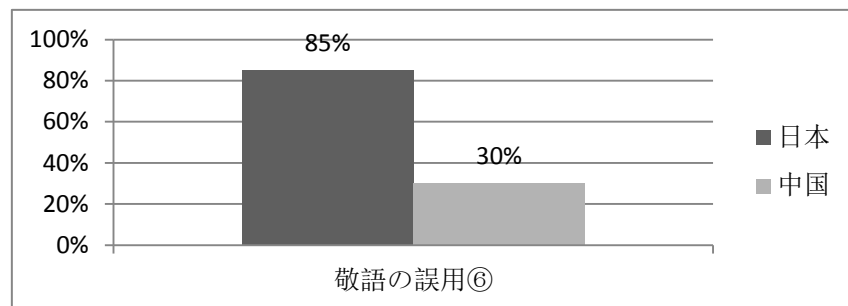


図 10 メール (3) における日中の訂正の正確率の対照

メール (1) の時制の誤りについて、日中でほぼ同じ訂正率を保っている。上級学習者にとって文の意味を理解するのに妨げがほとんどないので、時制を正しくすることは大きな問題にならないと言えるであろう。

メール (2) の「感謝差し上げます」は明らかに単語の誤用で、日本人全員が正しく訂正したのに対して、CL の正解率は 16% しかない。相手に感謝を示すとき、「感謝を言う」という定型文を使うべきで、この時、相手へ敬意を払うならば、「言う」をその謙譲語である「申し上げる」に変換する必要がある。多数の CL が、この場合、自分の動作を低くして、謙譲語の使用が適切であると認めながらも、「差し上げる」を「あげる」の謙譲語と考え、「感謝を差しあげる」という文が不適切であることには気付いていない。

『大辞林』⁴⁰は「拝読」を「読むことをへりくだっていう語。つつしんで読むこと」と説明している。「拝読する」は「読む」の謙譲語として使われる。メール (3) においては、⑥の「お読みいたしました」は「読む」の謙譲語の形の誤用で、全ての母語話者は「読む」の正しい謙譲語「拝読」に訂正したり、また、「読ませていただく」という「相手に許しを請うことで動作を行う」という形を使った。

日本人被験者は、「拝読」と「読ませていただく」というような相手との恩恵関係を表せる謙譲表現を使うことによって、相手から恩恵を受けて、自分が「読む」ことができるという感謝の意を表そうとしていることが分かった。

50 人の CL の内、35 人は「お～する」が謙譲語の形なので、自分の動作を低くするため、「お読みする」という謙譲表現が適切だと考えているようである。これは一見単純な敬語の語形上の問題に見えるが、実は CL は日本人母語話者のポライトネスにおいてこのような「恩恵意識」を含ませる表現を用いることの重要性を理解できていないため、このような不適切な敬語使用をしてしまったのだと考えられる。

中国の大学の日本語学科のカリキュラムには「総合日本語 (精読)」(日本語の文章を文法上から細かく教えること) という科目があり、週に平均 4 コマ、1 年生から 4 年生の前期までその授業が続けられる。このことから、被験者である上級日本語学習者は、三年間 (アンケート調査を行った時点で) の勉強を経て、文法知識は十分身に付けていると考えられる。また、本調査においても、CL が書いた訂正文には、文法や時制に関しての間違いは少なく、大きな問題はなかった。

しかし、日本語教育現場の中で、学習者が日本語でコミュニケーションする際、特に文章やメールを書くとき、文法の問題は少ないが、違和感のある表現や失礼な言い方をする

⁴⁰松村明編集(1995)『大辞林(第二版 机上版)』三省堂。p. 2049

ことがしばしばある。したがって、上級日本語学習者にとって、日本人とのコミュニケーションにおいて問題を引き起こす要因の多くは運用面での誤用である。以下では、運用上の日中両言語の違いについて考察を行う。

5.3.2 運用上の問題における日中対照

ここでは、JN と CL の訂正文をみながら、運用上における各問題の分布状況を調べ、日本人と中国人日本語学習者のポライトネス意識の差異を比較対照する。

メール (1) (2) (3) におけるポライトネス表現の運用上の誤りを訂正した文の正解率の日中の対照図は以下の図 11、12、13 のようである。

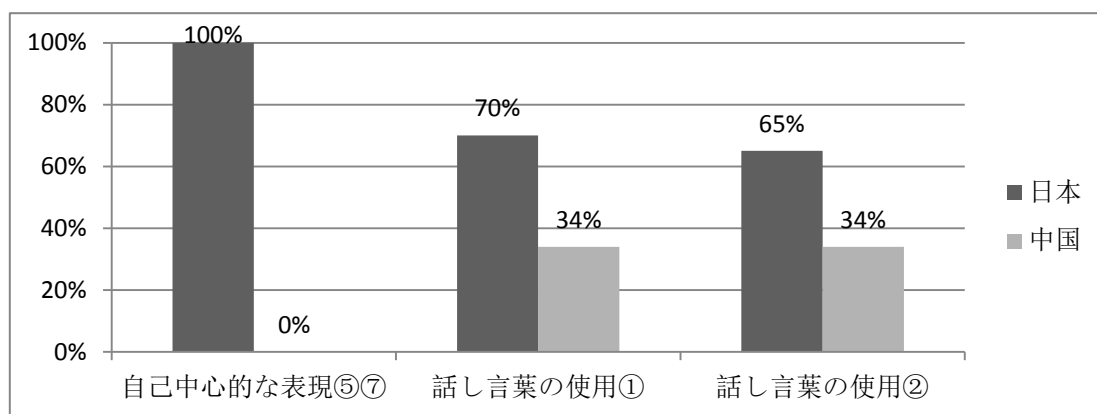


図 11 メール (1) における日中の訂正の正確率の対照

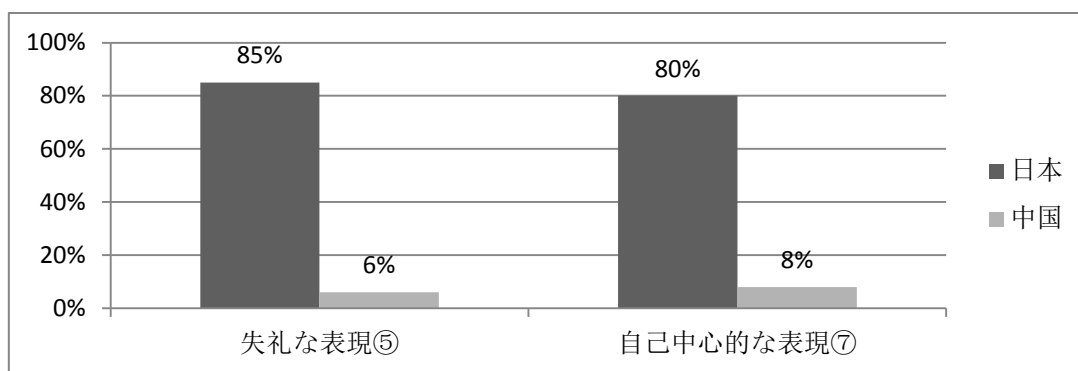


図 12 メール (2) における日中の訂正の正確率の対照

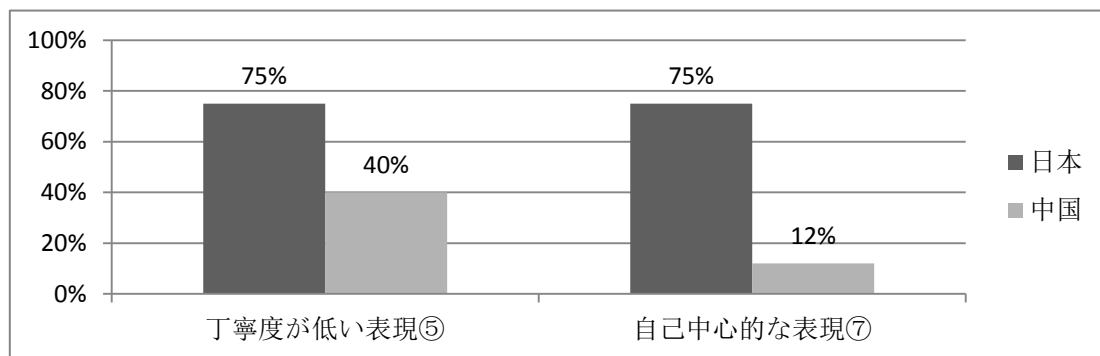


図 13 メール (3) における日中の訂正の正確率の対照

図 11、12、13 から分かるように、中国人上級日本語学習者の場合、ポライトネス表現の運用上の誤用の割合が、語形上の誤用の割合よりも高い。また、訂正された文の正確率も低い。

まず、メールでの出現率が一番高い誤り「自己中心的な表現」から検討する。

前節の分析からわかるように、メール(1)とメール(2)は、「自己中心的な表現」が使われているという理由から、不適切であると判断された。また、前節で語形上の問題として取り扱われたメール (3) の⑥も同じ理由で、不適切と判断された。

熊田 (2001) では「待遇意識を強く働かせるべき相手」の場合「てもらう」系の使用率が高いと述べられている。また、依頼行為の負担度が大きい場合も「てもらう」系の使用率が高いと指摘されている。益岡 (2001)、仁田 (1991)、高見 (2000) は日本語の「～てもらう」構文は恩恵性を持つと述べている。蒲谷・川口・坂本 (1998:105-108) は、「いただく、書いていただく、お書きいただく」のような、いわゆる「謙譲語」の中の、「動作の主体を高くしない+動作に関係する人物を高くする+動作に関係する人物の恩恵を表す」敬語を「恩恵間接尊重語」と呼んで、従来の「尊敬語」や「謙譲語」の中でも「恩恵」の要素のあるものとなないものを概念的に区別している。また、動作の主体を高くすると同時に動作の主体からの恩恵を受けたことを表す、「くださる、書いてくださる、お書きくださる」のような「恩恵直接尊重語」(蒲谷他 (1998:49)) もある。この「恩恵直接尊重語」は、従来いわゆる「尊敬語」と呼ばれた語群の中で「恩恵」の要素のあるものを一分類としており、恩恵の要素が加わった敬語として扱うものである。「恩恵直接尊重語」は、話者に動作主体から恩恵が与えられたという認識や意識があるとき、「くださる、～てくださる」の使用によってその認識・意識を表す行為となり、同時に話者のそうした認識・意識を表すための表現形式となって働く敬語である。このように、日本語の敬語の中には「恩恵」を弁別要素とした語群があり、恩恵・利益の授受がもたらす際の人間関係に対する認識を敬

語体系に組み込んで、恩恵を与える側と受ける側について敬語体系の中で弁別している。

菊地（1997）は相手（または第三者）から許可を得た場合、また、相手（または第三者）より恩恵を受けた場合に「～（さ）せていただく」を使うのが適切であると指摘している。

JNはこのような「恩恵意識」を持ち、「ていただく」や「～（さ）せていただく」のような形の使用によって、相手と自分との「恩恵関係」をはっきり示した。他方、CLはこのような「恩恵行為に対する配慮意識」が低いことから、訂正文の正確率が非常に低い。

メール（3）の⑦も同じように、「恩恵」を意識せず、92%のCLは正しく訂正することができなかった。

次は、丁寧度の低い表現について、日中両言語の差異を対照する。

メール（3）の⑤の先輩からもらった論文を「送った論文」と称することについて、15人の日本人被験者が「不適切」と判断している。そのうち、14人（70%）が「送っていた論文」というように「被動作主（即ち論文を受け取った人）を高くしない+動作主（即ち論文を送った人）を高くする+動作主である人物からの恩恵を表す」恩恵間接尊重語を使うことによって、相手への配慮を示している。しかし、CLは、「ここでは尊敬語を使うべき」という理由から、「送られた」、「お送り」、「お送りになった」のような直接相手の動作を高くする尊敬語を用いたのだと考えられる。

中国人日本語学習者が訂正した文から、もう一つの特徴が明らかになった。

第3章で、日中ポライトネス・ストラテジーの特徴と同異点を分析することによって、文脈依存性の極めて高い日本語の敬語と違い、中国語の敬語表現は、その文字通りの概念的な意味をそのまま持っているので、対人関係の待遇的な意味効果は、文字通りの意味を介して二次的に含意されたものになる。日本語のように相手との年齢或いは地位の差を言語レベルによって表現するのは異なり、中国語では相手との差は、主に語彙的意味を加味した表現によって表される。このことから、母語の干渉により、メール（1）の①②⑥、メール（2）の③、メール（3）の②の訂正文がいずれも語彙的意味を加味した表現で、中国語の敬語使用における語彙中心の特徴がみられた。メール（4）も全体的に文法や語彙の誤りがなく、敬語の使い方も誤っていない。日中両国の被験者共に、このメールの文全体は問題ないと認めている。しかし、学習者は、上位の相手に対しては語彙的により高いレベルの敬語を使うことによって相手に敬意を払おうと努めている姿勢が見られた。

5.4 まとめ

本章では、JNとCLの訂正文を分析した。訂正された文から、日中両言語のポライトネス・

ストラテジーの特徴を再確認しながら、日本人と中国人の訂正文を参照し、語形と運用の二つの面を中心に中国人が誤りやすい項目を検討した。日中両言語におけるポライトネス意識の差異を究明し、CL のポライトネス表現に関する意識を明らかにした。その結果は以下の三点にまとめられる。

①語形

以上の対照研究から分かるように、上級日本語学習者の日本語の語形上の間違いは少ない。

まず、時制の誤りについての訂正は、母語話者とほぼ同じ正解率を保っている。このことから、上級学習者は文の意味を正しく理解することができていることが分かった。

しかし、「感謝差し上げます」のような単語の誤用の訂正の正解率は 16%と低い。相手に感謝の意を表す場合、「感謝を言う」という定型文を使い、さらに、相手へ敬意を表そうとするならば、「言う」の謙譲語「申し上げる」を使うべきである。多数の CL が、この場合、自分の動作を低くする謙譲語の使用が適切だと認めているが、「差し上げる」には「何か良いものを相手にあげる」を言う含みを出すことになり、即ち自分の感謝が相手に対して「良いもの」だという含みを出してしまい少々無礼に感じられることに気付いていないのだろう。

②運用

中国人上級日本語学習者は敬語の運用上の誤用が語形上の誤用より数が多く、訂正された文の正確率も低い。日本人母語話者に「自己中心」と感じさせる表現が多数用いられている。日本語では「待遇意識を強く働かせるべき相手」には「てもらう」系の使用率が高い。しかし、CL はその恩恵性を殆ど意識していない。CL は日本語の恩恵・利益の授受がもたらす際の人間関係に対する認識が低い。即ち、「恩恵行為に対する配慮意識」が不足している。

③文脈依存性の極めて高い日本語の敬語と違い、中国語の敬語表現は、その文字通りの概念的な意味をそのまま持っているので、対人関係の待遇的な意味効果は、文字通りの意味を介して二次的に含意されたものになる。日本語のように相手との社会的或いは地位の差を言語レベルによって表現する言語とは異なり、中国語では相手との差は、主に語彙的意味を加味した表現によって表される。CL はこの敬語表現の日中の違いを認識できていないため、自分が積極的により丁寧な言葉を使うことによって相手に敬意を払おうと努めている姿勢が見られた。

5.5 日本語教育への示唆

本章では、JN と CL のポライトネス意識及び CL のポライトネス表現の使用実態に関するアンケート調査を行った。調査を通して、ポライトネス表現の実際の使用状況を把握するとともに、日中両言語におけるポライトネス意識の差異から、CL の日本語のポライトネス意識、および日本語ポライトネス表現の使用に存在する問題点を明らかにした。ここでは、本章の研究結果・考察に基づき、日本語教育に対する示唆を述べる。

本章での分析により、上級日本語学習者は文法に関して、間違いが少なく、文法の知識に大きな問題はないことが分かった。

しかし、日本語のメール内容を訂正させたところ、中国人上級日本語学習者の訂正文には、運用上の誤用が数多く見られた。

日本人母語話者は「恩恵意識」を持ち、「ていただく」や「～（さ）せていただく」のような表現の使用によって、相手と自分との「恩恵関係」をはっきり示した。他方、CL は、このような「恩恵行為に対する配慮意識」の低さから、このような構文を正しく使用できず、日本人母語話者に「自己中心」と感じさせる表現を多く用いた。

中国での日本語教育は、かなり早い段階で「～（さ）せる」構文を導入している。例えば、中国で広く使われている代表的な日本語専攻用の教科書『新編日語』と『大学日語』⁴¹において、「～（さ）せる」構文は、前者では初級後半（第2学期）の第12課で、また後者では第10課で導入されている。

『新編日語』においても解説の部分で「（さ）せる」は中国語の使役のマーカである“叫、让、使”に相当する」という情報が明示されている。『大学日語』では、文法解説の部分でそのような情報は明示されていないが、提示された例文に中国語訳が付けられているため、間接的にそのような情報が示されていると言える。例えば、『新編日語』（p. 273）では「させる」構文が「主語让（叫）别人做某事（主語が他人にことをやらせる）」というふうに解釈されている。『大学日語』には「先生が学生に本を読ませます。（老师让学生读书）」という例文が提示されている。もちろん、文法記述をする上で中国語の表現を生かして説明するあるいは提示された例文に中国語訳をつけることは、学習者の日本語使役表現の理解促進につながるだろう。しかし、それらの場合、中国語の使役表現との違いに気付かせるような説明を補足しないと、中国語の「让、叫、使」のような命令を出す用法と日本語の「（さ）せる」が完全に対応すると思込み、負の転移を誘発する可能性もある。また、「～（さ）せる」構文に含まれている運用上の「恩恵意識」については、『新編日語』では全く言及さ

⁴¹周平・陈小芬（2009）『新編日語』上海外语教育出版社、孟广德（2004）『大学日語（第2版）』大连理工大学出版社。

れていない。さらに、「させる」構文だけでなく、殆どの構文を説明するとき、文法上の説明が相当詳しく行われているのに対して、待遇的意味や用法は全く説明されていない。

文型や文法の知識は、表現の要素というコミュニケーションを支える基本的なものであるが、より円滑なコミュニケーションを行うためには、単なる文法知識を積み上げるだけでなく、コミュニケーション能力の育成という観点から、ポライトネス表現の導入を取り入れることも必要であろう。

日本語教育で取り上げられる項目の中で、敬語は、上級レベルの学習者には重要かつ難しい項目として認識されている。敬語は、言語形式と言語表現の丁寧さに視点をおいたものであるのに対して、ポライトネスは言語機能を実現するためのストラテジーに視点を置いたものである。一見、次元を異にする概念であるが、中国人日本語学習者の語彙や文法能力が高くなればなるほど、コミュニケーション能力の中でポライトネスに関する語用論的知識が必要となってくるのがわかった。しかし、以上で述べたように、中国における日本語教育の問題点として、コミュニケーション能力を重視する日本語教育がまだ一般的に普及していないことが挙げられる。CLにとって、日本語の敬語をきちんと使いこなせるようになるには、文法能力だけでは足りず、話し手と聞き手との関係や、「表現内容」「表現意図」など様々な要素を判断し、それに応じる能力が必要である。しかし、中国の大学における日本語教育では、依然として文法教育一辺倒の状況が続いている。もちろん、日本語教育において文法能力は重要な教育内容であるが、同時に、さまざまな場面において、効果的、かつ適切に対処できるコミュニケーション能力も日本語教育において重要な教育になる。

加納・梅(2002)によると、中国における日本語教育では、よく「三教」が重要であると言われている。三教とは、「教師」「教科書」「教授法」のことである。とくに教科書に対する考え方は、ここ数年、大きく変化してきているが、これまでの教科書の問題点として、文法中心で、会話力や聴解力が養えない、或いは、日本の文化や社会に関する情報や日本人の生活を書いたものが少ない、などが挙げられる。

学習者のコミュニケーション能力を養成するためには文法を中心とする教育方法から言語の機能を中心とする教育方法に転換すべきである。このような転換を実現するためには、ポライトネス教育の導入が必須となる。

CLはJNとコミュニケーションする際、日本語のポライトネス・ストラテジーの特徴と日本人のポライトネス意識が理解できていない。そのため、「CLは、相手に好意を示し、丁寧に接触しようとする意図の実現において、母語の干渉で語彙の翻訳や文法の語形に注目する」傾向が見られた。この場合、相手のフェイスを脅かす行為になる危険性が高くなる。

そのため、ポライトネス・ストラテジーを中国の日本語の教育に導入することが検討されるべき時期に来ていると考える。

第6章 結論

本研究は日本人と中国人のポライトネス表現の異同点、ポライトネスに関する認識およびその認識に基づく言語行動を分析することで、「ポライトネス理論の日本語教育における実用化」を目指したものである。本章では、本研究全体のまとめとそこから得られたポライトネス教育への提言、本研究の意義、及び今後の課題を述べる。

6.1 本研究の要約

本研究では、先行研究を踏まえた上で、主として対照分析的観点から、日中ポライトネス・ストラテジーの特徴の類似点と相違点を明らかにした。またその結果に基づき、対人関係の視点から日本語母語話者と中国人日本語学習者におけるポライトネス意識の相違を究明した。さらに、アンケート調査を通して、中国人日本語学習者の日本語ポライトネス意識に存在する問題点を明らかにした。これらの結果を基に、中国人日本語学習者に対する効率的日本語教育への示唆を行った。

本論文は全6章から構成される。

第1章序論では、本研究の目的、研究対象、研究方法、論文の構成などについて述べた。

第2章では、ポライトネスの主な先行研究を、ポライトネスの枠組みに関するもの、日中・日米における対照研究などに分類して概観した後、本論文の立場を明らかにした。

第3章以降が本論である。第3章では、自ら録音、文字化したインタビュー番組のデータを分析することで、日中両言語で使用される具体的なポライトネス・ストラテジーの特徴および、それぞれのストラテジーの使用率の類似点と相違点を明らかにした。その結果、日本語でも中国語でも、相手に親しさを示すポジティブ・ポライトネス（認められたいという欲求を満たすことで示されるポライトネス）で FTA（相手のフェイスを脅かす行為）を解消し、距離を縮めるような言葉遣いがよく使われていることがわかった。また、中国人学習者にとって、日本語の難しさは、語形そのものではなく、対人関係や社会的ルールを考慮しながら、社会的慣習に従って、場面に応じて使い分けなければならないところであることが分かった。日中両言語のポライトネスにおける一番大きな違いは、ネガティブ・ポライトネス（自らの行為を妨げられたくないという欲求を満たすことで示されるポライトネス）に対する使用上の認識の違いであった。特にネガティブ・ポライトネスの「敬意を払う」というストラテジーについては、日本語と中国語の文法体系の相違が、両言語におけるポライトネスに対する認識および敬意を示す様式に大きな影響を与えていることが

明らかになった。

第4章においては、中国で日本語を専攻する大学生（以後学習者）と日本語母語話者（以後母語話者）を対象にポライトネス意識の類似点と相違点を調査することによって、日中両言語のポライトネス意識の違いを分析した。対話者間の関係が「疎」の場合、学習者は聞き手の話し手に対する垂直方向の人間関係を表す上下関係を最も重視しているのに対して、母語話者にとって、丁寧語や敬語の使用が社会的慣習、社会的ルールとして、広く認められているため、内外・親疎関係をより重要だと考えていることが分かった。また、学習者は「上」である人が普通体を使うのが適切かどうかについて「上下」と「場」によって判断する。一方、母語話者は「親疎」と「内・外」という視点から判断する。次に、「親」である関係の場合、日本語においては基本的に「私的な場面での親子」の会話は普通体で話すが、表現意図によって敬語を使うことが認められる。一方、学習者の多くは、家族の会話については、「上下」より「親疎」を重視しており、表現意図があっても丁寧体の使用は不自然と見なされた。また、対話者が「同且つ親」の関係を持っていても、話の内容が相手に被害を与える可能性が高い時は、半数近くの学習者は、FTAの度合いが高いと判断し、ネガティブ・ポライトネス・ストラテジーが使われると考えた。

第5章においては、学習者が誤解しやすいポライトネスに焦点を当てて、中国人学習者と日本語母語話者のポライトネスに関する意識、使用実態を比較した。母語話者と学習者の被験者に、日本語の敬語を含んだメール文を示し、適切かどうか、また不適切と思う場合はその理由を書くと同時に修正するように指示した。分析の結果、上級日本語学習者は日本語の語形上の誤用は少ないが、運用上の誤用が多く、取り分け「恩恵行為に対する配慮意識」が不足していることが明らかになった。

本研究では、対照分析を通して、日中ポライトネスの形態及び意義上の類似点と相違点を明らかにすることによって、中国人日本語学習者に対する日本語ポライトネス教育に提言を行った。今後さらに調査を進め、本研究での結果を中国での日本語教育に生かしていきたい。

6.2 本研究の意義

上記の要約をもとに、本研究の意義を以下の3点にまとめることができる。

第1：談話分析という手法を用いて、実際の談話データから、日中両言語のポライトネス表現を詳述し、その特徴の類似点と相違点を明らかにした。

第2：対人関係の視点から日本語母語話者と中国人日本語学習者におけるポライトネス

意識の相違を究明した。

第3：本研究は中国人日本語学習者による、ポライトネス表現の使用状況、取り分け学習者が誤解しやすいポライトネスの運用の実態を明示した。日本語教育の重要な一環として、学習者の誤用を分析することは早くから行われてきた。しかし、これまでの誤用分析は「敬語形式」、「時制」、「使役」などのような個々の文法項目に焦点を当てている。ポライトネスの観点から、意識上の違いを探り、独立に見えるような個々の文法項目を総合的に行う誤用分析はまだ少ない。

本研究はポライトネス意識という観点から、中国人日本語学習者のポライトネスに関する誤用及び使用傾向を総合的に分析した。分析の結果、上級日本語学習者は日本語ポライトネス表現の語形上の誤用は少ないが、運用上の誤用が多く、取り分け「恩恵行為に対する配慮意識」が不足していることが明らかになった。

6.3 中国人日本語学習者のポライトネス表現における主な問題点

中国人日本語学習者が日本語母語話者と日本語でコミュニケーションをする際、伝達内容そのものは大切であるが、それを相手にどのような言語表現で伝えるかということも重要である。それに大きく関わってくるものの一つに「ポライトネス」という人間関係を円滑にするための言語ストラテジーがある。取り分け、日本語学習者の語彙や文法能力が高くなればなるほど、コミュニケーション能力の中のポライトネスに関する語用論的知識が必要となってくる。

「コミュニケーション能力」⁴²は1970年代から言語教育の重要な課題となっている。その中で、Canale & Swain (1980)⁴³は「コミュニケーション能力」を、(1) 文法的能力 (grammatical competence)、(2) 社会言語能力 (sociolinguistic competence)、(3) 談話能力 (discourse competence)、(4) ストラテジー能力 (strategic competence) という4つの要素から構成されていると説明した。本節では、その分類を応用し、第3章から第5章の分析結果を参考にして、この4側面から中国人上級日本語学習者のポライトネス表現における問題点を具体的にまとめてみたい。

まず、学習者の文法的能力について見てみよう。「文法的能力」とは、文法的に正しい文を用いる能力のことである。そこには発音、スペリング、語彙なども含まれている。

⁴²「コミュニケーション能力 (communicative competence)」という用語は、Hymes が1972年に初めて提示した。Hymes は、「文法的能力だけでなく、ある特定の文脈においてメッセージの伝達や解釈、意味の交渉ができる能力」をコミュニケーション能力と定義づけた。

⁴³Canale, M. and M. Swain (1980). “Theoretical Bases of Communicative Approaches to Second Language Teaching and Testing”, *Linguistics* 1:1-47.

中国での日本語教育は現段階で、「文法を中心」に行われている。日本語学科のカリキュラムには「総合日本語（精読）」（日本語の文章を文法上から細かく教えること）という科目があり、週平均4コマ、1年生から4年生の前期まで続けられる。単語の発音と意味から、文型、文法の実例まで詳しく教えられる。その結果、3年間の勉強を経て、上級日本語学習者は文法の知識は十分覚えることができる。この点については、すでにアンケート調査の結果によって、明らかにした。ある意味で、中国での日本語の文法に関する教育はかなりの効果をあげており、上級レベルの学習者は文法や時制に関しては、間違いが少なく、大きな問題はないと言えるだろう。

次に、学習者の社会言語能力について見てみよう。「社会言語能力」とは社会的な文脈を判断して、状況に応じて適切な表現を用いる能力のことである。社会的背景、互いの関係を判断して、ポライトネス表現を適切に用いる能力である。その中で、「人間関係」と「場」が、「ポライトネス表現」を考える際に最も重要な点と考えられる。学習者は「人間関係」と「場」を考慮して「適切な」表現を用いる能力が求められている。第4章では、対人関係と場面との2つの要素を中心に日中ポライトネス意識の特徴について分析を行った。「場面」については、対話する場面が私的か公的かということが言語使用に影響を与えるということは何の言語でも同じであった。対人関係への配慮はどの言語においてもなされている。しかし、言語によって何に重点を置くかが異なり、日本語母語話者は社会的距離をより重要だと考えているので、丁寧語や敬語の使用が社会習慣、社会的ルールとして構造的に組み込まれ、広範囲にわたって使われている。この点については、垂直方向の人間関係を表す力関係をより重視している学習者にとっては、特に理解が困難な点である。それ故に相互のコミュニケーションに齟齬が生じて問題が起こる場合がある。

次に、学習者の談話能力に関する問題を見てみる。「談話能力」とは単なる文の羅列ではなく、意味のある談話や文章を理解し、作り出す能力のことである。第5章においては、学習者のポライトネス意識を究明するため、敬語を含んだメール文を学習者と母語話者に与え、その中にある誤用を訂正してもらった。このような誤用に気づき、それを正しく訂正できる能力は談話能力の一部であり、日本語学習者のポライトネス表現運用における自己モニタリングに重要な能力であると考えられる。周知のように、中国での日本語教育は、かなり早い段階で敬語が導入され、言語構造上の学習は十分に行われている。しかし、現実には、各場面における待遇レベルの判断には、「親疎関係」「場の改まり度」「相手の負担度」など多くの要因が関わり、言語形式に関する知識だけでは不十分である。日本語教育に応用する場合、これらの要因は、単に典型的な形で存在するとは限らず他の要因と共起することが多く、具体的な例がないと正確には伝わりにくい。しかし、学習者にとって、言語

形式とともに待遇レベルがどのような基準で選択されるかという点を具体例に列挙しながら、明確に提示する教科書は少ない。このような状況で、学習段階が進むと、ポライトネスに関しても運用面の能力が要求され、日本語力が上がるにつれ、ポライトネス意識の違反が目立つようになる。例えば、日本人母語話者は「恩恵意識」を持ち、「ていただく」や「～(さ)せていただく」などのような形の使用によって、相手と自分との「恩恵関係」をはっきり示す傾向がある。他方、学習者にはこのような「恩恵行為に対する配慮意識」が不足しているため、このような構文を正しく使用できず、日本人母語話者には「自己中心的」と感じられる表現がしばしば使われている。また、学習者が日本人母語話者とコミュニケーションする際、相手に好意を示し、丁寧に接触しようとする意図を実現するためには、日本人のポライトネス意識が理解できなければ、母語の干渉を受けた語彙や文法形態を使用し、不適切な運用となる可能性が高い。以上の理由で、談話能力向上を目指した教育法を中国の日本語教育に導入することは学習者のコミュニケーション能力の養成に必須なことと考えられる。

最後に、学習者のストラテジー能力における問題点である。「ストラテジー能力」とは円滑且つ効果的なコミュニケーションの目的達成のための各状況への対処能力のことである。第3章の研究資料としてのインタビュー番組では、司会者とゲストが円満なコミュニケーションを行うために各状況に応じて様々なポライトネス・ストラテジーを使用していた。このようなポライトネス・ストラテジーを適切に使用することは、一種のストラテジー能力と考えられる。学習者は異なる言語体系や文化を背景とする日本語の各ポライトネス・ストラテジーの特徴やそれに対応する表現形式を習得することによって、日本語コミュニケーション能力を向上させることができると考えられる。

6.4 今後の課題

本研究の結びとして、今後の課題を述べる。

第1は、分析資料の充実である。本研究では、まず、インタビュー番組を文字化し、日中ポライトネス・ストラテジーの特徴を分析する際の資料として使用した。しかし、「公的な場面」、に限られ、司会者も日中合わせて三人しかいないことから、研究結果に個人的な影響があると考えられる。また、日中ポライトネス意識に関する調査では、「上下」と「親疎」という対人関係距離によって分類した5つの場面の会話を研究資料とした。さらに、中国人日本語学習者のポライトネス表現の使用現状、取り分け敬語運用の実態を究明するため、日本語学習者にとって普段よく出会う、また、使用する可能性が高く、実用性がある場面の内容であるメール文の内容を四つ提示した。量的な面の補充が必要であると考え

ている。

このような問題点を考慮し、今後、談話資料として、インタビューに限らず、実際の日常会話も大量に収集して、会話場面と学習者の誤用文の量も増やし、より普遍性のある研究にしていきたい。

第2は、教材の開発である。本研究では、対照分析的観点から、日中ポライトネス・ストラテジーの特徴の類似点と相違点を明らかにした。またその結果に基づき、対人関係の視点から日本語母語話者と中国人日本語学習者におけるポライトネス意識の相違を究明した。さらに、アンケート調査を通して、中国人日本語学習者のポライトネス意識に存在する問題点を明らかにした。これらの結果を基に、中国人日本語学習者に対する日本語ポライトネス教授法を提示していきたい。

今後はさらに調査を進め、本研究での結果と教育へ試案を結び付け、「ポライトネス理論の日本語教育における実用化」を目指し、教材開発に力を注ぎ、日中異文化間コミュニケーション能力の養成に資する研究を進めていきたい。

参考文献：

<日本語>

- 東照二 (1995) 『丁寧な英語・失礼な英語—英語のポライトネス・ストラテジー—』 (第5版) 研究社.
- (1997) 『社会言語入門』 研究社.
- 生田少子 (1997) 「ポライトネスの理論」 『言語』 26(6):66-71.
- 石田敏子 (2000) 『日本語教授法』 大修館書店.
- 井出祥子・荻野綱男・川崎晶子・生田少子 (1986) 『日本人とアメリカ人の敬語行動—大学生の場合—』 南雲堂.
- 井出祥子 (1982) 「待遇表現と男女差の比較」 国広哲弥(編) 『日英語比較講座 第5巻 文化と社会』 :107-170, 大修館書店.
- (1990) 「敬語の語用論的分析」 『日本女子大学英米文学研究』 25:117-128.
- (1992) 「日本人のウチ・ソト認知とわきまへの言語使用」 『言語』 21(12):42-53.
- (2006) 『わきまへの語用論』 大修館書店.
- 井上史雄 (1999) 『敬語はこわくない 最新用例と基礎知識』 講談社.
- 井上優 (2013) 『相席で黙ってられるか—日中言語行動比較論—』 岩波書店.
- 宇佐美まゆみ (1998) 「ポライトネス理論の展開:ディスコース・ポライトネスという捉え方」 東京外国語大学日本課程 (編) 『日本語研究教育年報 (1997年度版)』 :145-159.
- (2001a) 「談話のポライトネス—ポライトネスの談話理論構想—」 『談話のポライトネス』 (第7回国立国語研究所国際シンポジウム報告書) 国立国語研究所:9-58.
- (2001b) 「ポライトネス理論から見た<敬意表現>—どこが根本的に違うのか」 『言語』 30(12):18-25.
- (2002a) 「「ポライトネス」という概念」 『言語』 31(1):100-105.
- (2002b) 「ポライトネス理論の展開 (10) ディスコース・ポライトネス理論構想 (4) DP 理論の骨格」 『言語』 31(11):98-103.
- (2002c) 「ポライトネス理論の展開 (11) ディスコース・ポライトネス理論構想 (5) DP 理論の展開」 『言語』 31(12):96-101.
- (2002d) 「ポライトネス理論の展開 (12) ディスコース・ポライトネス理論構想 (6) 「対人コミュニケーション理論」としての DP 理論の可能性」 『言語』 31(13):110-115.
- (2003) 「異文化接触とポライトネス—ディスコース・ポライトネス理論の観点から—」 『国語学』 54(3):117-132.
- (2008) 「ポライトネス理論研究のフロンティア—ポライトネス理論研究の課題とディスコース・ポライトネス理論—」 『社会言語科学』 11(1):4-22.
- 母育新 (2001) 「待遇行動における日本人と中国人の比較—ポライトネスの視点からの考察—」 『麗澤大学紀要』 73:209-225.

- (2002) 「ポジティブ・ポライトネスから見た日中の比較—日本語教育の視点からの考察—」『麗澤学際ジャーナル』10(1):75-85.
- (2005) 「ポライトネス理論の視点から見た日本人と中国人の待遇行動—質問紙調査の結果からの考察—」『言語と文明』:33-44.
- 江口英子 (2002) 「「敬意表現」を考える—ポライトネス・日本文化の維持・日本語教育—」『京都精華大学紀要』23:29-49.
- 王鉄橋 (1989) 「現代中国語の敬語表現—日本語との比較—」『言語と文化』2:25-48, 言語文化研究所.
- 大石初太郎・林四郎 (編) (2000) 『敬語の使い方』明治書院.
- 太田辰夫 (1958) 『中国語歴史文法』江南書院.
- (1972) 「中国における敬語の問題」『言語生活』249:44-49.
- (1988) 『中国語史通考』白帝社.
- 岡本真一郎 (2000) 「皮肉なお世辞か: 誇張が認知に及ぼす役割」『愛知学院大学文学部紀要』30:27-33.
- 小川誉子美 (2003) 「待遇表現指導に関する試論—上級者用シラバスの構築に向けて—」『広島大学留学生センター紀要』13:47-54.
- 荻野綱男 (1980) 「敬語における丁寧さの数量化—札幌における敬語調査(2)—」『国語学』120:13-24.
- (1986) 『日本人と中国人の敬語行動の対照言語学的研究』文部省科学研究費補助金研究報告書.
- 奥田靖雄 (1986) 「現実・可能・必然(上)」言語学研究会 (編) 『ことばの科学』1:181-212, むぎ書房.
- 奥山和子 (1999) 「ポライトネス視点による会話の機能的解釈」『神戸大学留学生センター紀要』6:81-97.
- 奥山益郎 (1986) 『敬語用法辞典』東京堂出版.
- 尾崎明人 (1981) 「上級日本語学習者の伝達能力について」『日本語教育』45:41-52.
- 柏野健次 (1999) 『開拓社叢書9 テンスとアスペクトの語法』開拓社.
- 加藤陽子 (2002) 「宇佐美まゆみ先生「談話分析と日本語教育」(日本語 OPI 研究会第1回 会話教育のための講演会・報告2).
- 加納陸人・梅暁蓮 (2002) 「日中両国語におけるコミュニケーション・ギャップについての考察—断り表現を中心に—」『言語と文化』15:19-41.
- 蒲谷宏・坂本恵 (1992) 「待遇表現教育の構想」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』3:23-44.
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵 (1998) 『敬語表現』大修館書店.
- 蒲谷宏 (1999) 「待遇表現としての「挨拶」について」森田良行教授古希記念論文集刊行会 (編) 『日本語研究と日本語教育』明治書院.

- (2000) 「〈言語＝行為〉観」に基づく「日本語教育学」の構想『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』13:15-26.
- (2002) 「「意図」とは何か—「意図」をどのように捉えるか—」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』15:1-14.
- (2003) 「「待遇コミュニケーション教育」の構想」『講座日本語教育』39 早稲田大学日本語研究教育センター.
- (2004) 「「日本語教育」における「文法」の教育を問い直す—「〈言語＝行為〉観」に基づく「日本語教育」の立場から—」『早稲田大学国語教育研究』24:46-57.
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵・清ルミ・内海美也子 (2006) 『敬語表現教育の方法』大修館書店.
- 蒲谷宏・金東奎・吉川香緒子・高木美嘉・宇都宮陽子 (2010) 『敬語コミュニケーション』朝倉書店.
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一(編) (1996) 『言語学大辞典 第六巻 術語編』三省堂.
- 川口義一 (1979) 「敬語の周辺」『講座日本語教育』15:94-110.
- (1987) 「日本語初級教科書における敬語の扱われかた」『日本語教育』61:126-139.
- (2002a) 「海外における待遇表現教育の問題点—台湾での研修会における「事前課題」の分析 (1)」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』15:15-28.
- (2002b) 「海外における待遇表現教育の問題点—台湾での研修会における「事前課題」の分析 (2)」『講座日本語教育』38:1-15.
- (2003) 「海外における待遇表現教育の問題点—台湾での研修会における「事前課題」の分析 (3)」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』16:37-50.
- 川口義一・蒲谷宏・坂本恵 (1996) 「待遇表現としてのほめ」『日本語教育』5(5):109-120.
- 菊地康人 (1989) 「待遇表現—敬語を中心に—」『講座日本語と日本語教育 1:日本語学要説』:276-310, 明治書院.
- (1997) 『敬語』講談社.
- (2003) 「敬語とその主なテーマの概観」『朝倉日本語講座 8 敬語』:1-30, 朝倉書店.
- 金東奎 (2003a) 「敬語接頭辞「お・ご」を用いた敬語化とその敬語表現に関する一考察」早稲田大学大学院日本語教育研究科修士論文.
- (2004) 「「手紙文」と「スピーチ」から見た敬語接頭辞「お・ご」を用いた敬語表現の使用様相」『早稲田大学日本語教育研究』4:83-102.
- (2005) 「「待遇コミュニケーション」における「敬語表現化」に関する考察—待遇表現教育のあり方への視座—」『早稲田大学日本語教育研究』7:67-80.
- 金田一春彦(1988) 『日本語 (新版) (下)』岩波書店.
- 窪田富男・池尾スミ (1971) 『日本語教育指導参考書 2 待遇表現』大蔵省印刷局.
- 窪田富男 (1990) 『日本語教育指導参考書 17 敬語教育の基本問題 (上)』国立国語研究所.

- (1992)『日本語教育指導参考書 18 敬語教育の基本問題 (下)』国立国語研究所。
- 熊井浩子 (2003)「「待遇表現」の諸側面と、その広がり—狭くとらえた敬語、広くとらえた敬語—」『朝倉日本語講座 8 敬語』:31-52, 朝倉書店。
- (2009)「日本語の Politeness と対人行動に関する一考察」『静岡大学国際交流センター紀要』3:1-26.
- 熊田道子 (2001)「待遇意識からみた『~てくれる』系表現と『~てもらう』系表現—恩恵の与え手が恩恵行為を行うことに対する配慮意識を中心に—」『国語学研究と資料』25:15-28.
- グループ・ジャマシイ (編) (1998)『日本語文型辞典』くろしお出版。
- 現代文書研究会 (編) (1990)『そのまま使える手紙の書き方全書』池田書店。
- 小池清治・小林賢次・細川秀雄・犬飼隆編 (1997)『日本語学キーワード事典』朝倉書店。
- 木庭久美子 (1999)『すぐ書ける お礼の手紙・はがきの手帳』小学館。
- 阪本俊生 (2001)「現代の社会関係と敬語の可能性:ブラウンとレヴィンソンのポライトネス論を手がかりに」『言語』11:34-42.
- 笹川洋子 (1999)「アジア社会における依頼のポライトネス」『親和国文』34:154-181.
- ザトラウスキー・ポリリー (1986a)「談話の分析と教授法 (I) —勧誘表現を中心に—」『日本語学』5(11):27-41.
- (1986b)「談話の分析と教授法 (II) —勧誘表現を中心に—」『日本語学』5(12):99-108.
- (1993)『日本語の談話の構造分析 : 勧誘のストラテジーの考察』くろしお出版。
- 杉戸清樹 (1983a)「待遇表現としての言語行動:注釈という視点」『日本語学』2(7):32-42.
- (1983b)「<待遇表現>気配りの言語行動」『講座日本語の表現 3 話しことばの表現』:129-152.
- (1989a)「言語行動についてのきまりことば」『日本語学』8(2):4-14.
- (1989b)「現代日本語・待遇表現」『言語学大辞典 第2巻 世界言語編・中』:1741, 三省堂.
- (1994)「お礼に何を申しましょう」『日本語学』13(8):55-62.
- (1999)「変わりゆく敬語意識—敬語の役割を考えるために」『言語』28(11):22-29.
- (2001)「待遇表現行動の枠組み」『第7回国際シンポ第4部会報告書談話のポライトネス』:99-109, 凡人社.
- (2005)「日本人の言語行動—気配りの構造」『表現と文体』:362-371, 明治書院.
- 杉戸清樹・尾崎喜光 (2006)「「敬意表現」から「言語行動における配慮」へ」『言語行動における「配慮」の諸相』:1-10, くろしお出版.
- 鈴木睦 (1997)「日本語教育における丁寧体世界と普通体世界」田窪行則 (編)『視点と言語行動』:45-76, くろしお出版.

- 鷹野由紀子 (2005) 「現代中国語の要求表現—その使い分けに関する考察—」『中国文学会紀要』26:155-182.
- 高見健一 (2000) 「被害受け身文と～V てもらおう構文—機能的構文論による分析—」『日本語学』19(5):215-223.
- 滝浦真人 (2005) 『日本の敬語論—ポライトネス理論からの再検討—』大修館書店.
 ——— (2008) 『ポライトネス入門』研究社.
- 田窪行則 (1989) 「名詞句のモダリティ」仁田義雄・益岡隆志 (編) 『日本語のモダリティ』:211-233, くろしお出版.
- 龍城正明 (1989) 「談話分析の試みと日英語における待遇表現について (1)」『同志社大学英語英文学研究』49:102-114.
 ——— (1990) 「談話分析の試みと日英語における待遇表現について (2)」『同志社大学英語英文学研究』50:154-177.
- 田中章夫 (1969) 「敬語論議はなぜ起こる」『言語生活 213』筑摩書房.
 ——— (1972) 『現代の敬語とマナー』至文堂.
- 田中典子・鶴田庸子・津留崎毅・成瀬真理 (1998) 『語用論入門—話し手と聞き手の相互交渉が生み出す意味—』研究社.
- 因京子 (1997) 「『おVする』の文法」『日本語教育: 異文化への懸け橋』ハバード・坂本・デーヴィス (編) :117-30 アルク.
 ——— (2002) 『留学生のためのちょっと気の張る手紙の書き方』ビーエフエスアール.
 ——— (2004) 「マンガ読解に見る韓国人学習者の日本語理解」『韓日言語文化研究』5:63-88.
 ——— (2005) 「日本語学習者の日本語会話解釈上の問題点—日本語学習者によるマンガ理解を通して—」『比較社会文化』11:83-92.
 ——— (2005) 「日本語のポライトネス—その制度的側面と語用論的側面」『韓日言語文化研究』6:35-66.
 ——— (2008) 「日本語のポライトネスの表現とその教育法」『2008年応用日語国際學術検討會・2008年応用日本語国際シンポジウム會議手冊』:32-42.
 ——— (2012) 「母語話者が知っていて学習者が知らないことは何か—学習者と母語話者のマンガ発話の解釈から—」山崎和夫・松村瑞子 (編) 『言語と文化の対話』:187-204 花書院.
- 張拓秀 (1993) 「依頼表現の日中対照研究」『講座日本語教育 第28分冊』:157-177.
- 張佩霞 (1996) 「中国語、日本語における人称代名詞の使用とそこに窺われる文化の違い」『語文論業』23:1-19.
- 張黎・佐藤晴彦・内田慶市 (1998) 『中国語表現のポイント99』好文出版.
- 陳原 (1981) 『言葉と社会生活』凱風社.
- 塚本慶一 (2003) 『中国語通訳への道』大修館書店.

- 辻村敏樹（1981）「敬語はどう変わりつつあるか—日本語教育の立場で考える—」『講座日本語教育』17:144-157.
- （1989）「待遇表現と日本語教育」『日本語教育』69:1-10.
- （1991）『敬語の用法 角川小辞典 6』角川書店.
- 津田早苗（1999）『談話分析と文化比較』リーベル出版.
- 土屋信一（1987）「話す敬語と書く敬語」『国文学解釈と教材の研究』（11月臨時増刊号）32(14):140-145.
- 藤堂明保・相原茂（1985）『新訂中国語概論』大修館書店.
- 銅直信子（2001）「日本語におけるポライトネスの現れ方—談話参加者の情報量を中心に—」『敬愛大学国際研究』8:53-79.
- 遠山千佳（2005）「中国人学習者の丁寧さ表現の習得—『依頼補助』方略の使用から—」『言語文化と日本語教育』29:8-14.
- 中川越（1988）『目上の人への手紙文』永岡書店.
- 中根千枝（1967）『タテ社会の人間関係』講談社.
- 中山晶子（2003）『くろしおズックス6 親しさのコミュニケーション』くろしお出版.
- 仁田義雄（1991）『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房.
- 任麗潔（2012）「中国高等教育の専攻日本語教育における「敬語教育」に関する調査報告—学習者・教科書・教師という三つの視点から—」『待遇コミュニケーション研究』9:113-128.
- 橋元良明（1992）「婉曲的コミュニケーション方略の異文化間比較—9言語比較調査—」『東京大学社会情報研究所調査研究紀要』1:107-159.
- ピッツィコーニ・バルバラ（1997）『待遇表現から見た日本語教科書：初級教科書5種の分析と批判』くろしお出版.
- 林四郎・南不二男（編）（1974）『敬語講座⑧世界の敬語』明治書院.
- 林四郎（1999）「敬語の役目はなくなるならない」『月刊言語』28(11):34-40.
- ブラウン・ペネロピ, レヴィンソン・スティヴン・C. (2011 [1987]) 『ポライトネス—言語使用における、ある普遍現象』田中典子（監訳）研究社
- 文化庁（2007）『敬語の指針』http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/keigo/index.html
- 彭国躍（1993）「近代中国語の敬語の語用論的考察」『言語研究』103:117-140.
- （2000）『近代中国語の敬語システム—「陰陽」文化認知モデル—』白帝社.
- 細川英雄（2004）『日本語教育は何をめざすか—言語文化活動の理論と実践—』（オンデマンド版）明石書店.
- 益岡隆志（1987）『命題の文法』くろしお出版.
- （2001）「日本語における授受動詞と恩恵性」『言語』30(5):26-32.
- 松岡弘（監修）奄功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.

- 松平泰臣 (1998) 『新・実用手紙百科』 有紀書房.
- 松村明 (編) (1995) 『大辞林』 第二版 三省堂.
- 松村瑞子・因京子 (1998) 「日本語談話におけるスタイル交替の実態とその効果」『言語科学』 33:109-118.
- 松村瑞子 (1999) 「日本語会話におけるポライトネス—Brown&Levinson(1987)の妥当性を中心に—」『言語科学』 34:51-60.
- (2001) 『日本語の談話におけるスタイル交替の実態とその効果についての分析』 文部省科学研究費研究成果報告書.
- 水谷修 (1979) 『日本語の生態—内の文化を支える話しことば』 創拓社.
- 水谷修・水谷信子 (1988~1991) 『外国人の疑問に答える日本語ノート 1~4』 ジャパン・タイムズ出版.
- 南不二男 (1987) 『敬語』 岩波書店.
- 三牧陽子 (2007) 「ポライトネス理論と初対面会話」岡本真一郎(編)『ことばのコミュニケーション 対人関係のレトリック』:30-49, ナカニシヤ出版.
- 宮地裕 (1982) 「「待遇表現」その他の項目」『日本語教育事典』 大修館書店.
- 宮田聖子 (2000) 「ポライトネスを日本語に当てはめる」東京大学留学生センター紀要 10: 87-101.
- 村上京子 (1993) 「要求表現フローチャートの作成とその応用」『日本語・日本文化論集』 1:1-20.
- メイナード・K・泉子 (1993) 『会話分析』 くろしお出版.
- (1994) 「『という』表現の機能—話者の発想・発話態度の標識として」『言語』 23(11):80-85, 大修館書店.
- (1997) 『談話分析の可能性』 くろしお出版.
- 森山卓郎 (1992) 「文末思考動詞『思う』をめぐって—文の意味としての主観性・客観性—」『日本語学』 11(9):105-116.
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現—日本語語用論入門—』 明治書院.
- 山梨正明 (1986) 『発話行為』 大修館書店.
- 楊立明・郭春貴・孟広学 (2002) 『中国語で学ぶ中国文化基礎知識』 東方書店.
- 好井裕明・山田富秋・西阪仰 (1999) 『会話分析への招待』 世界思想社.
- リーチ・ジェフリー・N. (1987「1983」) 『語用論』 池上嘉彦・河上誓作 (訳) 紀伊国屋書店.
- 梁長歳 (1999) 「日中大学生の敬語行動の対照研究—依頼表現を中心に—」『社会言語科学会第4回研究大会予稿集』:76-81.

<中国語>

- 曹大峰(2006)《日语教学与教材创新研究—日语专业基础课程综合研究》高等教育出版社.
- 辞海编辑委员会(编)(1999)《辞海》上海辞书出版社.
- 顾曰国(1992)《礼貌、语用与文化》《外语教学与研究》(4):10-17.
- 《汉语大词典》(1998)上海辞书出版社.
- 教育部高等学校外语专业教学指导委员会日语组(2001)《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》大连理工大学出版社.
- 李经纬(1999)《语码转换与称呼语的标记作用》《解放军外国语学院学报》22(2):8-10, 18-19.
- 刘宏丽(2001)《现代汉语敬谦词》北京语言文化大学出版社.
- 刘金才(1992)《现代日语敬语用法》北京大学出版社.
- (1998)《敬语》外语教育与研究出版社.
- 吕叔湘(编)(1999)《现代汉语八百词(增订本)》商务印书馆.
- 孟广德(2004)《大学日语(第2版)》大连理工大学出版社.
- 曲卫国, 陈流芳(1999a)《论传统的中国礼貌原则》《学术月刊》(7):33-42.
- (1999b)《礼貌称呼的语用学解释》《华东师范大学学报(哲学社会科学版)》(6):118-124.
- 沈宇澄, 陈晓芬, 应祥星(1986)《日语敬语的使用方法》上海译文出版社.
- 毋育新(2008)《日汉礼貌策略对比研究》中国社会科学出版社.
- (2010)《日语中的积极礼貌策略与消极礼貌策略—兼论日语敬语、待遇表现和礼貌策略的区别》潘钧编《现代日语语言学前沿》:186-200 外语教学与研究出版社.
- 郑也夫(1993)《礼语咒词官腔黑话:语言社会学丛谈》光明日报出版社.
- 周平, 陈小芬(2009)《新编日语》上海外语教育出版社.

< 英語 >

- Bachman, L.F., Palmer, A.S. (1996) *Language testing in practice*. Oxford:Oxford University Press. (大友賢二 訳(2000)『実践言語テスト作成法』大修館書店.)
- Brown, Penelope and Stephen C. Levinson (1978) Universals in Language Usage : Politeness Phenomena. In : Esther Goody(Ed.) *Questions and politeness : strategies in social interaction*,56-289. Cambridge University Press.
- (1987) *Politeness : Some Universals in Language Usage*. Cambridge:Cambridge University Press.
- Canale, M., Swain M. (1980) “Theoretical Bases of Communicative Approaches to Second Language Teaching and Testing”, *Linguistics* 1,1-47.
- Chao, Yuanren (1968) *A Grammar of Spoken Chinese*, University of California Press.(吕叔湘 (译) (1979)《汉语口语语法》商务印书馆.)
- Eelen, Gino (2001) *A Critique of Politeness Theories*. Manchester,UK:St.Jerome Publishing.

- Fraser, Bruce (1990) "Perspectives on politeness". *Journal of Pragmatics* 14,219–236.
- Fraser, Bruce, William Nolen (1981) "The association of deference with linguistic form", *International Journal of Sociology of Language* 27, 93–109.
- Fukuda Atsushi, Asato Noriko (2004) "Universal politeness theory : application to the use of Japanese honorifics", *Journal of Pragmatics* 36 ,1991–2002.
- Goffman, E. (1982) [1967]. *Interaction Ritual: Essays on Face-to-face Behavior*. New York: Pantheon Books. (広瀬英彦・安江孝司 訳(1986)『儀礼としての相互行為—対面行動の社会学』 東京: 法政大学出版局.
- Grice, Paul(1975)"Logic and conversation", In: Cole and Morgan(Eds.)*Syntax and Semantics: 3 Speech Acts*.New York: Academic Press.
- Gu, Yueguo (1990) "Politeness phenomena in modern Chinese", *Journal of Pragmatics* 14 (2), 237–257.
- Hill, Beverly, Sachiko Ide, Shoko Ikuta, Akiko Kawasaki and Tsunao Ogino(1986) "Universals of linguistic politeness:Quantitative evidence from Japanese and American English",*Journal of Pragmatics* 10, 347–371.
- Hinds, J. (1982) "Japanese conversational structures", *Lingua* 57, 301–326.
- (1983a) "Contrastive rhetoric:Japanese and English", *Text* 3, 183–195.
- (1983b) "Linguistics and written discourse in English and Japanese: A contrastive study (1978–1982) ", *Annual Review of Applied Linguistics* 3, 78–84.
- Holtgraves, Thomas M. (2002)*Language as Social Action: Social Psychology and Language Use*, Psychology Press.
- Ide, Sachiko (1989) "Formal forms and discernment: two neglected aspects of linguistic politeness", *Multilingua* 8(2/3), 223–248.
- (1991) "How and Why Do Women Speak More Politely in Japanese? ", In: Sachiko Ide and Naomi McGloin(Eds.) *Aspects of Japanese women's language*,63—80. Tokyo: Kurosio Publishers.
- Ide, Sachiko,Motoko Hori,Akiko Kawasaki,Shoko Ikuta and Hitomi Hage (1986) "Sex difference and politeness in Japanese.*International Journal of Sociology of Language* 58, 25–36.
- Kaidi Zhan (1992) The strategies politeness in the Chinese language, *The Regents of the University of California*.
- Lakoff, Robin (1973) The logic of politeness: Or minding your p's and q's. In: C.Corum,T. Cedric Smith-Stark,and A. Weiser(Eds.) *Chicago Linguistic Society* 9, 292–305.
- (1975) "Language and Woman's Place". *Language in Society* 2,45–80.
- (1976)*Japanese patterns of behavior*. Honolulu: University of Hawaii Press.

- (1990) *Talking Power: The politics of language in our lives*. Glasgow : Harper Collins.
- Leech, Geoffrey N.(1983) *Principles of pragmatics*, New York: Longman.
- Mao, L. R. (1994) “Beyond politeness theory: ‘Face’ revisited and renewed”, *Journal of Pragmatics* 21, 451–486.
- Matsumoto, Yoshiko (1988) “Reexamination of the universality of face: Politeness phenomena in Japanese.” *Journal of Pragmatics* 12,403–426.
- (1989) Politeness and conversational universals-observations from Japanese. *Multilingua* 8(2/3):207–221.
- Pizziconi, Barbara (2003) “Re-examining politeness, face and the Japanese language”, *Journal of Pragmatics* 35,1471–1506.
- Watts, Richard, Ide, Sachiko and Konrad, Ehlich (1992,2005) Introduction. In: Richard Watts, Sachiko Ide, and Konrad Ehlich(Eds.) *Politeness in language: Studies in its history, theory and practice*,1–17. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Watts,Richard.J.(2003)*Politeness:Key Topics in Sociolinguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Stubbs, Michael (1983) *Discourse Analysis:The Sociolinguistic Analysis of Natural Language*. University of Chicago Press.
- Thomas, Jenny(1995)*Meaningin interaction:An introduction to pragmatics*,London;New York:Longman.

付録 I インタビュー談話資料

日本語：「徹子の部屋」

会話 A

黒柳徹子 (K) 塩沢とき (S)

K: お元気とは思っていましたが、あの、本当に充実していらっしゃいます、精神が。

S: 精神は充実いるかもしれませんがね。ただね、黒柳さん、私ガンになりましたの。

K: その前にね、今日のお召し物、全力を挙げて塩沢商店が作り上げた格好がこの格好でね、しまのお着物、すごい上等なお着物ですって。それでね、帯がね、3千円だが、そんなこと嘘でしょう。

S: それはね、それは言うてはよろしいのかしら、浅草あたりの土曜日でございますから。

K: 久しぶりの塩沢ときさんですからこの頭を見ましたらこれは上手な方がやっつけてらっしゃるんでしょね。ご自分の毛なんでしょう、本物の毛。

S: 勿論。黒柳さんと一緒ですべて本物の毛ですよ。

K: そして正面からのこの良い形、不思議なものができるって方はね、えっと、いつもやっつけてくださる。

S: ばばさん、

K: ばばさん

S: あのね、ばばさんのうまいのはね、女をきれいにさせる頭にしてくれるんです。

K: 本当に素敵、本当に個性的ですもんね。

S: カーブね、このカーブが難しいのよね。

K: そうですね。片側じゃなくて、両側ですからね、同じようになっていますよね。

S: そうなんですよ。

K: なんとも言えないですよ。

S: そうね、昔、私が頭大きかった時もばばさんにやっていただいたんですけどね、

K: あなた昔はどんなだったか写真が用意されています。そうですね。あなたは割りと珍しい和服をお召になるんですね。

S: 珍しいですね。本当に最近着ておりませんから、徹子の部屋呼んでいただいたと思ってね、頑張っただけです。

K: 塩沢さんとは、お会いしたいと思っていたんです。それで、ご病気をしてらっしゃるなんて知らなかったんです。

S: 内緒にしたの。

K: 内緒にしてらっしゃったの？一度目の時すごくおかしかったんですけど、二度目の乳がんをなさってるって言ったら、「3度です」っておっしゃったから、乳がんって片っ方で次が片っ方だから2度なのに3つって、3つバスとがあるわけじゃないののと思って、その前

の舌がんの事もおっしゃっていたのね、30歳くらいの時、

S: 30で舌癌、57で乳がん、77で乳がんです。

K: 77で、あらら

S: そんなびっくりなさらないで、

K: 今80過ぎたって、

S: 平気ですから、10代過ぎたって50代過ぎたって、

K: そうですか。よく7かけとか言うでしょう、7かけてご存知ですか。50歳の人は、35歳と思えばいい、ですから77に7かけるので、暗算できないんですけど、今52, 3と思えばいいじゃない。それは、まあ、乳がんになる可能性もあるって言うね。

S: 結局油物意外と好きでものすごく、それでね、全然夢にも思っていませんでした。

K: ちょっといいですか。今日はこんな格好できれいにしてられていますが、一番最初から「徹子の部屋」おいでいただいているんですけど、どんなだったかという写真を用意しているんですけど、よろしいですか。

S: まあ、昭和59年でございますよ。

K: 24年前という事でございます。

S: 21年前じゃないですか。

K: いや、24年前なんです。1981年ですから24年前ですね。

S: あら、本当だ、24年前に。

K: そうですよ。まだバラエティとか出てらっしゃらなくドラマとか映画とかそういうものに出てらっしゃって、

S: [写真] これ2度目です。

K: そうそう。これ2度目です。これが22年前です。まだバラエティとか出てらっしゃらなくて、私もご一緒にドラマやらしていただいた時にお世話になりましたなんで話をね、次に(?)、こうなりましたね。どっかの皇太子かと思いました。これはですね、最初のガンをなったのはこの度

S: 57歳で、大体頭大きく植えたのは57くらいから、57やっとなんて売れたんです。

K: この頭ですから自動車もてんじょうあくのじゃないと乗ってらっしゃらないような、

S: 大変でしたね。信号とかが来ると下向いてね、

K: この大きいやつをね、これはね、10年前でございませぬね。ファッションモデルみたいな

S: 少し痩せてますね。

K: えー。それからね6年前メガネをかけてらっしゃいますが、なんかね、三越のバーゲンとかで、いそうな、

S: いや、潰れたしろき屋です。

K: あの、高級デパートになった時ね、

会話 B

黒柳徹子 (K) 江原真二郎 (E) 中原ひとみ (N)

K: まあ、江原さん、中原さんのご夫婦なんですけれども、ご結婚なさってから 45 年サファイア婚っていうですね。

N: そうなんですか。知らなかったです。

K: 本当ね、それでお仕事はじめて二人とも 50 年ということで長いですよ。

N: そうですね。あと気がついたら 50 経ってました。

K: それで、お二人とも、あの、東映にお入りになって、17 歳でお俳優になって、デビューは 18 歳、お二人とも同じ年、

N: そうですね。大体同じ年で、

K: で、それで大体って言うところすごいですけど、奥様がちょっと先輩なのね、同じ年でも。

N: そうなんです。同じ年なんですけれども、3 ヶ月生まれたのが早いです。

K: そうすると、3 ヶ月でも随分なんか先輩っぽいです、なんか。

N: えー、あの、最初知り合ったころ私が 3 ヶ月お姉さんだからって、結構威張ってましたね。

K: そうすると、江原さんは今でもその感じありますか？

E: えー、

K: もうそれはない？

E: やっぱりね、この業界で 3 ヶ月で大きいもんです。いつも先輩先輩で、

K: でも、私が中原さんのファンで、あの、映画にでてらしたことに本当になんてかわいい何
できれいな、当時バンビっていう映画があって、バンビでも呼ばれてらして、

N: そうですね。

K: 本当に、小鹿のようでかわいかったですけど、お可愛らしい(?) だんだん変わってきたんです。しっかりして(?) ですね。江原さんこんなにしっかりした方と思ってらっしゃいました？

E: いや、最初から思っていましたよ、これは。

K: やっぱりわかりました。

E: はい。

N: しっかりしてるところとぬけてるところもあるんです。

K: それはそうですね。なんかしっかりしてるといふかね、本当にお可愛らしい(?)。私なん見てるとね、本当にすごいなと思いつつながら、なんかね、可愛いからおかしくなっちゃうんですけど。そこのところはすごいところですよ、江原さんね、奥様のね。

E: そうですね。

N: (?) なんてうしょね。

K: まあ、そういうところもありますよね。だけど、それはあまり表にお出しにならないけど、キュッとなったら、やっぱりしんが強い、

E: 強いです。認めます。

K:力が入る、でも、それにしてもこの芸能界で俳優同士本当に両方とも50年お仕事をやてらして、45年間ご結婚生活というのは、それは、まあ、本当に大変だったと思いますよね。どうでしょうね。振り替えて見ると、どうですか。

N:そんなに大変って気はないですね。ただ、まあ、50年は50年なんですけど、人それぞれなので、私なんか本当にマイペースで、地味にやって、50年ですのでね、そんなにあんまり大きい声でいえないですね。

K:でも映画スターでいらして、あなた東映の、東京

N:はい、そうです。

K:ご主人は？

E:僕は京都です。

K:そうなんです。同じ東映もね。でも共演になさったのはそういうふうなね、ご関係におなりになったそうですけれども。でもご夫婦の間では、あの、そんなにいろんなことありましたね。だけど、その45年ね、結婚生活は、それはどうでしょうね。

N:まあ、いつも一生懸命はやってきたんですけれども。うんとたらないこといっぱいあったと思いますけど、そんなに今考えてみると大変っていう思いは少ないですね。結構楽なものですから。

K:そうです。そうじゃないとなかなかね、45年、やってらっしゃらなかったかもしれないと思うんですけど。江原さんのほうはどうです。

E:僕はもう最初からね、えー、女優さんをやめるとかそういう気持ちはなかったのですから。

K:そうですね。

E:なんかそういう意味ではね、なんかやっぱりいい亭主だったかなと思いますよ、自分で。

K:そうですね。

E:あの、一方的に奥さんというのは家にいて、家庭を守ってみたいのはあるじゃないですか。

K:えー。

E:同じ仕事してますと、絶対そういうことは不可能ですね。

K:まあ、不可能かどうか分からないですけど、でもやめないでいってというふうにおっしゃってくださった時はやっぱり、

N:そうですね。

K:奥様としてはね、

N:えー、ですからなんと言うんでしょう。本当に自分の思い通りに言っちゃおかしいですけど、あんまり我慢することなく、ずっと甘えて、ずっと来ちゃったんですよ。

K:えー、女優さんも続けながら、

N:でも、一応子供二人育てたので、子育てのころは大変だったし、いろいろ仕事において我慢しなければいけない事はいっぱいありましたけど。でも、自分が選んだ道だからという気持ちが非常に強かったです。

会話 C

黒柳徹子 (K) 徳光和夫 (T)

K: 徳光さんは日本のお茶がお好きだとお聞きしております、ちょっといただきましょうか。

T: 有難うございます。

K: そしてお菓子も、あやめのお菓子もつけてみましたので、

T: 季節のね、

K: 召し上がれないと思います。

T: あ、そうですか。

K: でもちょっと召し上がってください。時間的にあれですけど。本当お見えにかかって嬉しいです。

T: こちらこそ嬉しいかぎりです。

K: でも私びっくりしたんですが、一回ぐらいはお見えにかかったことがありますけど、ほとんど話をしたことはありませんでしたが。

T: そうですね。

K: ずっと NTB のアナウンサーだと思っていました。

T: 今日までですか？

K: ええ。でもなんと 16 年前にフリーでいらしたって。その 16 年の間に出てもらっていなかったですけども。もう私は NTB のアナウンサーの方だと、スタッフの方も思っていたのですが。

T: でも、もうお招きいただけないなと思って、アツユキもクミちゃんも出ているなどそんなこと思いながらゆだれをたらしてました。

K: いえいえ。ツユキさんもフジテレビのアナウンサーの時から出ていたんですよ。

T: そうなんですよ。

K: だからあなたも出られるんですかね？テレビ局とか。

T: 徹子の部屋っていうのは別格じゃないですか。

K: そんな、そんな。とんでもないです。

T: 本当におせちでも何でも立派なセットの中で、

K: 有難うございます。今日最初のお客様ですので、まあ、

T: 徹子って凄い感じですよ。

K: え？

T: 徹子の城という感じですよ。

K: いや。

T: けっこうなものですね。

K: これは東京都心のすぐ近くにありまして、すぐ都心の仕事に行かれると、そうでないと皆さんに来ていくのも悪いじゃないですか。そもそも遠くじゃ皆様に来てもらうのも悪

いでございます。

T: ええ。

K: そもそも皆様がこんなところに住みたいなという感じがどうかと思いで、皆で相談して、こういうふうになりました。そこで初めてのお客様ということで、

T: 結構はでな格好ですみません。

K: {笑}

T: ハンバーガーショップのベテラン店員みたいですけども。

K: 私はですね、徳光さんがとても面白いことをおっしゃっているけれども。

T: いいえ、そんなこと、

K: そういうデザインとかおすきなんですか。

T: 嫌いじゃないですけどね。殆ども冗談で生きているようなものですから。左右の目がいきわたりばったりですからね。

K: じゃ、お書きになるとき座右の目が絵を描いてくださいと言われたらいきわたりばったりになるんですよ。それ凄いですよね。

T: そうですかね。

K: みんな「えっ」っておっしゃいませんか？

T: 一瞬思うことはありますね。ちゃんと TPO をわきまえないで書いちゃうもんですからね。それぞれふくし四節など書いてしまうとかなりしんしゆくをかったり、

K: そうですよ。花から盆もちとかありますよね。でもまあ、NTB のアナウンサー、26 年間、

T: そうですよ。

K: それからズームイン朝などの代表的なものとか、司会をやらしてもらって、それで、まあ、16 年前におなりになったんそうなんですけど、なんだってジャイアンツがお好きなんですね。

T: そうですね。

K: まあ、NTB にいらっしゃるからといっても、

T: あ、そうじゃないんですよ、僕も。

K: そうじゃないんですか。

T: 長嶋さんの大学の 8 号の新記録ホームランであったんですね。それが昭和 38 年 11 月 3 日の林さんから打ったホームランですけど。

会話 D

黒柳徹子 (K) 綾小路きみまろ (J)

K: まあ、そういうわけで爆発的に人気がおでになって、まあ、そこまでは手作りは奥様は本当に大変な思いでやってらしたんけれども、ま、本当によかったことで奥様、お子さん二人お育てになって、男の子。

J: はい。

K: 大変だったと思いますが、綾小路きみまろって本当にすごい名前ですから、おっしゃることといでたちとお名前と全部はね、ちぐはぐなところが面白いです。

J: 最初のころですはね、名前があまりこういうね、名前がこうしょしていてね、なんかネタがついていけない状況もありましたけれども、名前に負けないように頑張ろうってありましたよね。

K: あら、そうですか。

J: えー。名前だけで笑うということはありませんので、

K: あ、そうなんですか。

J: だからそういう意味でなんか、この名前も私に勇気与えてくれたのような気がします。

K: それでお家をお立てになったんですけど、そこに綾小路きみまろ亭って。

J: え、とうりょうが看板を作ってあげるんで、お願いしますって言ったら、そのデッカイ「きみまろ亭」を作ってくれたんです。これはそうなんです。

K: お店じゃないですよ。

J: お店じゃない。だかうどん屋みたいな感じですけど、なんかそんな感じになっちゃったんです。

K: お自分のうち。

J: そうです。十年ぐらい前に河口湖に家を建てまして、

K: 河口湖。

J: はい。富士山がとても好きで、富士山を見てるなんか安心する。

K: でもあれでしょう、10年前って言うとおんまりそんなブレイクをなさる前ですよ。

J: いや、もうまったく、もうだめだなど思ってる時期でしたね。

K: それでもお家は建てようと、

J: うん、こつこつ、ま、あの、仕事をやってましたので、なんか、勿論借金して建てたんですけど。それがちょうど10年ぐらい前でしたね。

K: そうですか。いいとうりょうがいらしてね。

J: えー。

K: よかったですね。富士山がね大体、皆さん、富士山毎日みたいと思いますよね。それがよく見えるんですって、富士山が。

J: えー、もう富士山ですね、自分の応接間から窓に全部富士山が入るように、

K: えっ、こんなに。嘘でしょう。本当に？

J: え、これあの、私がソファが、

K: ベランダから、

J: はい。このまま、このままの写真ですね。

K: でもよくこの間に大きい家は建ちませんでした。お宅の外。

J: そうですね。ちょっとこっちが高崖になってますので、高くなってますので、

K: でも高くなって建てるのはわりと大きいものが建っちゃえば、もうちょっと建っちゃとば、見えないでしょうよね、これが。

J: そうですね。だから結構こういうところ探したんですね。ま、縁があって、

K: ちょっともう一回見せていただけます？ [写真] わ、これ朝お目覚めになって、すぐ笑
いになってらっしゃいます。

J: そうです。窓を開けるとそういう状況です。ま、これは冬ですけども。

K: 河口湖のほうからこんなふうに見える、

J: ちょっと見える湖が河口湖ですね。

K: すごいですね。皆さんこうやっぱりあれでしょう、富士山ってこんなに見えるとちよっ
とお辞儀したい感じなりません？

J: そうです。友達ここに来て、皆手を合わせますね。

K: でもそんな感じ、このごろ私もね、だんだんね、あの、インドネシアの津波の被害を見たあとですね、なおの事、自然にね手を合わせて、本当になかったんですね、私、こう、自然に対して、やっぱり自然に(?) 本当あるだなどしななければならないと思って、こういう感じになりますね。

J: そういうことですね。なんか、こう、気持ちが引き締まって、今日も頑張ろう見たいな、結構富士山は私に勇気を与えてくれました。

K: でもね、富士山ってなかなかあんなにベロッと全部見えるところ、なかなかない、

J: そうですね。

会話 E

黒柳徹子 (K) 天満敦子 (T)

K:それで、あの、まあ、楽器なんですけど。

T:はい。

K:それはあなた今の楽器ね、

T:(?地名)産です。

K:そうですね。

T:もう結婚して17年半になりまして、

K:あ、そうですね。バイオリンと結婚してって言う意味ですよ。

T:はい。

K:あ、そうなの。じゃずいぶん前から持ってらっしゃるのね。

T:えー、まだ熱愛中です。

K:あのバイオリンが始めてきたときなんかひいてらしてもやっぱり慣れるのが時間かかる
んですね。

T:えー、もう本当に半年間ぐらいですね。家で練習していると母親が、あの、部屋をカッと
あけて、騙されたってよく言ってましたよ。お前にはとんでもないバイオリンを使わ
されたと言って、

K:本当に！

T:えー。だからもうそういうどうしようもないひどい音がしたんじゃないですか。ただあ
るとき多分それが半年経ったと思うんですけど、私自分も本当にかみがパッとはなれ
たみたいに瞬間にすごい素敵な音がしたんです。

K:そうですね。

T:で、あっと思ったらもうほとんど同時に母親もカラッとあけて、あなたやっとなの言う
ことを聞いていい楽器にしたのねって言って。

K:違う楽器にした、買いかえたんと思ってるからの。

T:そう。

K:同じ楽器と思いにならなかった、

T:本当に瞬間、

K:で、お母様絵を描きになるのね、それであなたのバイオリンを弾いてらっしゃるところが
右のほうにあったんですけども、ね。

T:やっぱりモデルは私に、

K:そうね、ずいぶん高くバイオリン上がってますけど。

T:そう。座って描いてるから私のこと見上げるので、

K:あ、あなた立ってひいてらして、お母様座ってらっしゃる。

T:後私の顔ちゃんと隠しなさいって言いましたから。

K:あんまり顔見えないように言って、

T: そう。

K: そうですか。

T: よくモデルさせられました。

K: でもお母さん面白い方で、そのバイオリンね、つかまされたとか悪口をおっしゃった時
あなたはひきなおしたら、違うバイオリンになったんだと思ってたんだけど。実は本
当のバイオリン、前からと同じだってわかったら、その方になんか、

T: えー、紹介して下さった方にね、本当に頭 90 度以上に下げてあやまりました。だっ
て、その人にぼろくそ言ってたんです。あなた娘に何をしたのみたいなことでね。

K: 本当に。

T: でも本当にひどい音だったと思うんです。多分こちらが私を試してた期間だから、家で
もたまらなかったんじゃないですか。

K: でもその方に、珍しい人生、お母様の人生でそう見たことない。

T: 初めてですね、私は母親がこんなに頭を下げたのは。その方もショックですよ、今だに。
あの、お宅の母ちゃんに頭を下げられてって、

K: そう、それが、で、いうのも手に入ったからといってすぐいい音が出るっていうもんで
もないですかね。

T: そうですね。もうそれ、その紙がポロッと向けたのが多分半年ぐらいだったと思うんで
すけど、それから3ヶ月ごとぐらいに何かの変化があつて、手を握ってもらえたのが3
年目ぐらいかな。

K: あ、そうなんですか。

T: え、それからもうだんだんほっぺ間にキスをしていただいたり、だんだん密着が始まる
んですけど。

K: なるほど。今じゃこれから引いていただくんですけど。今どんな感じ。

T: もう、今もうちょう熱愛中。

K: 超熱愛中、あ、そうですか。超熱愛中で、バッハの（?無伴奏）をひいていただくんで
すけど、この（?むばんそう）というものもあちらの方とかもお引きになる（?無伴
奏）というものが私たち心不足かなと思って、あなたおすきなんですって。

T: 一番ハッピー。

K: ハッピー。

T: 全部自分のものだから、よく悪くも自分のものだから。

K: まあ、オーケストラなんかと一緒にすると、あの、やっぱり、

T: いや、相手が間違ったりするともう腹立ちますでしょう。だって、それも私のせいにな
っちゃうから。

K: そう、そう。

T: でもそうじゃなくて、一人の世界すごく好きです。

会話 H

黒柳徹子 (K) 鶴見辰吾 (T)

K:でも、まあ、ご結婚去年の10月なさったんで、それが運ですか。そのちょっと前に杉田かおるさんと「金八先生」で大変な、最も金八先生の中で皆に印象を残ってる中学生で子供を生んちゃうっていうこの方ですね。「金八先生」の中で夫婦役泣いてたのな、あなた。

T:そうですね。

K:私たまたま見ちゃったんで、あの時のあのかいをね、あららら、大変だわねと思ってたんですけど。

T:僕もあれはシリーズを始まって3話目ぐらいから、ああいう話の展開になってくるんけれども。まさか、ああいう話になるとは出演してる部分も知らなくて、自分たちもショック受けましたね。その点かおるちゃんはどっちかという、ちょっとなんか、腹がすわってるところなんで、なんか私たち大変なことになるらしいわよ、みたいなこといつてたんです。当初から。

K:まあ、そんなことみたいな、

T:えー、

K:ですからあなたはご結婚を決まって、去年の10月なさった時に杉田かおるさんはまだなんで、ちょっとかわいそうと言うか、気の毒というか、

T:いやいや、気の毒と思わないですけども。あの、彼女は結婚するという話を僕が家に帰ってきたら家の妻がね、あの、「辰吾さん、知ってるの？」って、「なによ」って言ったら、「かおるちゃん結婚したのよ」って、「え!」、びっくりして、とにかく回りも誰にも知らせてなかったことなので、僕もびっくりして、ただ何しろその「金八先生」の時から、まあ、いろいろ、ほかの作品でも夫婦役とか、

K:多かったですよ、杉田さんと。

T:え、いろいろやってるんですよ。今年、その公開になった映画でも夫婦役をやってまして、なんか、その、彼女いわく僕たちの中っていうのがくさ恋愛だとかっていつてるんですけども。なんかその別れた奥さんが結婚しないで、ずっと、あの、一人いるのに、僕だけ結婚しちゃって申し訳ないなっていうようなずうずうしい気持ちがちょっと、

K:気持ちあったわね、あなたね。

T:だから、かおるちゃんが結婚するって知る時は本当になんか、すごく安心したというか、ほっとというか嬉しかったですね。

K:ねー、若い時だったから、やっぱり本当にねそういう中学生ぐらいで子供ができちゃうとそういう話がとても印象に残ってるんだけど、あの、「金八先生」同窓会というのがあって、その二人の間に生まれたという子供の子役がもうすでに結婚して、子供ができただけですって。

T:そう、そうなんです。

K: まあ、皆さんね、すごい昔の話してますね。私たちは。

T: そう、だから僕の息子役をやっていった子が今も俳優さん辞めてしまったんですけども、結婚して、

K: 子役だったわけ、その場合、あなたと杉田かおるさんのお互いに役の間にできた男の子が子供が、

T: これが本当だったら僕が孫いることになっちゃうんですね。

K: 本当よね。その時もしかして、笑っちゃうわね、40 で孫もあってずいぶん早いもんね。

T: 人生は楽しいでしょう。

K: そうですね。その子供が子供が同窓会に来て、それで自分の子供の、本当にあなたが言った孫、

T: えー、僕が「金八先生」でやった役は「(?)」という役で、杉田のやった役というのが「あさのゆきの」って言う役で、その二人の間に生まれた役、子供というのが「あゆみ」っていう子ですけども。僕の息子役やったあゆみ君が本当の生活で生んだ子供に「あゆみ」っていう名前をつけたそうなんですよ。

K: あっ、そうなの？それで同窓会で分かったの？

T: えー。それがなんか（？おさない）先生が、脚本の（？おさない）先生非常に喜んでまして、

K: あ、そう、それでその男の子があゆみ君がですね、自分の子供のあゆみ君の写真を持ってきたんだって。

T: あ。

K: 杉田さんが泣いたんって、それみて。

T: なんかね、あの人（？）ですね。

K: なんか不思議ですよ。ドラマなのにね。

T: そう、やっぱりすごくリアルに書かれていた本で、皆思い出があったんでね、その単なるドラマとしての関わりではなく、なんかすごく違う思いがありますね。

K: だからやっぱりあなたこの中で私が役の上ですけど、夫婦の役とか恋人とかなんかもやった杉田さんが何の話もないのにあなたが結婚したりなんかね、婚約したり、いろんなことで、ちょっと申し訳ないなって思うような

T: 心の隅でね、何しろ、二人ともね、その、15 歳で子供を産むという役を体験して、まさにその（？）で。その時期に 15 歳の時期に、子供を生む役をやって、周りの大人から、子供を生んで育てるっていうのね、本当に大変なことなのよっていうのがまわりにいわれる役だったんで、

K: がんがにいわれちゃんね。

会話 J

黒柳徹子 (K) 前田知洋 (M)

K: あなたわりとじみなかんじなんで、

M: あの、売れるまでの間にですね、前田君は地味な格好をしているから売れないだよってよくいわれましたね。

K: あ、そう。でも、向こうでやってらっしゃる方はわりとキチットした、そういうスーツでやってらっしゃる方も、

M: そうですね。実はマジジャンというタートルを着てる、燕尾服を着てたりするんですけども、実は 200 年前にその、それまで魔法使いな格好してたマジジャンがあんまりよろしくないだろうと皆さんと同じ格好しましょうということで、当時皆さんと同じ燕尾服を着始めた、最初で。

K: 錬金術師みたいな格好したの、すごいの、昔の。

M: そうです、そうです。

K: あれじゃなくなって、ちゃんとした格好でやっている。

M: そうです。ですから、ということ 200 年間ももう燕尾服を着てるので、そろそろ、あの、お客様と同じスーツで、ネクタイでいたほうがいいと思ってます。

K: なるほどね。向こうのマジジャン人たちがみんな読むような雑誌の表紙にもなっている、

M: おかげさまで、もう出て 70 年ぐらいになる、あの、マジックの業界紙なんですけれども、あの、実際マジックを勉強する方によって、そういう雑誌を見て、私マジックを勉強したもんですから。

K: そうなんですか。

M: それに表紙にさせていただいたのは非常に僕にとっては光栄なことですね。

K: 中にあなたは特集が組んだんですね。

M: すごく、珍しくて、16 ページにわたって、

K: そうなんです。いかにすごいことに書いたんですって。

M: えーと、そうですね。いかに変わってマジジャンという、

K: かわってる?

M: えー。というのはクローズアップマジックって、あの、世界的に見てもね、その本名にして、食べているというマジジャンが少ない世界でございまして、

K: あ、そうなんですか。指、きれいにして、爪先はきれいにしてらっしゃるんですって。

M: あ、えーと、これですね。最近、あの、皆様ご家庭で大画面テレビをご覧になってますでしょう。

K: えー、このごろこんな大きな画面。

M: ですから、こう、ささくれとかあるとね、すごくよく分かるもんですから、

K: あ、ちゃんとそういうところいらして、きれいに。

M: はい。ネルサロンに行って、塗ってやっています。

K: で、これからいよいよ見せていただくわけですね。クロスアップマジックだけど、新しいトランプでやるっていうのがつるつるすべて、やりにくいもんですって。

M: よくご存知いらっしゃるんですね。実際マジジャンってですね、あの、新しいカードを使うこともあるんですけども、しばらくならしてから使うことが多いんですよ。ところが、アメリカでマジックするときですね、あの、何か日本らしさをおとさないといけないと思ひまして、日本人って新しいものを開けてお客様をおもてなししますでしょう。

K: えー。

M: 例えば、割り箸ですとか、てぬぐいですとか、ですからもしかして新しいトランプを使うと、お客様、こう、東洋人の気持ちとして、もてなすことができるじゃないかと思ひて、

K: でもご不安はなんですか、これ。

M: えーと、たくさんあります。

K: いまだしてらっしゃるけど、いらぬやつがね、

M: そうですよ。じょうかで。

K: 数は大体ちゃんと合つてもんです。

M: はい。あつてもんです。これ本当ゲーム用のものですから、最初きちんと並んでまして、確認すると余分なカードが入つてることがないですし、足りないカードは入つていても、分かりますね。

K: 一気にちゃんとしたハートからクラブ・ダイヤ・スペードになつてます。

M: 触つてごらんになりますか？あの、マジジャンはどんなものを使つてますか。

K: えー、気持ちのいいもの、新しいの。

M: そうですね。

K: でも随分つるつるし、私だめです。どうぞ。

M: あの、もともとはラスベガスでゲーム用に作られたもので、一緒にゲームに進行にしやすいように。

K: この模様もなんか、あれにならないですか、裏の赤い模様は。

M: これですか。これ実は、あの、おかげさまでですね、トラックの会社が私専用のモデルを作つてくださひまして、

K: これあなたなんですか。

M: そうですね。

K: あ、知洋つて、書いてありますね。

会話 L

黒柳徹子 (K) 早見優 (H)

K: ご主人は前に伺いましたけれども、アメリカスクール時代の、

H: 先輩でして、

K: 先輩でね。

H: はい。あの、大学も一緒だったんですけれども。

K: そうですか。

H: 知り合って、そうですね、20年ぐらい、24年です。

K: あなた、24年!

H: はい。

K: でも、あなたの年齢で24年知り合いってすごいですよね。

H: そうですね。今考えると、あの、父以外に一番長くしている人かもしれません。

K: そうですよ。男の人としてはね。小さいときから、ですかね。

H: ねー。

K: アメリカスクールのときからって言うんですから、ずいぶん長いお付き合いで、まあ、結婚なさいまして、お幸せそうで、で、前のときもあなたをお見えになったときにアメリカにいらっしゃる彼のお母様もいらっしゃる?

H: はい。

K: 妹さんもいらっしゃるところへいらっしゃったの?

H: はい。カリフォルニア州のサンディエゴに住んでいまして、初めての出産ということに、周りにおじいちゃん二人いるんですけど、なかなか女性の方が先輩のほうがいないので、じゃ、家に来なさいよって、母が、

K: その方はアメリカの方?

H: そうです。アメリカの人です。

K: あなたのご主人は、えーと、じゃ、半分アメリカの方と、

H: そうです。お父さん、父が日本人で、母がアメリカ人、

K: アメリカ人?

H: はい。

K: で、その母、アメリカ人の方がサンディエゴにいらっしゃって、

H: えー。

K: どうせだったら、あの、ご主人の妹さんもそのあたりにいらっしゃるの。

H: はい。妹二人もいまして、ちょうど下の妹が同じ時期に子供を産むということで、えー、そういう共通点もありまして、

K: そうなの、じゃ、いらっしゃいということで、それであなたも、あの、ハワイに行くとか、育ちがね英語圏で。

H: そうですね。えー。

K: それで、まあ、一回目はそこでお産みになって、とてもいろんなことよかったとおっしゃいましたよね。

H: そうですね。あの、仕事を始めてからはじめの長期間の休みをいただいたので、東京に行ってもなんか仕事に行きたくなくなっちゃうんですね。

K: えー。

H: でもサンディエゴの、本当に田舎に住んでいるので、そこに行くと日本のテレビの放送もありませんし、

K: えー。

H: 日本の芸能界の情報も入ってこないの、まあ、本当の意味でリラックスができたというのか。

K: うん。

H: えー。

K: でも、まあ、ご長女お産みになって、

H: はい。

K: 今度次女お産みに当たっても、

H: はい。

K: また次もそうしようって。

H: はい。これはですね、あの、所属してる事務所の社長さんがやっぱり同じ条件で生まないと、後で文句言われるよって。

K: 子供からね、そうそうそう。

H: 言われましたので、あの、二回目は長女を連れて、お腹大きなままでまた母のもとに行きまして、

K: でも、あの、お母様いらっしやれば長女を見ててもらえるしね。

H: そうですね。

K: とても残念ですが、あなたの本当のお母様、あなた生んでくださったお母様おなくなりになったんのね。

H: えー。

K: こう、ずいぶんなりますよね。

H: そうですね。この間13回忌を、はい、あけまして。

K: そう。あなたの若さで13回忌ってずいぶんね、お母様何歳でいらしたの。

H: えー、54歳でなくなりました。

K: そう、ずいぶんお仕事バリバリなさる、まあ、ツアーコンダクターなさったりとかね、いろんなことをなされたお母様だったんですけど、なんか、お母様いらっしやれば、またね、いろんなこと違ったかもしれないけど。

会話 0

黒柳徹子 (K) 河口恭吾 (W)

K: 本当曇りのない声で、ね、その声やっぱりあれですよ、キープしていくのは大変じゃないですか。

W: そうですね。あの、昔は全然気を使ってなかったんですけど、最近、去年か、ツアーとか始まったり、後いろいろ、いろんな仕事やりつつ、曲を作って、コンサートしていくの中で、自分の波がやっぱりあるんだなって、去年ぐらいからやっとなんと図津分かってきて、いろいろ気をつけているんですけども。

K: 今のような晴ればれとした声をね、あの、持ち続けるのが大変だと思いますけど。桜が好き？

W: えーと、特別好きではないですね。どっちかという、春もう花粉症なので、苦手なんですけども。

K: えー。あなたはあれでしょうね、まあ、後で歌っていただくんですけど、東京にいらっしゃって、すぐ歌手になれるぐらいな気持ちだったそうなんですけど。

W: はい。

K: あれですってね、すぐなんだが、すごい自動車に乗ってずっと行くぞという、なんと言う自動車だっけ、皆、あの、乗りたい自動車って。

W: あの、ポルジェとかですね。高校生でまだ何も知らないときにそういうスカウトしていただいて、上京するチャンスを掴んだときに、もうなんか半年後にはそういういい車に乗って、なんかとんとんびょうしで人生行くんだろなって、甘い考えていたんですけども。半年後に乗ってたのはすし屋の出前のスーパーカだったですね。

K: バタバタ見たいなやつ？ねー、すし屋さんの出前のアルバイト？

W: そうですね。なんか、握る以外は全部、あの、やりましたね。

K: 出前やったりとか全部？

W: そうです。

K: なかなかね、そう、スカウトされてから、もう、

W: そうですね。全然音楽と関係ない日々が一年ぐらいありましたね。

K: 焦ったりしました？その時。

W: すごく焦りました。でも、なんか、どうしていいのかわからなかったりとか。

K: せいふくだったの、そのころなの。

W: そうですね、まさにそのころ。

K: そうだったんですか。でもいつか音楽家になってやってやるぞっていう気持ちはなくならなかったですか。

W: なくならなかったですね。なんか、こう、今考えるとまったく根拠のないいい実力もないんですけど、根拠ないなんか自分みたいなのが当時の自分やっぱり支えていたんじゃないかなっていうのが今思います。

K: そういふのがあります。私もそがいしててね、本当に東京の家もやけて、父はなんかシベリアのほりよになつたらしいとか、いろんな、本当にさいやくの状況にいつて、もうはくうなくて、近状の絶体絶命はいつてるつていつ状況でしたけど、その時なんかやつてやる、でも、ね、全然才能も何も分らないですよ、自分でも、なんかやつてやるつて、後考えたら笑つちやいますけどね。でもやつぱりそのなんかやつてやるつていつのが後なんかにつながつて来たかなとちよつと思ひますけど、だから大変のこと大変だと思わないでね。

W: そうですね。なんかやる前から結果出しちゃう、前の友達がすごく多くて、なんかそこにはんぱつしたいつていつ気持ちもすごくあつたと思ひますよ、音楽をやるつていつふうに決めたのは。

K: でも一応そのすごいオープンカーなんか乗つて、すごい女の子たちがキャアキャア言うような生活は半年後に来るつていつものがちよつとあつたことあつたんです。

W: まつたく女の人にも会わなかつたですね。

K: あ、そう、やつぱりそうよね。おすし屋さんの出前のほか下働きのほかになんか違ふバイトもやりました？

W: そうですね。アルバイトは例へば神宮のグラウンドで冬場ラグビーの試合とかありますよね。そういつ時にそこだつたとおひますけど、売店のアルバイトある日頼まれて、それは知り合ひから頼まれたんですけど、僕がやつた仕事つていつなのカップラーメンにお湯を入れるつていつ仕事でずつこの動作なんですけども。

K: これは何なの、これは？

W: これは、あの、お湯を入れるポットの、ポットを押す、そんなとか、またビールガラス清掃だつたりとか。

K: ではそれでも全然あきらめることなく？つていつのがやつぱり、

W: うん、まあ、25 ぐらいの時はやつぱりこれ無理でないかもしれないなど、上京はあんまり進まない中で前の同級生とかは、

K: そう、25 つていつとちよつどね。

W: ちゃんとしてるんですよ、すごく。

K: 就職とかね、だいがくいつたりするなんかは。

W: はい。

K: 就職したりとかね。

W: で、スーツ着てる友達のことすごく大人つぽく見えましたし、なんか音楽以外に自分やれることがあつたらそつちのほうがいいかもしれないなつていつずつとしばらく考えつた時期あつました。

K: でもよかつた、つづけていつらしてね。

会話 S

黒柳徹子 (K) 武田美保 (T)

T: 私もうなんか、オリンピックの本番の直前の時にはその金とか銀とかっていう意識ではなくて、私たちのずっと思い描いた演技ってそれを出さないで帰れない、そんなもんだったんで、だから彼女たちはどんな演技でやろうって言う、全然もう見る必要もないぐらいな感じの心境でしたね。で、泳ぎ終えてももう本当に満足の行く、そういう自分の感じでよく動いてくれたのも自分で感じられたんで本当に気持ちよかったです。

K: 本当ね。本当になんか、あの、だから本当に採点なざる方たちも大変だったと思いますよね。本当のことというと。

T: そう、難しいですね。

K: 多分そうじゃないかって、私わからないですけど。この後あなた方の今度で出ていただくに当たって、ロシアの見てみたんです。勿論きれいなんですけども、じゃ、どういだけロシアがいいか、専門家じゃないのに分からないけれど、これなかなかつけ難いなと思ったんです。ロシアがそのいつも立ちはずかっちゃって、前はロシア全然いなかったんですよ、昔は。

T: そうなんです。96年のアトランタオリンピックまではロシアがメダル圏内にはなかったですね。

K: ね、アメリカとか、

T: カナダとか、はい。

K: いたのに、皆いなくなっちゃって。

T: そうです。その、アトランタ以降に先手の入り変えがあって、そして特にその、アトランタと言ったらアメリカの解散になってたので、もうミセスの選手たちが残ってたんですね、アメリカとか、で、それが終わってからもうほとんど全員ぐらいやめてしまって、で、その、なかなかうまく入れ替えがなかなかなかったみたいで、

K: それに日本がこうキチキチした方たちがお入りになって、

T: はい。

K: あなた達がねおでになって、パッていたところにロシアも上にきっちゃってって言う感じなんですけど、でもそのことはともかく、あなた方が本当にやりたいようにやれたということがね、でも、まあ、それにしても、このシンクロナイルドスイミング、きれいでいなくちゃいけないんだけど。私、脂肪蓄えなくキャならないとかってね、すごいはね。

T: あ、そうなんです。あの、練習時間がね、やっぱり普通の競技よりか人に合わせるとか本当に体に染み込まないとどうしても自然な動きなれないので、時間が、

K: とにかくかかる。

T: で、10時間以上とかの練習になって、で、その分やっぱり食糧というか、食べ物で吸収しないとどんどん痩せていってしまうんですね。だから目標としては4500キロカロリーから5000キロカロリー、

K:皆、普通女の人って、大体まあ、1900 キロカロリーぐらいですかね。

T:そうですね。

K:痩せた人は別として、普通大体 1900 キロカロリー、2000 キロカロリーぐらいは普通といわれてますけど。それを5千近くとって。

T:はい。

K:そうだって言ったら、あれなんでしょう、私考えたんだけど、ショートケーキとアイスクリームとか、そういうのはいけないんでしょう。

T:いや、

K:食べてもいいの？

T:はい。

K:召し上がった？

T:もう別腹で、

K:あ、それはいいいの？

T:はい。

K:うん、で、何でもいから、でも試合に私たちいいじゃないかとおもうんだけど、毎日5千キロカロリー食べなきゃならないとなると、お嬢さんたちにとってはもう本当に負担なんです。食べることは。

T:そうですね。本当に口に合うように本当にいろいろ作ってくださるんですけど、どうしてもトレーニング厳しくなってきましたと消化器官とかもだんだん弱ってきて、なかなか口に運びにくくなるんですね。

K:精神的なもんありますものね。

T:申し訳ないですけども、本当に食べ方も、なんと言うか、食べさせれてるっていう感じになってしまうんですけど。でも、何だろう、あの、今しか出来ないなって逆に戦中のときは思ってたので、

K:でもエビフライなんか出たりすると、一人10匹、エビフライ10匹、

T:そうなんですよ。

K:いくらとんかつソースかけて食べてもいいと言っても、10匹とか言われるとやっぱりちょっとね、

T:そうなんです。なんか大皿でそのフライとか出していただいたりしたんですけど。こう、目分量で4人ぐらいで分けするんですね。で、まずじゃ10本取っところかって皆でやって、まだ残ってるとか、じゃあと2匹ぐらいずつ、

K:そうですね。やっぱり不思議なもので本当にお腹空いて食べたい時に好きなもの食べるのがいいんだ、やっぱりね。でもこうやって脂肪蓄えて、それで燃焼さしていくんじゃないと、本当に痩せちゃって、それからあれも出ますよね、力も出なくなっちゃうので、そこはやっぱりシンクロの、きれいじゃなくなちゃいけないのに、そういうすごいことが中で行われてるといのがちょっと、ほかのスポーツとまったく違いますよね。

会話 U

黒柳徹子 (K) 劇団ひとり (G)

K: でも、お父様のお仕事の関係でアラスカでお過ごしになったときは、本当に、あの、なんか、レッドサーモンとか釣りにいらして、

G: はい。

K: そんなのが当たり前のことに思っていらしたんですって。

G: そうなんですよ。子供だから、何の感謝もないですよ。

K: お写真あります。

G: あっ、ありますか。

K: なんか、私見た、そうそう、下のほうにサーモンですかね。

G: これたぶんレッドだと思うんですよ、レッドサーモン。キングとかなんともつと腰の辺りまで

K: そうなんで、大きいのね、でも、こんなの簡単釣れるんですか。

G: そうなんですよ。

K: かわいい。当然のように

G: そう、当然のように。今日サーモンつりに行くわ、みたいな感じで、

K: 家族で行くわけ？

G: そうなんですよ。で、ナイフで腸やって、いくらだして、

K: いくら持っていくの。

G: そうです。向こういくら捨てるから、タッパ持って、いくらくれ、いくらくれっていうんです。

K: 大体あなたいくらくれいくらくれ、なんかくれるだけ。日本から、あの、お別れするときにお友達に、向こうにいらっしゃるときに、日本の友達になんかさよならいえないから、一軒一軒回って歩いたんですって、さよならって、

G: あ、出国するときですね。

K: そうです。

G: しました。あの、同級生のところに一軒一軒回って、ダンボールを持ってお別れの品を一個一個よこせよって言って、同級生のところ回ってたんですよ。

K: でもおもちゃとか貰ったんだってね。

G: そうなんです。だから、かっていに家に上がってて、俺これくれっていってもらって、

K: すごいわね。

G: で、かわいそうなやつとかはいや、俺何にもないから 500 円あげる、お金貰って、

K: そう。お送別皆から貰って、二年生で、随分しっかりしてらっしゃいましたね。

G: ずうずうしいこともしましたね。

K: それで、まあ、向こうでいろん楽しい生活、そうやって、お父様たち、お母さんも一緒にね、キングサーモン釣ったり、もう本当にいろんな四季をおよいで、ああいうとこ

る四季はあるんですかね。

G: 四季はあります。ちゃんと夏は夏で、半ズボン半そでで過ごせますし、冬は長いですけどね。

K: そうね。でも、ああいうすごい寒さ零下何十度というところでしょう。アンカレジですからね。それはすごいと思いますけれども、そういうところで、まあ、なんですか。国際的なところで、お育ちになって、で、まあ、お帰りになったわけですから、いろんな体験してらっしゃるんですけど。あなたはあれです、今、劇団一人っっているぐらいでお家にいるときも一人で好きですか、なんか

G: そうですね。でも別になりたくて一人になってるわけじゃなくて、気がついたら、一人になっちゃって、なんか友達いないんですよ。

K: そうなんですか。珍しいですよ。飲んだりもしない?

G: 飲んだりには偶にはするんですけど

K: お酒あんまり飲まない?

G: そうですね。電話もまず鳴らないです。

K: そう

G: 僕らって、正月五日間休みがあったんですよ。誰か誘ってくれるだろうと思って待ったんですけど、誰からも電話なかったです。

K: 皆に教えてあげるの、ちゃんと電話番号。

G: あります。ずっと家いました、一人で。

K: 女の子も?

G: 女の子もいないです。

K: それでちょっと悲しかったですね。

G: 悲しいです。だから最近はなんか家で観葉植物とか盆栽とか始めて、後料理始めたりとか、なんか一人で楽しむ時間が増えましたね。

K: アイボンもその一つなんですか。

G: アイボン

K: それ、ちょっとさき CM 挟みます。今日アイボンをお持ちいただいて、私が持っているのはだいぶ、なんか後で出たアイボンなんで、

G: そうです。

K: なんかすごいです。 いろんなことするんですって

G: ぜひみてください。

中国語：「芸術人生」「楊瀾訪談」

会話1

朱：常香玉老师一生当中带给我们观众的，无论是戏台上的唱腔、作派，还是一生的为人、都是那样美好，留给我们心间的都是一些美好的记忆。但我知道，其实在旧中国，艺人的地位非常低。您那个时候为什么就去学戏了？

（常先生は舞台に立った時だけではなく、人柄もすばらしく、いつも私たちの心の中に美しい記憶ばかり残されました。知られているように、昔の中国で芸人の地位は非常に低かったわけですが、どうして芝居を習いに行ったのですか？）

常：我是九岁开始正式学戏，九岁之前，我父亲是个演员，他带我到旧戏班里去过几次，我在那儿呆了几次，心里头就记住了唱戏怎么个唱，怎么个甩大辫，心里头光想着剧团里的事。为什么我那样清楚呢？因为我们家里很穷，我父亲是演员，戏班对他很照顾，我都吃得可饱，所以我就很想学戏。

（私は九歳から正式に芝居を習い始めました。その前、お父さんは俳優なので、何回も劇団に連れて行ってくれました。そして、私は、劇をどういうふうに演じるのかを心の中で覚えました。心の中で毎日劇団のことばかり考えていました。どうして私はそんなにはっきり覚えているのでしょうか。私のうちはとても貧しかったんです。お父さんについて行くと、劇団が彼に気を配って毎回私もお腹がいっぱいに食べることができました。それで私は芝居を習いたくなりました。）

朱：您刚才说了您的父亲叫张福先，那后来为什么改姓了常呢？

（あなたがさきほどおっしゃったように、あなたのお父さんのお名前は張福先でございますが、どうして(あなた)名字は「常」に変わったのでしょうか。）

常：改姓常那是学戏之后很长时间。我再说一点儿，我为什么九岁学戏？是因为到了年纪要送童养媳，童养媳是很难当的。我到九岁时要送童养媳，我老父亲不同意。他看我演戏是个材料，可是（那时）闺女家演戏，丢人丢死了。我那姑姑就跟我父亲吵得很厉害，我也上去抱着我父亲的腿，我非学戏不中。父亲就教我学戏了，这时候到民县的土煤窑上供的一个小窝班（小戏班），我先到那里去学，还得要练武功。后来到了郑州搭了周海水的戏班，头一天就给我安了一个小马童。我就上去翻跟头、打马车滚、又一个双叉劈开。观众欢迎得很，有的把钱放在台子上，有的说你拿着钱去买丸子粥吧。

（常姓に変わるの芝居を習った後のことです。当時の貧乏な家は子供を養えないから、女の子は小さい時から、将来の嫁さんとして他の家に送られます。父は私を他人の所に送りたくないし、私も芝居が好きだし、じゃ、芝居を習いましょうということで始めたのです。しかし、当時、女の人は芝居を習うのが許されてなかったから、家族の皆に反対されました。父と家を離れて、習い始めたのです。はじめは民県、そして、鄭州市に行って、そこで周海生さんの劇団に入って、舞台にのびりました。観客に好まれ、「お粥を買って」って、お金が舞台に置かれました。）

朱：挣丸子汤喝。

（食べ物をもろうために！）

常：那时我老父亲给我教戏，教一遍不行，教两遍不行。老父亲说再唱，还唱不对，他越吵我、越打我我越唱不对，他拧着我的嘴，大拇指头到我嘴里就这样揪着，你这嘴皮子怎么不使劲，你的牙关子咋不使劲，我劲咋使啊，不知道啊。这打得太狠啊，一脚给我踢到车底下了，踢到车底下嘴磕烂了，顺嘴流血。旁边的老乡们不愿意了，说我父亲是人贩子，上去把我老父亲绑住，吊起来打他。老父亲说是我的亲生闺女，人家不信叫我去，我的脸啊、嘴啊都肿了。到那儿去了，我就扑腾跪那儿，抱着我爸爸，这是我的亲爹，不能再打！不能再打！人家才把我的父亲卸下来。我老父亲抱着我说，孩子，这戏咱不学吧，爸爸没有这本事教你，爸爸也不能挣钱，咱去要饭吧。我哭，说戏得学，我以后听话。他就是这个教育方法。

（父から芝居を習いました。何回も何回も教えてくれましたが、どうしてもだめだったから、父に殴られ、蹴られました。もう馬車の下に転んで、血が流れました。周りの人に見られて、父が人買いの人だと言われて、縛られて、殴られましたね。私は父の足を抱いて、周りの人に「この人は本当に私のお父さんです」って言いました。父は私を抱いて、もう芝居をやめましょう、乞食になりましょうって言いました。私がこれから頑張りますから、乞食なんかならないって泣きながら言いました。これ（殴る）が家のお父さんの教育方法なんです。）

朱：当时您的老父亲张福先老先生教您学戏，还有一个说法就是，宁可让我打死，也不能作为童养媳卖出去，让别人给打死。是这样吧？

（お父さんから芝居を習ったんですね。またお父さんが「（芝居ができないなら）私に殴られたほうが、他の人のうちに使用人として売るよりいい」って言ったそうですね。本当ですか？）

常：是。因为我有四个姑姑，被打死了一个，打残了一个。

（そうですね。おばさん4人いますけど、一人が殴られて亡くなりました。もう一人が体が不自由になってしまいました。）

朱：都是童养媳？

（4人とも売買されましたか？）

常：对，对。老父亲不叫我当童养媳，就是这个心情学的戏吧。我老父亲这个人很讲义气，非常坚强。我当时还叫张妙龄，因为要回去，这姓张的家知道了以后，就给我们写信，跟我父亲说，你只要敢回到巩县我打折你的腿，张家不要这样丢人的人。这时我父亲的一个朋友就说，张家人嫌你唱戏丢人，你改姓，这孩子是我的孩子，我姓常就让她姓常。就认了这个干爸爸，他叫常辉青。干爸说，给孩子起个名，不要张家原来起的名，我爸爸想了半天说，这孩子敢干敢说，就叫香玉吧，为啥呢？他说楚霸王叫香玉，他不知道是项羽。

（はい。私を行かせたくないから、芝居を教えてくれました。父は意志がゆるぎなく、義侠心が強い人です。私の本当の名前は張妙齡です。田舎にいた一族の人から、「もう帰っ

てこないで、女の人が芝居を習うなんか恥をかきます。帰ってきたら、死ぬまで殴るぞ」みたいな手紙が届いたのです。父の友達が、じゃ、私の名字を使ってください、これから私の娘という身分で生きて行きましょうって言ってきて、名字が「常」に変わりました。名前も変わりました。昔、楚の霸王がいたから、彼の名前を使いましょうって。しかし、父は「项羽」を「香玉」と間違いました。）

朱：项羽，所以叫香玉了。

（「项羽」との間違いで、名前は「香玉」となってしまったんですね。）

常：他还解释呢，这个名可好，到处都很香，玉是很磁、很硬，我老父亲没有文化。博采众长自成一家

（そうね、彼の解釈によりますと、この名前の「香」という字が人気があるという意味で、「玉」が丈夫な意味をしているから、いい名前って言ってましたね。お父さんが学校に行ったことがないからです。）

朱：据说您十几岁的时候，在河南就已经很红了。

（あなた様が）十代の頃からもう河南省でとても人気があったそうですね。）

常：我11岁那年上开封，跟着人家剧团，海报上面就没有名。

（私は11歳の時開封市の劇団に入ったんですが、まだポスターに名前が載るほどにはならなかったですね。）

朱：真正在戏中顶大梁是在什么时候？

（主演になるのは何歳ぐらいのことでしたか？）

常：就是《曹庄杀妻》啊，我一翻跟头这不观众慢慢都喜爱了，这时候周师傅就说我老父亲，赶快给孩子排大戏，就练啊、唱啊，那时候我12岁了。这一年周师傅给我钱了，一月就挣八块现洋，养活一家人。老父亲、老母亲高兴得不行。

（『曹庄杀妻』に出演しました。観客がだんだん好きになってきて、劇団の周さんが家のお父さんに、「子供にもっといい芝居を教えてあげて」と言って、それからだんだん多く出演ができました。当時は12歳だったです。一ヶ月8元をもらえるようになって、もう一家の大黒柱になりました。家の両親がとても喜んでくれたのです。）

朱：等您有点儿名的时候，他就不再打您了吧？

（有名人になったあと、もうお父さんに殴られたことないでしょう？）

常：也打。一直打到我20岁。

（いや、殴られましたよ、20歳まで。）

朱：您12岁就挣八块钱大洋了，那13岁应该比他挣得更多了？

（あなた様）12歳時もう月8元もらえるようになりましたが、13歳の時はもうお父さんより給料が高かったでしょう？）

常：13岁我挣二十四块。家里在开封街上租了一套房子住。

（13歳の時、一ヶ月24元もらえるようになりました。家族みんなと開封市で家を借りて住むようになりました。）

朱：你已经在养活全家人，他为什么还打你。

(その時もうすでに一家の大黒柱になったのに、どうしてまだお父さんに殴られ続けましたか?)

常：他就是说我的戏学得不好、唱得不好。他逮住我头，逮住哪儿都打。

(まだよくできてないって言われて、よくお父さんに殴られました。)

朱：当时还没有豫剧这一说？

(当時はまだ「豫劇」という呼び方がなかったですか?)

常：对。是解放以后才有这个称呼。当时有个编戏的先生，老教授王振南给我编了七本《西厢》。我唱的是豫西调，那时豫西调不准唱豫东调，你唱人家豫东调，自己的人对你不满意，人家的人夜里还想法打你呢，谁也不准唱谁。豫东调它是明快的，能唱出人物的心情。

(ええ、その名前は49年以降つけられたのです。その時、脚本を書く有名な人、王振南教授が私のために「西廂」という脚本を書いてくれました。その時「豫劇」が「豫西」派と「豫東」派に分けられ、交流なんか一切禁止されてます。その時歌ったのは「豫西」派だけど、「豫東」のほうはもっと明るくて、人物の明るい気持ちが表われています。)

朱：高亢、明亮的那种。

(高らかによく響く、明るい調子の歌ですね。)

常：红娘这个小孩得天真、活泼，豫西调适合抒情的悲剧。我爸爸说，对，咱现在要改成豫东调。请来豫东的老师教，我父亲他敢改，我也敢唱，也不害怕。唱完以后就遭到很多人的反对。有人说我爸爸是叛徒。

(「西廂」は「豫東」派の歌い方がもっと合うと思ったので、父は変わりましたよって言って、私は習い始めました。しかし、「豫西」派の人たちに叛徒って言われました。)

朱：在那时候大家门派观念那么强的时候，常老师的父亲应该说还是一个改革派，博采众家长所，加上他女儿自己的特点，终于形成了常派唱腔，现在是不是可以这么说？

(昔皆の派系の意識が強かったですね。常先生のお父さんは改革派と言えますね。皆の長所を吸収して、自分の娘の特徴と融合して、「常派」を創り出しました。今、こう言えますか?)

常：可以。那个时候我也不懂得什么创造角色、人物性格，啥也不懂。那时开封有祥符调，有豫东调。豫东调是司凤英，祥符调是陈素珍，都是很有名的艺术家，我就去看她们演出。

(そうですね。当時の私は、役の創作や人物性格なんか全然分からなかったです。ただ有名な人たちの芝居を見に行って、習いましたね。)

朱：我知道您的生命当中还有一个非常重要的人，那就是您的丈夫陈宪章老先生。我特别想知道，你们当时是怎么认识的？

(ご主人の陳憲章さんが(あなた様の)人生の中でとても重要な人でいらっしゃいます。とても知りたかったのは、どうやってお知り合いになったかということです。)

常：当时是我在宝鸡演戏。他是那儿国民党下边三青团的一个主任。那时候他请我给他们演过几场戏，就是这样认识了。

(私は宝鶏市での公演中で、彼が国民党の当地の主任として、私を呼び、芝居をさせたことがあります。)

会話3

朱：见到您呢我一直在想称呼您什么，叫王老师显得有点远，叫王女士显得不够尊敬，后来我想了半天，我觉得从年龄来讲的话，我叫您王阿姨好像更亲切一些，您同意吗？

(あなたと会うと、何と呼んだほうがいいのかをずっと考えてます。王先生ってちょっと親しくないし、王さんってちょっと失礼だし、やっぱり年齢から見ると、王おばさんと呼んだほうが一番いいと思います。よろしいですか。)

王：叫什么都行

(どうでもいいですよ。)

朱：那我想问您的第一个问题就是我一直以来特别感兴趣的一个问题，我觉得每次见到您的时候，您都显得精神矍铄而且非常漂亮尤其是头上的发卡给我们留下了特别深刻的印象，您总共有多少发卡？

(ずっと聞きたかったことがあります。(あなた様と)会うたびに、いつも元気で、毎回違う髪飾りで飾ってます。全部でいくつの髪飾りをもっていますか？)

王：这还没统计过，有那么几个吧

(数えたことないですけど、何個かあります。)

朱：有那么几个，每次出来的时候都要根据衣服很认真的进行一些搭配

(何個かありますね。それで毎回ちゃんと洋服と合うようなものを選んで、そうでしょう？)

王：首先我应该感谢战友朱军对我发卡的肯定。而后我应该说这个发卡可能是从我演完《野火春风斗古城》，你们还记得吧有一个发卡，这么多年没摘掉，就觉得它比较容易管束我的头发

(まず朱軍さんの好意に感謝します。映画『野火春风斗古城』に出演してから、髪飾りは私にとってもう欠かせないものになっていますね。つけたほうが髪がまとまりやすいと思いますから。)

朱：我想问问您，那张相片是您多大的时候。

(ちょっと聞きたいんですが、この写真は何歳で撮ったものですか。)

王：哪张

(どの写真ですか？)

朱：就是那个梳小辮的

(あのおさげを編んでいる写真です。)

王：那是我12岁的时候

(それは12歳のとき撮った写真です。)

朱：那个时候在什么地方

(その時どこにいましたか?)

王: 在重庆, 因为我小学一年级到四年级基本上是在巴蜀小学念的, 五六年级转了一个学校, 巴蜀被炸掉了, 被日本鬼子的飞机炸了, 到六年级毕业重新转回来, 要一张照片作为学生准考证上的照片, 就是这张照片

(重慶でした。小学校4年生まで重慶の「巴蜀」小学校で勉強しました。5年生の時、日本の軍隊の空襲で「巴蜀」小学校が爆破されました。六年生の時建て直されました。卒業する前に試験に参加するために、この写真を撮りました。)

朱: 听说您的文学功底, 在某种意义上跟巴蜀中学是有关系的, 在那个时候打下了比较坚实的文学功底

(しっかりした文学基礎を「巴蜀」中学校で基礎作りしたそうですが。本当ですか?)

王: 是, 不敢说文学, 就是说有一点常识吧, 或者说老师们很好。我很怀念四川、重庆、巴山蜀水, 对我的一生都有很多影响。那么特别是我的老师, 从小学现在叫班主任, 那时候叫级任老师, 姓陈, 叫陈剑林, 和我中学的班主任叫刘家树, 都特别棒

(そうですね。文学基礎なんか、ただの常識なんですよ。その時の先生たちは皆すばらしかったです。四川、重慶、その時の生活は自分の一生に大きな影響を与えました。小学校の陳劍林担任先生、中学校の劉家樹先生、皆すばらしかったです。)

朱: 您跟您巴蜀中学的同学还有来往吗到现在

(まだそのときの同級生とつながりがありますか、今。)

王: 很少了

(あんまりないですね。)

朱: 后来您在部队文工团就像您说的招的都是名角并且以前团里有很多名角, 所以说, 真正演出的机会似乎不是很多, 所以说就干了一段时间杂工的事

(おっしゃった通り、軍隊の文芸劇団の中に有名な俳優がいっぱいたったため、(あなたが) 舞台にのるチャンスが少なかったの、雑用をしたとか。)

王: 54年就调我到话剧团了, 你想想看, 刚刚京剧熟悉了一点之后给你调到话剧团了, 又什么都不会了, 当时话剧团挺棒的, 演一个大戏叫《冲破黎明前的黑暗》, 是一个农村戏, 我在里面跑个群众, 可是你光演个群众也不行啊, 那么大一个戏, 当时话剧汇演是得了很高的奖的, 那么就分工我要兼一点别的事, 就是我在化妆组管化妆管理, 这样的话, 那个戏是一个农村的戏, 是讲五一大扫荡, 日本鬼子的时候, 所有的演员的腿上、胳膊擦起来都要抹很厚的油彩, 脸上的油彩也很深, 就像农村晒的那样。当时那个条件吧, 那个下妆的时候拿一点稍微细一点的凡士林抹抹脸, 一个人有这么大块纱布把脸上的油彩擦了就比较不错了, 这洗纱布就是化妆组的活, 就每天要洗这么些纱布, 有多少呢, 化妆加起来有60多个演员吧包括群众演员, 有的演员换装的时候也要用纱布, 在家里还行—在北京, 但是我们是总政文工团要下部队演出的, 到一个地, 我的任务首先是洗这个纱布, 而且每天要换一个台, 到哪儿先找地, 有没有水, 先洗纱布, 每天洗, 每天洗, 每天洗, 洗每一块纱布的时候, 就觉得这也是对我的一种锻炼。因为革命队伍需要我做

这个，当时特别单纯，就这个纱布我洗了很长很长时间

(京劇が慣れたばかりなのに、1954年、新劇劇団に転職させられました。また素人になってしまいました。その時は新劇『冲破黎明前的黑暗』のなかで端役をやりました。そのほかに化粧品の整理などの仕事もやっています。その新劇は戦争時代の農村のことを演じていたから、俳優たちの化粧もすごく濃くて、落とす時ガーゼを使って顔を拭かなければいけなかったです。使ったガーゼを洗うのは私の仕事です。毎日60人ぐらいの俳優たちが使ったガーゼを洗わなければいけなかったです。その時全国あっちこっちでやっているから、新しいところに着いたら、私は絶対まずガーゼを洗える場所を探しました。その時の考え方は非常に単純でした。つまり、これが仕事上の必要で、自分への鍛錬だと思いました。)

朱：都洗出内心独白来了吧，这个纱布我一定要好好洗，士兵都是从小事开始做起的

(独白があったでしょう。「このガーゼを洗う仕事は絶対にしっかりやる。兵士の成長は小さいことをやることから始まるの」)

王：是真的，是这样

(本当ですよ。確かにそう思いましたね。)

朱：通过几部电影的拍摄以后呢，应该说也就有了些名了，我估计在您那个年代的时候这种状态可能会更强烈，就是在一个单位，你要四平八稳的可能没人搭理你，大家都觉得你不错，这个小姑娘挺用功的，但是你突然间就突然冒上来了，然后就比别人强了一大块的时候，我估计周边会带来一些压力的，人们无论是嫉妒也罢，无论是觉得什么心态就不说了，是不是会有那么一段

(あなたはその時普通の人で皆に注目されていませんでしたが、何本の映画を撮った後、だんだん皆に知られました。急に有名になって、周りの皆より優れたら、周りから圧力がかけられたでしょう。嫉妬かなんか、みんなの心理は分からないですけど、そんな時期ありましたか？)

王：这样我演完了《神秘的旅伴》回来之后，那个大戏《冲破黎明前的黑暗》还在演，接着洗纱布，那个纱布还得接着洗，还得接着跑群众。当时当然像我这样的情况很少很少，领导也好，同志们也好都是很注意我的，领导首先说晓棠不要骄傲哦，管的很严，当时也没敢骄傲，就觉得自己还不行，所以每天还洗纱布，洗得还特别认真，而且还要比以前好一点

(映画『神秘的旅友』を撮り終って、帰ってきて、舞台劇『冲破黎明前的黑暗』がまだ上映中なので、続けてガーゼを洗いはじめました。端役をやり続けました。当時上司や同僚に注目されました。自慢しないでって上司に言われましたね。まあ、自慢なんかはしてないし、また頑張らなきゃと思って、本当に以前よりもっとまじめに毎日ガーゼを洗い続けたのです。)

朱：我觉得您演的这个角色当中，更多的都是那种很善良的女性形象，但有一个例外的就是那个阿兰，那个女特务演的，好嘛，也演的确实入木三分，您是怎么体验的这个特务的？

(今まで全部優しい女性の役を演じましたけど。スパイ「阿蘭」は例外だったですね。演技がすごかったです。どうやって体験しましたか?)

王：阿兰其实不是女主角，阿兰比女匪首李月桂镜头要少，根本没有什么商量的余地演还是不演而且我心里也没想不演。因为我觉得演员还是说服自己应该演各种各样的角色，应该成为一个性格演员。最难的开始一点就是学这个伦巴舞，那个伦巴舞没见过，后来就叫我们一个老录音师来教，他舞跳的特别棒，第一天我一看着舞怎么这样我就傻了也不知道怎么是这样的，可是你临时学的，你不能表现你是临时学的，你总要表现比较好，每天也练。那个时候正在除四害，麻雀是四害，我们都要上房子上面轰麻雀，那个房子是这样的，站在上面练差点摔下来，就练伦巴

(「阿蘭」は主人公じゃなかったです。シーンは比較的少なかったです。その時私が役を選ぶ権利がなかったんですよ。まあ、私は女優としていろんな役を体験し、実力派の女優になるべきだという考えもあります。この役の一番難しいところはルンバでした。踊ったことがないから、一生懸命練習しました。あの当時スズメが害鳥と見なされており、私たちはスズメを追出すために屋根の上に行かなければいけなかったのです。私は屋根の上立って、ルンバを練習しました。危なかったです。)

朱：站房间顶上练伦巴，这个挺绝的

(屋根の上でルンバを練習する？それはちょっと、想像も出来ないです。)

王：后来太危险了，也不敢练了

(でも本当に危ないから、(そこで練習する事は) すぐやめました。)

会話6

朱：在我感觉，你那个年代的同学好像大部分都应该开赴了广阔的农村去接受贫下中农再教育。

(私の印象で、あなたの年代の人はほとんど田舎に行って、農民と一緒に働き、一緒に生活しなければいけなかったですね。)

余：对，而且我的去和其他同学可能不太一样，就是我是非常急迫地、非常积极的、非常强烈的要求快一点下去早一天下去。

(そうです。私はその当時本当に一日も早く家を離れて、田舎に行きたかったですね。これは他の人と違うかもしれないですね。)

朱：为什么呢

(どうしてですか?)

余：因为只有我的劳动才能养活我们家里的人，所以当时就觉得只有我下乡劳动可能会有一些钱而且我知道当时的大学生去劳动是有一些钱，这个钱非常少、非常少，但是按照当时的生活水平够养活了。

(当時、大学生は田舎で働いたらお金をもらえます。少ないけど、一家の生活にはぎりぎり足りませぬ。)

朱：您家里当时多少人

(当時お家には何人いらっしゃいましたか?)

余：我刚上来的时候看到那儿有一张我家的照片

(先ほど家の写真を見ましたね。)

朱：这是您家的全家福

(はい。これはご家族の写真ですね。)

余：中间高的是叔叔，叔叔边上是我

(真ん中の背が高いのはおじさんで、その隣は私です。)

朱：戴眼镜的那个是你？

(メガネをかけている人はあなたですか。)

余：是我，看到这张照片，我当然是比较难过，理由是，这张照片拍在 1965 年

(私です。この写真は 1965 年に撮ったものですね。見るたびに本当に悲しいです。)

朱：我一岁的时候

(そのときちょうど私が一歳でした。)

余：一年以后这张照片一切都变了，这张照片里站的最高的人已经离开了这个世界，这些人的经济全部断绝，所以当时我想有没有可能让我早一点下去，就是当时最好的事情，能够有一个工作。

(この写真を撮ってから、一年後すべてが変わりました。この写真の中の一番高い人一家族の大黒柱、おじさんがこの世を去りました。だから一日も早く田舎に行って仕事をしたかったですね。)

朱：能够挣到一份钱

(お金をもらえますもんね。)

余：我初中刚毕业的大弟弟，他没法读高中，他就出海捕鱼了目的就是为了养活我的家里的人，但是这也是所补甚少于事无补。那真是一个非常痛苦的年月。我始终是在饥饿中，所以前不久遇到一个人，说当时你有个非常有趣的特点，到哪里去天天给你家借饭票没有还过。我说一定是这样，因为我完全没有钱而且当时你怎么有这个意识就是从来不坐公共汽车老是走路来来去去，当然是没钱，所以马上到农村去，劳动第一个月得了劳动报酬 47 块人民币，我 35 块就寄给家里，所以我当时觉得非常高兴。

(うちにお金がないから、弟は中学校を卒業してから家族を養うために漁民になりました。それにしても生活は大変だったんです。私の記憶の中では自分がいつも飢えている状態でした。先日友達と話した時、彼が「あなたいつも家にお金を借りに来たけど、今でも返してくれないですね」って言いました。確かにそうです。お金がなかったですから。だから田舎にいけることは大変嬉しかったです。一ヶ月働いて、47 元の給料のうち、35 元を家に送りました。その時は本当に嬉しかったです。)

朱：像这样的日子过了多长时间

(そんな生活はどのぐらい続いたのですか。)

余：两年多，但是这个日子确实是太艰难而且对我一生当中留下的印象太深太深。好多人问我到最后，你为什么后来写了那么多的学术著作，为什么不停的写。我说如果经历过那个时候你就会知道让一个人在书堆里面写字是多大的幸福。好多人问我你是不是当时考虑到有什么写这个书有什么名利要求。我说我实在无法跟你说明白那个时候没有稿费这个概念，而且这个书我写的时候也完全没想到会出版，出版好像和我没有关系，最多是有个油印材料发给我讲课的那些学生听，这是最高目标了，或者什么时候能够评个讲师，你看他有油印教材的就是这个目的，这个目的想的也很少，主要是享受，享受在书里面，我这个书也可以看，那个书页可以看，而且之前也可以写，明天也不要劳动，这个感受是太幸福了，而且在苦难当中才知道善良是什么，在苦难当中才知道友情是什么，这些东西都是一定要承受过非常大的苦难才能最后感受到。

（二年ぐらいでした。その時の辛かった生活は、私の一生に消せない印象を残しました。私が書いた本が出版された後、「一生懸命本を書く理由はなんですか？お金のためですか？」って、皆に聞かれました。実は苦難あふれた生活を経験したあと、本を読める生活の大切さが分かってきました。お金のことなんか全然考えてないです。本を書いた当時、出版することなんか考えたことないです。ただ、自分が書いたものをプリントして、学生たちに参考資料として配りました。これはその時の最高の目標です。あとはこのプリントは教授を申し込む時、自分に有利かなと考えました。実は本を書く時の幸せを楽しんでいます。肉体労働をやらずに、本を読めることなんか本当に幸せです。これは苦難を体験しないと味わえないものです。）

朱：回过头来有一段非常艰苦的写作的过程

（今から振りかえってみると、本当に辛い過程だったんですね。）

余：对

（はい。）

朱：这个过程有几年？

（この過程は何年だったのですか。）

余：是这样，中国在十一届三中全会之后，我的长辈王元化先生跟我讲，他说中国遇到了近百年来最好的时期，我马上就觉得要抓住这个时代，我就开始大概有8年时间的苦读，这个苦读，我再去找我那个苦读的房子找不到了，13平方米一个斜顶的朝北的一个小房间，冷的要命，冬天写文章，但是完全没有空调什么的，不可能了，就是窝饭的一个草锅，我把脚伸在里面上面压一些破棉絮，好，开始阅读，从古希腊开始的那些思想家有关文化、有关哲学，当然也有关戏剧方面的所有的书，一点一点看下来。这种读书笔记的其中的戏剧部分我把它整理出来，就变成了我的第一本学术著作叫《戏剧理论史稿》当时是觉得年纪很轻 谦虚一点 30多岁 写了一本68万字的学术著作，好，然后再一本本、一本本的写，所以这样的话我等于把早年先学后来在农场里面浪费的青春年华就是在文化意义上一点一点补回来了。我非常集中、非常认真的读完了最重要的一些著作，如果有缺漏我一定补，而且读了以后我一定要写。写呢，不是仅仅写笔记，我要把它写到能够出版和发表的地步，

这样的话就是要求很严格，这个8年我觉得有一点在文化学术上有一点脱胎换骨使我成了另外一个人

(中国の第十一回全国代表大会を開いた後、先輩の王元化さんが中国はこれからこの百年以来の一番いい時期に入りますよって言われました。このチャンスを掴まなきゃと思って、13平米のちっちゃい部屋で8年ぐらいの苦闘を始めました。当時、エアコンはまだ庶民に使われてないです。冬が寒かったです。布を鍋に入れ、その中に足を入れて、本を読みました。ギリシアの哲学の本から、文化、劇理論の本などいろいろ読んで、ノートを書きました。その中の劇に関する部分を整理して、30歳ちょっとで68万文字の『劇理論史稿』を出版しました。それから続けて本を書いて、出版してきました。自分の心の中で、田舎で働いた時間を取り戻した気がします。まじめに本を読んで、そして必ず研究ノートみたいなものを書きます。出版できるまで書き直してきました。)

朱：于是乎，你的命运似乎就开始了呈现一种戏剧化的变化，你就从一个讲师破格提升为了教授，然后从教授又到了戏剧学院的院长，在院长这个位置上做了多长时间？

(その後あなたの運がよくなってきますね。普通の教師から教授に選ばれ、また教授から学部長になって、学部長として何年働きましたか？)

余：先是副院长后来是院长，加在一起大概5年多块6年这样地情景。我现在经常想起做院长期间完全不再写文章、不看书、不搞学术，成天是指挥若定的处理各种各样的事情，我觉得非常开心。

(副学部長から、そして学部長、まあ、大体5年、6年近くやりましたね。その時は論文も書かずに、本も読まずに、ただ事務のいろんなことをしてきたのを思い出したら、本当に嬉しかったですね。)

朱：您等会儿，您说您非常开心？

(その時とても嬉しかったっておっしゃいました？)

余：非常开心

(とても嬉しかったです。)

朱：这个我好像不能理解，您怎么能开心呢

(これがちょっと理解できないですね、嬉しいわけじゃないでしょう。)

会話 10

朱：上一次的节目在我们栏目播出以后，很多观众打来热线电话，同时寄来了很多信，特别关心你的病情，有要给你送药的，有要给你做心理治疗的……听到这些的时候，心里是一种什么样的感受

(先日あなたがインタビューされた番組は放送された後、多くの視聴者から電話がかけられてきて、同時に大量の手紙も送られてきました。みんなはあなたの病状を心配しています。あなたに薬を送りたいという人と、心理治療をしてあげたい人と、色々います。これらを聞いて、どう感じますか？)

崔：我办公室也收到了好多，我基本上把它分成三类，一类是给我找药，希望我吃了这药能睡着；第二类是跟我要药，看有什么药给他，他能睡着；第三类是劝我入教，这个教不说了，加入这个教以后，心里一舒服可能就能睡着觉了，基本上分这三类。给我药的这些呢，我真是特别感动，因为我觉得无亲无故的，人家给你寄来药，想让你睡觉。很多药都没有说明，白岩松也老说他失眠，我想先给他用用看。好事想着朋友（笑）。

（うちの事務所にも（手紙と薬が）いっぱい届きました。自分は（これらのものを）だいたい3種類にわけています：1. 私に薬を送って、この薬を飲んで私が睡眠を取れると願っている人。2. 私に薬を求めた人。彼らは何か良い薬を私からもらって、自分が睡眠を取れるのを願っている。3. 私が教会に加入するのを勧める人。この宗教の名前はここでいえないですけど、（あの人たちは）この宗教に参加したら、気持ちが楽になりますよって言ってました。そうすると、（あなたは）眠れるよって言われました。まあ、だいたいこの3種類に分けられます。私に薬を送ってくれたことは本当に感動しました。というのは、私と親友でもないのに薬を送ってくれて、（わたしが）睡眠を取れるように気遣ってくれたからです。しかし、多くの（皆さんからもらった）薬は説明書がないので、白岩松さんもいつも眠れない、眠れないって言うてるから、まず、これらの薬を彼に飲ませたいと思ってます。いいことがあれば、いつも親しい友達と分かち合いますから。）

朱：看到这些不管是给你送药的，还是问你要药的，还是劝你入教的，大家出发点都是一样的，希望你能好。现在说你的病，你会忌讳吗？

（これらの人々を見ると、（あなたに）薬をあげる人と（あなたから）薬をもらいたい人と宗教に参加することを勧める人とを問わず、みんなの思いが同じです。あなたが早く治るよにと期待してることです。いま、ちょっとあなたがかかった病気について、話したいんですけど、いやですか。）

崔：没有，因为我是知识分子，所以我有一定的医学常识，我也不忌讳，我在这儿应该告诉大家，我得的是抑郁症，而且是很严重的抑郁症，重度。主持人曹可凡说他很想知道，他父亲离开他的时候心里怎么想的，我觉得因为我有这样的经历，我可能可以告诉他，一个抑郁症患者离开人世的时候，他是什么感觉？他特别快乐

（いいえ、大丈夫です。ある程度の医学常識を持っていますから、大丈夫です。ここで皆さんに教えるべきだと思います。私がかかったのはうつ病です。とてもひどいうつ病です。ある司会者—曹可凡さんはお父さんがなくなったとき、どんな気持ちで天国に行ったのかをととても知りたかったって言っていました。私がこんな体験をしているので、それを彼に教えてあげられるかもしれない。うつ病の患者はこの世を去っていくとき、どんな気持ちなのか？とても満ち足りているんです。）

朱：是不是因为他（曹可凡）你才这么说？

（あなたがそういう理由は彼（曹可凡さん）のためですか？）

崔：不是，这个你可以去请教专业的医生，他们都会这样告诉你。所以说这是一个病。因为他跟正常人的想法是不一样的，他觉得走了可能就解脱了，就会觉得特别轻松，是这样。这是两年前的事情了，这两年我一直在积极配合医生的治疗，按时服药，然后再做心理咨询、心理治疗。我觉得见好，正在恢复。

（いいえ。専門医に聞いたら、彼らは絶対このように教えますよ。だから、これは病気なんです。というのも、病人たちは普通の人と違って、死んだら解脱できて、とても楽になれると考えるのです。（私がこの病気にかかったのが）これはもう二年前のことだったのですが、この2年間、ずっと治療を受けて、薬を飲んで、その上に心理治療を受けました。今、よくなっているのが自分で感じられます。）

朱：你不忌讳咱们就这个话题再谈点吧？

（この話題について、もうちょっと喋ってもらってもよろしいですか。）

崔：不忌讳。其实应该很忌讳，这是个人隐私，但是我注意到一个问题，是社会上对这方面的知识知道得特别少，比如包括我的家人，包括我的领导，他们都觉得没有这种病，觉得就是想不开，就是小心眼，就是太爱算计了，就是以前火，现在不火了，所以现在受不了了，都是在这样想。实际上它是一种病，那么就要吃药，有的时候比如当我很有耐心或者很有精力的时候，我会慢慢讲一点给他们听，有关抑郁症这方面的知识，有的时候我不耐烦了，实在不耐烦了，我就说，如果你要觉得我没有这个病，你把我的药吃几片试试。因为那个药劲是非常大的，比如我是睡眠障碍，我吃那个药，两粒三粒，我早晨五点、六点、七点、八点……才能睡着觉。但是如果没有这种病的人，他吃了这个药，他可能三天都睡不醒

（いいですよ。これはプライバシーのことなので、実は話さないほうがいいんですが、私は一つの問題に気づきました。それは、この社会はまだこの病気について、本当に理解していないということです。例えば、私の家族とか、上司とか、彼らはみんなこんな病気がないと勘違いして、（わたしが）ただあきらめきれない、ただ度量が狭く、ただ自分の利益ばかり考え、現在は人気なくなってるから、それに耐えられなかったんだと、みんなはそう思ったんです。実はそれは病気だったんです、だから薬を飲むわけです。時々、気分がいいときは、（周りの人に）きちんとうつ病に関する知識を説明しますが、気分がよくないときは、私の気持ちを知りたかったら、私の薬を飲んでみてっいていってしまうこともあります。というのも、あの薬の作用がとても強くて、私のような睡眠障害の人が2, 3粒飲んだら、朝5, 6, 7時に眠れるようですが、普通の人が飲んだら、多分三日ぐらい目が覚めないかもしれないからです。）

主：我特别想知道，得病是为什么？是因为工作的压力，还是因为其他的什么原因？

（私が特に知りたいのは、なぜあなたがこの病気にかかったのか、それは仕事のストレスなのか、あるいはほかの原因によるか、ということです。）

崔：病因非常复杂，既然是心理的疾病，就非常复杂，比如跟你童年的成长环境都很有关系。我就想告诉大家，确实有这样一种病，希望大家能知道，如果你身边有这样的朋友，得了这种病，希望你不要歧视他，然后鼓励他去看医生，医生可以帮助他解决这个问题。

最近像韩国的李恩珠，包括张国荣，还有好多好多人——海明威、川端康成，那都是大家，但都是因抑郁症自杀的。所以得抑郁症的人，基本上都是天才。

(病因はとても複雑です。心理上の病気だからとても複雑です。例えば、(あなたの)幼いころの生育環境とかにも大きな関わりがあります。ここで皆に分かってほしいのは、このような病気が確かに存在しているということます。もしあなたの身近にこうした友達がいれば差別しないでほしいということです。ちゃんとお医者さんに見てもらうように励ましてあげるのが望ましいです。お医者さんは問題を解決する上で助けてくれますから。最近の韓国の李恩珠、中国の张国荣、まだまだうつ病の人はいっぱいいますよ。海明威、川端康成など、みんな大家です。しかし全部うつ病が原因で自殺しました。だからうつ病にかかる人は皆天才です。)

朱：我身边的许多朋友都在问我，说现在《小崔说事儿》这节目啊挺好看，挺像《实话实说》的。小崔为什么不回《实话实说》呢？

(私はよく周りの友達に聞かれました。「今の『小崔说事儿』という番組は面白いですよ。前の『実話実説』によく似てますね。崔さんはどうして『実話実説』の司会を再びされないのですか」って。)

崔：那我要回去，就没人看《艺术人生》了。我觉得就是因人而异，我觉得我们当时做《实话实说》的时候特别投入，我觉得我发病都跟这有关系，有点钻牛角尖，希望每一期节目都做好，希望一期比一期精彩，老是这样想，给自己压力太大了。现在就特别放松。我觉得你现在《艺术人生》做得很好，但千万别有这个想法，就是你希望一期比一期好，每一期都好，你就跟我一个病了。

(私が戻ったら、この「芸術人生」を見る人がいなくなりますよ。番組は司会者によって雰囲気異なるはずだと思います。私は、当時本当に情熱を投じて『実話実説』をやりました。これは私が病気にかかったことに関係があると思います。当時は一途に思い込んで、毎回の番組もよくしよう、前回よりすばらしくしよう張りきってました。それは自分にプレッシャーをかけすぎました。しかし今はとてもリラックスしてます。あなたは今司会者としてこの『芸術人生』をよくやってこられました、絶対にそういう考え方をしないでください。つまり、毎回前回よりよくできて、毎回すばらしくやろうとするのはやめてほしいです。もし毎回よくやろうと思ったら、あなたは私と同じ病気になりますよ。)

朱：找伴儿来了。您放心，我争取啊，这辈子不跟你站在一块。

(あなたと同じ病気にかかってほしいと思うでしょう。あなた安心してください。私もあなたと同じ病気にならないように頑張ります。)

崔：《实话实说》你看后来，我不做了以后，和晶做，和晶做得很好。我觉得有些话题，从女性的视角去谈，可能更有魅力，很好。现在阿忆刚接过来，可能大家不适应，因为你习惯了女性视角，老觉得阿忆像女的。我估计你们看一看就习惯了。我那天见到阿忆还说，你不要怕，我刚出来的时候，那骂我的比你现在听到的难听得多了，这不也闯过来了。

（「実話実説」は私がやめた後、和晶さんが続けてきました。彼女はよくできましたよ。ある話題は女性の角度から見るともっと魅力的になるかもしれないと思ってます。今、阿忆さんが和さんの後を継ぎ、やり始めたばかりだから、みなさんはまだ慣れてないと思いますが。だって、いつも女の司会者を見てるから。さっきも阿忆さんに「怖がらないでください。私が司会を始めたときも今よりいっぱい非難を浴びましたが、頑張っているようになりました」って話しました。）

朱：但我觉得《实话实说》还是非常强烈地打着崔永元的商标，怎么揭，恐怕这个商标都不能被揭去。

（しかし、「実話実説」は今でも「崔永元」という商標を貼っているような感じを受けます。どうしても外さないようですね。）

崔：我想回去可能也没人同意，这事儿都不是自己定的。

（私が戻りたいと思っても皆に反対されるかもしれない。それは自分一人で決められないですね。）

会話 13

朱：那幅照片后边的字就是你自己写的？

（あの写真に写された字はあなたが書いたものですか。）

徐：对。这是我爸爸在小汤山那边买了一个农村的小院，正好刷了一面白墙，然后就让我在上面写了一个《兰亭序》。

（はい。父が田舎で家を買って、庭の壁を白く塗って、『兰亭序』を書かせたのです。）

朱：真的很像，你临摹帖子写的？太像了！

（似てますね。あれ、模写したものでですか？本物とそっくりです。）

徐：真的？

（本当ですか？）

朱：字写得很漂亮。而且还有一点大家可能不知道，中央电视台后面有一个梅地亚宾馆，还有大家都非常喜欢转的赛特商场，上面霓虹灯那几个字，“梅地亚中心”、“赛特”这几个字都是徐静蕾写的。

（字がきれいですね。多分皆知らないと思いますが、中央テレビ局の後ろの梅地亚ホテル、人気が高い赛特デパートのネオンサインの名前はみんな徐さんが書いたものなんです。）

徐：不是，我先辟一下谣。这是我上高中的时候写的，人家现在早换了，赛特也换了，梅地亚也换了。

（いや、それは高校時代書いたものですが、もうすでに取り替えられました。）

朱：曾经有过？

（書いたのは事実なんですよ？）

徐：曾经写过。

（はい、そうです。）

朱：字写得很漂亮。这样我们还是现场来见识一下。刚才她说她已经很长时间没写了，我说其实功夫也不是一天两天就能废掉的，至少应该写得要比我好，比我写的字好看。这样吧，现场写几个字。

（字がきれいです。やっぱり皆が自分の目で見たいでしょう。先ほど長い間書いてなかったって言ってましたが、書道ってそんなに簡単に忘れたものじゃないから、少なくとも家の素人より上手でしょう。さあ、書いてください。）

徐：写什么呀？你们说写什么我就写什么。

（何を書いたらいいのですか。じゃ、みんなの言う通りに書くから、）

朱：“心素如简，清淡如菊”。我来给你研墨，我当书童。

（「心素如简，清淡如菊」、今日は私はあなたのお手伝いさんだから、墨をします。）

徐：献丑了。

（醜いものをお目にかけました。）

朱：这还丑呀？

（こんなきれいなもの、まだ醜いと言いますか。）

徐：差得远。

（まだまだですね。）

朱：咱们把这个拿下去，先搁到这儿。

（これを下げましょう。とりあえず、ここに置きましょう。）

徐：好久不练了，就是不行。我爸看了又要说我了。

（ずっと練習しなかったから、もうだめです。父に見られたら、絶対言われます。）

朱：呆会儿该派上用场了，说到这个字，我觉得她一定要下一番苦功才能够练成现在这个样子，练了多长时间？

（今のように書けるまで、ひたむきな努力をしたと思います。何年ぐらい練習しましたか。）

徐：说起来太惭愧了，我练了十年，从差不多6岁开始。

（本当に恥ずかしいですが、6歳から、10年ぐらい練習しました。）

朱：你小的时候一定是特别用功的孩子。

（小さい時はしっかりしていた子供でしょう。）

徐：不是，被我爸爸逼的。

（いや、父に強迫されました。）

朱：为什么这么说呢？

（どうしてこんなふうに言うのですか？）

徐：因为小时候其实贪玩，觉得写东西多枯燥，每天拿一个笔在家写，人家都出去玩，我在家写。那时觉得特烦，真的。然后还要去少年宫，那时只有星期天休息，好不容易休息星期天，还要去少年宫写字，真的觉得挺烦的。

（子供のころ、遊びが好きだったです。他の子供たちが皆一緒に遊んでいるのに、私一人で家にひきこもって、字を書くのがいやだったです。そのときまだ週休一日なのに、その

日は少年宮に書道を習いに行かなければいけなかったです。本当にいやだったです。)

朱：那时除了写字以外还要练什么其它的？

(その時書道以外はまだほかに何か練習しましたか。)

徐：我爸对我进行一些学前教育什么的。

(父が私に学齡前の教育をやりました。)

朱：你有一种说法，你说你爸对你进行法西斯式的教育和压迫。

(あなたの言い方によりますと、お父さんはあなたに法西斯式の教育と抑圧をしましたね。)

徐：不是我说的，反正差不多。

(私自身が言った言葉じゃないですけど、まあ、その時の情況は殆どそうですね。)

朱：当时有没有特别逆反的心理？

(その時反抗したい気持ちはありましたか。)

徐：有。我小时候人家问我说理想是什么，其实我最大的理想是能不听我爸的话，我觉得这就是我的理想。什么时候我想干嘛就干嘛，他说什么我都不听。

(ありました。小さい時、人に将来の夢は何って聞かれました。実は、私の夢は父が言った通りにしなくていいということでした。いつか自分が思った通りに生きていければいいなと思ってました。)

朱：最大的理想就是不听你爸爸的话。现在回想起来，你觉得听你爸的话对还是不听你爸的话对？

(一番大きな夢はお父さんの言った通りにしなくていいことでした。今振り返って、お父さんのいうことを聞くことが正しいと思ってますか？)

徐：我觉得也对，也不对。

(まあ、正しいところとそうでもないところ、両方ありますね。)

朱：先说也对的这一面。

(じゃ、まず正しい面を話してください。)

徐：也对，小孩儿肯定是贪玩的，他肯定不愿意学东西，家长强制学一点东西，虽然当时会不高兴，但是对将来还是有好处的，因为比如说你出去字写得歪歪扭扭的，人家就会觉得对你的印象也会不一样的，肯定是这样的。

(子供は生まれつき遊びが好きだから、両親に強制的に勉強させられる時が絶対いやですけど、将来的にやっぱりいいですね。例えば、字がきれいに書ければ、人に与える印象がいいじゃないですか。)

朱：也不对呢？(じゃ、正しくないところは？)

徐：不对是因为性格不太好。比如有时候我觉得有点故意的，人家让我干什么，我就不这么干，这是小时候养成的就是逆反心理。

(性格はよくないですね。いつもわざわざ人とさかさまのことをしてしまいます。やはり小さい時の影響を受けました。)

朱：非得跟别人别着劲儿。

(わざわざ人とさかさまのことをしてしまう人ですね。)

徐：你让我这么干，我就不干，有时我不是不想这么干。但故意不干。

(絶対に他の人の言う通りにやらないですね)

朱：在你爸爸的逼迫之下，使你对一个地方特别了解，景山公园，一共去过多少回？

(お父さんの迫力がいやで、あなたはよく学校をさぼって、景山公園に行ったでしょう。何回ぐらい行きましたか？)

徐：不计其数。

(数えられないほどです。)

朱：反正逃学就到那儿去了？

(書道の練習をさぼったら、すぐそこに行くでしょう。)

徐：因为北京市少年宫是在景山街，跟景山公园挨得非常近，我那时也不能在大街上溜达，我就跑到景山公园去。

(ええ。景山公園は北京少年宮のすぐ近くにあります。行く場所もないから、いつもあそこに行きました。)

朱：有没有碰见坏人？

(悪人に遭遇したことがありますか？)

徐：没有，我就是爬山的时候经常看见谈恋爱的特别多。

(なかったです。山を登ったとき、そこに遊びに来ていた恋人たちがいっぱい見えました。)

朱：是看见别人谈恋爱，自己没有？

(自分は？恋に落ちた事は？)

徐：自己没有。那时太小了。

(なかったです。その時はまだ年齢は小さかったですから。)

朱：那时多大？

(その時何歳でした？)

徐：16岁之前，15岁。

(16歳前、15歳でした。)

朱：花季，那个时候情窦初开。

(いい年ですね。ちょうど思春期でした。)

徐：没有，我小时候要是有男生打电话的话，我爸当时就把他骂一顿，‘干嘛呀，找她什么事，没事别打电话’。

(いや、小さい時男の子が家に電話をかけてきたら、いつも父に怒られました。「もう二度とかけてこないで」って)

朱：你心里有没有怨恨过你爸，干吗呀，男同学好不容易给你打电话。

(お父さんに不満なんかありましたか？友達がせっかく電話をかけてきたのに。)

徐：当然有怨过。

（それは当たり前です。）

朱：后来我知道还有在你父亲的重压之下，你想出了很多小鬼点来糊弄你爸爸，比如说让你写字，结果你就拿出两个月以前写的去交给你爸爸，说我写完了

（あなたはお父さんをごまかすために二ヶ月前書いたものを出したりとか、いろんな悪知恵をしましたね。）

徐：因为其实我爸爸是挺忙的，他就知道让我去写，但他肯定记不住我多长时间写的字是什么样子的，我经常拿，都不用两个月，一个月之前的他都看不出来

（父は忙しいから、ただ私に「書きなさい」って言うだけで、実際に私がどんなものを書いたか全然覚えられないんです。一ヶ月前書いたものを見せてあげてもわからないです。）

朱：糊弄过多少回？

（何回ごまかしたのですか。）

徐：好多回。

（よくありました。）

朱：都被识破过吗？

（お父さんに見破られたことは？）

徐：没有。我觉得没被识破过，除非他识破了，没跟我说。

（ないですね。多分見破られたけど、私に話してくれなかったかもしれないです。）

朱：那你坦白过吗？

（じゃ、お父さんに自白したことは？）

徐：我现在不是在坦白吗？

（今自白しているじゃないですか？）

会話 14

杨：为什么第一次我们想采访你的时候，你拒绝了？

（初めてあなたをインタビューしたかったときは断られましたが、その理由は？）

田：那时候我还没有想通呢！你还挺记仇的，是吧？

（その時まだ納得いかなかったからです。あなたは本当に根に持つ人間だ、そうですね。）

杨：不是不是，因为通常拒绝采访的人不是特别多。

（いいえ、いいえ、（私の）インタビューを断る人がそんなに多くなかったからです。）

田：我不太喜欢在媒体曝光，其实有我自己的私心。你比如像咱们两个人吧，你就比我惨点。我说我出去吃个卤煮火烧，我上一个小铺、上金五星，我随便怎么逛怎么逛。你可能就不行，一会儿就会被人发现，就被逮着。你还有保镖呢。我希望能够直接接触到人，那么为什么接受媒体采访呢？我坦白讲，我挺受吴老师（吴清源）的启发的。我跟他相处这么多时间吧，我接触的人物里，我没这么喜欢过一个人，太迷人了。

(私はテレビに出るのがあんまり好きじゃないです。やはり自分なりの考えがあります。例えば、私たち二人について言えば、あなたは私よりかわいそうだと思いますよ。というのは、私がご飯を食べに行くとき、屋台に行っても、高級レストランに行っても、私の好きなように行けるでしょう。あなたならだめですよ。すぐ(人々に)見つかり、捕まるでしょう。いつもガードマンも同行するのよね。私は直接人々と接触するのが好きです。それにしてもインタビューを受けるのはなぜでしょうか。正直に言いますと、吳先生(吳清源さん)から大いに啓発されました。彼と長い間付き合いました。今まで接触した人の中で、彼ほど好きになる人物はまだいないです。うっとりします。)

楊：迷人在什麼地方呢？

(うっとりするって、例えば？)

田：我特别喜欢迷一种事情以后，其他事都不重要的一种人，就是有点像教徒似的那种人。他老婆跟我说，他一年就吃一种东西，就穿一件衣服，他都不会跟你说，怎么我还穿这件衣服，我怎么还吃这个东西。他就是和围棋相依为命。他在七八十岁的时候，无数的电影人找他、想拍他，他都拒绝了。他到90多岁的时候呢，我听他的助理说，他突然间觉得影视这个东西可以传播围棋，也正好这个时候我把我的一份简历寄给他了，对他说我想拍你。(ある事が好きになったら、そのことが何より重要だと考えた人が私は大好きです。彼の奥さんの話によりますと、囲碁は彼にとってなくては生きられないほどの存在です。彼が七十、八十歳の頃、何人かの映画業界の人が彼のことを映画にするつもりだったけど、皆が断られたのです。90歳になったら、急に映画を通して囲碁を宣伝しようと思いいになりまして、ちょうどその時私の履歴書を見て。)

楊：这有机缘了。

(これはいわゆる縁ですね。)

田：挺巧的，他就说你来东京谈吧。我见他的时候，他前几句话就说：“我不懂电影，但是我希望电影、电视能推广围棋。”

(そうですね。じゃ、東京に来てって言われました。初めに会った時、彼は、私は映画のことがよく分からないですが、映画やテレビを通じて囲碁を広げたいですって言いましたね。)

楊：所以他接受采访是为了推广围棋？

(彼は囲碁を広げるためにインタビューを受けたのですか。)

田：对，我觉得可能还是有道理的。

(はい。私はそう考えています。)

楊：当你大学刚刚毕业的时候，应该是踌躇满志的，有很多的想法要去实现。一下子遇到一个打击，会觉得有一种怀才不遇的感觉吗？

(あなたは大学を卒業したばかりの時やる気満々で、やりたかったことがいっぱいあったでしょう。急に審査で打撃を受けて、不公平感のようなものを感じませんでしたか？)

田：我拍电影的时间比审查时间要短很多。我拍电影的时候老跟他们说，我拍的时候都是一

个福将。你比如我在拍《盗马贼》的时候，那是8月份，我写了雪景。然后其中有一段时间大概有10天的时间，每天下午4点钟下雪。特别奇怪，我把雪景都拍完了，它也就没雪了。可是你拍完了的时候，你会觉得...

(私の場合はいつも映画を撮るために使った時間が審査する時間より短いですね。映画の撮影中はいつも運がいいですね。『盗馬賊』を撮る時、雪景色を取る必要がありますが、当時8月ですよ。撮りはじめてから大体10日間ぐらい毎日午後の四時から雪が降りましたね。本当に運がよかったです。しかし撮影が終って、審査になる時は、もう…)

杨：你是一个倒霉的人。

(自分が運が悪かったと感じたでしょう。)

田：审查的时候吧，好像你的电影怎么老觉得比别人晚一步似的。就是说你觉得昨天的电影还能通过，怎么今天到我送进去就通不过了。拍《盗马贼》的时候，我觉得是对我打击最大的。

(映画が審査を受ける時、本当にどうしても他の人より遅い感じがしました。他の人がとった映画は審査でオーケーもらったばかりなのに、私の番になったら、急にだめをだしたりとかありましたね。映画『《盗馬賊》』のとき一番辛かったですね。)

杨：那时候你才多大？

(その時いくつだったですか。)

田：那个时候大概三十二三岁吧。呀，就觉得肯定不行了，可能以后做不了这一行了。回来以后挺厉害的心脏病，大概将近有十几年才恢复过来。

(三十二、三ぐらいです。もう(審査に)絶対通れないと思って、監督をやめようかなと思いましたがね。(撮影終って、高原から)帰ってきたあと、ひどい心臓病にかかりまして、それから回復するまで10年ぐらいかかりましたね。)

杨：是吗？

(本当？)

田：对，那个时候你会觉得真的是很艰难。比如说我们为了拍一些戏，可能就是连夜走。在藏族，你拍摄的时候他会有一些特别奇怪的规定，就是说这个活动你可以拍，但是我不会为你组织。它都是凌晨3点钟或者5点钟开始举行活动，比如说甘南有那个插箭。

(はい。その時本当に辛かったですね。例えば、チベットで映画を撮ったとき、一つのシーンを撮るために、よく一晩中歩いたりしましたね。チベットではいろんな面白い決まりがあります。つまり、祭りをとることは許されるが、わざわざ撮影するためにやることはないですね。あそこの祭りは深夜3時か5時ぐらいに始まりますから。)

杨：等于是有时辰。

(やっぱり時間の制限があるということですね。)

田：对，你要去那块儿吧，又不通车，然后你就得走。大队就往里走，我的印象就是你走到三四千米的时候吧，真的大队就垮了。得，跟一个摄影师抢了一匹马。我们俩一人架着台

摄影机往上冲，冲到上头就看人家仪式已经快要结束了。哎呀，那个时候才叫沮丧呢。我跟你说吧，你拿着机器架那儿拍的时候，你看人已经都走了的时候吧，真的是想哭。

（そうです。そんなところは歩きでしかいけないです。私が印象深かったなのは、ある日、標高3千メートルのところで、みんなの体がだめになってしまいました。シーンを撮るために、カメラマンと二人で機材を負って、走って行きました。しかし、もう遅かったから、撮れなかった。その時は涙が出そうなくらい辛かったです。）

杨：眼泪都掉下来了。

（本当ね、涙が出るほど辛かったわね。）

田：走一夜就为了拍这一个活动，拍得很苦，你会觉得这些人怎么能够这样儿。

（一つの祭りを取るために、一晚中歩けなければいけないわけですよ。本当に辛かったです。だから、審査員の人たちは本当に冷たかったと思いましたね。）

杨：没有感情地跟你说，剪掉哪个镜头。

（そうね。無関心にそのシーンをカットして下さいって言うのがね。）

田：对，其实从那以后，我基本上对电影有另外一种方式，就是说：“算了吧，我就是一职业的人。谁出剧本谁出钱我就拍吧。”

（そうです。それから、映画に対する見方がもう変わりましたね。当時は「もう理想を捨てたほうがいい。映画はただ私の仕事。」ってそういうふうに考えたのです。）

会話15

何：我很小的时候在香港，20世纪50年代初的香港，说实话没有这么好。所以我家里希望我回京读书。我很习惯、喜欢北京的生活。后来我又到香港，我还是喜欢北京。

（私小さい時香港で暮らしてました。その時の香港はまだ今みたいな大都会じゃなかったです。だから両親に北京に送られ、北京の学校に行かされました。北京が大好きで、今は香港に引越したけど、やはり北京のほうが好きですね。）

杨：你在北京上初中的时候上的是师大女附中，是吧？

（あなたは中学校のとき北京師範大学の付属女子学校で勉強したでしょう。）

何：对对对。

（そうそうそう。）

杨：那当时在北京也是一个很好的学校，而且很多国家领导人的子女也在那个学校读书，会不会给你带来一种压力？

（当時あそこも北京のいい学校だし、多くの国のリーダーの子供たちもその学校で勉強しているし、その時圧力を感じたことありますか？）

何：是这样的，他们觉得我的穿着跟他们不太一样。其实那个时候我已经吸取了这方面的教训，我已经常年都穿白汗衫蓝裙子了。我父亲回来探亲的时候，我还是这身衣服，就给他一个印象，他以为我特别喜欢穿蓝色的衣服，后来给我买的衣服都是以蓝色为主的。

（そうですね。そのときの私の洋服は皆に違うと感じられました。実は皆と一緒にする

ために、もう一年中白いシャツと青いスカートばかり着てましたね。毎年、父が家に帰ってきたときも私が相変わらずそんな洋服を着てたのを見てたから、私が青色が好きだと思われ、ずっと青色の洋服ばかりもらいましたね。)

杨：实际上你喜欢粉红色。

(実はあなたはピンク色が好きだったでしょう。)

何：是的，但基调还是白色的，可能我外表比较斯文吧。我记得院庆聚会的时候，大家谈起以前都很开心、很高兴，我心里却有一种酸楚。我记得当年经常搞“批评和自我批评”，我总是“批评和自我批评”会上的重点。

(はい。まあ、殆ど白系のものが好きですね。多分私が見た目で優しく見えるからかもしれないです。当時の同級生が再会するとき、皆楽しく以前の話を話していたのに、私の記憶の中にはつらいことばかり残されましたね。当時の「批判と自己批判」運動のなかで、私はいつもみんなの的になってしまいましたね。)

杨：那时候你最大的寄托是什么呢？像其他同年龄的女孩子要入团或者什么的都没有你的份，是吗？

(その時あなたが最も希望を託していたのはなんでしょうか？同年代のほかの女の子と同じように青年団に加入することなど、できないんでしょう。)

何：对，没有。我记得那时候我連民兵都不可以做的。

(そうですね。私は民兵さえなれなかったです。)

杨：做民兵？你很向往做民兵吗？

(民兵になりたかったの？本当になりたかったの？)

何：我很喜欢穿的那个挺帅的样子。是吧？都不可以，我没有这个资格。

(そうですね。民兵の制服が格好よく見えるから。しかし私はそれさえなれなかったです。)

杨：你那时候会找谁倾诉或者找什么样的方法来排解呢？

(その時こんな悩みを誰かに話したり、或いは積極的にストレスを発散するのですか。)

何：基本上没有什么地方倾诉，当时这种事情也不可以说的，因为社会上觉得这是一种正常的现象。

(誰かに相談するなんかできなかったですよ。みんながそんなことは普通だと思ってましたから。)

杨：你会把自己的委屈告诉父亲吗？我相信那时候你的信都是要被检查的。

(自分の悔しい思いをお父さんに話したことがありますか。当時あなたのすべての手紙が全部チェックされてると思いますが。)

何：那我不知道，因为我很小。我就是写很普通的信，什么想念爸爸妈妈这种。无形中就使我开始拿起笔来了。后来我就去搞编导的工作，我很小就去搞这个。

(その時まだ若いからそこまで知らなかったけど。ただ両親に会いたい気持ちを表すごく普通の手紙を書いていたのです。これによって、だんだん文章を書き始めまして、そういう仕事を始めたのです。実際は小さい時からずっとやってきましたね。)

杨：什么样的编导工作呢？

（どんなことをやりましたか。）

何：比如说我在五六岁的时候，我就可以去指挥小朋友排《天鹅湖》之类的。

（例えば私が5, 6歳の時まわりの友達が『天鹅湖』をリハーサルするのを指揮しました。）

杨：五六岁的时候？！

（5, 6歳の時？！）

何：让人家做白天鹅，我做老妖，会有这种事。到了小学也是，可以自己编节目，自己去演出，一直没有离开这个。你要说是寄托的话，可能是这些寄托也宣泄了我的一些东西。

（他の人を白鳥に出演させ、自分はおまけ者の役を担当しました。小学校に入ってもずっとこんなことをやってきましたね。これが確かにストレスを解消する方法と言えますね。）

杨：吴祖光先生说你在十几岁的时候就显示出了超人的才华，以至于他希望自己的儿子吴欢能够娶到你。那时候你的才华表现在什么方面呢？

（あなたは十代のときから、才能がぬきんでているから、呉祖光さんがあなたが自分の息子さんと結婚してほしいということを知ったそうです。その時あなたの「才能」ってどのように表れるのですか。）

何：我记得当年中学考作文的时候，应该是北京市统考，一篇文章叫做《我的家庭》。当时，我一看题目就傻了，因为我的家庭没法儿写。我就想写祖国吧，境界挺高的，立意也挺高的。等我写完了，监考的老师就看见了。因为当时我学习还不错，他们都是想指望我能够考上重点中学的。他就特别严厉地斥责我，说：“完了！你这回跑题了，你什么也别打算考了，或者你就等着去体校，去长跑也行。”因为我当时跑得挺快的。

（私の高校入試の時の作文のテーマは「私の家庭」でした。このテーマを見た瞬間、もう頭が真っ白になりました。当時の政治的雰囲気の中で、私の家庭って書きちゃいけないものですね。じゃ、私は国のことを書きましようって考えました。しかし試験を監督する先生は私が書いた作文をみたら、「もう今度だめだ、もう体育学校に行くしかないんだ」って言いましたね。）

杨：真的？

（本当？）

何：哎哟，我远远地避开所有的人，特别心惊胆战地等着发榜。后来没有想到这篇文章还得了满分。可能是老师觉得这么一个小孩……

（ええ、私は皆から避けて、ドキドキ成績を発表する日を待ってたのです。思いもよらなかったことは、この作文に満点が付けられたことです。たぶん先生がこんなに小さい子供はそこまでできるとは思わなかったのです。）

杨：能够有那么高的站点。

（こんなに高い、偉い立場に立てるなんかね。）

何：对对对，其实他不知道我是无奈。

（そうです。彼は私の本当の気持ちを知らなかったですね。）

杨：你刚才前面说你的艺运一直很顺，但是命运却有很多的坎坷。从我们刚才听起来好像插队之后应该就挺顺的了，没听出有什么坎坷的事。

（あなたの芸術人生はずっと順調ですけど、本当の運命はそんなによくなかったっておっしゃいましたが、先ほど聞いたことから田舎に行ったあと、もうなんの悪いこともなかったようですが。）

何：那看你怎么对待，我就是这么觉得。后来我就到了工厂，我到工厂是做一个很普通的磨工，在车间里的，我连宣传科都不是的。后来到了人艺，并不是我的剧本一开始就能够被这么大的一个殿堂级的剧院认同，是有过程的。包括我去体验生活。我不是一个特别善于和人交往的人，那么又碰到了很多尴尬。

（順調だったかどうかは自分の見方によるものですね。私が工場で働いた時はただの普通の体力労働者です。あと劇団に入りましたが、私が書いた脚本は初めから認められたものじゃなかったですね。私は人と付き合うのが上手じゃなかったから、脚本を書くためにいろんな場所に行って、いろんな生活を体験したときも、いろいろ困ったことがありました。）

杨：比如说？

（例えば？）

何：比如说我跟过一个厨师，一个炒菜的厨师。我跟他7天，一个星期差不多，他只告诉了我一句话，就是说，“你要熬白菜的时候，白菜不要用刀切。”

（例えば、私があるシェフを観察するために一緒に七日間働いたのですが、ただ白菜を煮る前に、包丁できらないって一語しか教えてくれなかったのです。）

杨：天哪！这个好像我也知道。

（え！これは私さえ分かりますよ。）

何：他就告诉我这一句话，我跟他7天！你知道。

（一緒に7日働いたのに、ただその一語を話してくれました。）

杨：你觉得特别不值，是吧？

（その時、その7日間の時間がもったいないと思ったでしょう。）

何：没有，后来我反而从这里又悟出别的东西来了一一罗大头，很保守的，这是他一生中以此为谋生的东西。

（いいえ、彼の性格から私の脚本の中一つの人物一羅大頭、が生まれたのです。これがとても保守的な人物なのです。）

杨：你到全聚德去看人家怎么样烤鸭子的时候，因为都是大老爷们的一个地方。你一个女人走到里面去，人家叫你吗？人家跟你说什么吗？

（「全聚德」に北京ダックの作る過程を見に行った時、大丈夫でしたか？変に見られなかったですか？あそこは皆全員男性なので。何か言われましたか？）

何：哎哟，开始的时候我挺尴尬的，真是。我去的烤鸭班全是小伙子，基本上都是短头发，走路都是踮着脚这样走，踮着脚，因为满地全是油。没有人理我。我就自己坐在犄角，一个角落里面，傻傻地看着他们。他们都是小伙子，不时地在工作当中就看我一眼：这是干什么的，是不是政府检查卫生的。

（ええ。初めの頃は本当に恥ずかしかったです。あちらは皆男の人ばかりなので、皆一生懸命仕事をしているから、私に声をかけてくれる人もいなかったです。自分が横に座って、彼らの仕事振りを見ることしかできなかったです。この女の人、ここの衛生状況をチェックするために来たの、っていうような目線で時々見られましたね。）

杨：但看着模样还比较善良。

（しかし見た目は優しいです。）

何：对对。

（はい。そうです。）

杨：不太像是检查卫生的。

（衛生状況を監督する人じゃないみたいです。）

何：后来就好了，我跟他们生活了一段时间，我们关系很好。他们把给总统上的最好的烤鸭先片一片给我吃了再上。

（まあ、彼らとだんだん仲がよくなっていきました。大統領にさし上げる北京ダックはまず私が一枚をもらえるほどですね。）

杨：那当然了，讨女孩子欢心谁都会！

（それはそうですよ。女の子の歡心を買うことは誰でもできますよ。）

会話16

杨：你拍了这么多言情戏，拍了这么多浪漫的爱情故事，你年轻的时候对浪漫是一种什么样的想像？

（あなたは映画監督として、ラブストーリーをいっぱい撮ってきましたが。若い時、ロマンティックはあなたにとってどんなものでしたか。）

赵：我回忆自己在工厂的那个时候，可能主要的感觉是家庭带给我的一些底蕴。我父母在20世纪30年代的上海生活过。他们那些老照片记录下了当时的情景，还有听他们讲的那些故事、看他们穿的那些服饰，和今天一比，我感觉那时候挺温馨挺浪漫的。

（私は工場で働いた時のことを今考えたら、やはり家庭からの影響を受けましたね。両親は20世紀30年代に上海で暮らしたことがあります。当時の風景は写真で写されてました。写真の中の風景や、洋服をみたら、本当にロマンティックな雰囲気が感じられますね。）

杨：那时候家里还敢留20世纪30年代的照片吗？

（そんな時代（文化革命）、まだ20世紀30年代の写真を手元に残しておられますか。）

赵：文化大革命烧了一批，但还是保留了一部分。

（文化革命の時一部分を焼いてしまいましたが、まだ一部分が残されています。）

杨：你父母的生活有没有给你留下印象特别深的细节？

（ご両親の（当時）生活の中であなたの印象の中に残された印象深い事がありますか。）

赵：其实《像雾像雨又像风》里多多少少就有我父母的一些影子。比如说文化大革命期间，人家都是里边穿一件将校呢的衣服，外边穿一件毛泽东式服装；我却是里边穿一件西装，外边穿一件毛泽东式服装，就是要西装的垫肩。拉练的时候，人家背的带子都是粗布的带子，我用的是领带，它不勒肩。

（映画『像霧像雨又像風』の中から両親の当時の生活の影がまだ少し見られますね。文化革命の時、皆同じように普通のコートを着てるのに、私が自分の肩を広く見せるために、そのコートの中にわざわざスーツを着てたのです。軍事訓練のときみんなの荷物は普通の帯で縛りますが、私はネクタイを使いましたね。）

杨：那时候你小资情调很浓厚？

（やっぱり普通の労働者と全然違いますね。）

赵：我现在想，可能会有一些影响。工作之后，我好像总是对自己的生存环境不满意，老觉得我应该弄得更好一点。尽管自己住的工厂的屋子很破，我都会到废钢堆里找一些废钢，再到木型车间找一些破木型去做一个沙发。那时候追求个性和现在可不一样，我因此还挨了批评。他们说我是资产阶级生活方式。

（就職したあと、いつも自分の周りの環境に不満でした。その時住んだ工場の宿舎がボロボロだったけど、私がソファを作ったりしました。その時、こんな個性を求めた行為がまわりの人に批判されましたね。資産家階級の生活って言われました。）

杨：你年轻的时候长得是不是有点儿像陆毅？

（あなた若い時、今の人気俳優陸毅さんとちょっと似ていたって言われたでしょう。）

赵：反正是小生型吧，也不见得像陆毅。

（陸毅さんに似てるかどうかは分かりませんが、まあ、一応格好いいって言われたね。）

杨：那你在工厂里应该很讨女工们的喜欢吧？

（工場の女の子たちに好まれたでしょう。）

赵：有一点儿。

（少しだけです）

杨：你就别谦虚了。她们会怎么表现？比如你在食堂打饭的时候多给你一勺肉什么的，会吗？

（もう謙遜なんかしないでください。彼女たちはその時どうだった？例えば、食堂であなたにお肉とかちょっと多めにあげる事など、あるでしょう？）

赵：有这种情况。我们工厂那时候是重工业，吃单炒。单炒可能比较照顾我。表现得比较明显的是，有时候我兜里会出现一块巧克力，或者一包外国烟。

（ありましたね。うちの工場の労働がきつかったから、食堂でいろんな美味しいものが

食べられましたね。時々私のポケットの中に誰かにチョコレートやタバコを入れられたりしましたね。)

杨：你自己有没有真正地萌发过爱情的想法？

(じゃ、あなたは恋愛などを考えたことありますか？)

赵：还是有的。但是当时的环境对我影响比较大，就是我的那些工人师傅和他们子女的一些家庭状况，使我有几点惧怕谈恋爱。因为年轻时候对爱情的想像都是比较美好的，而看到的现实却是两个人结婚了，然后就生孩子了，接着开始打架了，打完架就闹到车间去了。就是这种状态。我觉得特别没意思，所以惧怕自己也有这种生活，惧怕自己的婚姻状态也是这样。我认为我不能谈恋爱，而是应该努力去改善自己的生存环境。

(やっぱりありましたね。しかし、周りの人の状況を見ると私に大きな影響を与えられました。皆が殆ど同じ過程で、恋愛、結婚、子供を産む、そしてだんだん喧嘩したり、とかいろんなことを見てきて、自分もそんなふうになるのが怖くなってきました。恋愛するより、自分の生存環境を改善するのが一番大事だと思いました。)

杨：你曾经两次报考音乐学院，还报考了北京20多个文艺团体，都没有被录取。我想对于一个年轻人来说，这些打击足以让他产生自我怀疑吧？

(あなたは二回音楽学院の入試を受けまして、さらに北京の20個あまりの文芸団体の受験を受けましたが、皆だめだったですね。若い人にとっては、これらの失敗の重なりで自分の能力を疑うようになると思いますね。)

赵：何止怀疑。我当时苦闷得到天安门广场去坐着。

(本当です。辛かったから、よく天安門広場に行って、そこに座り込んだことがあります。)

杨：为什么到天安门广场去坐着？

(どうして天安門広場まで行って、あそこに座り込んだの？)

赵：北京没有空地方。

(北京はどこにもあいている所はないからです。)

杨：那儿也人来人往的，是不是觉得没有人认识你或者知道你的这种感受？

(あそこもいっぱい人がいますよ。あそこはあなたを知る人がいないというか、あなたの気持ちを知る人がいないと考えたのでしょうか。)

赵：我那时特想安静，就夜里去天安门广场，夜里没人。我在广场上数砖，从东数到西，从南数到北，最后就站在正中间那块砖上坐了下来。那时候砖还特别不好数，因为都是斜的交叉的人字形的这种砖。

(当時は静かなところにいたから、深夜の天安門広場は誰もいないから、よく深夜に行きましたね。あそこのレンガを東から西まで、南から北まで数えて、そして一番真ん中のレンガのところに座ったの。その時のレンガは人字の形をしていたから、数えにくかったです。)

杨：坐到几点？

(何時まで座り込んだのですか。)

赵：最苦闷的时候，晚上12点下中班后我就过去，到那儿应该是12点50分左右，最长的时候我坐到过第二天早晨。

(一番悩んで苦しんでいた時期は仕事が深夜に終って、あそこに着いたのが深夜12時50分、そこからずっと朝まで座ったことがありますね。)

杨：坐在那儿脑子里想些什么呢？

(何を考えたの、そこに座っていたとき。)

赵：要按照你刚才说的那个问题，可能就觉得自己没准真不行，由此就会产生一些怨恨。首先怨恨家庭，家庭没有给自己那么多的文化底蕴。其次可能还有些无奈，就是说，哎呀，怎么你就赶上了这么个年代，什么都没学着，16岁就工作了，跟童工似的。有一阵情绪比较低落。

(先ほどあなたが言ったような、自分がだめだとか、家はインテリ家庭じゃないからとか自分が、育てられた家庭を恨んだのです。また無力感を感じました。そんな時代だから、学校に行けず、16歳から工場に入って、少年工みたいな感じになりました。とても落ち込んだ時期がありました。)

杨：那个时候有没有人相信你是有艺术天赋的，而且会在这个道上成功呢？

(その時、あなたが芸術才能を持って、そして絶対成功できることを信じてくれる人はいましたか？)

赵：都相信，谁都相信，周围的很多人都说“你有天赋”，而且都说“你形象好”。可是实践中却处处受打击，所以我一直处于矛盾状态。因为我那时候没有机会去跟一些专业的决策人员进行交流，夸我的都是师傅和师哥们，他们不具有决策权，都是和我同类的人。

(周りの人から「才能があるよ」「見た目は格好いいよ」ってよく言われましたね。しかし実際の生活の中で、あっちこっちでショックを受けました。その時専門家とコミュニケーションするチャンスがなかったのです。私が才能があるって褒めてくれたのは、工場の先輩や友達ばかりだったんです。彼らは物事を決める権利がなくて、皆私と同じ普通の庶民なのです。)

杨：你好像还在什么科教片里演过肺结核病人，对吗？

(あなたは科学教育映画の中で肺結核にかかった病人を演じたことがあったようです。そうでしょう。)

赵：那是在电影学院进修班实习的时候，人家要找个肺结核病人，进门挑选一寻摸就看中我了，瘦，瘦。

(映画学院で研修した時のことでしたね。彼らは肺結核にかかった病人の役者を捜しているとき、ちょうど私出会いました。「痩せている」「痩せている」って)

杨：所以你后来挑演员找王志文、陈坤，我觉得他们都是属于你那种干瘦干瘦类型的。

(だから今あなたが採用する俳優、例えば、王志文、陈坤、皆あなた見たいに細くて、痩せたタイプなんですね。)

会話17

杨：我看到有一个镜头是零下几十度的气温，你还让维吾尔族的那些女演员跳肚皮舞，对吧？这够难为人家的。

(映画の中に零下何十度の寒さの中で、ウイグル族のダンサーがお腹を出して踊らせるシーンがあるでしょう。本当に困らせたでしょう。)

何：对，非常非常冷。一脱衣服一看呐，再好的皮肤都是一片鸡皮疙瘩。

(そうなんです。本当にとっても寒かったです。洋服を脱がすと、いくらみんなの強い皮膚でも、鳥肌がいっぱい立ったのです。)

杨：不能给近镜头了。

(そうすると近いところからのショットができませんね。)

何：这特写怎么拍！逆光不行，侧光不行，这是人无法抗拒的生理反应。所以就把光尽量地弄平一点，然后能够吃一点。

(クローズアップシーンはどう取ればいい！逆光でも、横からでも、なんでもだめです。人なら誰でも抵抗できない生理的反應だからです。だから、できるだけ鳥肌を撮られないように光を柔らかにするしかできない。)

杨：这次你对几个演员的表现满意吗？

(あなたは今回の撮影での俳優たちの表現に満足していますか？)

何：满意，满意。

(満足してます、満足してます。)

杨：中井贵一这位日本演员，你对他的评价怎么样？

(日本の俳優、中井貴一さんに対する評価はどうですか？)

何：中井贵一来来的时候就已经崩溃了。

(中井貴一さんが撮影現地に着いたとき彼の精神状態はもうだめだったんです。)

杨：怎么了？怎么个崩溃法？

(どうしたのですか？どういうふうのだめだったのですか？)

何：因为你想，他从东京坐飞机到北京，这大概就是两个多小时吧。接着从北京到乌鲁木齐，要飞4个小时。然后还得换飞机，从乌鲁木齐飞到阿拉泰，又飞4个多小时。下了飞机说到了吧？没到，还要坐5个小时汽车，这已经疯了。

(彼は東京から北京まで飛行機でだいたい2時間ぐらい、それから北京から乌鲁木齐までさらに4時間かかった、それから乗り換えて、乌鲁木齐から阿拉泰までまた4時間かかった。飛行機から降りて、もう着いたでしょう？いいえ、まだです。また5時間の車旅があります。これでもう狂っていたと思います。)

杨：我觉得他一路上应该在想，我是不是被一个中国导演骗了。

(私の感じで、彼は道中でずっと「私は絶対中国の監督にだまされた」と思ったのです)

何：对，他要住一个叫布尔津的地方。他到了以后说，“这算到了拍摄现场了吧？”“没到。在这儿睡一晚上，明天早晨上山。”上山不止六十几公里，因为要到山顶。我们摄制组在那儿

拍戏，绿洲的戏都是在那儿拍的。他到那儿就说，“我要泡热水澡。”

（そうですね。彼が泊まったのは布尔津という所なんです。そこに着いて、彼が「これでもう撮影現場に着いたでしょう」って聞くので、「まだです。ここでとりあえず一晩泊まって、明日また山へ行きます」と私は答えました。山頂に行くまで山登りは60キロ以上あります。我々の撮影班のオアシスについてのシーンは全部そこで撮ったのです。彼はそこに着くとすぐ「お風呂に入りたい」って）

杨：那边有热水吗？

（あそこお湯ありますか？）

何：我说，“你只能淋浴，这儿没有浴缸。”

（わたしは風呂がないのでシャワーしかできない、って言いました。）

杨：你说一个导演，因为20年前的一个梦想，就把这么多人都呼悠来呼悠去，跟你吃这么多的苦。这也是一种很大的奢侈。

（監督として、自分の20年前の一つの熱望を実現するために、こんなに多くの人たちを呼んできて、あなたと一緒に苦労して、本当に大きな贅沢ですよ）

何：还有人投那么多钱。

（またいっぱいお金を出してくれる人もいるし、）

杨：还有人投那么多钱，愿意跟你一块儿疯狂一把。

（またいっぱいお金を出して、あなたと一緒に一回気が狂った人もいます。）

何：所以我觉得你没有理由拍不好。

（だから素敵な作品を出さない理由がないと思います）

杨：你压力大不大？

（精神的なストレスは大きかったです）

何：还好，因为我这个人不怕大，就怕小。小我就弄不了了，不会了。我喜欢大，因为大对我有刺激，我永远有激情。

（まだいいです。私が恐れているのは大きいものじゃなくて、ちっちゃい物です。大きなものは私に刺激を与え、いつも情熱にあふれています）

杨：你寻找《天地英雄》这个故事大概有很长的时间了。你曾说从20世纪80年代就开始有这个构思了。这是怎么样的一个过程呢？

（あなたが長い間ずっとこの物語—「天地英雄」を探っていたでしょう。まえも言ったように20世紀の80年代からもうこの構想があったのです。これはどんな過程ですか）

何：那时候我还不是一个故事片导演。我那时是在科影，在拍鲍鱼什么的。

（そのとき私はまだ劇映画の監督じゃなかったです。そのとき私はあわびについて科学映画を撮っていた。）

杨：你大概吃了不少吧？

（じゃ、いっぱい食べたでしょう）

何：对，那是肯定的。现在想起来是一个笑话了。那时候我插队，然后接到录取通知书，就是78班吧。我去农村把户口从公社拿出来到电影学院报到，人家说这录取通知书发错了。所以我又把户口拿回农村，又在农村待了3年。

（そうです。それは当たり前ですよ。今昔の笑い話を思い出しました。それはまだ農村に入り、労働してたときのことです。大学の採用通知をもらった、78年のことです。農村から戸籍をもって映画学院に入学手続きをしに行ったとき、これは間違えて出した採用通知だ、って言われて、農村に戻って、そこでまた3年働きました。）

杨：那你得跟我说说那一天的情况了，为什么会这样？

（それじゃ、そのときのことを私に話すべきですよ。一体どうしてそんなふうになったのですか？）

何：他们对我说你才21岁，明年再考还来得及，而你看有些人已经26岁了，都最后一年了，那时候壮壮、凯歌他们都差不多26岁了。我就又把户口拿到农村待了3年。

（あなたはまだ21歳なので、来年また入試を受けても間に合いますが、ほかの人はもう26になったから、今年は入学の最後のチャンスですって言われて、そのとき壮壮と凱歌、彼らはみんな26になりました。そして、私がまた戸籍を田舎に持って行ってまた3年働いたんです。）

杨：为什么会搞错呢？

（どうして間違ったのですか？）

何：不知道。

（わかりません。）

杨：那你没有想过去了解一下内幕吗？

（あなたはその内情を調べようとは思わなかったのですか？）

何：那时候我父母都说，你就明年再考吧！我一想明年再考就明年再考吧。我又回农村了。没想到电影学院4年不招生。

（そのとき両親は来年また受けましようって言ってくれた、また来年受けても大丈夫だと思って、田舎に戻りました。しかし予想できなかったのは、その年から映画学院は4年連続新生を募集しなかったことです。）

杨：你现在说起来像笑话，那3年是怎么过的？

（今あなたがそのことについて冗談みたいにみんなに話しているけど、その3年間どうやって過ごしたのですか？）

何：我后来就到了制片厂。

（それから映画制作所に行きました。）

杨：做场纪？

（スタッフとして？）

何：对，做场记是后来，已经算是有个位子了。没位子的时候是做一天一块二的临时工。

（そうです。スタッフとはいってもそれは後のことなんです。はじめのときはただ一

日1.2元のアルバイトをやってました。)

杨：那做什么呢？

(アルバイトはなにをやりましたか？)

何：扛扛电线什么的。因为那时候年轻，就是这样子。

(電線などを運ぶとか、そのときまだ若いから。まあ、そういうふうな仕事でした。)

杨：那心里是不是很憋屈呢？

(そのときはつらかったでしょう)

何：那个时候刚恢复高考，我觉得走后门还是挺多的吧！

(その時ちょうど大学の入試は再開したばかりなので、コネを使って裏工作をしたりした人が多いんじゃないかなと思ってました。)

杨：其实你也可以走后门，你父母不都是电影圈的吗？

(実はあなたもそうしてもよかったですでしょう、ご両親はみんな映画界で働いてたのに。)

何：可以走，但是也没有走。因为我觉得自己其实那时候也没有多么爱电影。我跟你讲，就是考别的大学考不上，我又干不了别的，而且我一生梦想就是做一个不上班的工作。结果想来想去，哎，电影导演可以不上班，别的干什么都能上班。

(コネを使って裏工作をしてもいいけど、やりませんでした。というのも当時自分がそんなに映画を愛していなかったからです。ほかの大学を受けなくても、ほかの仕事ができなくても、私のこの一生の夢は時間通りに会社にいかなくてもいい、そういう仕事がやりたかったんです。よく考えたら、やはり映画監督の仕事はちょうどいいかなと思いました。)

杨：可是你恰恰在这条很难走的路上走着。

(しかしあなたが今やってるのは本当に難しいことですよ。)

何：实际上这也有点赌气。

(実はちょっとふてくされた結果なんです。)

杨：你看，你还是赌气的！

(ほら、やっぱりふてくされたのよ)

何：对。不是没有上成吗，没有上成我就回农村了。我后来就没有学电影，就去弄经济去了，天天自学经济。

(そうです。大学に行けなかったでしょう。田舎に戻りました。結局映画を習いに行かなかった。経済のほうに行きました。毎日独学してました。)

会話20

章：那个时候就觉得，别不及格，别成班上最差的学生，那就是一个动力，最大的动力。

(不合格しないように、クラスの一番成績悪い学生にならないようにとそういうことばかり考えていたのです。これは私の最大の原動力だったの。)

杨：但是你一年级的時候曾經對自己非常沒有自信，還想過退學，是嗎？

(しかし、一年生のとき自分にとっても自信がなくて、退学することも考えたことがあるですって。)

章:对。

(そうです)

杨: 你觉得自己特别不适合当演员，还是…

(自分は女優という仕事が合わないとおあなたは思いましたが、)

章:我很怕，站在教室里面，我会发抖，我觉得怎么这个教室这么大呀，怎么有那么多人看着你。

((当時) 教室に立つと、恐れおののきましたよ。教室どうしてこんなに大きいのか、どうしてみんな自分のほうを見つめているのかという気がしました。)

杨:那时候，你觉得让你演的最不可思议的一段小品是什么？

(当時、あなたに演じさせた一番不思議と思ったコントは何ですか。)

章:耍猴!

(猿回し!)

杨: 怎么叫耍猴？你演猴子还是演耍猴的？

(なぜ猿回しをやらせたのか。あなたが演じたのは猿ですか、猿回しをする人間ですか。)

章:耍猴的也演，猴子也演。觉得你真的接受不了，太不可思议了，你怎么就变成一只猴了，你怎么又变成一个耍猴的了!你就特别没有……完全……你人是空的，是一个空壳。你连思维都没有，你怎么样去设想它，你都不知道。

(両方をやりました。どうして急に猿に変わって、また急に人間に変わって戻ったのか、本当に受け入れ難くて、本当に不思議だったの。そのときは全然、何にも考えられなくて、意識は空白だったの。何も考えられなくて(そのシーン)どうすればいいか、全然わからなかったんです。)

杨: 但是到你毕业演出的时候，据说你当时是非常投入的，以至于已撞破了玻璃，身上都划破了，你自己还在戏里呢？

(しかし、卒業演出のとき、あなたが役になりきっているためにガラスにぶつかって、傷が出ても、全然気づかなかったって)

章:那个时候已经上大三了吧，就是已经过了一两年的样子了。演的是一个农村的妇女，去油田上看她的丈夫。就是一段故事，他们没有感情，因为丈夫一直都在油田上工作。我们那天是最后一个节目，我很投入，就冲出舞台，是要跑着冲出去的，什么都没想。不知道为什么，我觉得人有的时候就会有点……

(その時もう大学3年生かなあ。私は田舎の女の人が油田へご主人に会いに行つたっていう物語の中のあの女の人を演じました。主人公のご主人のほうはずっと油田で働いてるから、夫婦の間は全然感情の交流がないです。あの日私たちの番組は最後だったのです。私は完全に役になりきって、何にも考えずに舞台の上に走って上がりました。なぜか分からないですが、人間はあるときちょっと、)

杨: 太投入了!

(すでになりきっていた。)

章: 失了魂了或是什么, 整个儿人就冲出玻璃了。第一个反应就是, 天哪! 脸! 第一个反应就是脸, 然后就使劲摸脸。就觉得, 哎, 没事儿, 脸不疼, 再一看, 全是血, 然后我就发现动脉被划了, 整个手这样子出去了。就这样子, 使劲压着动脉, 上台谢幕。很巧我爸爸妈妈在现场。

(その時頭の中が真っ白だったんです。考えたのは顔だけでした。顔をすぐ触ってましたね。顔は大丈夫だったけど、手の動脈が傷付けられて、血だらけだったです。ちょうど両親が劇場で見てたのね、)

杨: 那把你妈妈吓坏了。

(お母さんをびっくりさせたいでしょう。)

章: 吓坏了, 我妈妈在台下吓得都傻了。我衣服也没换, 带着那大黑脸跑到我们学校附近的东四医院。我想完蛋了, 缝针。

(そうです。母をひどく驚かせました。私は舞台衣装のまま学校の近くの病院「東四医院」に駆け込んだのです。その時は本当にだめだと思いました。)

杨: 现在还有疤吗?

(今そのときの傷跡はまだ残っていますか。)

章: 疤在手心, 白色的, 有一大道子, 没有缝针。

(白い大きな傷跡は手平にあります。その時は縫合しなかったのです。)

杨: 在这个过程中, 可能你一直要去理解不同的“痛”?

(これが多分、あなたがいろんな多様な「痛み」を味わう過程だったのでしょうか。)

章: 对对对。

(そうそうそう)

杨: 你能不能跟我说说这几出戏里的“痛”都怎么不一样?

(今まで出演した映画から味わったいろんな「痛み」がどんな違いがあるかを教えてくださいませんか。)

章: 我觉得皮肉之痛都没有什么了不起的, 真的

(体の痛みなんか本当に大した事ないです。本当です。)

杨: 你受过的最大的一次皮肉之痛是哪一次?

(今まで一番大変だったのはいつですか。)

章: 这次《十面埋伏》吧。我被打得, 突然觉得这个世界停了。被打完以后发现, 突然间很静, 什么都听不到, 人一下就蒙了。

(やはり今回『十面埋伏』ですね。打たれました。打たれた瞬間に世界が止まった気がしました。何も聞こえなくなって、本当に何にも分からなくなったのです。)

杨: 什么东西打到你头上了呢?

((あなたの) 頭は何に打たれたのですか。)

章:我的棍子。

(私が持っているこん棒だったんです。)

杨:你自己的棍子？

(あなた自分が持っていたこん棒？)

章:对，我自己的棍子。因为跟盾牌打，我是棍子，导演说你挥的力要再强一点。那男孩也听到了，其实他不需要往前冲，只要我挥的力大，那个力度就有了，但他一冲，距离就很近了。

(はい。私が持っていたこん棒です。監督にもっと強く、もっと、って言われました。相手の俳優も聞えたから、盾を持って私のほうに走ってきて、ちょうどその時私が力強くこん棒を振ったから、もう二人の距離が近すぎて、)

杨:所以他就给你弹回来了。

(だからその力で盾とぶつかり、こん棒があなたのほうに打ってきましたね。)

章:对！你想那个力有多大，整个一棍子上来，就是一闷棍，后来副导演跟我讲，他从来没有见过一个人同时有6颗眼泪，6滴眼泪像葡萄珠一样，就这样叭啦叭啦叭啦掉下来。我都没有反应，没有反应。

(そうです。本当に力が強すぎて、もうその瞬間に何も分からなくなりました。あと、監督の話によりますと、私の涙が6滴が同時に流れてきて、まるで葡萄のようだったと。)

杨:看《十面埋伏》的时候，我看到你从雪里又挣扎着爬起来，那个地方我觉得有一点点好笑，因为你已经死过两回了，怎么又起来了？但是，我又想，哎哟，穿那么一点衣服，不要冻死了。

(その映画を見たとき、あなたが雪の中から立ち直したシーンが面白かったと思います。だって、もう(映画の中で)2回死んだでしょう。しかし、本当にかわいそうと思ったの。雪の中でそんなに薄着なのが。)

章:对，那还可笑，就是躺在地上，我实在是冻得不行了，但你不能动，你知道给你盖好雪了，你就不能动了。我一直在底下，我开始抖了，我的嘴巴也开始抖。副导演看见说：“子怡，你没有台词！”我被弄得哭笑不得，我那时候已经控制不了了。

(はい、本当に面白かったです。その時もうすでに雪に被られて、撮影を始めました。だからいくら寒くても我慢するしかないですね。寒さに震えて、唇まで震え始めました。監督に、あなた台詞がないですよって言われました。実はもうじぶんがコントロールできなかったんです。)

杨:你刚才说得比皮肉之苦更难以忍受的是什么之苦？相对于皮肉来说，可能是心理上或者精神层面的，对吧？

(先ほど言った体の痛みよりもっと辛いのはなんでしょうか。やっぱり精神的、心理上の痛みでしょうか？)

章:对，如果能够多一些理解你的话，其实就像刚才我们闲聊的时候说，你希望别人理解你，但是别人，如果他愿意去理解你的话，也许他会站在你的立场上去想一想，但是他没有这

个义务，任何一个人都没有。

(はい。先ほど話したように、どんな人も他の人に自分のことを理解してもらいたいですよね。もし彼があなたのことを理解してあげたいなら、多分あなたの立場から物事を考えるかもしれないです。しかし、彼はそういう義務がないです。誰もそんな義務がないです。)

杨: 没有这个义务。你是什么时候认识到这一点的？

(義務を負う必要がない。いつからこういうことをお分かりになりましたか。)

章: 我一出道拍《我的父亲母亲》，直到现在，我觉得各种各样议论我的声音不断地发出，或者可能还会继续延续下去。我那时候会说我很努力，我很不容易，你看那个戏多难拍什么的。慢慢地我髮从現，其实我没有这个必要，我现在就不讲这些了。我觉得可能是因为我長大了，我觉得人家这样子想是有道理的。

(私のデビュー作『私の両親』から、今まで、いろんな意見を聞いてきましたね。多分こんな情況がずっと続くと思います。当時は自分が本当に頑張ってますとか、自分が大変だったとか言うかもしれません。だんだん分かってきました、私はそういうことを言う必要がないということ。やっぱり自分がいろいろ体験してきて、他人は他人の立場があることが分かってきました。)

付録Ⅱ-1 日中ポライトネスに関する意識調査Ⅰ

説明

- 1 この調査は日本語についての皆さんの意識を調査するものです。テストではありません。正しいとか間違っているとかを質問するものではありませんし、点数にも関係ありません。
- 2 ここに出ている日本語について、どのように感じるかを教えてください。
- 3 調査の回答者名が公表されることはありません。

- 1 年齢 10代 20代 30代 40代 50代以上
- 2 性別 男性 女性
- 3 母語 日本語 中国語 韓国語・朝鮮語 その他（ ）語
母語が日本語以外の人に尋ねます。
日本語学習歴（ ）年間
日本語能力試験（ ）級 未受験
日本への留学経験がありますか。 無 有（ ）年間

アンケート

以下の1～5の日本語の会話文を読んで質問に教えてください。

1 小学校の教師（20代）、教師の母親（50代）、生徒の母親（30代）の会話

- 生徒の母親： あら、先生！
- 教師： あ！
- 教師の母親： （生徒の母親を見て）あの…
- 教師： あ、あのうちの母です。
- 生徒の母親： （お辞儀をしながら）あ、はじめまして。
- 教師： （教師の母親に対して）あのね、うちの生徒のお母さん。
- 教師の母親： （お辞儀をしながら）あ、はじめまして。あの、[教師の名]の母でございます。娘がいつもお世話になっております。
- 生徒の母親： あ、いえ…こちらこそ、いつもお世話になってます。
- 教師の母親： （丁寧にお辞儀をしながら）あの、どうぞこれからも宜しく願います。
- 生徒の母親： あーは、はい。

質問1. 下線部の母親の言葉遣いは自然ですか不自然ですか。

- 1 自然
- 2 不自然

質問 2. 質問 1 の選択理由を書いてください。

2 病院長と医者との会話：病院長が田口医師に手術失敗の原因解明を依頼している場面

院長： バチスタ手術についてご存知ですか。

田口： 名前ぐらいは…。

院長： 一般的な成功率は約 60%、ところが、桐生先生がこの病院に着任してから一年、その難しい手術をことごとく成功させてきました。実に 26 連勝。彼の名前を知って全国から患者さんが集まってきます。

桐生： ですが、このバチスタ手術が最近 3 連敗。続けて失敗しています。

院長： その原因を鶴働教授に…あ、いや、あなたに解明していただきたい。

田口： 無理です。

質問 1. 下線部の院長の言葉遣いは自然ですか不自然ですか。

- 1 自然 2 不自然

質問 2. 質問 1 の選択理由を書いてください。

3 留学生の李さん（20 代女性）と学校の事務の人（40 代女性）の会話

李 : すいません、中山財団奨学金に応募したいんですけど…

事務室の人: あ、あれね。もう締切が過ぎたんですよ。同じような別の奨学金があるけど、それじゃいけない？

李 : あ、そうですか…それでもいいね。

質問 1. 一重下線部の事務室の人の言葉遣いについてどのように感じますか。

- 1 ごく普通で特別な感じは何もない。
2 ぞんざいで少し失礼な感じがする。
3 親しさを示そうとしている感じがする。
4 その他_____

質問 2. 二重下線部の李さんの言葉遣いについてどのように感じますか。

- 1 ごく普通で特別な感じは何もない。
2 ぞんざいで少し失礼な感じがする。
3 親しさを示そうとしている感じがする。
4 その他_____

質問 3. 質問 1、質問 2 の選択理由を書いてください。

4 父子家庭の娘と父親の会話：結婚式の前日娘が父親に今まで育ててくれたことを感謝

する場面

娘： お父さん、花嫁みたいなこと言っていていい？

父： やめてくれ。

娘： 今まで本当に有難うございました。

父： こちらこそ、有難うございました。

質問 1. 下線部の父親の発話は自然ですか不自然ですか。

- 1 自然 2 不自然

質問 2. 質問 1 の選択理由を書いてください。

5 高校時代からの親友二人の会話：現在二人は同居しているが、M3 は家を出ようと

している。M1 はもう少し一緒に東京に止まって頑張って貰いたいと思っている。

M3: なあ、金無いよなあ？交通費なんだけど…。

M1: …

M3: …

M1: なあ、行くなよ。

M3: こんな時に悪いけど、でも本当に僕だめなんよ。

M1: 家賃二人分払っていくの無理やもんな。一緒にさあ、もうちょっと頑張ろうや。

M3: 今はくさっとるけどね、あんたは才能あるから、頑張りい。僕はもう頑張りきれん。

質問 1. お金を貸して貰おうとして言った M1 の下線部の表現は適切だと思いますか。

- 1 適切 2 不適切

質問 2. もし、あなたならどのような表現を用いますか。

付録Ⅱ-2 日中ポライトネスに関する意識調査Ⅱ

説明

- 1 この調査は日本語についての皆さんの意識を調査するものです。テストではありません。正しいとか間違っているとかを質問するものではありませんし、点数にも関係ありません。
- 2 ここに出ている日本語について、どのように感じるかを教えてください。
- 3 調査の回答者名が公表されることはありません。

- 1 年齢 10代 20代 30代 40代 50代以上
- 2 性別 男性 女性
- 3 母語 日本語 中国語 韓国語・朝鮮語 その他（ ）語
母語が日本語以外の人に尋ねます。
日本語学習歴（ ）年間
日本語能力試験（ ）級 未受験
日本への留学経験がありますか。 無 有（ ）年間

アンケート

1 次は中国学生から日本の大学教授に研究生にしてくださいとの依頼を行うメールの一部です。

**先生,

こんにちは。

突然メールでお邪魔しまして本当に申し訳ございません。はじめまして、中国の**と申します。お忙しいところご迷惑おかけしてしまいました。じつは、この度、先生の研究生になりたいので、お手紙を差し上げます。それでは、まずは自己紹介させていただきます。…

質問1. 上記のメールの中で不適切な部分があれば修正してください。

質問2. 不適切と思った場合は、何故不適切と思ったのか書いてください。

2 次は日本へのホームステイを希望していたアジアの学生から受け入れてくれることになった日本のホームステイ先への手紙の一部です。

**さま,

はじめまして。**の国際交流課を通してホームステイを申し込んでいた**です。今回の私のホームステイの件では、心より感謝申し上げます。…

私は8月から夏休みなので、8月の10日から17日までお世話になりたいと思います。その他の日は、アルバイトやクラブ活動がありまして無理です。…

お返事お待ちしております。7月21日から8月5日までは調査旅行を計画しておりますので、7月20日までに届くようお願いいたします。…

質問1. 上記のメールで不適切な部分があれば修正してください。

質問2. 不適切と思った場合は、何故不適切と思ったのか書いてください。

**3 日本滞在時に知り合った日本人の先輩から論文のコピーを送って貰いました。以下はその
れに対するお礼の手紙の一部です。**

**様,

時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

先日はお書きになった論文を送ってくださりありがとうございます。送った論文は全部お読みいたしました。私の論文のテーマにぴったりで役に立ちました。…

質問1. 上記の手紙で不適切な部分があれば修正してください。

質問2. 不適切と思った場合は、何故不適切と思ったのか書いてください。

4 次は日本の大学教授に博士論文提出期限についての質問のメールの一部です。

**先生,

ご無沙汰してしまい申し訳ございません。**です。

さて早速ですが、博士論文提出の日程に関してご相談したくメール致しました。

本来ならば、お部屋に伺ってご相談すべきところを、このような形で申し訳ございません。

博士論文に関しては、果たして書けるのかどうかという問題もありますが、兎にも角にも頑張ろうと思っております。

そこでお尋ねしたいのが、遅くともいつまでに原稿を出したらいいかということです。

このような質問をすること自体、学生として言語道断ではありますが、ご指示いただければ幸いに存じます。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

質問1. 上記のメールの中で不適切な部分があれば修正してください。

質問2. 不適切と思った場合は、何故不適切と思ったのか書いてください。

謝辞

今回、博士論文を提出することができるのは多くの方のご協力のおかげだと思っております。この場を借りて、感謝の意を述べさせていただきたいと思っております。

まず、指導教員主査である松村瑞子先生には、入学当初からいつも研究の進捗状況を気にかけてくださり、博士論文を本格的に書き始めてからは頻繁に面接もしていただきました。本論文の完成まで、広い視野と広い心で見守り、ご指導いただきました。そして、井上奈良彦先生、西山猛、因京子先生、井上優先生にも様々な面でご指導いただきました。誠にありがとうございました。

また、データ収集や意識調査の協力をしていただいた方々にお礼を申し上げます。皆様のご協力なしではこの論文を書くことはできなかったと思っております。お忙しいところ、快く協力していただいたことに心より感謝しております。